

教会への勧告

エレン・G・ホワイトの著書より精選訳

福音社

COUNSELS
for the
CHURCH

Selected from the Writings of
Ellen G. White

Printed and Published by
Japan Publishing House
1966 Kamikawai-cho, Asahi-ku
Yokohama, Japan

教会への勧告 下巻 目次

第三編 家庭

第一章	配偶者の選択・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	未来の妻に求めるべき性質／未来の夫に求むべき性質／愛はイエスから与えられるとうとい賜物／正しい決断をするために必要な祈りと聖書研究／神を敬う両親の勧告／結婚しようとしている人々への警告／誤ったふるまい	
第二章	避けるべき未信者との結婚・・・・・・・・	19
	ふたりの者がもし約束しなかったなら一緒に歩くだろうか／未信者に対するクリスチャンの答え／無分別な婚約は解消した方がよい／一方が結婚後改心した場合	
第三章	結 婚・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	結婚式は簡素で、かつ楽しいものでなければならぬ／新婚夫婦への忠告	
第四章	成功ある幸福な協力・・・・・・・・	39
	二つの生命の融合／行き違いが起こった時	

第五章	夫と妻の関係・・・・・・・・・・	47
-----	------------------	----

結婚は正当で神聖なものである／結婚の特権／自己否定と節制の実行／サタンは自制力を弱めようとする／夫は思いやり深くなければならない／不合理な要求がなされた時／あなたがたは、代価を払って買いとられた

第六章	母親と子供・・・・・・・・・・	59
-----	-----------------	----

親であること／母親の重荷を軽くすべき時／幼児を育てる母親の態度／かわらない慈愛にみちた世話／子供のしつけにおける自制の必要

第七章	クリスチャンの父親と母親・・・・・・・・・・	71
-----	------------------------	----

母親の働きの神聖さ／善のための母親の力／キリストにならう家庭のかしら／両親は共に子供たちの救いのために働きなさい／子供の数についての勧め

第八章	クリスチャンの家庭・・・・・・・・・・	83
-----	---------------------	----

家具は簡素で安いものを

第九章	家庭における霊的感化・・・・・・・・・・	89
-----	----------------------	----

朝夕の礼拝

第十章	家庭経済・・・・・・・・・・	95
-----	----------------	----

“何人にも借りがあつてはならない”／必要なものをおろそかにすることは経済ではない／子供た

ちを教えるときの両親の義務／金銭的な事柄に関する夫と妻への勧告

第十一章	休日と記念日の家族活動・・・・・・・・・・・・・・・・	105
------	-----------------------------	-----

神のみ事業を第一とせよ／誕生日——神を賛美すべきとき

第十二章	レクリエーション・・・・・・・・・・・・・・・・	111
------	--------------------------	-----

レクリエーションに対する心構え／富める者も貧しい者も同様に楽しめるレクリエーション／交わりと正しい習慣／完全な休息と娯楽

第十三章	見張らねばならない心の門・・・・・・・・	129
------	----------------------	-----

サタンはわたしたちの承諾なしに心にはいることはできない

第十四章	読書の選択・・・・・・・・	133
------	---------------	-----

不健全な読書の影響／魂を滅ぼす読書／刺激的な読み物の危険／書物の中の書物

第十五章	音　　楽・・・・・・・・	143
------	--------------	-----

第十六章	批評とその影響・・・・・・・・	147
------	-----------------	-----

すべての人をよく思いなさい／しつと深い人は他人のうちに善をみとめない／ねたみととがめる精神／教会や機関の指導者たちに対する批判の影響／自分自身に対する批判だけは実際の価値がある

第十七章	服装に関する勧告・・・・・・・・	163
------	------------------	-----

服装に関する指導原理／聖書の教え／服装の流行の影響

第十八章 青年に対する訴え・・・・・・・・・・・・・・・・・・

173

霊的なことならに対する感覚を養え／より高い霊的状态に到達するために手を伸ばしなさい／天にふさわしい品性は地上で身につけていなければならない／あなたができる間に神の愛を受け入れよ／はかりで量られる

第十九章 正しい訓練と教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・

187

両親は一致しなければならない／子供が無知のままて育つのを放置しておくことは罪である／怠惰の罪／両親がた、あなたがたの子供たちをキリストのみもとに導きなさい／心の要求をおろそかにしてはならない／怒っている時に子供たちのあやまちを正そうとしてはならない／子供たちに対する厳密な誠実さの重要性／品性発達の重要性／子供の助言に関する個人的な経験／両親たちにとって神の導きがますます必要である／礼儀と尊敬を教えなさい

第二十章 キリスト教教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・

219

教会の責任／教育機関に対する道徳的支持／神に従う教師たち／教師の資格／キリスト教教育における聖書／あまりに幼い時に子供を入学させることの危険／實際生活における義務の訓練の重要性／労働の尊さ／神は無神論者の著作を禁じられる／キリスト教教育の結果／学校を支持する学生の責任

第四編 生活

第一章	節制を守る生活への招き・・・・・・・・・・・・・・・・	249
-----	-----------------------------	-----

「あなたがたは、もはや自分自身のものではない」／服従は個人的な義務の問題である／魂の中の神の生命が人間の唯一の希望である／衛生改革を提示せよ

第二章	清潔の重要性・・・・・・・・・・・・・・・・	259
-----	------------------------	-----

第三章	われわれの食べる食物・・・・・・・・・・・・・・・・	265
-----	----------------------------	-----

人間の食事に対する神の最初のご計画／料理学／香料や薬味を多く入れた食物／規則正しい食事／衛生改革の原則の適用／食欲と情欲の制御

第四章	肉　　食・・・・・・・・・・・・・・・・	279
-----	----------------------	-----

病気の多い原因／「豚はあなたがたには汚れたものである」／頭脳と心に及ぼす影響／食事の変更に関する教え

第五章	衛生改革に忠実であること・・・・・・・・	289
-----	----------------------	-----

服従によって得る力／堅く立つようにとの訴え／「すべて神の栄光のためにすべきである」／人々を教えよ／極端は衛生改革の害となる／地方の状態を考慮しなければならない／その時神は祝福す

ることがおできになる

第六章	神が人と連絡をされる通路を開けておく・・・・・・・・・・	305
-----	------------------------------	-----

最も破壊的なサタンの策略／人を酔わせる酒／アルコール性飲料は人間を奴隷にする／たばこは緩慢に作用する毒である／喫煙は婦人や子供たちに有害である／薬品の使用／セブンスデー・アドベント——社会に対する模範

第七章	心と生活の純潔・・・・・・・・・・	319
-----	-------------------	-----

神の宮を汚してはならない／道徳的な汚れの結果

第八章	病人のための祈り・・・・・・・・・・	331
-----	--------------------	-----

祈りがきかれる条件

第九章	医療事業・・・・・・・・・・	341
-----	----------------	-----

機関を設立すべきである／福音の開拓事業／全員が一致協力すべき働き／医療の働きは真理に対して門戸を開く

第十章	自分と信仰の違う人びとの関係・・・・・・・・・・	351
-----	--------------------------	-----

他教派の牧師や集団に語る

第十一章	一般社会の統治者と法律に対するわれわれの関係・・・・・・・・・・	357
------	----------------------------------	-----

誓いを立てること／政治的な扇動／不注意な発言の危険／日曜休業令

第十二章	サタンの欺瞞的な働き・・・・・・・・・・	369
------	----------------------	-----

天の保護からはなれることの危険／だれも二人の主人に兼ね仕えることはできない

第十三章	偽りの科学―現代におけるサタンの光の衣・・・・・・・・	377
------	-----------------------------	-----

誤りが光に見えるとき／選民をもまどわそうとする試み／自然界の神を作ろうとするサタンの計画
／扇情的な宗教に対する警告／霊的生命のリバイバルの必要／み言葉に対する愛と知識―われわれの保証／全的降服の必要

第十四章	サタンの偽りの不思議・・・・・・・・・・	393
------	----------------------	-----

精神を他の人の支配にゆだねること／魔術と迷信／信仰の祈り

第十五章	到来する危機・・・・・・・・・・	401
------	------------------	-----

争点となる安息日／嵐に備える／神の審判

第十六章	ふるいの時・・・・・・・・・・	411
------	-----------------	-----

救いを求める人びとの勝利／二つの軍隊

第十七章	終わりの日のための備え・・・・・・・・	421
------	---------------------	-----

終わりは近い／キリストの帰りがおそいと考える危険／いわゆる新しい光が多くの者を惑わす／個人的な祈りの重要性／クリスチャンは天の事物について考え、また語ることを好む／疑惑や恐怖を無視して神の民は前に押し進む

第十八章 われわれの大祭司、キリスト・・・・・・・・・・・・・・・・ 435

第十九章 ヨシユアと天使・・・・・・・・・・・・・・・・ 443

残りの教会／キリストの義の衣をもって被われる

第二十章 「見よ、わたしは、すぐに来る」・・・・・・・・ 453

「あなたがたの救いが近づいている」／勝利の約束／忠実な者たちへの報酬／奨励と信頼の別れの言葉

第三編

家

庭

第一章 配偶者の選択

結婚は、この世においても来世においても、あなたの一生に影響を及ぼすものである。誠実なクリスチャンなら、神が自分の道を是認なすることがわからなければ、この方面へ自分の計画を進めない。彼は自分でえらぼうとしないで、神がえらんでくださるべきだと感じる。キリストはご自分の好きなようになさらなかったのだから、わたしたちも自分の好きなようにしてはならない。自分の愛していない人と結婚すべきだとわたくしが言っているように受けとられたくはない。そうすることは罪である。しかし、空想や感情的性質のおもむくままに破滅に至るようなことがあってはならない。神は全心全霊、最高の愛情を要求される。

（アドベンチスト・ホーム・三七、三八ページ）

結婚をしようと考えている人は、自分たちが築こうとしている家庭の性質と感化がどんなものになるかをよく考慮すべきである。親になると神聖な責任が負わされるのであって、現在の

世界における子供の幸福ときたるべき国における幸福とは大いにその双肩にかかっている。幼い子供が受ける肉体上、精神上の性質は大部分、両親によって決定される。家庭の性質が社会の状態を左右し、各家庭の感化力が社会を向上させ、あるいは墮落させるのである。

（アドベンチスト・ホーム・三八、三九ページ）

クリスチャン青年は、友だちをつくったり伴侶を選択したりするときに十分に注意を払わなければならない。純金だとばかり思っていたものが卑金属であることがわかるかもしれないから、注意なさい。世俗的な交わりは、神への奉仕を妨げる。事業において、あるいは結婚において、決して品性を高めたり向上させたりすることのできないような相手との不幸な結合のためには多くの魂が滅んでゆく。

自分の一生の運命を共にしようとする相手のあらゆる情操を吟味し、あらゆる品性のあらゆるれに注意しなければならない。あなたがとうとうとしていゝる一歩は、あなたの生涯の中で最も重要な一歩であるから、性急にふみ出してはならない。愛することはよいが、盲目的に愛してはならない。

自分の結婚生活は幸福となるか、それとも不調和で不幸となりはしないかを注意深く吟味なさい。この結合はわたしを天へ向けるであろうか、神に対するわたしの愛を増すであろうか、

この世において自分の役立つ範囲がもっと大きくなるだろうかと問うてみなければならない。このように反省してみてそこに不利な点がなかったら、神をおそれる思いをもって前進なさい。

（アドベンチスト・ホーム・三九ページ）

生涯の配偶者には、親のためにも子供のためにも肉体、知能および霊的な幸福が最もよく保証できるような人を選ぶべきである。すなわち親子共に他人を祝福し、創造主の栄えとなり得る者でなければならない。

（アドベンチスト・ホーム・四〇ページ）

未来の妻に求めるべき性質

青年は、人生の重荷を共に負うに適した人、その感化が自分を向上させ、洗練し、その愛が自分を幸福にするような人を伴侶として求めるべきである。

「賢い妻は主から賜わるものである。」「その夫の心は彼女を信頼して……彼女は生きながらえている間、その夫のために良いことをして、悪いことをしない。」「彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつくしみの教がある。彼女は家のことをよくかえりみ、怠りのかてを食べることをしない。その子らは立ち上がって彼女を祝し、その夫もまた彼女をほめたたえて言う、

『りっぱに事をなし遂げる女は多いけれども、あなたはそのすべてにまさっている』と。「このような「妻を得る者は、良き物を得る、かつ主から恵みを与えられる」（箴言一九ノ一四、三一ノ一一、一二、二六 二九、一八ノ二二）。

（アドベンチスト・ホーム・四〇ページ）

次にあげることは考えなければならない問題である。あなたが結婚しようとしている女性は、あなたの家庭に幸福をもたらすであろうか。彼女は経済家であろうか。それとも結婚してから、虚栄心を満足させたり外見を飾るために、自分の収入だけでなく、あなたの収入まで使い果たすであろうか。この方面における彼女の信念は正しいであろうか。彼女は信頼できる何ものかを持っているであろうか。：：わたしは、愛情と結婚の問題で心がいつぱいになっている男性がそうした問題は無意味であると一蹴（しゅう）してしまうことを知っている。しかしこうしたことは将来の生活に係のあるものであるから、前もってよく考えておくべきである。：：

妻を選ぶときはその女性の品性をよく調べなさい。彼女は忍耐強く、勤勉であろうか。それともあなたの父や母が頼りになる強いむすこをいちばん必要としているときに、彼らのめんどうを見ないような人であろうか。彼女は何事も自分の思い通りにし、自分のたのしみに合わせるために夫を父母とのまじわりからひき離し、父や母は愛情深い娘を得ないで、むすこまで失うことはないであろうか。

（アドベンチスト・ホーム・四一ページ）

未来の夫に求むべき性質

結婚に着手する前に、女性はみな自分が運命を共にしようとしている相手の男性が価値のある人間であるかどうかを吟味してみなければならない。彼のこれまでの経歴はどうであろうか。彼の生活は純潔であろうか。彼の表現する愛は高貴な種類の愛であろうか。それとも単なる感情的な愛情ではないであろうか。彼はあなたを幸福にするような品性の傾向を持っているであろうか。あなたは彼の愛情に平安とよろこびを見いだすことができるであろうか。彼はあなたの個性を保つことをみとめるであろうか。それともあなたの判断と良心は、夫たる彼の支配下に服さなければならないであろうか。……あなたは救い主の要求を最高のものとして尊重することができるであろうか。肉体と魂、思想と目的を純潔に保つことができるであろうか。こうした質問は、結婚関係にはいるすべての女性の幸福と重大な関係がある。

平和で幸福な結婚を望み、将来の不幸と悲しみを免れたいと思う女性は、愛情をささげる前に、自分の愛人には母親があるかどうか、そしてその母親の品性はどうか、彼は母親に対する義務を果たしているか、母親の願いや幸福に関心を持っているか、もし彼が自分の母親を尊敬

しないようなら、妻に対しても尊敬と愛情、親切といったわりを示さないのではなからうか、新婚の気分がすぎ去ってからわたしを変わず愛するだろうか、わたしのまちがいを忍んでくれるだろうか、それとも批判的で横暴で独裁的ではないであろうか、というようなことを考えてみる必要がある。真の愛情は多くの過失をみのがす。愛は過失をみつけない。

若い婦人は、純潔で男らしい性質を持ち、勤勉で大望に燃え、正直で神を愛しおそれる人だけを配偶者として受け入れるべきである。

敬虔でない人や怠惰を好む人や神聖なものをあざける人を避けなさい。冒瀆的なことばを使う人や、酒を一杯でも飲む習慣のある人との交際を避けなさい。神に対する自分の義務を全然認めない男性の申し込みに耳をかはしてはならない。あなたがいちばん好感を感じている友人であつても、その人が神を愛しおそれない人であり、真の義の原則について何も知らない人であるということをおあなたが知っているなら、魂をきよめる力を持つきよい真理は、その人との交際を断つ勇気をあなたに与える。わたしたちは友人の欠点や無知に対して寛大でなければならぬが、彼らの罪に対してはそうであつてはならない。

愛はイエスから与えられるとうとい賜物

愛はわたしたちがイエスから受ける尊いたまものである。純潔な、清い愛情は感情ではなく、一つの節操である。真の愛に基づいて行動する者は不合理でも盲目でもない。

真実で誠実な、献身的で純粋な愛はほんとうに少ないものである。こういう尊いものはめつたにない。情欲が愛と呼ばれている。

真の愛は高い聖なる原則であって、衝動的にめざめたり、きびしい試みに会えばたちまち消滅してしまうような愛とは全然異なった性質のものである。

愛は天が成長させる植物であるが、それは育てられ、養われなければならない。愛情深い心、誠実さのあふれたやさしいことばは幸福な家族をつくり、その影響下にあるすべての人々により感化を及ぼす。

純粋な愛はすべての計画に神を入れ、神のみたまと完全な調和の中にあるが、情欲は強情で、せっかちで、不合理で、どんな抑制も問題にせず、自らえらんだ相手を偶像とする。

真の愛を持っている人の態度には神の恩恵があらわれる。慎み、単純、誠実、徳性、信仰と

いったものが、結婚という結合に向かつての一步一步の歩みにその特徴としてみられる。このように制御されている人は、祈禱会や教会の集会に対する関心を捨ててまで、お互いの交際に没頭するようなことをしない。神の恵みによって与えられた機会や特権をおろそかにするため、真理に対する熱意を失うというようなことはない。

欲望の満足以外によい土台を持たぬ愛は、不合理で盲目的で抑制することができない。名誉や真理やあらゆる高貴な心の能力は情欲に屈従させられる。この熱情のくさりに縛られた人は、理性や良心の声に耳を貸さないことがあまりにも多い。説得しても頼んでも彼にその愚かな行為を認めさせることはできない。

真の愛とは決して強い、激しい、性急な情欲ではない。反対に、それは静かで深味のある性質のものである。それは外面的なものを見ずに本質だけに引かれる。それは賢明でよく識別し、その愛情は真実なものであり永続的である。

情欲や衝動から引き上げられた愛は、精神的なものとなり、ことばや行為に表わされる。クリスチャンはきよめられたやさしさと、短気な、怒りっぽい性質のない愛を持たなければならぬ。粗野で乱暴な態度は、キリストの恵みによってやわらげられなければならない。

正しい決断をするために必要な祈りと聖書研究

神によって制定された結婚の制度は、神聖な儀式であって決して利己的な精神で行なうべきではない。結婚を考慮しているものは、その重要性についてまじめに、祈りをこめて考え神のみここに一致した道を進んでいるかどうかを知るために、神の忠告を研究しなければならない。この点について神のみことばを通して与えられているご命令を注意深く考えるべきである。天は、聖書に与えられているいましめに一致したいという熱心な希望から結ばれた結婚をよるこびをもって見守る。

冷静な理性と落ち着いた判断をもって考慮しなければならない問題があるとすれば、それは結婚問題である。聖書を助言者にしようとするならば、それはふたりの人間が一生のきずなをむすばないうちでなければならぬ。しかしこの問題について感情を道案内にすべきであるという気持ちが一般にはやっていて、多くの場合、恋愛病的な感情に支配され、ついに破滅におちいる。青年たちが、他の問題にくらべて知恵が足りず、人に耳をかたむけようとしないのはこの点である。結婚の問題は、青年たちの上に一種の魔力を持っているようにみえる。彼らは

おのれを神にまかせようとしない。彼らの感覚はしばらく、あたかも自分の計画がだれかにじやまされるのを恐れるかのように秘密のうちに行動する。

多くの人は危険な港の中を走っている。彼らは水先案内人が必要なのに、その大きな必要な助けを受けることをあざけり、自分で自分の舟をあやつる力があると思い、信仰と幸福の難破をきたすようなかくれた岩にいまにもぶつかりそうになっていることに気がつかない。……神のみことばを忠実に研究する者とならなければ、現世と来世のために自分の幸福も他人の幸福もそこなうような重大なまちがいを起こす。

結婚を考える前に一日二回祈る習慣のあった人は、結婚への歩みが予期される時には一日四回祈らなければならぬ。結婚は、この世においても来世においてもあなたがたの一生に影響を及ぼすものです。……

いまの時代の大多数の結婚とその様式は、末の世のしるしの一つとなっている。男も女も喜んで強情で神を問題にしていない。宗教は、この厳粛で重大な事がらに宗教の果たすべき立場はないかのようにそれはうち捨てられている。

（アドベンチスト・ホーム・六七、六八ページ）

神を敬う両親の勧告

結婚によつて多くの不幸がもたらされているのに、青年はなぜかしくならないのであろう。彼らはなぜ年長のもつと経験のある人々の忠告はいらないといつまでも感じるのであろう。仕事のことになると人々は非常に慎重である。何か重要な事業を始める前には、彼らはまず自身をそのために準備し、その計画が失敗しないように、その問題に時間をかけ、金銭を費やし、注意深く十分に研究する。

子孫や将来の生活に影響を及ぼす結婚関係にはいる前に、これ以上に注意を働かすことがどんなにたいせつなことであろう。だが注意する代わりに、たわむれや軽薄な精神や、衝動や欲情から結婚をしたり、盲目的に、冷静な判断もなく行なうことが多い。これを説明できるただ一つのは、サタンがこの世に不幸と破滅があることを好み、魂を陥れるために網を張っているということである。彼はこれらの無分別な人々がこの世における喜びと、きたるべき世における家庭を失うのを喜ぶ。

子供たちは、親の忠告や意見を無視して、自分自身の気持ちや望みだけを考慮すべきである

うか。親の希望や勧告などは全然考えてみようとせず、親の円熟した意見には見向きもしようとしないう人がいる。利己主義のために彼らの心は、子としての愛情に全く扉をとざしている。この点について、若い人々の考えを目ざめさせなければならぬ。おきての第五条は、約束の付加されている唯一のいましめであるがそれは軽くみられ、愛人の要求によって積極的に無視さえされている。母親の愛を軽んじ、父親の守りはずかしめることは、多くの青年たちについて記録されている罪である。

この問題に関連して最大のまちがいの一つは、若い者や経験のない者が自分たちの愛情をじやまされたくない、自分たちの恋愛経験に口を出してもらいたくないという考えである。あらゆる立場から考えるべき問題があるとすれば、それはこの点である。他人の経験の助け、またこの問題を両方の立場から冷静に深く考慮することが絶対的に必要である。この問題は大多数の人があまりにも軽くとり扱っている問題である。若い人たちが、神と、神をおそれる両親を助言者となさい。この問題について祈りなさい。

（アドベンチスト・ホーム・六九―七〇ページ）

「親は必ずこや娘の考えや気持ちを無視して配偶者を選ぶべきですか」とあなたは尋ねるが、わたしはあなたがすべき質問を試みよう。必ずこや娘は、そうした一歩が子供に幾分なりと

も愛情を持つ親の幸福に实际的な影響を与えるときに、親に最初に相談せずに配偶者を選んでよいであろうか。子供は両親の忠告や説得にもかかわらず、あくまでも自分の道を進んでよいであろうか。わたしはいいえとはっきり答える。決して結婚しないとしてもいけない。第五のいましめはそうした行動を禁じている。「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。」これは約束を含むいましめである。これに従うものに主は必ずその約束を成就される。賢明な親は、子供の意志を尊重せずに彼らのために配偶者を選ぶようなことは決してない。

（アドベンチスト・ホーム・七一ページ）

父親と母親は、青年が彼らに適した配偶者に結ばれるよう彼らの愛情を指導する責任があることを感じなければならない。両親は神の恵みの助けによって、自分のことばと模範を通して、子供が清く純潔であり、善と真実にひかれるよう、幼い時から彼らの品性を形造ることを自分の義務と感じなければならない。類は友をよぶ。類は友を理解する。真理と純潔と善に対する愛を幼い時から魂に植えつけなければならない。そうするとき、青年はこれらの特性をそなた人々との交わりを求めるであろう。

（アドベンチスト・ホーム・七一ページ）

結婚しようとしている人々への警告

青年は概して一時的な感情にあまりたよりすぎる。愛人の表面的な魅力にたちまち負けてしまつて、すぐにそのとりことなるようなことがあつてはならない。この時代に行なわれる求愛は、主よりも魂の敵が大いに力を入れている欺瞞（ぎまん）と偽善の計画である。ここにこそ常識が必要なのであるが、しかし実際にはこの問題にあまり常識が働かされていない。

（アドベンチスト・ホーム・五一、五二ページ）

空想や恋愛感傷病はライ病のように警戒しなければならない。今日世の青年男女の非常に多くが道徳心に欠けているから、大いに注意する必要がある。……たといほかに望ましい特性がなくとも、道徳的な品性を守った人は、真に道徳的価値を持った人であるといつてさしつかえない。

（アドベンチスト・ホーム・四七ページ）

現代の青年たちの宗教経験にこの低俗な感傷が多くまじっている。姉妹よ、神はあなたが変化することを望んでおられる。わたしは、あなたがご自分の愛情を高めるようにお勧めしたい。あなたを買いとられたあがない主のために、あなたの霊的、身体的な力をささげて奉仕なさい。

すべてのわざが神にあってなされるようにあなたの思いや感情をきよめなさい。

（アドベンチスト・ホーム・四八ページ）

サタンの使いは、夜の時間の大部分を求愛に使っている人々を見守っている。もし彼らの目が開かれたなら、彼らは天使が彼らの言行動作を記録しているのを見るであろう。健康の法則と礼節のおきてが犯されている。結婚前に過ごす求愛の時間の幾分かを結婚生活で楽しむ方は、はるかによいことである。だが概して結婚は、求愛時代に示されたすべての愛情の終局となっている。

（アドベンチスト・ホーム・五二ページ）

サタンは人の性格のどの点を扱ってよいかを知っていて、その悪知恵を駆使して、人々を陥れ滅ぼすための、種々のおとし穴を作る。彼は、人の一步一步のあゆみを注意深く見守って、さまざまの暗示を与える。人は神のみことばの忠告に従うよりもサタンの暗示に従うことが多い。この精巧にあまれた危険な網は、若い人や軽率な人をかからせるために巧みに用意されている。それは光のおおいで偽装されている場合が多い。そしてそれにかかったものは、いろいろの悲しみで自分を刺し通す。その結果、私たちはいたるところに生涯をすっかり台無しにした人々を見るのである。

（アドベンチスト・ホーム・五三ページ）

誤ったふるまい

人の心をもてあそぶことは、きよい神の御目には大きな罪である。それにもかかわらずある人々は、若い女性に特別な好意を示し、相手の愛情をさそい出しておきながら、その人のそばを離れると、自分の語ったことばや、そのことばが与えた影響を忘れて新しい人にひきつけられ、前の女性に語ったと同じことばを語り、同じ関心を示す。

このような性質は結婚生活にも表われる。結婚生活は必ずしも移り気な人の心を堅実にし、迷い気の多い心をしつかりした、原則に忠実な心に変えない。こういう人はひとりの人を愛し続けることにあきる。そして汚れた思いが不潔な行為となって表われる。だからサタンに欺かれて正しい道からそれることのないように、心の腰に帯をしめ、自分の行動に注意することは青年にとって非常に大切なことなのである。（アドベンチスト・ホーム・五三ページ）

相手の両親が知らないのに女性と交際してその友情を得ることは、彼女に対してもまたその親に対してもりっぱなクリスチャン行為とはいえない。彼は、秘密な交際と会合によって、彼女の心を動かすことができるかもしれないが、しかしそうすることによって神の子のだれもが

持つべき魂の高貴と誠実をあらわすことを怠っている。自分たちの目的を達成するために、彼らは率直に公明に聖書に従って行動することをしないで、自分たちを愛し、自分たちのために忠実な保護者になろうとしている者たちに対して不真実になる。このような影響の下にむすばれた結婚は、神のみことばにのっとったものではない。娘を義務からひき離し、親に従い親をうやまえとののはつきりした絶対的な神の命令について彼女の考えを混乱させるような男は、結婚の義務に忠実な人ではない。

「あなたは盗んではならない」といういましめは、神の指によって石の板に書かれたのである。だが愛情をひそかに盗むことがなんと多く行なわれ、また許されていることであろう。欺瞞的な求愛が続けられ、秘密の交際が保たれ、ついに、こうしたことがどんな結果に発展するかを知らぬ未経験な者の愛情が、ある程度親から離れ、彼女の愛を受ける資格のないことをその行動がすでにあきらかに示している人に向けられる。聖書はあらゆる種類の不誠実を罪とみなしている。……

クリスチャンを名の人々で、その生活には誠実さがあらわれ、他の事ならどんなことにも理性的にみえる人たちが、この問題では恐るべき過失を犯している。彼らは理屈では変えることのできない決定的な意志を示す。彼らは人間的な感情と動機に心が迷わされているので、聖

書をさぐり神との密接な関係を保とうという気持ちがない。

（アドベンチスト・ホーム・五四、五五ページ）

おきての一つが破られると、ほとんど確実に墮落がそれに続く。女性の慎しさという障壁がひとたび破れ去られると、どんなにいやしむべき放縱もさほどひどい罪に感じられなくなる。今日の世の中に、恐るべき女の悪影響の結果がなんと多く見られることであろう。「遊女」の誘惑のために幾千という人々が獄屋に閉じ込められ、おおぜいの人々が自らの生命を絶ち、あるいは他人の生命を奪っている。「その足は死に下り、その歩みは陰府（よみ）の道におもむく」という靈感のみことばは確かに真実を物語っている。

禁じられた危険な場所から人々を守るために、人生の道の両側の至るところに警告の火がともされている。それにもかかわらず、おおぜいの人々は理性の指示にさからい、神のおきてを無視し、光にそむいて致命的な道を選んでいる。

健康な肉体、強健な知性、健全な道徳を維持したいと思うものは、「若い時の情欲」を避けなければならない。わたしたちの中にあえてそのごうまんな頭をもたげる悪を、断固とした熱心な努力で制する者は、悪を行なうすべての者に憎まれ敵意をいだかれるかもしれないが、神から重んじられ、賞賛される。

（アドベンチスト・ホーム・五五ページ）

第二章 避けるべき未信者との結婚

クリスチャンと未信者との結婚に関する神のことばの教えに対して、驚くべき無関心さがクリスチャンの世界に見られる。神を愛し神を恐れると称している多くのものが、無限の知恵を持ちたもう神の忠告に従うよりも、自分自身の心の好みに従うことを選んでいる。この世と来世におけるふたりの幸福と平安に重大な影響をもつ問題に理性や判断力や神に対する畏敬（いけい）の念が忘れられて、盲目的な衝動やかたくなな決心が支配することが許されている。

ほかのことでは常識的で良心的な男女でも、この問題では忠告に耳をおおっている。彼らは友人や身内のものや神のしもべの訴えやなだめに全然耳をかさない。注意や警告のことばは余計なおせっかいにしか思われず、親切に忠告する忠実な友人は敵のような取り扱いを受ける。これはみな、サタンが望んでいる通りのことである。サタンは魂をまどわし、魂はその魔力に魅いられて迷う。理性は自制力を失って欲望が支配するようになる。汚れた情欲が力をふるい、

犠牲者が自分で悲惨な捕われの生活に落ち込んだことに気づくころは、もはや遅すぎるのである。これは想像で描いた絵ではなくて、事実を申し上げているのである。神は、はっきり禁じておられる結婚は承認されない。

（アドベンチスト・ホーム・五七、五八ページ）

主は古代のイスラエルに、偶像を拝む周囲の民と結婚してはならないとお命じになった。「また彼らと婚姻してはならない。あなたの娘を彼のむすこに与えてはならない。かれの娘をあなたのむすこにめとってはならない」と。そしてその理由を与えておられる。このような結婚から生じる結果を予見された全知の神は、「それは彼らがあなたのむすこを惑わしてわたしに従わせず、ほかの神々に仕えさせ、そのため主はあなたがたにむかって怒りを発し、すみやかにあなたがたを滅ぼされることとなるからである。」「あなたはあなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた」と宣言しておられる。……

新約にも、クリスチャンと未信者の結婚を禁じる同様のことがある。使徒パウロは、コリント人への第一の手紙の中に「妻は夫が生きている間は、その夫につながれている。夫が死ねば、望む人と結婚してもさしつかえないが、それは主にある者に限る」と言っている。また第二の手紙にもふたたび、「不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義となんの

係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信仰となんの関係があるか。神の宮と偶像となんの一致があるか。わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている。『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。』だから、
『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受け入れよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる。』と書いている。

（アドベンチスト・ホーム・五七、五八ページ）

神の民は、禁じられているところに足を踏み入れるような危険を冒してはならない。信者と未信者の結婚は神に禁じられている。しかし改心していない心が自分の欲望に従うことが多く、神がお認めにならない結婚が結ばれている。そのためにこの世に希望もなく神もなく暮らしている男女が多い。高貴な希望を打ちひしがれ、彼らは環境という鎖でサタンの網につながれている。情欲や衝動に支配された者は、この世の生活で苦い実を刈り取るばかりでなく、彼らとった道は、彼ら自身の魂を滅ぼす結果となるかもしれないのである。

（アドベンチスト・ホーム・五九ページ）

真理を公言するものが、未信者と結婚することによって、神のみこころをふみつける。彼らは神の寵愛を失い、自分自身悔い改めることを困難にしている。未信者は道徳的なりっぱな品性の持ち主であるかもしれないが、彼または彼女が、神の要求に応ぜず、これほどの偉大な救いを軽んじたという一事だけでも、その結婚を實現させてはならぬ十分な理由なのである。その未信者の品性は、イエスが「あなたに足りないことが一つある」と言われたあの若い青年と同じであるかもしれない。その事こそ必要なものである。

（アドベンチスト・ホーム・六〇ページ）

ふたりの者がもし約束しなかったなら

一緒に歩くだろうか

その未信者は宗教に対して好意を持っていて、クリスチャンでないという一事を除けば配偶者としてこれ以上望むものがないという言いわけがときどきなされる。信者の理性は、未信者と生涯のちぎりを結ぶことは正しいことでないと暗示するが、十人中九人まで自分の気持ちに負けてしまう。結婚の誓いが結ばれたその瞬間から霊的な退歩が始まる。宗教への熱情がうすれ、要塞がつつぎつつぎ陥れられ、ついにふたりは共に並んでサタンのやみの旗の下に立つ。結婚

の祝いにおいてすら世的な精神が良心や信仰や真理に勝利する。新家庭で祈りの時は尊ばれない。花婿も花嫁もイエスを退けてお互いを選んだのである。

（アドベンチスト・ホーム・六一、六二ページ）

新しい関係においてはじめのうちは未信者は何の反対も示さないかもしれないが、聖書の真理に関する話題をとりあげてそれに注意し考慮するように促すと、たちまち感情をかきたてられ、「あなたはわたしがこういう人間であることを知って結婚した。うるさくしないでほしい。今後あなたの変わった考えについて話すことをやめてほしい」と言う。もし信者であるほうが信仰に特別な熱意を示すなら、それはクリスチャン経験に関心を持たぬ側の者に不親切に見えるであろう。

信者であるほうは、この新しい関係で自分の選んだ配偶者にある程度譲歩しなければならないと考える。社交的、世俗的な楽しみが愛されている。はじめのうちはそれをするをいやる気持ちが強いが、しだいに真理に対する興味がうすれて、疑いと不信が信仰にとってかわる。かつてしっかりした良心的な信者であり献身的なキリストの従者であった彼が、今のようになんという変化がもたらされたことであろう！（アドベンチスト・ホーム・六二ページ）

世的な縁組をすることは危険である。サタンは多くの青年男女が結婚した瞬間、彼らの宗教経験と有用さの歴史が閉じられることをよく知っている。彼らはキリストから失われる。彼らは、しばらくの間は、クリスチャン生活を送るように努力するかもしれない。しかし反対の方向からの根強い影響力にひかれないうように努力するのが精一ぱいである。かつては自分のよこびと望みについて語ることを特権と感じていたのに、一生の運命を共にする相手がそうしたことに興味を示さないことがわかると、まもなくそれらのことは話題にのぼらなくなる。こうしてとうとい真理に対する信仰は心の中から消えうせ、サタンは知らないまに彼らのまわりに懷疑という網を張りめぐらすのである。（アドベンチスト・ホーム・六二、六三ページ）

「ふたりの者がもし約束しなかったなら、一緒に歩くだろうか。」もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせらるなら、天にいますわたしの父はそれをおこなえて下さるであろう。」だが、なんと奇妙な光景であろう！これほど密接なつながりを持つ二人の中の一人が信仰に熱心で、一人は冷淡で不注意であり、一人が永遠の生命への道を求めているのに、他の一人は死に至る広い道にいるとは！

幾百という人が、未信者と結婚したためにキリストと天を犠牲にした。あわれな人間を配偶者を選ぶほど、キリストの愛と交わりは彼らにとって無価値なのであるうか。彼らは、尊い救

い主になんの愛をも持たぬ人のために天のたのしみをよるこんで犠牲にするほど、天を軽く評価しているのだろうか。

（アドベンチスト・ホーム・六三ページ）

未信者に対するクリスチャンの答え

宗教上の主義の堅実さがためされる困難な立場におかれたとき、すべてのクリスチャンはど
うしなければならぬだろうか。彼は模範に値する堅実さで率直にこう言わねばならない。「わ
たしは良心的なクリスチャンです。わたしは七日めを聖書の安息日と信じています。わたし
ちの信仰や主義は全然反対の方向を向いています。わたしたちは一緒に幸福になれません。
なぜなら、もしわたしが神のみこころをもつと完全に知ろうとすれば、わたしはますますこの
世と違ったものになり、キリストのみかたちに同化するようになるでしょう。もしあなたが、
これ以上キリストのうるわしさ、真理の美しさを認めないならば、あなたはわたしの愛せない
世俗を愛し、わたしはあなたが愛せない神のものを愛します。霊的なものは霊でさとりませ
う。霊的認識力がなければ、あなたは神がわたしに対して持つておられるご要求を認めること
も、わたしがつかえる主に対するわたしの義務を認めることもできません。そうするとあなたは、

わたしが宗教的な義務のためにあなたを無視すると思うでしょう。あなたは幸福ではなく、わたしが神にささげる愛に対してしつとを感じるでしょう。わたしもまた、宗教的な信念で孤独になるでしょう。あなたの考えが変わり、あなたの心が神のご要求に応じ、あなたがわたしの救い主を愛することを学んだとき、あらためて交際しましょう。」

こうして信者は、キリストのために良心に従って、犠牲を払う。永遠の生命を、危険にさらすことができないほど高く評価していることを示す。彼は、イエスより世を選ぶ人、キリストの十字架から自分を引き離す人と結婚するより、独身でいた方がよいと感じる。

（アドベンチスト・ホーム・六四、六五ページ）

無分別な婚約は解消した方がよい

キリストのうちにあるときはじめて、結婚は安全である。人間の最も親密な愛のきずなは、神の愛から受けるべきであり、キリストが支配なさるところにのみ、深い真の、無我の愛がありうるのである。

（アドベンチスト・ホーム・六五ページ）

もし縁組するつもりの相手の品性を十分に理解しないうちに婚約にまで進んだとしても、そ

の婚約のために結婚の誓約を承諾し、愛することも尊敬することもできない相手と一しよにならなければならないと考える必要はない。条件付きの婚約を結ぶことにはよほど慎重でなければならぬ。しかし多くの人たちのように、あとになって別れるよりは、結婚する前に婚約を破棄するほうがはるかに、はるかによいことである。

「しかし私は約束してしまったのです。今からでも取り消すべきでしょうか」とあなたは言うであろう。もし聖書に反した約束をしたのだったらどんなことがあっても、即刻取り消し、そのように軽率な約束をするほど夢中になったことを、神の前にへりくだった心で悔い改めなさい。そんな約束を守って創造主の栄えをけがすよりは、神をおそれる思いをもって約束を取り消すほうがはるかによい。

（アドベンチスト・ホーム・四三、四四ページ）

結婚による結合に向かったの歩みには、慎み深さと質素と、誠実と、神をよるこばせ神の栄えをあらわそうとする熱心な目的とが目だっていなければならない。結婚はこの世と来世とにおける両方の生活を左右する。真実なクリスチャンは、神が承認なさることのできないような計画をたてない。

（アドベンチスト・ホーム・四四ページ）

心は人間の愛を切に求めるが、しかしこの愛はイエスの愛に代わるほど強く純潔でとうといものではない。妻は、生活の苦労や責任や悲しみに応ずる知恵と力と恵みを、救い主の中にだ

けみいだすことができる。救い主を自分の力またみちびきとしなければならない。この地上の友に自分を与える前にまずキリストに自分をささげるべきで、このことを妨げるような関係を持つてはならない。真の幸福をみいだす者は、自分の所有するもの、自分のなすことの全部に天の祝福がなければならぬ。多くの人々の心と家庭が不幸に満たされるのは、神への不従順からである。姉妹よ、いつも陰におおわれているような家庭を持ちたくなければ、神の敵と結ばれてはいけない。

（アドベンチスト・ホーム・六四ページ）

一方が結婚後改心した場合

まだ信仰を持たないうちに結婚し、その後信仰にはいった人は、宗教的信仰についてどんなに大きな相違があろうとも相手に対していつそう忠実でなければならぬ義務がある。しかしたとえば試練や迫害を招こうとも、神の要求をこの世のあらゆる関係よりも上に置かなければならない。愛と柔和の精神を持つときに、この忠誠によって未婚者の伴侶を神にみちびく感化を及ぼすことができる。

（アドベンチスト・ホーム・六六ページ）

第三章 結 婚

神は男から女を造られた。それは女が男の伴侶となり助け手となり、彼と一体となつて彼を慰め、励まし、祝福し、その代わりに男が女の力強い助け手となるためであつた。きよい目的、すなわち夫は女性の心の純粋な愛情を得るため、妻は夫の品性をやわらげ向上させて完全なものとするために結婚関係にはいる者は、彼らに対する神の目的を成就している。

キリストはこの制度を破壊するためでなく、本来の高さときよらかさに回復するために來られた。キリストは神の道徳的なみかたちを人間の中に回復するために來られ、そして結婚関係を是認することから彼の働きを開始された。

アダムの助け手としてエバを与えられたお方が結婚の祝いの席上で最初の奇跡を行なわれた。友人や親族が喜び合っていた祝いの場所で、キリストは公の伝道を開始されたのである。こうしてキリストは婚姻を是認し、御自ら制定された制度として認められた。キリストは男女が清

い結婚によつて結ばれ、天の家族の一員として認められるような、りっぱな家庭を育てあげるようにお定めになった。

結婚式は簡素で、かつ楽しいもので

なければならぬ

キリストから発散する天来の愛は人間の愛情をこわすことは決してなく、かえつてそれを包含する。人間の愛はそれによつて洗練され、きよめられ、高められ、高潔にされる。人間の愛情は天の性質と結合し、天に向かつて成長するように訓練されなければ決して尊い実を結ぶことはできない。イエスは幸福な結婚、幸福な炉辺を見ることを望まれる。

聖書は、イエスも彼のでしたちもこの結婚のいわい（カナの）に招かれたことを記録している。キリストはクリスチャンが結婚式に招待されたとき、そうした喜ばしいわいに出席するべきでないと彼らがいうのを認めておられない。キリストは結婚の祝いに出席することによつて、私たちが神のおきてを守ることを喜ぶ人々と共によろこぶのを望んでおられることを教えられた。キリストは、人類の無邪気な楽しみが天の法則に従つて行なわれたとき、それを妨げるようなことはなさらなかった。キリストが臨席なさった集まりにキリストのでしたちが出席

することは正しいことである。この祝いに出席されたのちも、キリストは多くの式に出席し、そのご臨席と教えを通して結婚を認めたもうた。

結婚するふたりが互いにこの上もなく似つかわしい人々であつても、大げさな見せびらかしをする理由は全然ない。

結婚の儀式で浮かれ騒ぎやはしゃぎや、何かの見せびらかしが見られるたびに、わたしにはそうしたものが式に全然ふさわしくないものに思われた。実際、これは神が定められた制度であつて、最も厳粛な思いをもつて考えなければならぬものである。地上で家族関係が結ばれたとき、その家族は将来どんなものになるかを示さなければならぬ。すなわち、天の家族になることを実際に示さなければならぬのである。どんな場合でも神の栄光を第一にしなければならぬ。

(アドベンチスト・ホーム・九九・一〇一ページ)

新婚夫婦への忠告

愛する兄弟姉妹よ、あなたは生涯にわたる契約を結ばれた。結婚生活におけるあなたがたの教育は始まった。結婚生活の最初の年は経験の年であり、ちょうど子供が学校で学科を学ぶよ

うに夫と妻がお互いの性格の異なったところを学ぶ年である。この結婚生活の最初の年に、あなたがたの将来の幸福を傷つけることのないように注意なさい。……

結婚関係を正しく理解するには一生かかる。結婚する人は、この世では決して卒業することのない学校にはいるのである。兄弟よ、いまやあなたの妻の時間と力と幸福はあなたのそれと結びついている。あなたが彼女に与える影響はいのちからいのちに至らせるかおりとなり得るし、死から死に至らせるかおりともなり得る。妻の生涯を傷つけることのないように注意なさい。

姉妹よ、あなたはいま、結婚生活の責任について最初の実験的な教えを学ばねばならない。これらの教えを毎日忠実に学びなさい。不満やゆううつさにくじけてはならない。安易で怠惰な生活を望まないようになさい。利己主義に負けないように絶えず警戒なさい。

一生の結合におけるあなたがたの愛情は、相手の幸福を増大するものでなければならぬ。どちらも相手の幸福のために奉仕しなければならない。これが神があなたに対して持つておられるみこころである。お互いに融合して一体とならなければならないが、自分の個性を相手の中に没し去ってはならない。神はあなたがたの個性の所有者であられる。あなたがたは神に、何が正しいか、何が悪いかわ、自分が創造された目的を最もよく実現するにはどうしたらよ

いか、と尋ねなければならぬ。

「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」。(コリント第一・六ノ一九、二〇) 神に対するあなたの愛が人間的な愛に優先していなければならぬ。あなたのためにご自身の生命を与えて下さったお方にあなたの愛が注ぎ出されるべきである。神のために生きるときに、魂は最高にして最上の愛情を神にそそぎます。あなたのために死んでくださったイエスに向かってあなたの最も大きな愛の流れがそそがれているでしょうか。もしそうなら、あなた方のお互いの愛は天来のものとなります。

愛は水晶のように透明で純粹で美しくあっても、まだ試験されていないために底の浅いものであることがある。キリストをすべてのことにおいて第一にし最上にし最高になさい。キリストを絶えず見上げなさい。そうすれば、彼に対するあなたの愛は試練やこころみにあうに従って強まり深まっていく。彼に対するあなたの愛が増していくにしたがって、お互いに対する愛も強まり深まっていく。「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく」。(コリント第二・三ノ一八) いまあなたがたは、結婚前にはなかった果たすべき責任がある。「だから、……あわれみの心、慈愛、

謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。」「愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さった。」「次の勧告を注意深く研究なさい。」「妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい。キリストが教会のかしらであ…：られるように、夫は妻のかしらである。そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように妻を愛しなさい。」「（コロサイ三ノ一二、エペソ五ノ二、二二―二五）。

一生の結合である結婚は、キリストとその教会の結合を象徴している。キリストが教会に対してお示しになった精神を、夫婦は互いに表わすべきである。

夫にしても妻にしても相手を支配することを主張してはならない。主はこの問題の指針となる原則を定めておかれた。夫はキリストが教会をたいせつになさるよう、妻をたいせつにしなければならぬ。妻は夫を愛し尊敬しなければならぬ。どちらも親切な心を育て、相手を悲しませたり傷つけたりしないことを決心しなければならない。

兄弟姉妹方よ、あなた方はお二人共強い意志の持主である。その意志の力をあなた方自身と、接する人々に対する大きな祝福とすることもできるし、また災いとすることもできる。お互いに相手を自分の思い通りにしようとしてはならない。無理じいをしてしながら相手の愛情を保つこ

とはできない。わがままな精神を表わすときに家庭の平和と幸福は破壊される。あなたがたの結婚生活が争いの生活になることのないようになさい。争えばあなたがた両方が不幸になるだけである。ことばをやさしくし、態度を穏やかにし、自分の欲望を押えなさい。ことばは善、または悪のために強い力を持っているから、話すことばによく注意なさい。声は決して鋭くしてはならない。あなたがたの結婚生活にキリストのような香りを持ち込みなさい。

人は結婚という密接な関係に入る前に、自分自身をどのように支配するか、人に対してはどのようにふるまうかを学ぶべきである。

兄弟よ、親切で、忍耐強く、慎み深くありなさい。あなたの妻はあなたを夫として受け入れたということを憶えて、彼女を支配するというのではなく、その助け手となりなさい。決して横柄に、独裁的になつてはいけない。自分の思い通りにしようと妻に強要してはならない。彼女にも意志があり、あなたに自分のやり方があるように彼女には彼女なりの考えがあるかもしれないということを憶えなさい。あなたの方がより豊かな経験を持っているということも忘れてはいけない。思いやりを持ち、親切にいなさい。「上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ち」(ヤコブ三ノ一七)。

愛する兄弟姉妹よ、神が愛であられること、神の恵みによって、あなたがたが結婚の誓約に

おいて誓ったように互いに相手を幸福にすることに成功できることをおぼえていただきたい。あなたは救い主のみ力により知恵と力をもつて、ゆがんだ人生を神にあるまっすぐな人生へと変える助けをすることができ。キリストにおできにならないことがあるだろうか。キリストは知識、義、愛において完全であられる。あなたは自分の愛をすっかり注ぎ出した気になって、自分のからにとじこもってはいけない。愛をまわりの人々と分けあい、その人達を幸せにするあらゆる機会をとらえなさい。やさしい言葉、あわれみに満ちた表情、感謝の表現、これらは多くの苦しんでいる孤独な人達への一服の清涼剤となるだろう。励ましの言葉や親切な行為は疲れ切った肩に重くのしかかっている重荷をずっと軽くする。本当の幸福は、無我の奉仕の中にこそ見いだされるのである。そしてこのような奉仕の言葉や行ないはすべてキリストに對してなされ、語られたものとして、天の書に記録される。キリストは、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」と言われる（マタイ二五ノ四〇）。

救い主の愛の光の中に生活しなさい。そうするとき、あなたの与える感化は社会の祝福となるであろう。キリストの靈に支配して頂きなさい。いつも親切なことを語るようになさい。寛容と無私は、生まれかわってキリストにある新しい生涯を生きている人の言葉と行為の特徴で

ある。

(7 T ・ 四五 五〇ページ)

第四章 成功ある幸福な協力

神は結婚関係にはいる当事者の間に完全な愛と調和があるべきことをお定めになった。花婿も花嫁も神がお定めになったように、宇宙の前でお互いに愛し合うことを誓約しなければならない。……妻は夫を尊敬しなければならない。夫は妻を愛し、たいせつにしなければならない。

男も女も結婚生活の初めにおいて、神に自らをあらたにささげなければならない。

結婚の生活に対しては、はがねのように真実でなければならない。思いやことばや行為において神を恐れ、神のいましめに従う人としてのあなたの記録を汚さないことを決心しなさい。

いかに注意深く、賢明に結婚が進められても、結婚式が行なわれたときに完全に一致している夫婦はほとんどない。結婚によるふたりの真の結合はその後においてできるものである。

新婚の夫婦が生活の困難や心配事であうと、往々にして結婚について以前想像していた口マンスが消えうせる。夫も妻も結婚前の交際ではわからなかった相互の性質を知るようになる。

これが彼らの経験のうちで最大の危機であり、その後の全生涯の幸福と有用さはこの時に正しい態度をとるか否かによつてきまるのである。お互いに今まで予期しなかった弱点や欠陥が見えてくるが、愛によつて結び合つた心は以前には気づかなかつた長所も発見する。だれでもみな欠陥よりも長所を発見しようと努力なさい。自分の態度や自分の周囲のふんい気が、自分に対する相手の態度を決定する場合が多い。

愛を表現することは弱さを表わすことであると思つてゐる人が大ぜいいて、相手をよせつけぬような冷淡さを装う。こうした精神は同情の気持ちがわきでるのをとめてしまふ。人に親しむ気持ちや寛大な気持ちを押えているとそれは枯死し、心は孤独で冷たくなる。わたしたちはこの過失に陥らないよう警戒しなければならぬ。表現しなければ愛は長くつづかない。あなたと結ばれた人の心が、親切と同情に欠乏して餓死することがないようにすべきである。……

お互いに愛を強制することなく、かえつて愛を与えるべきである。自分の中にある最高の品性を養育し、互いに相手の長所をすみやかに認めるようにしたい。真価を認められているという意識は驚くほどの刺激となり、満足感を与える。同情と尊敬の念は卓越しようと努力する気持ちを強め、愛は一段と高い標準に達しようとする気持ちを鼓舞しながら、愛自体も大きくなっていく。

二つの生命の融合

困難や困惑や失望に遭遇しても、その結婚が誤りであつたとか、失望であつたとかいうような気持ちを夫も妻も抱いてはならない。互いに相手に対してできるだけ最善のものとなるように決心なさい。最初のころの心づくしを継続し、人生の戦いを戦ううえにあらゆる面で互いに励まし合い、相互の幸福を増進するように研究なさい。相互の愛と忍耐が必要である。そうするならば結婚は愛の終局ではなく、出発点そのものようになる。真の友情のあたたかさ、心と心を結ぶ愛は天国における喜びをこの世において味わわせるものである。

どの人も忍耐することによつて忍耐心を養わなければならない。親切で忍耐強くあることによつてほんとうの愛をいつも心にあたたかく保つことができる。またそうあることによつて天に是認されるよい特質がのばされる。

サタンは、仲たがいでもあればそれを利用しようといつも待ちかまえている。そして夫または妻の好ましくない、遺伝的な欠陥に働きかけて、神の前で厳粛な誓約をたててお互いの利害を一つに結びつけたふたりを、何とかして引き離そうと努力する。彼らは結婚の誓約の中で一

つになることを約束した。妻は夫を愛し彼に従うことを、夫は妻を愛し彼女をたいせつにすることを約束した。神のおきてが守られれば争いの悪魔は家庭の外に押しとどめられ、お互いに対する関心が薄れるようなことはなく、愛情の疎隔もあり得ない。

救霊の働きにおいてお互いの関心と同情と愛と働きを一つにするためにあなたの前に立ったふたりにとって、これは彼らの生涯における重要なときである。結婚の関係において非常に重大な一歩がとられる。このときに二つの生命が一つに融合されるのである。∴∴夫と妻が神のみわざにおいて互いに一つとなり、完全さときよらかさをもつて働きを前進させることは、神のみこころにかなうことである。彼らはそれを行うことができるのである。

このような一致が見られる家庭には神の祝福が太陽の光のように与えられる。なぜなら、夫と妻がイエス・キリストのもとにあつてきよいきずなに結ばれ、キリストに支配され、キリストのみたまの導きを受けることは神のみこころが定めたもうたことであるからである。∴∴

神は家庭が地上で最も幸福なところであり、天の家庭の象徴そのものであることを望んでおられる。家庭における結婚の責任を負い、自らの関心をイエス・キリストに結びつけ、イエスのみ腕と約束に頼りながら、夫と妻は神の使いが推賞する結婚において幸福をわかち合うことができる。

（アドベンチスト・ホーム・一〇二 一〇九ページ）

行き違いが起こった時

夫と妻が彼らの幾つかの義務について、たとい正しい公平な解決を得ようと努力しても、心を神にゆだねないならば、家庭の問題を調整することはむずかしい。夫と妻は、家庭生活の利害を二分しながらどうしてやさしくしつかり相手の心をつかんでいることができるであろうか。彼らは彼らの家庭造りに関係のあるすべてのことに利害が一致しなければならない。そして妻は、クリスチャンであれば、夫は家長として立つべきであるから、夫の友として彼と利害を共にするのである。

あなたの精神は誤っている。あなたはある意見を主張するとき、その問題を正しく判断せず、自分の考えを主張すればどんな影響があるかを考えない。また妻が違った考えを持っていることを知りながら、独断的な態度で自分の考えを祈りや会話の中に織り込んでいる。あなたは妻の気持ちを尊重せず、意見の異なる問題を紳士らしく避けることをせずに反対の点についてと細かに語り、周囲の人々にかまわずに自分の意見をがんこに主張する。あなたは他人があなたと違った見方でものごとを見る権利はないと感じている。クリスチャンの木にはこういう実

はならない。

兄弟姉妹よ、イエスを受け入れるために心の戸を開きなさい。イエスを心の宮の中に招き入れなさい。どの結婚生活にもはいり込む障害に勝利するために互いに助け合いなさい敵の悪魔に打ち勝つには激しく戦わねばならない。そして、もしこの戦いにおいて神に助けをいただくことを期待するならば、あなたがたの両方が一つとなって勝利することを決意しなければならぬ。誤ったことばを發することのないよう唇を閉じなければならぬ。いよいよとなればひざまずいて、「主よ、わたしの魂の敵をしかってください」と叫ばなければならぬ。

神のみこころが行なわれているなら、夫と妻は互いに尊敬し合い、愛と信頼を養い育てる。家庭の平和と一致をそこなうものはどんなものでもきびしく押え、愛と親切をはぐくまなければならぬ。やさしさ、忍耐、愛の精神を表わす人は、同様の精神が自分に示されることを知るであろう。神のみたまが支配しているところでは、結婚関係が不適合であるという話はおきない。栄光の希望であられるキリストがほんとうに心の中に形づくられているなら、家庭には一致と愛がある。妻の心に住むキリストは、夫の心に住むキリストと協調する。夫も妻も、キリストが自分を愛する者のために備えに行かれた家に行くために心を合わせて努力する。結婚関係を、神のきよいいましめによって保護された神の聖なる制度の一つと見なす者は、

理性の命令に従う。

結婚生活において男も女もしつけない、手に負えない子供のような態度をとることがある。夫は自分の思い通りにしようとし、妻もまた自分の好むようにしようとしてどちらも譲ろうとしない。こういう状態は最大の不幸を招くだけである。夫も妻もものごとのやり方や考え方をよるこんで相手方に譲ろうとする態度がなければならぬ。どちらも自分の思い通りにすることを主張しつづける間は、幸福になる可能性は全くない。

(アドベンチスト・ホーム・一二一 一二四ページ)

あなたとあなたの夫は互いに愛し合い忍耐し合わなければ、地上のどんな力もあなたがたをクリスチャンの調和ある状態に保つことはできない。結婚関係におけるあなたがたの交わりは、親密で愛情深く、きよらかで高貴で、あなたがたの生活に靈的力を吹き込むものでなければならぬ。それは、あなたがたが神のみことばが要求しているとおりのものであるためである。主の望んでおられるような状態に達したとき、あなたがたは地上に天国を見いだし、生活の中に神がおられることを発見するであろう。

「愛する兄弟姉妹よ、神が愛であられること、神の恵みによってあなたがたが結婚の誓約において誓ったように互いに相手を幸福にすることに成功できることをおぼえていただきたい。」

（アドベンチスト・ホーム・一一四ページ）

キリストの恵みによつて、あなたは自己と利己主義とに勝利することができる。ひとつひとつのことに自己犠牲を表わし、助けを必要としている人々に絶えず強い同情を示して、キリストの模範に従つて生活するとき、勝利に勝利を重ねて行くであろう。日々、自己を制御し、品性の弱点を強くするよりよい方法を学ぶであろう。あなたの意志をイエスに明けわたすならば、主イエスがあなたの光、力、そして喜びの冠となつて下さる。

（7 T・四九ページ）

第五章 夫と妻の関係

結婚関係を、神のきよいいましめによつて保護された神の聖なる制度の一つと見なす者は、理性の命令に従う。

イエスはどんな階級の人にも独身を強制されなかった。イエスは結婚の神聖な関係をなくすためではなく、それを高め、本来の神聖さに回復するためにこられた。キリストは、きよらかな、無我の愛が支配する家族関係をよろこびをもつてごらんになる。

結婚は正当で神聖なものである

食い、飲み、めとり、とつぎすることそれ自体には罪はない。ノアの時代に結婚することは正当なことであった。この正当なことが正しく扱われ、限度を越して罪を犯さなければ、それ

はいまでも正当なことである。しかしノアの時代の人々は神のみこころをうかがい、神の指導と忠告を求めずに結婚した。……

人生のすべての関係は一時的のものであるという事実は、わたしたちのすべてのことばや行ないを改めさせる力とならなければならない。ノアの時代の結婚が神の前に罪とされたのは、正しく用いた場合それ自体何の罪もなかった愛情が、無節操で限度を越えていたからであった。今日の世界には結婚について、また結婚関係そのものについて心を奪われて、自らの魂を失っている者がおおぜいいる。

結婚関係は神聖なものである。しかしこの退廃した時代において、それはあらゆる種類の悪徳を網羅している。洪水前の結婚はその行なわれた方法のために罪とみなされた。それと同様に今日もそれは悪用されて、いまや終わりの時代のしるしの一つとなっている。

結婚の神聖な性質と要求とが理解されているとき、この時代においてもこれは天に是認される。そういう結婚は当事者たちを幸福にし、神に栄光をもたらす。

結婚の特権

クリスチャンであると自称する人々は、……結婚関係に伴うあらゆる特権の結果について正しく考えるべきである。またきよめられた原則がすべての行為の基礎となるべきである。

多くの場合、両親が……彼らの結婚の特権を悪用し、それにおぼれることによって、動物的な欲望を強めている。

（他のところでホワイト夫人は「家族関係におけるプライバシーと特権」について語っておられる）。

正当と認められていることをやり過ぎるとき、それはいむべき罪となる。

多くの親は結婚生活において得るべき知識を得ていない。彼らは、サタンに利用されて心と生活を彼に支配されることのないように警戒していない。彼らは神が結婚生活を抑制し、少しでも度を過ぎることのないよう要求しておられることを認めていない。欲望を押えることを宗教的な義務と感じている者はほとんどない。彼らは自分の選んだ人と結婚によって一つに結ばれた、だから結婚は低い欲望に耽溺（たんでき）してもよいと論じる。信仰があると公言する男女でさえ、彼らの情欲のたずなをゆるめ、たいせつなエネルギーを消耗して生命力を弱め、からだ全体の力を弱めることについて神に報告を求められることを少しも考えていない。

自己否定と節制の実行

わたしは、造り主に完全な奉仕をささげることができるよう、精神および肉体の組織を最上の状態に維持することが神への義務であることをすべての人に理解させることができたらどんなによいかと思う。クリスチャンである妻は、夫の動物的な情欲を興奮させるようなことを語ったり、態度をとったりすることを避けなければならない。多くの人はこの方面に浪費する力を全然持っていない。彼らは若いときから、動物的な欲望を満足させて頭脳を弱め、身体を衰弱させてきた。自己否定と節制が彼らの結婚生活の標準とならなければならない。

わたしたちは、人類の益となり神に完全な奉仕をささげることができるよう、精神を純潔にからだを健康に保つべき厳粛な責任を神に負っている。使徒は次のような警告のことを発している。「あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情に従わせることを（するな）。」彼はさらに「すべて競技する者は何ごとにも節制する」と告げて、わたしたちを激励している。彼はクリスチャンであると自称している者すべてにそのからだを「生きた、聖なる供え物としてささげなさい」とすすめている。彼は、「自分のからだを打ちたたいて服従させ

るのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかもしれない」とも言っている。

自分の妻を欲望を満足させる道具にするような愛情は純粋な愛ではない。彼を耽溺させるのは動物的な情欲である。使徒が「キリストが教会を愛して、そのためにご自分をささげられた。……教会をきよめて聖なるものとするためであり……清くて傷のない……ためである」と定義したような愛を示す人は、何と少ないことであろう。しかしこれは神がきよいと認められる、結婚関係における愛の特質である。愛は純潔できよい原則である。だが情欲は抑制する余地を与えず、また理性に命令されたり支配されたりすることをうけがわない。情欲は結果に対して盲目的であり、原因から結果を推し測ることをしない。

サタンは自制力を弱めようとする

サタンは結婚生活にはいった人々の純潔の標準をさげさせ、彼らの自制力を弱めようとする。それは、低い欲望が優勢な間は道徳的な力が弱まるから、彼らの霊的な成長を気づかう必要がないということを知っているからである。彼はまた、この両親から生まれる子供にサタ

ン自身のしるしを押すことのできる最上の方法はこれ以外にないこと、そして、その子供の品性を両親の品性よりもはるかにたやすく形造ることができるということを知っているからである。

男女の方々よ、あなたがたはいつの日か、情欲がなんであるか、またそれを満足させた結果がどんなものであるかを知ることがあろう。結婚以外の関係に見られると同様のいやしい情欲が結婚関係に見られる。

低い情欲のたずなをゆるめるとき、どんな結果になるであらうか。∴神の使いが君臨すべき寝室は汚れた行為によって汚される。また恥ずべき情欲主義が支配するために、からだ汚される。いまわしい行為はいまわしい病氣へとみちびく。神が祝福としてお与えになったものが、のろいに変えられる。

度を過ぎた性交は、礼拝を愛する心を効果的に失わせる。それは組織に与えるべき栄養を脳から奪い、非常に精力を消耗させる。女の人はだれでも、夫がこうして自己を破滅させるのを助けてはならない。もし彼女が啓発されており、夫に対して真の愛情をもっていたなら・そういうことは決してしないであらう。

動物的な情欲におぼれればおぼれるほど、その情欲は強くなり、それにふけりたい欲求が激

しくつのつていく。神を恐れる男女は、彼らの責任に目ざめなければならない。クリスチャンと自称する多くの者は、この方面において節制していないために、神経や脳が麻痺して苦しんでいる。

夫は思いやり深くなければならない

夫たちは慎重で、注意深く、堅固で、忠実で、同情深くなければならない。彼らは愛と同情を示さなければならない。クリストのことばを実行するならば、彼らの愛情は、自らのからだを破滅させ、妻のからだをも衰弱させ病気にするような、低い、地上的な、情欲的なものとはならない。彼らは、妻はすべてのことにおいて夫に服従しなければならないということを叫びながら、自分のいやしい情欲を満足させることはしない。夫が、すべてのクリスチャンが持たねばならぬ高貴な品性と純潔な心と高貴な精神を持っていれば、それは結婚関係に表われる。クリストの心を持っていれば、からだを滅ぼすようなことをせず、やさしい愛情に満ちあふれ、クリストにあつて最高の標準に到達しようと努力する。

夫の奴隷となつて身をまかせ、しんぼう強く彼の墮落した情欲に仕える妻を真に愛する者は

だれもいない。妻が受け身になって夫のいいなりになるとき、夫はかつて彼女の中に認めた価値をみなくなる。夫は妻がすべての高尚なものから低い標準にひきずりおろされるの見て、まもなく自分に対すると同じようにほかの人のいうままになって墮落するのではないかと疑う。彼は妻の節操と純潔を疑い、彼女にあき、自分のいやしい情欲を刺激しそれを強める新しい対象を求めるようになる。神のおきては尊ばれない。こういう人は動物よりも悪い。彼らは人間の形をとった悪魔である。彼らはきよめられた真の愛の高貴な、人を高潔にする原則を知らない。

妻もまた夫をしつとし、機会さえあれば、自分に対すると同じようにたやすく他の女に言いよるのではないかと疑う。彼女は夫が良心に、または神に対するおそれに支配されていないのを見る。これらのきよいとりではすべて汚れた欲望によってこぼたれ、夫の中にある神に似たものは、すべて低い動物的な情欲の奴隷に変えられる。

不合理な要求がなされた時

いま解決しなければならぬ問題は、妻が、夫を支配しているものが低い欲望以外の何もの

でもないことを知り、また、夫の要求に応じるならば、せっかく、神がきよく尊く、神への生ける供え物としてたもつために彼女にお与えになったからだをそこねることを理性と分別によつてよく知つていながら、それに盲目的に従うべきであるかどうかということである。

妻の健康と生命を犠牲にしてまで夫の動物的な欲望を満足させる愛情は、純潔な、きよらかな愛情ではない。もし彼女がほんとうの愛と知恵を持っていたら、興味深い霊的な事ならについて話し合うことによつて夫の気持ちを、肉体的な欲望を満足させることから高尚な霊的な問題へそらせるであらう。夫のきげんをそこねるかもしれないが、つつしみ深く、愛情をこめて、過度の性交をゆるして自分のからだをいやしめることはできないと強く言うことも必要であるかもしれない。妻は親切な態度で、神が自分のすべてに対して第一の、そして最高の権利を持つておられること、神の大いなる日に申し開きをしなければならないから、この権利を無視することはできないというのを彼に思い出させなければならない。……

女性が彼女の愛情を高め、洗練された女らしい威厳をきよく、尊く保つならば、彼女はその分別のある感化力によつて夫をきよめるために大いに役立ち、そのことによつて彼女の高貴な使命を果たすことができる。そうすることによつて彼女は夫と自分を救い、二重の働きをすることができ。この問題は非常に微妙で処理しにくく、道徳的な勇氣と堅固さとともに、知恵

と忍耐が必要である。祈りの中に力と恵みを見いだすことができる。心を支配する原則は真実な愛でなければならない。行動の正しい基礎となり得るものは、神に対する愛と夫に対する愛だけである。……

妻が心もからだも夫の支配にまかせ、すべてのことにおいて夫の意志通りにし、自分の良心と威厳と本性までを犠牲にするとき、彼女は夫を高めるために持っている善のための大きな感化力を働かせる機会を失う。彼女は夫の激しい性質をやわらげることができた。また彼女はそんきよめる力を夫を洗練しきよめるように働かせ、お互いに世にある欲のために滅びることを免れるために夫に彼の欲望を抑制するためにもっと熱心に努力させ、もっと霊的になるように導くことができた。その感化は、恵みによって新たにされていない心が自然に求める低い、感覚的な耽溺から高い、高貴な主題に心を導くために大きな働きをすることができる。夫の愛がだいたいにおいて動物的な欲望を土台としており、それが彼の行動を支配していることを知っているながら、夫をよろこばせるために彼の標準にまでさがらなければならないと感じる妻は神を怒らせる。なぜなら彼女は夫をきよめる感化を彼に与えないからである。もし彼女が、一言の抗議もいわずに夫の動物的な欲望に従わねばならないと感じるなら彼女は神と夫に対する自分の義務を理解していない。

あなたがたは、代価を払って買いとられた

体内には低い欲望があつて、それがからだを通して活動する。「肉」「肉体的な」また「肉体的欲望」という言葉は、低い墮落した性質を総括している。肉体はそれ自体神のみこころにさからつて行動することはできない。わたしたちは、情と欲と共に自分の肉を十字架につけなければならぬ。ではどうすればよいか。からだに苦痛を加えるべきであろうか。加えてはならない。だが罪の誘惑にとどめをさしなさい。墮落した思いを追い払いなさい。すべての思いをイエス・キリストの中にとりこしなさい。すべての動物的な欲望を、魂のより高い力に屈服させなさい。神に対する愛が最高に支配していなければならぬ。キリストは分裂していない王座にすわりたまわねばならぬ。わたしたちのからだは、キリストに買い取られた財産であると考えねばならない。からだの各部分は義の器とならなければならぬ。

(アドベンチスト・ホーム・一二四 - 一三二ページ)

第六章 母親と子供

妻であり、母である人は単なる家事にあくせくせず、主人のよき伴侶となり、成長する子供の頭脳の成長におくれぬように読書に時間を取り、物事に精通していなければならない。愛する者たちをより高い生活へと導くために現在与えられている機会を賢明に利用しなさい。愛する救い主を日々、自分の伴侶とし、親しい友とするために時間をとりなさい。また時間をさいて聖書を学び、子供と共に野外に出て、神のみわざの美を通して神について学ぶようになさい。

婦人はつねに快活で元気よくしていなさい。限りのない裁縫に全時間を費やさず、夜は、一日の働きを終えて皆が再び共になって、家族一同が楽しく交わる時間となさい。こうして多くの男は、クラブハウスや酒場よりも自分の家庭のまじわりを選ぶようになり、青年の多くが町をうろつき、あるいは町角の店に行かなくなるであろう。多くの娘たちもつまらぬ悪友から救われるのである。そして家庭の感化は親にとっても、子供にとっても神が計画なさったように

一生の祝福となるのである。

「妻は自分の意志を持つてはならないのか」という質問をよく受ける。聖書は「妻たる者よ。主に仕えるように自分の夫に仕えなさい」といって、夫が家族のかしらであることをはっきり述べている。もしこの命令がここで終わっていたなら、妻の地位はあまりうらやましいものではない。いろいろの場合においてそれはつらい苦しい地位であり、結婚は少ないほうがよいことになる。多くの夫は「妻よ、服従しなさい」というところでとまるが、この命令の最後をみると、「それが、主にある者にふさわしいことである」とある。

わたしたちは神のみたまを持たなければならない。さもなければ家庭に調和を保つことはできない。妻がキリストの精神を持っているなら、ことば使いに注意し、心を抑制し、従順である。しかしそのために自分を奴隷と感ずることはなく、夫の友であると感じる。もし夫が神のしもべであれば、彼は妻に対していばったり、独裁的であったり、か酷であったりすることはない。家庭は、神のみたまがそこに住みたもうとき天の象徴となるから、家庭の愛情をたいせつに育てるためにいくらか心をくばってもくばりすぎるといふことはない。……一方が誤ちを犯しても他方がキリストのような忍耐を示し冷淡にはなれたりしない。

親であること

母親になろうとしている女性はみなひとりひとり、環境がどんなものであっても、幸福な、明るい、満足する性質をたえずのばさなければならぬ。彼女は、この方面における努力が、健康と道徳的品性をもった子供という形で十倍に報いられることを知らなければならぬ。それだけではない。彼女は習慣によって物事を明るく考えるように自分を慣らし、そのことによって幸福な心の状態をつちかい、その幸福な精神を家族の者や彼女と交わる人々に明るく反映させることができる。また、彼女自身の肉体の健康がこのことによって非常によくなる。生命の源に力が与えられ、血液は、彼女が不きげんでゆううつなときのようによどみがちに流れることはない。彼女の精神と道徳の健康は、快活な精神によって活気づけられる。意志の力は心の印象を打ち消し、神経の偉大なしずめ手であることを示す。親から受けつぐはずであった力を奪われた子供は、最高の配慮を受けなければならぬ。彼らのからだの法則に綿密な注意を払うことによって、ものごとをよりよい状態にすることができぬ。

母親になろうとしている人は、自分の魂を神の愛のうちに保たなければならない。彼女の心

は平和でなければならない。彼女はキリストのことばを実践し、イエスの愛のうちに安んじていなければならない。彼女は、母親は神の同労者であることを覚えていなければならない。

夫と妻は協力する必要がある。すべての母親が神の祭壇に自分をささげ、子供たちを誕生の前から、また誕生後にも神にささげるならば、この世界はなんとすばらしい所となることであろう！

妊娠中の影響が及ぼす結果について小さい問題のように考えている親が多いが、神はそうみではおられない。神の使いによってその使命が送られてきており、しかも厳肅な態度で二度までそれが与えられたことは、これが最も注意深く考える価値のある問題であることを示している。

ヘブルの母親に語られたことばを通して、神は各時代のすべての母親に言われているのである。「あなたは氣をつけて……わたしが彼女に命じたことは皆、守らせなければなりません」と天使は言った（士師記一三ノ四、一四）。子供の幸福は母親の習慣に左右される。母親の食欲や情欲は原則によって支配されなければならない。子供を授けられる神の目的を果たそうとするとき、避けなければならないこと、抵抗しなければならないことがある。

社会には青年のゆくてを誤らせるわながいっぱいある。多くの人々は利己的、肉欲的な快樂

の生活に心をひかれ、幸福と見える道に隠されている危険や恐ろしい結果を見抜くことができない。食欲と情欲におぼれて精力を浪費し、幾百万の人がこの世で破滅し、来世の滅びを招いている。両親はその子供がこうした誘惑に遭遇しなければならぬことを覚えておくべきである。子供が悪に対する戦いにりっぱに勝てるように、生まれ出る前からその準備を始めなければならない。

もし妊娠中に婦人が放縦、利己主義、短気、苛酷（かこく）であれば、その性質は子供の性格に反映し、多くの子供がほとんど打ち勝つことのできない悪い性癖を遺伝として受けるに至る。

しかし母親が堅く原則を守り、節制し、克己し、親切でやさしく、無我の精神をもっているなら、子供にもまた同じ尊い性質を与えることができる。

幼い子供は母親の鏡である。母親は彼らの中に、自分の習慣や行為が反映されるのを見る。これらの小さな学び手たちの前で、母親のことばや行為がどんなに注意深いものでなければならないことであろう！彼女が子供たちの中に育つのを見たいと思う特質はどんなものでも、まず自分の中にそれを育てなければならぬ。

母親の重荷を軽くすべき時

妊娠中の女性の生活が以前と少しも変わらないことは誤りであるが、一般にこの誤りが犯されている。このたいせつな時期には、母親の労働を軽くしなければならない。母親のからだの中で大きな変化が行なわれていて、そのためにより多くの血液が必要であるから、血液に変えるための栄養のある食物を余分にとらなければならない。栄養のある食べ物十分になければ、母親は体力を維持することができない。また生まれる子供も力を奪われる。母親の衣服にも注意を払わなければならない。寒さを感じることをないように、体を保護することに心を用いなければならない。あたたかな衣服がないために、不必要に力を皮膚に送るようであってはならない。母親が健康的な、栄養のある食物を十分得られなければならない、血液の量も質も低下して、血液の循環が悪くなる。子供も母親と同じものが不足する。子供は、からだの組織に栄養を与えるよい血液に変えることのできる食物を利用する能力を失う。母親と子供の幸福の大部分はあたたかい、良い衣服と栄養のある食物にかかっている。

幼児を育てる母親の態度

乳児のための最良の食物は自然が供給するものである。これは理由なく子供から奪うべきものではなく、母親が便宜や社交の楽しみのために、小さい乳児に授乳するやさしい役目からのがれようとするのは無情なことである。

乳児が母親から栄養を受ける時期は非常に危険な時期である。多くの母親は、子供に母乳を与えているのに、過重な労働をしたり調理をして血液を熱くさせている。そのために乳児は重大な影響を受けている。それは母親の胸から熱せられた栄養を受けるからだけでなく、母親の全組織を熱くして乳児の食物に影響を与える母親の不健康な食物によつて、その血液を毒されているからである。乳児は母親のこころの状態からも影響を受ける。もし母親が不幸で、動揺しいらだちやすく、感情を激発させるならば、乳児が母親から受ける栄養は熱せられて、腹痛やひきつけを起こしたり、ときにはけいれんや発作を起こす。

子供の品性もまた、母親から受ける栄養の性質によつて多かれ少なかれ影響される。だから母親が子供に乳を与えているときに、自分の精神を完全に制御して、幸福な心の状態を保つこ

とはどんなにたいせつなことであろう。母親がこうするとき、子供の食物はそこなわれない。子供を扱うときに母親のとる落ち着いた、冷静な態度は、幼児のこころの形成に深い関係がある。もし幼児が神経質で動揺しやすいならば、母親の注意深い、落ち着いた態度は、それを静め正す影響を与えるから、幼児の健康は相当の程度まで回復する。

かわらない慈愛にみちた世話

子供たちは両親に預けられているのであって、時がくれば神が両親の手からお求めになる。わたしたちは子供たちの育成にもっと時間をかけ、より細心に、そしてもっと祈らなければならぬ。子供たちには正しい教育がますます必要である。

多くの場合、子供の病気は取り扱いの誤りから起こる。食事の不規則、寒い夜に衣服が不十分であったこと、活発な運動が不足して血液の循環が悪くなり、あるいは血液を清浄にするための空気が不足したなどの理由で病気になることがある。であるから親は病気の原因を見いだすために心を用い、できるだけ早く誤った状態をなおすべきである。

一般に子供たちは幼い時から食欲をほしいままにするように育てられ、食べるために生きて

いるのだと教えられている。母親は幼少時代の子供の品性の形成に大きな役割を果たす。彼女は彼らに食欲を抑制するように教えることができるし、食欲におぼれて大食漢になるように教えることもできる。母親はよく、一日のうちにこれだけの仕事を仕上げようと計画する。そして子供たちが彼女をわずらわせると、彼らの小さな悲しみを慰めて楽しくさせてやる代わりに、だまらせるために何か食べるものをあてがう。これは一時的には役立つが、結果的には状態を悪くしている。子供のおなかは、全然必要でなかった食物で圧迫される。必要だったのはちょっとした母親の時間と注意であつたが、母親は彼女の時間を、子供を楽しませるために使うのはあまりにももつたいたいと考えた。彼女にとって子供の幸福と健康よりも、訪問者に称賛されるように家の中を趣味よく配置したり、食事を当世風に料理することなどのほうがはるかに重要なであろう。

乳児の衣服を準備するときには流行や他人の賞賛を得ようという希望よりも、便利な、気持ちの良い、健康的なものを求めるべきである。母親は小さい衣服を美しくするためにししゅうや装飾に時を費やし、不必要な仕事で疲労し、自分の健康と子供の健康を犠牲にするようなことをしてはいけない。十分に休息をとり、気持ちのよい運動を必要とするときに、目と神経をひどく使う縫物に背中を曲げて、夢中になっていてはならない。母親は自分に要求されることに

応じうるようにその力を大事にする義務を認識すべきである。

（アドベンチスト・ホーム・二八二 二九一ページ）

子供のしつけにおける自制の必要

子供を教育する場合、母親の円熟した確かな意志と子供の無分別で未熟な願望とがぶつかることがたびたびある。そういう時には母親の側に充分な分別が必要である。愚かな取扱いや、きびしい強制によって子供を深く傷つけることがある。

出来るだけこのような危険は避けるべきである。というのは、それは母親にとっても子供にとっても厳しい戦いを意味するからである。しかし、やむをえずそのような事態に直面した場合は、子供が自分の意志を賢明な親の判断にまかせるようにしむけなければならない。

母親は子供の内に反抗心をよびおこすことがないように、自分自身を完全に制御していなければならぬ。大声で命じたりしてはいけぬ。低い声で優しく言う方がはるかに効果がある。子供をイエスの下に引きよせるような方法で子供に接するべきである。神が自分の助け主であり、愛であり、力であられることを母親は悟らなければならない。

もし母親が賢明なクリスチャンであるなら、子供を服従させようと強制したりはしない。敵が勝利することのないように熱心に祈る。そうする時、靈的生活の新たにされるのに気づく。母親は自分自身の内に働いているのと同じ力が子供の内に働くのを見るのである。子供はおとなしく、素直になる。勝利は勝ちとられた。母親の忍耐、優しさ、賢明でかつ控えめな言葉などが功を奏したのである。それは嵐のあとの静けさ、また雨のあとに輝く日の光のようである。その様子をじつと見ていた天使たちの間から喜びの歌声が上がる。

このような危険性は夫婦の間にもある。神のみ霊に支配されていなければ、このような場合に子供と同じように感情的になり、分別をなくしてしまう。丁度石と石とがぶつかるように、それぞれの意志が衝突するのである。

(7 T・四七 四八ページ)

第七章 クリスチャンの父親と母親

父親は家族の祭司として、母親は家庭の伝道者として、家庭内での義務を忠実にはたすことによって、家庭の外で善を行なう力を増すことになる。こうして自己の能力を向上させるならば、教会や近隣での働きに対処できるようになる。子供たちを自分自身と神とに結びつけることによって、両親と子供たちは共に神の共労者となるのである。（7T・六七ページ）

母親の働きの神聖さ

女性は神が最初に彼女のために計画された地位を、すなわち夫と同等の者としての地位を占めなければならない。女性の義務は男性の義務よりも神聖できよいといっても言いすぎではない。女性は自分の仕事の神聖さを認めて、神の力、神を恐れる念をもってその生涯の使命を果

たさなければならない。彼女は子供たちを、この世で役に立つ者に、またよりよい世界の家に
行けるように教育しなければならない。

妻であり母親である人は、体力を犠牲にしたり、自分の能力を眠らせておいて、夫に全的に
頼るようなことがあってはならない。彼女の個性は夫の個性の中に没却することはできない。
彼女は自分を夫と同等の者 夫のそばに立ち、自分の義務の立場に忠実であり、夫も彼の義
務の立場で忠実であるべきだと感じなければならない。子供を教育するという母親の仕事は、
夫がどんな責任の地位に招かれても、たとい一国の総理大臣の地位に選ばれても、彼の職責と
同様に、あらゆる面で高貴であり高潔である。

王座にすわっている王でも、母親より高貴な仕事は持っていない。母親は家庭の女王である。
子供たちをより高い永遠の生活にはいるにふさわしい者となるように彼らの品性を形成する仕
事が彼女の手中にある。天使ですらそれ以上高貴な仕事を求めることはできなかった。なぜな
らこの仕事をすることによって、彼女は神に奉仕しているからである。母親は自分の任務の高
い性質を認識しなければならない。そうするとき、それは彼女に勇気を与えるであろう。彼女
は自分の仕事の価値を認め、世間の標準に妥協するという誘惑に抵抗できるように、神の武器
を身につけなければならない。彼女の仕事は現在及び将来のためのものである。

結婚した男性たちが、家庭で子供たちのめんどうを見るように妻たちを残して、外へ仕事に出ていくなれば、妻であり母親である彼女たちは、夫であり父親である彼らと同じように偉大で重要な仕事をしているのである。前者は伝道地に働いていても、後者は家庭の伝道者である。彼女の心労や心配や重荷は、夫であり父親である人のそれよりも多い場合がよくある。彼女の働きは厳粛で重要である。……だれにもはつきり見える伝道地で働く夫は、人々の尊敬をうけるが、家庭で苦勞する者は、その働きに対して地上の名誉を受けないかもしれない。だが彼女が家族の最高の利益のために働き、彼らの品性を天来の模範にならうと努力すれば、記録の天使は、世界で最大の伝道者の一人として彼女の名前を記録する。神は人間の限りのあるまなこが見るようには物事をごらんにならない。

世の中は墮落した影響が充満している。流行や習慣が青年たちに強い力を与えている。母親が教育し、指導し、抑制する義務を怠れば、子供たちは当然悪を受け入れて善から離れる。どの母親も、「子供をどのようにさしずし彼に何をすべきでしょうか」という祈りをもって救い主のもとにたびたび行かなければならない。神が聖書の中に与えておられる指示を心に留めなければならぬ。そうすれば必要がある時に知恵が与えられる。

母親はひとりひとり、彼女の時が貴重であることを感じなければならぬ。彼女の仕事は厳

肅な決算の日に試験される。その時に、男女の失敗や犯罪の多くが、彼らの幼い足を正しい道に導く責任を持った者の無知と怠慢から生じたものであることが知られる。その時に、才能と真理と聖潔の光で世を祝福した多くの者が、彼らの影響と成功の源泉であつた原則を敬虔なクリスチャンの母親に負っていることが見いだされる。

善のための母親の力

母親の立場は目立たないものである。しかし、父親の感化と結合した彼女の感化は永遠に続く。善のための母親の力は、神について、地上に知られている最も強い力である。

クリスチャンである母親は、子供をとり囲む危険を見わけけるために、いつも目をはつきり見開いている。彼女は自己の魂を純潔できよいふんい気の中に保つ。彼女は彼女の気分や主義を神のみことばで律し、たえず彼女をおそうつまらない誘惑を超越して、彼女の義務を忠実に遂行する。

子供たちの心は敏感であるから、忍耐強い、やさしい口調と、彼らの心の愛と愛情の露を枯渇させてしまう気短な、激しい命令の違いを察知する。真のクリスチャンである母親には、気

短なために、また同情深い愛情がないために子供たちが彼女の前から逃げ去るということはない。

母親がたよ、あなたがたの感化と模範があなたがたの子供たちの品性と運命に影響を与えていることに目ざめなさい。そしてあなたがたの責任を考えて、真実と善と美だけを反映する、均整のとれた心と純潔な品性をつちかいなさい。

非常に多くの夫や子供たちが、家庭に何の魅力も見いだせず、いつもこごとや不満で迎えられるので、家庭の外で、酒場や禁じられている快樂の場で慰安や楽しみを求める。家庭の心配事でいっぱいになっている妻であり母親である人は、たとえ彼女の特別な心配事やなやみを夫や子供たちの前でよくよと思索することを避けても家庭を楽しくする小さな礼儀に心をくばらなくなることがきわめて多い。彼女が食べ物や着るものを準備することに一生けんめいになっている間に、夫や子供たちは他人のように家を出入りする。

母親たちが家でだらしない服装をすれば、子供たちに同じようにだらしないやり方をするように教えることになる。多くの母親たちは、家庭着ならどんなに汚れていても、みすばらしくてもかまわないと思っている。だが、彼女たちは家庭での影響力をすぐに失ってしまう。子供たちは、彼らの母親の服装ときちんとした服装をしている人とを比較する。そして母親に

対する尊敬の念が薄れる。

真の妻であり母親である人は……彼女の務めを威厳をもって快活になす。そしてよく整頓された家庭でしなければならないことはどんなことでも自分の手であることをいやしい事と思わない。

（アドベンチスト・ホーム・二五三 二八 ページ）

キリストにならう家庭のかしら

父親は家族の中心である。彼は立法家である。彼は、力、誠実、正直、忍耐、勇氣、勤勉、實際的な有用性といった強い徳を彼のりっぱな態度によって示さなければならない。父親はあの意味で、朝夕神の祭壇にいけにえをささげる家族の祭司である。妻や子供にも、ささげものを共にささげ、賛美の歌に加わるように奨励しなければならない。家庭の祭司である父親は、朝夕、その日を通じて彼自身と子供たちが犯した罪を神に告白しなければならない。彼が知るようになった罪や、神だけが見ておられる、かくされた罪は告白されなければならない。この行動の規則を、父親がいる場合には父親が、父親が不在の時には母親が熱心に守るとき、それは家族に祝福をもたらす。

夫であり父親である人に、わたしは、あなたの魂を必ず純潔できよらかなふんいきで包みなさいと申し上げたい。……あなたは毎日キリストに学ばなければならない。家庭で暴君的な精神を決して示してはならない。こういう精神を示す人は、サタンの代理者と共同して働いているのである。あなたの意志を神の意志に従わせなさい。あなたの妻の生活を楽しみ、幸福なものとするために全力を尽くしなさい。神のことばをあなたの相談相手となさい。神のことばの教えを家庭で実践しなさい。そうすれば教会の中でもそれを実践し、仕事場にもみことばを持つていくようになるであろう。天の原則はあなたのすべての取り引きを高める。神の使いはあなたに協力し、あなたが世にキリストをあらわすのを助ける。

仕事に関する心配で家庭生活を暗くしてはならない。小さな問題が起こって、それがあなたの思っている通りに起こらなかったとき、忍耐、がまん、親切、愛をあらわさなければ、あなたはご自分と一つにするためにご自分の命をお与えになったほどあなたを愛されたキリストを友人に選んでいなかったことを表わす。

夫が家族のかしらとしての自分の地位をいつも口にすることは彼がりっぱな人物でない証拠である。彼が自分に権威があるということを主張するために聖句を引用するのを聞いても、それは彼への尊敬の念を増しはしない。彼が妻に、彼の子供たちの母親に、自分の計画が絶対に

正しいものであるかのように服従を要求しても、それは彼を前よりもりっぱにはしない。主は妻のかしらである夫が、彼女の保護者となることをお定めになった。彼は教会のかしら、宗教的な団体の救い主であられるキリストのように、家族の者を一つに結ぶ家庭の帯金である。神を愛すると主張する夫たちはみな、彼の地位に関して神が要求しておられることを注意深く研究しなければならない。キリストの権威は知恵と親切とやさしさのうちに行使される。夫も教会の偉大なかしらをまねて彼の権威を行使しなければならない。

（アドベンチスト・ホーム・二三〇 二三四ページ）

両親は共に子供たちの

救いのために働きなさい

幕が引かれて、父親と母親とが、神がごらんになるようにその日の仕事を見、神の無限のまなこがふたりの仕事をどのように比較しているかを見ることができたなら、彼らは天の啓示に驚かされるであらう。父親はもっとひかえ目に自分の仕事を見るであらう。一方母親は知恵と不屈の努力と忍耐をもって彼の仕事を遂行するあたらしい勇氣と力を得るであらう。いま彼女はその仕事の価値を知った。父親が滅び去らなければならないものを扱っていた間、母親は

成長する心と品性を扱い、この世のためだけでなく、永遠のために働いていたのである。

（アドベンチスト・ホーム・二五五ページ）

子供に対する父親の義務を母親にゆずることはできない。母親は、彼女の義務を果たすなら、それだけで十分な重荷を負っているのである。父親と母親が協力して働いてはじめて、神が彼らの手におゆだねになった仕事を完成することができる。

父親は、永遠の生命のために子供を教育する仕事において彼が果たさねばならない役割を回避してはならない。彼はその責任の一部を負うべきである。父親にも母親にも義務がある。子供たちの中に愛と尊敬の特質が育つのを見たいと望むなら、親は互いにそれを示し合わなければならぬ。

男の子を持つ父親は、むすこたちと親しく交わり、自分の豊富な経験の利益を彼らに与え、彼らの心を自分に結びつけるような率直さとやさしさをもって彼らと話さなければならぬ。彼は自分が彼らの最善の利益、最高の幸福をいつも考えていることを示さなければならぬ。

むすこを数人持っている父親は、どんな職業についていても、彼の保護のもとに置かれた魂を決しておろそかにすることがあってはならない。彼はこの世に子供たちを送り出し、汚れた交際、悪い交際から彼らを守る責任を神に対して負った。たえず動き回る子供を母親の世話に

まかせきつてはならない。それでは母親の負担が重すぎてしまう。父親は母と子の最高の利益となるように物事をとり決めなければならない。子供の教育において自分を抑制して賢く事を処理することが母親にとって非常にむずかしいかもしれない。もしそうであれば、父親は自分の魂にもっと多くの重荷を負わせなければならない。彼は子供を救うために最も決定的な努力を払うべきである。

（アドベンチスト・ホーム・二三五 二四〇ページ）

子供の数についての勧め

子供たちは、神の嗣業であるから、こうした神の財産の取り扱い方の責任を神の前で問われるのである。……そのように、愛と信仰と祈りによって、親たちは家族の者のために働き、ついには、喜びつつ神のところへきて、「見よ、わたしと、主のわたしに賜わった子たち」と言うことができるようにしよう（イザヤ書八ノ一八）。

神は、両親が理性のある者として行動し、子供たちをひとりびとり正しく教育し、母親が天使とのまじわりのために幼い者を訓練するのにその知的能力を働かせる力と時間を持つことの

できるような生活をするように望んでおられる。母親は子供たちが家族と社会にとって祝福となるように自分の責任を雄々しく果たし、神に対する愛と恐れをもってその仕事をする勇気を持つべきである。

夫であり父親である者は、妻であり自分の子供たちの母親である者が無理をしられ、そのために失望で圧倒されることのないようにすべての事について十分考慮しなければならない。彼は自分の子供たちの母親がおおぜいの小さい子供たちのめんどろを十分に見ることできぬような状態におかれ、そのために子供たちが適切な訓練を受けずに成長することのないように気をつけなければならない。

大きな家族に十分なことをしてやれるかどうかを考慮せずに、養育や指導を全部親から受けなければならぬ幼い子供たちを家の中に満たす両親がいる。……これは母親にだけでなく、子供にとっても社会にとっても悲しむべき誤りである。……

毎年母親の腕に赤ん坊を抱かせることは、彼女に対して大きな悪を行なっていることである。それは社交的な楽しみを減じ、または全くなくすることが多く、家庭の不幸を増す。それは両親が子供たちに与えることを義務と感じるべき心づかいと教育と幸福を子供たちから奪うことである。

両親は、自分の子供たちのためにどんな準備をしてやれるかを冷静に考えてみなければならぬ。彼らは、他人に重荷を負わせるために子供をこの世に生む権利はない。

子供の運命が考慮されることはきわめて少ない。欲望を満足させることだけが考えられ、妻や母親は重荷を負わされるために元気が衰え、霊的力が麻痺させられる。健康をそこなわれ、打ちひしがれた気持ちをもって、彼女は当然しなければならぬようにめんどろを見ることのできない小さな群れに自分がとり囲まれていることを発見する。子供たちは受けるべき教育を受けずにそのままに成長して、神のみ名をけがし、彼ら自身の悪い性質を他人に伝える。こうしてサタンが彼の意のままに動かす一群の人々ができあがるのである。

第八章 クリスチャンの家庭

わたしたちが家を選ぶにあたって、まず第一にわたしたち自身およびわたしたちの家族と
りまく道徳的および宗教的な影響を考慮することを神は望んでおられる。

家庭の位置選定にあたってはこの目的に従って選ぶべきである。財産に対する欲望、流行の、
また社会の風習によって動かされてはならない。最も単純で純潔で健康的で実際に価値がある
ものを重んじなさい。……

人工的事物のみが見え、目にはいるもの、耳にきくものがしばしば悪念をいだかせ、そうぞ
うしさと混乱が疲労と不安を与えるような場所に住まないで神のみわざをながめることができ
る場所に行きなさい。自然界の美と静けさと平安の中に精神の安定を見いだし、緑の野、森、
丘に目を休ませ、都市の塵埃（じんあい）や煤煙（ばいえん）でくもっていない青空をながめ、
気持ち爽快にする天の空気を呼吸しなさい。

神が道をお開きになるままに家族の者が都会から転出すべき時がきた。子供たちをいなかで連れていったほうがよい。親は、経済的な事情の許すかぎりよい場所を手に入れなければならない。家そのものは小さくともよいが耕すことのできる土地がそれについているほうがよい。

一片の土地と居心地のよい家を持つ父親と母親は王であり女王である。

できることなら家は都会を離れたところに、子供たちが耕すことのできる土地のあるところにあるほうがよい。子供たちにそれぞれ幾らかの土地をあてがうとよい。そして庭を作る方法や種まきのために土地を準備する方法を教えるとき、また雑草をいつも全部抜きとっておくことがどんなにたいせつであるかを教えるときに、見苦しい有害な習慣を生活から除くことがどんなにたいせつなことであるかを教えなさい。子供たちに、庭の雑草の力を弱めるように悪い習慣の力を弱めることを教えなさい。こういう教訓を教えこむには時間がかかるが、それは大きく報われる。

集める勇気と意志と忍耐力を持っている人のために、土の奥深いところに祝福がかくされている。……おおぜいの農夫たちが自分の所有地からそれ相当の報酬を得ていないのは、彼ら自ら手がけた仕事をいやしい職業であるかのように扱うからである。彼らはその仕事の中から彼ら自身と家族の者にとって祝福があることを認めない。

両親は彼らの環境を、彼らが告白する信仰に相応したものにする義務を神に対して負っている。そうするときに彼らは子供たちに正しい教訓を与えることができ、子供たちも地上の家を天の家に関係づけることを学ぶようになる。地上の家族はできるかぎり天の家族の型とならなければならぬ。そうなる時に、ひくい卑しいことに耽溺（たんでき）させようとする誘惑の力は大きいに弱められる。子供たちに、彼らがこの世では見習生にすぎないこと、イエスが自分を愛しご自分のいましめを守る者のために備えておられる住家の住民となるために教育されていることを教えねばならない。これは両親が果たさねばならぬ最高の義務である。

住居用の建物はすべてできるかぎり排水の良い、高い所に建てなければならない。そうすれば土地は乾燥し、湿気や毒気から生ずる病気の危険が防止される。この問題があまり軽視されている場合が多く、低い土地や排水の悪い場所の湿気やマラリヤのため、つねに不健康で恐ろしい病気にかかり、多くの人が死ぬのである。

家の建築にあたって完全な換気とよく日光があたるかどうかをしらべて着手することが特に重要である。各室に空気が十分に通り、日光がよくはい入るようにすべきである。寝室は、昼夜空気がよく流通するように設計しなければならない。日々窓を開放して空気と日光を入れることのできないへやは寝室に使用するには適しない。

家から適当に離れたところに樹木や灌木が点在している美しい庭は、家族に楽しい影響を与え、よく手入れがしてあれば、健康に害を与えることはない。しかし日陰の多い樹木や灌木が周囲に密生している家は、空気の流通が悪く、太陽の光もさし込まないから健康的でない。こういう家には湿気がこもる。雨季にはそれが特にはなはだしい。

家具は簡素で安いものを

飾り気がなく単純なもので、使用に耐え、たやすく清潔にすることができ、高い金を使わずに、代わりの品が買えるもので家庭の設備をしなさい。もし愛と満足さえあれば、非常に簡素な家でも趣味を働かせることによって魅力的な感じのいいものにすることができる。

幸福は空虚な見せびらかしの中には見いだされない。きちんとした家庭が単純にいとまれていればいるほどその家庭は幸福である。

子供たちを家庭で満足させ幸福にするにはぜいたくな環境や高価な家具は不必要で、両親が彼らにやさしい愛と注意深い心づかいを示す必要がある。

あなたは神に対し、家では常によいたしなみの手本となる義務がある。天国には混乱はない。あなたの家はこの世にあっても天国のようではなくてはならないことを憶えてほしい。家の中の小さな務めを毎日忠実にはたして行く時、自分自身がクリスチャン品性を完成していく神の共労者であることをおぼえよう。

両親がたよ、あなたがたは子供の救いのために働いていることを心にとめてほしい。あなたがたの習慣が正しく、きちょうめんさと秩序と、徳と公正と、心と身体と精神のきよめを生活にあらわすならば、あがない主の「あなたがたは世の光である」とのみ言葉にこたえているのである。

子供がまだ小さいうちに自分の衣服のしまつをすることを教えよう。物をしまう場所を与え、どんなものでもキチンとたたんで、きめられた場所に片付けさせなさい。安いタンスさえも買ってやれない場合は、雑貨類を入れる箱にたなをつけ、きれいな模様の明るい色の布でおおってタンスの代わりに使いなさい。整理、整頓を教えるこの仕事は、毎日時間がかかるだろうが、子供の将来に益となることであるし、結果的にはあなたの時間と労力を大いに節約することになるのである。

ある親たちは子供が物をこわしたり、触れてはならないものをおもちゃにするのを放ってい

る。人の物にさわってはならないことを子供に教えるべきである。家族の楽しみと幸福のために礼儀作法をわきまえるよう教えなければならない。子供は目に見えるものをすべて手にすることを許されても、決して幸福ではないのである。もし物を大切にするように教育されていないならば、子供たちは愛らしくない破壊的な性質を持つ人間になってしまうであろう。

子供にこわれやすいおもちゃを与えてはいけない。そうすることは破壊的性質を助長することになる。丈夫で長持ちのするものを少しだけ与えなさい。このような提言は小さいことのようにではあるが、子供の教育上たいへん大切である。

第九章 家庭における靈的感化

たしかに私たちは家族の内に神の救いを持つことができる。しかし、そのためにはそれを感じ、そのために生き、神への信仰と信頼を絶えず保っていなければならない。……神のみ言葉が私たちに強い抑制は、私たち自身の益のためである。それは私たちの家族、また周囲のすべての者の幸福を増し加える。またそれは私たちの嗜好を純化し、判断を清め、心に平安を与え、ついには永遠の生命をもたらす。……み使たちは私たちの家庭をまわって、私たちが聖なる生活に成長した知らせを喜びをもって天に伝え、記録天使は楽しく喜ばしい記録を残すであろう。

キリストのみ靈は家庭生活において不変の感化を及ぼすであろう。もし男女が真理と愛である天の力に心を開くならば、これらの原則はすべてのものを新たにし、砂漠における流れのように、不毛の枯れた地に再び新鮮さをもたらすであろう。

(C G・四八四ページ)

家庭における宗教の軽視や子供の訓育を怠ることは、神が最も悲しまれることである。もしあなたの子供が川で流れにのまれ今にもおぼれそうになっているとしたら、どんなに大さわぎすることだろう。人の生命を救うためにはどんなにか熱心に祈り、努力するであろう。今、あなたの子供たちはキリストから離れ、その魂は救われていない。あるいは彼らは粗野で作法をわきまえず、アドベンチストの名を汚しているかもしれない。彼らは神なく、望みなく、まさに滅びんとしているのに、あなたは全く平気である。

サタンは人々を神からひき離すためにはあらゆる努力を惜しまない。世の仕事におぼれさせ、霊的生活をないがしろにさせることで成功をおさめている。仕事に夢中にさせて、聖書を読み、密室で祈り、朝に夕に讃美と感謝の犠牲を祭壇に捧げる時間をなくしてしまう。この最大の欺瞞者の策略に気づいている人のなんと少ないことであろう。

（5 T・四二四、四二六ページ）

朝夕の礼拝

お父さんお母さん方、毎朝夕子供たちをまわりに集めて、心を天に向け、謙そんな祈りによ

って神からの助けを求めなさい。あなたの愛する者たちは誘惑にさらされている。若い人にも年老いた人にも、毎日やっかいなことが襲いかかってくる。忍耐がよく、かつ愛に満ちた朗らかな人生を送ろうとする人は祈らなければならない。ただ神からの助けを絶えず受けることによってのみ、私たちは自己に打ち勝つことが出来る。

今はまさに各家庭が祈りの家とならなければならない時である。不信と懷疑がはびこっている。不正が満ちている。腐敗が魂に入り込み、やがて生活における神への反逆となつてあらわれてくる。罪のとりことなり、道德的な力はサタンの暴虐に屈している。魂はサタンの誘惑にほんろうされる。救い出す力強いみ腕が差し出されなければ、最大の反逆者のなすがまにされてしまう。

しかしながらこの恐ろしい時に、クリスチャンであると自称しているある人々は家庭での礼拝をしていない。彼らは家庭で神をあがめることをしない。また、子供たちに神を愛し、おそれることを教えていない。多くの人々は神から遠く離れていて、近づいてはいけけないのだと感じている。彼らは「怒ったり争ったりしないで、……きよい手をあげて」「はばかりことなく恵みの御座に近づくことができないでいる。(テモテ第一・二ノ八、ヘブル四ノ一六) 神との生きた係わりを持っていない。彼らにあるのは力のない、形式だけの信心である。

祈りはそれ程重要なものではないという考えを抱かせることは、魂を滅ぼすサタンの最も巧妙な策略である。祈りは神との交わりであり、知恵の泉、力と平和と幸福の源である。イエスは「激しい叫びと涙とをもつて」み父に祈られた。パウロは信者たちに、あらゆる事柄において「絶えず祈りなさい」、感謝とともに祈りと願いとを神にささげなさいと勧めている。「お互いのために祈りなさい」「義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。」とヤコブは言っている。（ヘブル五ノ七、テサロニケ第一・五ノ一七、ヤコブ五ノ一六）

両親は真実で熱心な祈りによって子供たちのまわりにかきねを築かねばならない。両親は、神が共にいて下さること、み使いが自分自身と子供たちをサタンの冷酷な力から守ってくれることに全き信頼をおいて祈らなければならない。

各家庭では、朝夕の礼拝の時を定めなければならない。朝食の前に子供たちをまわりに集めて、夜の間の守りを神に感謝し、新しい一日の神の助けと導きを祈り求めることは両親にとつてどんなにか大切であろう。また夕べには、両親と子供たちが神のみ前に集まり、まさに過ぎんとしている日の祝福を神に感謝することはどんなに素晴らしいことであろう。

朝ごとに、その日自分自身と子供たちを神にささげなさい。何年、何か月と先のことを考える必要はない。それらはまだあなたの手の届かないところにある。短い一日が与えられている

のである。あたかもそれが、この地上での最後の日であるかのように主のために働きなさい。あなたのすべての計画を、実行すべきか、あきらめるべきか、み旨が示されるように、神のみに置きなさい。自分自身の計画ではなく、神のご計画を受け入れなさい。もし、それまで大切に考えてきた計画を放棄しなければならなくても、そうしなさい。このようにして、生活はますます天からの模範に似せて形造られ、「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであらう。」（ピリピ四ノ七）

父親が、不在の時には母親が、興味深く、わかりやすいみ言葉を選んで礼拝を指導しなければならぬ。礼拝は短くしなければならぬ。長い章を読んで、長い祈りをすると、退屈なものになり、終わるとホツとしてしまう。礼拝の時間を無味乾燥で退屈なものにすることによって、神のみ名が汚されている。また礼拝が退屈で興味をそそらないために子供たちはそれを嫌うのである。

お父さん、お母さん方よ、礼拝の時間を本当に興味深いものにしなさい。この時間が一日の内では一番楽しく、愉快な時であってはならないという理由はないのである。ほんの少し考えて準備することによって楽しく、かつ有益な時とすることができ。時折、やり方に変化をもた

せなさい。読まれたみ言葉について質問をし、適切な感想を述べあうのもいいかもしれない。讃美歌を歌うこともいい。祈りは短く、要領を得たものでなければならぬ。単純で真剣な言葉をもって神をたたえ、神に助けを求めなさい。事情が許すなら、子供たちにもみ言葉を読ませ、祈りをさせなさい。

このような礼拝の時がもたらす良い結果は、来たるべき永遠の世界においてのみ明らかにする。

第十章 家庭経済

主はその民が思慮深く、よい管理人であることを望まれる。主は彼らがあらゆることに経済を学び、物をむだにしないことを望まれる。

あなたはどんな場合に節約し、どんな場合に消費すべきかを学ばなければならない。わたしたちは自分を制し十字架を負わなければ、キリストのでしとなることはできない。わたしたちはいつもきちょうめに支払い、落ちた縫目を拾い集め、ほつれた端をかがるように、まだ支払っていないものをちゃんと支払って、自分のものと言えるものを知っていないてはならない。あなたは自分を満足させるために費やされたわずかなものを総計算しなければならない。あなたはただ嗜好を満足させ、墮落した食道楽の食欲を満たすためだけにどれだけのものが使われるかに注意すべきである。無益な珍味のために消費された金銭は、あなたの家庭になくてはならない慰安と便宜とを加えるために使用できたかもしれない。けちけちしてはならない。あな

たは自分自身と兄弟たちに正直でなくてはならないのである。物惜しみをすることは神の恵みを悪用することである。浪費をすることもまた悪用することである。とるに足らないと思われる小さな出費も終わりにはかなりの額となるものである。

あなたは装飾品に浪費するような誘惑にかられたとき、キリストが墮落した人類を救うために耐えられた克己と自己犠牲の精神を思い出すべきである。わたしたちは自分を捨てることと、自制心を働かせることを子供に教えなければならない。多くの牧師が経済的な困難を感じる理由は、彼らが嗜好や食欲や好みを制しないからである。多くの人が破産して不正直な方法で富を手に入れるようになるのは、妻や子供のぜいたくな趣味嗜好を満足させようと努めるからである。父や母たちは、教えと模範とをもって子供たちに経済を教えることに、いかに注意深くあるべきであろう。

金持ちらしく見せかけたり、低くへり下られた救い主に従うとるに足らない者であるはずの自分以上に見せかけたりすることはよくない。わたしたちは隣人が自分にまねできないような家を建てたり飾ったりしても、心を騒がせてはならないのである。イエスはわたしたちが食欲を満足させ、自分たちの客を喜ばせ、自分たちの好みを満足させたりする自分本位なくわえをどのようににぎらんになるであろう。わたしたちが誇示することを目ざしたり、自分の監督下

にある子供たちにそうすることを許したりすることは、わたしたちにとって一つのわなである。

（アドベンチスト・ホーム・四二七 四三四ページ）

利用できるものを捨ててはならない。このためには知恵と予測と絶えざる注意とが必要である。小さいものを節約できないということが、多くの家庭で生活必需品に事欠く理由のひとつであることをわたしは示された。

（チャイルド・ガイダンス・一三五ページ）

“何人にも借りがあつてはならない”

多くの貧しい家庭は、金銭を手にするや否や使ってしまうために貧しいのである。

金銭をもうける前にそれを出して使うことは誘惑のわなである。

（アドベンチスト・ホーム・四四四ページ）

世人には、聖書的クリスチャンであると告白する人々に対して、きびしい高潔さを期待する権利がある。ひとりの人が、負債の支払いをおろそかにすることによって、我々すべてが信頼に値しないとみなされる危険性がある。

信仰を持っているという者は、自分たちが信じる教理を尊重すべきである。また、軽率なふ

るまいによつて、真理が非難される原因を作つてはならない。「何人にも借りがあつてはならない」と使徒は言っている。

（5 T・一七九 一八二ページ）

収入の範囲内で出費をまかなうことができるように自分を訓練していない人が非常に多い。彼らは自分を環境に当てはめることを学んでいないので、次から次へと借金をして、借金に圧倒され、しまいには失望落胆してしまうのである。

（アドベンチスト・ホーム・四二一ページ）

人は借金をこしらえるような方法で仕事を処理すべきではないことをあなたは理解しなければならぬ。……人は借金にまきこまれると、サタンが魂のために仕掛けた網に捕えられてしまう。……

二度と借金をしない決心をなさう。借金をするくらいなら多くのものをがまんしたほうがよい。あなたは天然痘を避けるようにそれを避けなさい。

（アドベンチスト・ホーム・四四四 四四五ページ）

必要なものをおろそかに
することは経済ではない

身体をおろそかにし、これを濫用し、そのために神のみ事業に不適当な者となることは神の栄光とはならない。おいしい、体力をつける食物を準備し、身体に注意を払うことは家長の主要な義務の一つである。食物を節約するよりも衣服や家具の方で高価でないものを用いるのがずっとよいのである。

ある主婦はお客に高価なごちそうをするため家族の食物を節約するがこれは愚かなことである。お客をもてなす時はもっと単純なものを出し、家族の必要をまず満たすべきである。

接待の必要が生じ、またそれが祝福となるような場合にも、経済がへたなために、あるいは不自然な習慣のためにそれができないことがよくある。日常の食卓にのせる食物は主婦がわざわざ余分な準備をしなくても、不意の客を歓迎できるような程度のものでなくてはならない。

(ミニストーリー・オブ・ヒーリング・二九六ページ)

節約とはけちけちすることではなく、しなくてはならないせつな働きがあるゆえに、金を慎重に使うということである。

神は民が健康と慰安に真に必要なものを取り上げてしまうようには要求なさらないが、気まぐれや浪費、虚飾はお喜びにならない。

(アドベンチスト・ホーム・四二五、四二七ページ)

子供たちを教えるときの両親の義務

神は我々が所有するすべてのものを請求なさる権利を持っておられること、またこの権利を侵しうるものはないことを子供たちに教えなさい。我々が持っているものはみな、我々が服従するかどうかを試みるためにただ神から預けられているにすぎない。金銭は必要なものである。だから、それを必要としていない人たちのために浪費することはやめよう。だれかがあなたの心からのささげものを必要としている。もしあなたに浪費する癖があるなら、できるだけ早くなくしてしまいなさい。そうでないと永遠に破産してしまうでしょう。

（チャイルド・ガイダンス・一三四ページ）

現代の青年たちは、節約を無視あるいは軽視し、それをケチや度量のせまいことと混同する傾向を持っている。しかし節約は最も広くて自由な見解や気持ちと一致するものである。節約が実行されていないところに真の寛大さがあり得ない。節約を研究し、小さなことに気をつけることを恥ずかしいことだと考えてはならない。

（5 T・四〇〇ページ）

少年少女たちに、架空の問題を解くだけでなく、自分の収入支出を正確に記帳することを教

えなさい。金銭を使うときにその正しい使途を学ばせなさい。少年少女たちは、親からもらった金銭であろうと自分で働いて得た金銭であろうと、自分の衣服や本、その他の必需品をえらんで買うことを学ばなければならない。そしてそれらの費用を帳面につけることによって、金銭の価値と使い道を学ぶのである。こうしたことは、他の方法では学ぶことのできないものである。

（カウンセセルズ・オン・スチュワードシップ・二九四ページ）

親が子供に賢明でない援助を与えるようなことがある。自分で学費をかせいで大学の課程をとる人たちは、だれかに学費を出してもらっている人たちより大学教育のありがたさがわかるものであるが、それは彼らが自分の犠牲を知っているからである。わたしたちは子供をふがない重荷となるようにしてしまつてはならない。

どんな青少年でも牧師や医師になる勉学課程をとる体力を持っているならば、彼が有用でつらい労作を経験する前に親がいくらかでも金銭を与えるのは、親の義務を誤っているのである。

（アドベンチスト・ホーム・四三八ページ）

妻であり母である者の側における放縱の習慣と、氣転や巧妙さの欠乏のために、絶え間なく金銭が流出することがある。しかしその母親は自分の必要や子供たちの必要を制限することを教えられていないし、また家事を切りまわす巧妙さや氣転を習得してもいないので、自分では

最善を尽くしていると考えられるかもしれない。ゆえにある家族はその扶養に、同じくらしいの家族に十分な額の倍も必要とすることがある。

主はわたしが子供たちに厳格な節約法を教えるよう両親たちに勧告するために、浪費の習慣から生じる害悪をわたしに示された。必要でないものに費やされた金銭は、金銭のむだづかいであることをかれらに教えなさい。
（アドベンチスト・ホーム・四二一 四二二ページ）

金銭的な事柄に関する夫と妻への勧告

わたしたちはみな簿記の方法を知っておかなくてはならない。ある者はこのような仕事は必要でないと考えておろそかにするが、それはまちがっている。出費はみな正確に記帳しておかなければならない。
（アドベンチスト・ホーム・四二二ページ）

もしあなたが当然しなければならないように節約していたら、今日あなたたちは危急の場合に使ったり神のみ事業を援助したりするために一財産つくっていたであろう。毎週給料の一部をとっておいて、真の必要に迫られた場合や、神へのささげ物として万物の与え主なる神にお返しする場合以外は手をつけないようにすべきである。……

あなたは、万一自分が病気になるって、家族をささえるために収入を家族の者に与えられない場合のために余裕を残すよう、手に入れた収入を賢明にまた経済的に使ったことがなかった。もしあなたが困窮した場合に、家族の者は何かに頼りにする物を持っていなければならぬ。

（アドベンチスト・ホーム・四四八ページ）

あなたがたは互いに助け合わねばならない。さいふのひもを固く締めて妻に金銭を与えないことを、よいことであるとみなしてはならない。

妻には週ごとに一定の金額を与え、そのお金で彼女の好きなようにさせるべきである。あなたは妻が占めるはずの地位について正しい認識を持っていなかったために、彼女に気転や趣味を働かせる機会を与えなかった。あなたの妻はよく均整のとれたすばらしい精神を持っている。あなたのもらう金銭を妻に分け与えなさい。それを彼女のものとして与え、彼女の望むままに用いさせなさい。彼女は彼女が手に入れたものを彼女自身の判断で最善と思うことに用いるようにさせてもらうべきであった。もし彼女が何も言われないで自分自身のものとして使う一定の額をもっていられたら彼女の心から大きな重荷が取り去られるであろう。

（アドベンチスト・ホーム・四二六ページ）

第十一章 休日と記念日の家族活動

私たちに与えられた休日は世間の人のやり方にならって過ごしてはならないが、しかし看過されてもいけない。なぜなら、そうなると子供たちに不満の気持ちを抱かせるからであるということをわたしは示された。休日は、子供たちが邪悪な感化をうけたり、世の中の遊びごとやばか騒ぎによって墮落させられる危険があるのだから、両親は危険な遊びに代わり得るような何かを研究すべきである。あなたが子供たちの利益と幸福とを常に念頭においていることを彼らに理解させなさい。

世間の人も教会の人も共に、休日を守ることによってこのような仕事をせずにごす日が健康と幸福のために必要であることを信ずるように教育されてきた。しかし実際の結果は、これらの休日が悪に満ちていることを示している。

私たちは、こうした考え方を変える一方では、青年や子供にとって休日ができるだけ興味の

あるものにしようと熱心な努力を傾けてきた。私たちの目的は、休日をも不信者の間で行なわれる遊びの情景から引き離すことであつた。

快樂を求める一日が終わつたあとで、その人はどこに満足を見いだしただろうか。クリスチヤンの働き人として彼らは、いつたいだれをより幸福で高尚で純潔な生活をおくるようにと援助しただろうか。もし彼らが天使の書いた記録を見たとしたら、どんなことがしるされてあるのを見ることだろうか。一日がむだに失われた。彼ら自身の魂にとって一日が失われたのである。キリストへの奉仕についても、一日が無為に過ぎされたのだ。なぜなら、なんらの善行もなされなかつたからである。彼らにはまだ別の日がのこされているのだが、少年と少女の間にかわされたくない話で過ぎされてしまったその一日は、もう二度とかえつてはこないのである。

このような同一の機会を決して二度と与えられないのである。彼らはその休日に最も骨の折れる種類の仕事をしていたほうがよかつたかもしれない。彼らは自分の休日を正しく利用しなかつた。そして永久に過ぎ去ってしまったその日は、まちがった使い方をした一日であるとして、審判のときに彼らの眼前に示されるのである。

神のみ事業を第一とせよ

休日を神のために守り、神が私たちをどのように扱ってくださったかを心の中に思いおこすことは、私たちにとってよいことではないだろうか。神の過去における御祝福を考え、私たちが神を忘れることがないようにと、私たちの魂をよび起こしてください。くださった感銘深い警告を思い浮かべることはよいことではないだろうか。

この世の中にはたくさんの休日がある。そして人々はその日を競技や競馬や賭博、喫煙、飲酒等に夢中になって過ごすのである。……

神の民は神の豊かな御祝福を感謝する神聖な集会を、もっと数多くもつべきではなからうか。人の窮乏を救い、大人や青年子供たちの魂を救うために働く方面で、青年男女を組織化し、実際の仕事を与えることにおいてみがくべき能力をもった人が教会の中にほしいのである。すべての人がこのような働きのために自分の時間全部を提供するわけにはいかない。それは各自が働いて、日常の生活費をかせがなければならないからである。しかしこれらの人たちも、たとえば多額の資金を提供できなくとも、クリスチャンの仕事に献身し、このような方法で役に

立つことのできる休日や時間をもっているのである。

あなたが休日をもつときには、子供たちのために楽しく幸福な日にしてあげなさい。そしてそれをまた、貧しい人、悩んでいる人のためにも楽しい日としなさい。イエスに感謝をささげること、感謝のささげ物をささげることもしないでその日を過ごしてはならない。

誕生日 神を賛美すべきとき

ユダヤ人の社会では、子供の誕生日には神ご自身の定められたささげ物が神にささげられた。今では両親が、子供たちの誕生日に子供に贈り物するのに苦労しているのを見る。両親はこの日が子供を尊敬する機会であるとし、あたかも人間に敬意を表すべきものであるかのように考えている。サタンはこの事について独特のやり方をやってきた。彼は心と贈り物とを神にではなくて、人間にささげるように転換させた。かくて子供たちの考えは自分自身に向けられ、自分が特別にかわいがられるものであるかのように考える。……

誕生日には、神がもう一年子供たちの生命をささえてくださったご慈愛に対して感謝すべき理由があることを教えねばならない。こうして貴重な教訓を与えることができるのである。生

命、健康、食物、衣服、そしてそれらにもまして永遠の生命を得られる希望は、これらをお与えくださった神のすべての御恵みに負っているのである。そして神の贈り物を認識し、私たちの感謝のささげ物を最も偉大な保護者でいます神にささげるのは当然である。このような誕生日のささげ物は天国に認められるのであります。

一年の記録を回顧すべき時 彼らに、自分たちの生涯の過ぎ去った年月を回顧し、天の書に示るされてあるままの記録を見たとき、喜ぶことができるかどうかを考えてみるように教えなさい。彼らの態度、ことば、働きが神の満足されるような性格のものであるかどうかを真剣に考えるように激励しなさい。彼らは自分の生涯をイエスのご生涯にもっと似るように、そして神の御目に美しく愛すべきものであるとうつるように努めてきただろうか。彼らに、主を知ることと、主の道と主の戒めを教えなさい。

神のみ事業を第一とせよ 私は自分の家族や友人たちにこう言ってきた。それが神の金庫に入れられることを許され、伝道事業の確立に充当されるものでないならば、だれも私に誕生日やクリスマスの贈り物をしないように希望していると。

(アドベンチスト・ホーム・五四〇 五四五ページ)

第十二章 レクリエーション

クリスチャンは幸福の源をたくさん手もとにもっている。そしてまちがいなく正確にどんな楽しみが正当であり正しいものかを言いあてることができるのである。彼らは、頭脳を浪費することのないような、また魂を墮落させないようなレクリエーション、落胆させず、自尊心を破壊するような悲しむべき余波をのこさない、また有用性を妨げることのないようなレクリエーションを楽しむことができるのである。もし彼らがイエスをともない、祈りによって過ごすような精神をもち続けることができるならば、完全に安全である。

あなたの楽しむどんな娯楽にも、その上に信仰によって神の祝福を求めるならば、それは危険とはならないであろう。しかしあなたが密室の祈り、家庭の祈り、または祈りの集会に参加することをさせなくする娯楽はいずれも安全でなく、危険である。

私たちは、この地上で神をほめたたえることが私たちの生涯の毎日における特権であること

を信ずる人々の仲間であり、単に自分自身の娯楽のためや、自己を満足させるためにだけこの世に生きているのではない人たちの仲間である。この点で私たちは人類を益し、社会にとって祝福とならなければならない。そして、自分の心を打ちこむことを許しているような空虚さとはばかげたことをもとめることだけをやっている多くの人たちの低級な道筋へ、私たちが自分の心を注ぐならば、どうして人類や同じ世代の人々にとって利益となることができるだろうか。私たちは、日常の務めをいっ私たちは周囲の社会に対して祝福となることができるだろうか。私たちは、日常の務めをいっそう忠実に行なうことに対して不適当であるような娯楽は、どんなものであっても、潔白な気持ちでそれを楽しむことはできないのである。

世の中には、それ自体は正しいが、サタンに悪用されると、軽率な人にはわなになるような事がたくさんある。

娯楽についても、他のあらゆる仕事をするときと同様に、節度を守る必要が大いにある。そしてこれらの娯楽の性格は注意深く、また、十分に考慮を払うべきものである。青年はだれも次のように自問すべきである。これらの娯楽は肉体、精神及び道德の健康に対して、どのような影響を与えるだろうか。私の心は神を忘れるほどに正気を失っているだろうか。私は自分の前に神の栄光を見ることをやめようとしているのだろうか。

(アドベンチスト・ホーム・五九〇 五九二ページ)

レクリエーションに対する心構え

宗教は人間を鉄の棒で強権的に支配する暴君と同じものだという病的な想像をしている人々がいる。そのような人はたえず自分たちの腐敗墮落を悲しみ嘆き、仮想的な罪惡について苦しみ悩む。彼らの心の中には愛がない。いつも顔をしかめている。青年や他のだれから無邪気に笑いかけられても打ち解けない。彼らはすべてのレクリエーションや娯楽は罪であると考え、人間の心はたえずきびしくひきしまった調子で活動していなければならないと思ひこんでいる。これは一つの極端な見解である。また別の人々は、人間の精神は健康を得るための新しい娯楽と氣ばらしを考案するために、いつも氣を配っていなければならないと考えている。それらの人はいつも刺激を求めており、それがないと不安である。そのような人はクリスチャンではない。彼らはまた一方の極端にはしっているのである。クリスチャン信仰の眞の原則は、すべての人に幸福の源泉を開いており、その高さ、深さ、長さ、広がりは測ることのできないほど大きいものである。

(アドベンチスト・ホーム・五六七ページ)

自己の肉体的知的な能力を神の栄光のために用いる目的で、無邪気なレクリエーションをして精神を新たにし、身体を強壮にすることは、クリスチャンの特権であり義務である。私たちのレクリエーションは、ばかげた形をとった無意味な浮かれさわぎであってはならない。私たちはレクリエーションをやるのに、交わる人たちに利益を与え、その人格を高めてクリスチャンとして私たちにゆだねられている義務を果たすのに私たちも友人たちも、もつとふさわしくなるようなやり方を実行することができるのである。

安息日を守る人々が、気分転換とか休息時間をもたずにひどく働き過ぎているということを私は示された。レクリエーションは肉体労働に従事している人々に必要であり、主として頭をつかう仕事をしている人々のためにはいっそう必要である。たとえ宗教的な課題についてさえも、私たちが自分の心をたえず、そして過度に働かせることは、私たちの救いのためにも、また神の栄光のためにもたいいせつではないのである。

家庭や学校の環境はレクリエーションの問題と大いに関係がある。家庭や学校の所在地を選ぶときには、この点を考慮に入れなければならない。社会の要求や慣習やあるいは金銭よりも、精神と肉体の健康を重んずる人は、自然の教えから受ける恩恵と、自然の環境に囲まれたレクリエーションを子供のために求めなければならない。

肉体的な働きのために費やされた時間は失われた時間ではない。∴肉体のすべての器官や能力をつりあいを保って働かせることは、各々の最上の働きにとって必要である。頭脳がたえず酷使されていて、身体の他の器官が不活動な状態にあるならば、肉体的及び知的な力が失われることになる。身体の組織がその健康的な調子を失い、心は清新さと活力とをなくし、病的な刺激がその結果から生ずることになる。

睡眠と労働のための時間の調整に関しては、十分注意を払わなくてはならない。私たちは休憩の時間、レクリエーションの時間及びめい想の時間をもつべきである。∴節制の原則は多くの人が考えているよりもずっと広範囲にわたっている。

勉強をしている人々は休養が必要である。頭脳はいつも考えごとばかりしていてはいけな。微妙な頭脳という機械はすり減らされてしまうからである。肉体も精神も同じように運動しなければならぬ。

(アドベンチスト・ホーム・五六八 五六九ページ)

富める者も貧しい者も同様に

楽しめるレクリエーション

青少年は年とった人のように落ち着いて静かにしていることはできない。子供も父のように

まじめにしていることはできない。罪深い娯楽は当然非難されるべきであるが、その反面、両親や教師や青年の保護者は、そのような娯楽の代わりに道徳心を弱めたり、墮落させたりしないような無邪気な楽しみを用意しなければならない。青年を厳格な規律にしばりつけたり抑圧したりして、彼らが圧迫されているように感じ、そのために規律を犯し、放蕩と破滅の道へ突進することのないようになさい。しっかりと親切に注意深く制御の手綱を手にもって、彼らの心と目的とを見張り、指導しなさい。しかもおだやかに賢明に愛情をもって行ない、あなたが彼らの最上の利益となることをいつも心掛けていることを、彼らに知らせなさい。

（C T・三三五ページ）

身体にも頭脳にも非常な益を与えるようなレクリエーションの方法があります。啓発された、識別力のある頭脳の持ち主なら、無邪気であるばかりでなくまた教訓的なみなもとから、遊びと楽しみの十分な方法を見いだすことができます。戸外のレクリエーション、自然界における神のみわざについての瞑想は最も価値のあるものです。

（4 T・六五三ページ）

青少年たちにとって、自分のためだけのレクリエーションよりは、他人のためになるレクリエーションのほうがはるかに大きな祝福となる。子供というものは生まれつき熱心で感じやすいので、人の言葉をすぐに受け入れる。

（教育・二五一 二五二ページ）

神はすべての人に、金持ちも貧しい人も同じように楽しむことのできる楽しみを用意しておられる。すなわち思想の純粹さと行動の寛大さを身につけることの中に見いだし得る楽しみや、人を慰めることばを話し、親切な行為をすることから生ずる楽しみである。そのような奉仕をする人々からは、キリストの光が輝き出て、多くの悲しみによって暗くされた人々の人生を明るくするのである。

(9 T・五七ページ)

世の中には、娯楽活動をほとんど不必要とするくらい、なすべき必要で有益なことがたくさんある。頭脳、骨格、筋肉は、それらを訓練して、知力と肉体の諸器官の力を発達させ、神から与えられ、神をあがめるためのタレントを実際に働かせるような計画をたて、善をなし、深く考え、一つの目的のためにそれらを用いることによって、しっかりとした力を獲得するのである。

(アドベンチスト・ホーム・五八五 五八六ページ)

都会や村に住む家族たちは数組合同して、肉体的にまた精神的に重い負担となっている自分たちの仕事を離れ、いなかへ、すなわち自然の景色が美しいきれいな湖のほとりや、すがすがしい森へ遠足をするようにしよう。彼らはあっさりした衛生的な食物、最上の果物や穀類を用意し、木陰や大空の下で食事をひろげて食べるべきである。乗馬や運動や景色をながめることが食欲を増進し、王様もうらやましがするような食事を楽しむことができる。

そのような機会には、両親も子供も心づかいや骨折り仕事や煩わしさから解放されるべきである。両親も子供たちといっしょに童心にかえり、すべてのものを子供たちのためにできるだけ楽しまなければならない。一日の全部をレクリエーションにあてよう。室内に閉じこもってすわって仕事をしている人々にとっては、戸外での運動は健康の増進に役立つ。このようなことを実行できる人は皆、このようなレクリエーションをすることを義務と感ずべきである。何ものも失われず、多くの利益を得るのである。彼らは熱心に仕事をやれる新しい生命力と新しい勇気を得て自分の仕事にもどることができる。そして病気に抵抗する力がいつそう強くなるのである。

（1 T・五一四、五一五ページ）

私は単純なボール競技を非難していない。しかしこれは単純なやり方でも、やり過ぎることが多い。

私はいつも、これらの遊戯のすぐあとにおこるほとんど確実な結果を考えて、しりごみする。それはキリストなくして破滅しようとしている人の魂に、真理の光をもたらすのに用いるべき金銭を消費することになりがちであるからである。一步一步自慢する気持ちを増長させていくような娯楽と自己満足のための金銭の消費、及び娯楽のためにこれらのゲームを教えることは、クリスチャンとしての品性を完成するのには好ましくないようなことに対して、愛と熱情を抱

かせることになるのである。

(アドベンチスト・ホーム・五七四 五七五ページ)

レクリエーションや体育のために時間をさくことが、学校の正規の課業にさしかえる場合があることは確かである。しかし、そのさしかえはほんとうの妨げとはならない。そのために費やされた時間と労力とは、心身の力が強壮になり、無我の精神が養われ、教師と生徒たちが共通の関心と親しい交際というきずなによってむすばれることの中に百倍にもなつて報いられるのである。若い人たちのとかく危険な源である不安定なエネルギーに安全なはけ口があたえられるのである。善に専念することは、悪への防壁としてたくさんな法律や訓戒の壁よりも価値がある。

(教育・二五二 二五三ページ)

交わりと正しい習慣

どこか別の社会に入りこんだ若い人にとって、そこでの交わりは、祝福となるか災いとなるかのいずれかである。ある場合には、その交わりによつて啓発され、恵まれ、互いに強めあうことができるが、そうでないと、軽率で不忠実なまますごして、いたずらに墮落的な影響力を及ぼしてしまう。

イエスはご自身に信頼するものを誰でも助けて下さる。キリストにつながっている者は、幸福をわがものとすることができる。彼らは、御名のために自己をその情愛と欲望と共に十字架につけて、自分たちの救い主が導かれる道へと従って行く。この人々はキリストに望みをおいでいる。そのために、世の嵐は彼らをその確かな土台から押し流すことはできないのである。

若い方々、あなたが信頼に足る、高潔で有用な人物となるかどうかは、あなた自身にかかっている。どんな環境にあつても、正しいことのために断固として立つ備えをしていなさい。私たちは間違つた習慣を持つて、天国に行くことは出来ない。この地上でそれらに打ち勝たなければ、正しい人々の住まいからしめだされてしまうだろう。悪い習慣は妨害されると、激しい抵抗を試みる。しかしそこで力を奮い起こして、忍耐強く戦い続けるとき、それらを打ち破ることができる。

正しい習慣を形造るためには、私たちは健全な道德心と宗教的影響力を持った人々と交わる必要がある。

（4 T・六五五ページ）

もし青年たちを純粹で、思慮深く、優しい人たちと交わるように出来れば、その効果は非常に有益である。主を恐れる仲間たちと事を選択をなせば、その影響によつて、真実さ、義務に対する忠実さ、そして神聖さへと導かれるだろう。真実なクリスチャン生活は善への力である。

反対に、道徳的に問題で、誤った原則と習慣を持っている男女と交わる人々は、やがて同じ道を歩くようになるであろう。人は本来墮落する傾向を持っている。疑い深い人と交わっている人はそのうちに疑い深くなるし、不道德な人とつきあう人は必ず同じようになって行く。悪しき者のはかりごとに歩むことは、罪びとの道に立ち、あざける者の座にすわることへの第一歩である。

正しい品性を築こうとする人は、まじめで思慮深く、宗教的な傾向を持った仲間と交わりなさい。先を見通し、永遠にわたる建物をたてようとする人は、良い材料を使わなければならない。もし腐った材木を使い、品性の欠陥を放っておくと、建物はくずれ落ちてしまう。どのように建てたらよいかに心を配りなさい。誘惑の嵐が建物をおそう、その家がしっかりと忠実に建てられていないと試練に耐えることはできないだろう。

良い評判というのは、金よりも貴いものである。若い人には、精神的また道徳的に劣った人と交わろうとする傾向がある。思想、感覚、行状において低い標準しか持っていない人たちとわざわざ交わることで、本当の幸福を期待できるだろうか。ある人々は品性を低下させ、悪い習慣を身につける。このような仲間を選ぶ人々は、彼らと同じようになって行くだろう。

(4 T・五八七、五八八ページ)

愚かなことや快樂を追い求める最初の一步を踏み出す時には、それ程の危険はないようにみえ、また自分の生活を変えようとする時には、簡単に、悪いことに負ける以前のような正しい生活にもどることができると思うかもしれない。しかしそれは間違いである。悪い友だちを選ぶことによって、多くの者は美德の道から一步一步と、以前にはそんなところまで落ちることは絶対にないと思っていたような、不従順と快樂の深みへとはまりこんでしまう。

（C T・二二四ページ）

この世で保有することが、私たちの幸福になるようなすべてのものを、私たちが投げ出すことを神がお望みになっていると考えるはならない。神が私たちに放棄せよとご要求になっているものは、すべて保持することが、私たちの利益と幸福にならないようなものである。

（アドベンチスト・ホーム・五七八ページ）

完全な休息と娛樂

青年は、自分に与えられているすべての特権について、また時間の利用と才能の正しい用い方について、神の前に責任があるということを忘れてはならない。彼らはこうたずねるかもし

れない。私たちには娯楽もレクリエーションもないのか、なんの変化もなしに、ただ働け働けというのかと。

(C T・三三七ページ)

体力をひどく強要する肉体労働を離れて変化を求めることは、時にはきわめて必要である。それは再び労働に従事し、大いに努力していつその成功を勝ち得るために必要であろう。しかし全く休んでしまうことは必要ではない。あるいは体力に関する限りでは、全く休息することとは最良の結果を伴うものではない。若い人には、一つの仕事に全く疲れ果てた時でも、高貴な時間を浪費してしまうことは不必要である。そのような時には、それほど心身を疲れさせなくて、母親や姉妹たちに祝福となるような何かをしようと、捜し求めることができる。彼女たちの負わなければならない最も辛い仕事を引き受けて、その心労を軽減してやることによって、彼らは原則から生じる楽しみと真の幸福を与えてくれる楽しみを見いだし、従って、つまらないもしくは利己的な放縦に自らの時間を浪費することがないであろう。彼らの時間はいつも有益なことに使用せられ、たえずいろいろの変化によって清新な気持ちになり、しかもその時々がすべて他のだれかに有益なことをするように、時間を利用しているのである。

多くの人たちは身体の健康を保つには、利己的娯楽にふけることが必要であると主張する。肉体を最高に発達させるには、変化が必要であることは事実である。なぜなら、精神や身体は

変化を与えることによって爽快になり、元気づけられるのである。しかしこの目的はばかげた娯楽にふけて達し得られるものではない。また青年がしなければならぬ日常の勤めを無視することによって達し得られるものではないのである。

（アドベンチスト・ホーム・五八四ページ）

私たちはまちがった不自然なもの、すなわちわたしたちのしてはならない競馬やトランプ、富くじ、拳闘、飲酒、喫煙等を避ける一方では、清潔で上品で高尚な遊びの源泉を供給しなければならぬ。

（アドベンチスト・ホーム・五七四ページ）

娯楽のための盛り場で、最も危険なものの一つは劇場である。それはしばしば道德と善行の学校であると主張されているが、それどころではなくて、不道德の温床である。これらの演芸によつて、悪徳の習慣と罪深い性癖が強められ身にしっかりとつくようになる。低級な歌、みだらな身ぶりや表現及び態度は、人の想像力を墮落させ、道德心を低下させる。そのような催し物に常時出席している青年はだれでも原則が墮落してくる。私たちの国では、劇場の娯楽ほどに人間の想像力を毒し、宗教的な感銘を破壊し、おだやかな楽しみやまじめな人生の現実に対する好みを鈍くするのに強い影響力をもつものはない。これらの光景を愛することは、アルコール飲料を飲むにつれて嗜好性を強めると同じように、それにふけると共に強烈になつてゆ

く。唯一の安全な方法は、劇場やサーカスやあらゆる疑問のある娯楽の場所を避けることである。

（アドベンチスト・ホーム・五九四ページ）

ダビデが神の前で慎み深い喜びの気持ちから踊ったことが、現代の流行しているダンスを正当化している愛好者によって引用される。しかしそのような議論は根拠がない。今日のダンスは不品行や夜ながの底抜け騒ぎと結びついている。健康と道徳は楽しみのために犠牲にされている。舞踏室の常客は神を思考と尊敬の対象としてはいない。祈りや賛美の歌は彼らの集まりでは不適切であると感じられる。このテストは決定的なものである。神聖な事柄に対する愛の心を弱め、神への奉仕に対する私たちの喜びを減ずる傾向をもつ娯楽は、クリスチャンの求めるべきものではない。神の契約の箱を動かしたときに、神を喜んで賛美する心から行なった音楽やダンスは、現代のダンスのような気晴らしの気持ちとは全く似ないものであった。前者は神を覚え、神の聖なるみ名をほめたたえることを意図するものであった。後者はこれとちがって人間に神を忘れさせ、神をはずかしめようとするサタンの手くだである。

（アドベンチスト・ホーム・五九五 五九六ページ）

青年は一般に、重大な恵みの時期が御恵みによって猶予されているのに、それが一つの大祭日であって、この世界にただ自分の娯楽を楽しみ、絶え間ない興奮の連続に満足するために住

んでいるかのように行動している。サタンは、青年が世の娯楽の中に幸福を見いだし、これらの娯楽が無邪気なものであり、健康のためにも重要であるとさえ見せかけ、自らを正当化するように仕向けるための特別な努力をしてきた。

（アドベンチスト・ホーム・六〇二ページ）

多くの人々は、神のみことばが禁止している世的で墮落させるような娯楽を熱心に行なっている。かくて彼らは神とのつながりを断ち切り、この世の娯楽愛好者たちと同列に自己をおいているのである。ノアの洪水以前の人々や平地の諸都市を破壊したような罪が今日も存在している。それが単に異教徒の国や、キリスト教の普通の信仰告白者の中にだけでなく、人の子イエスのご再臨を待ち望んでいると言っている人々のある者にさえも見られるのである。もし神がその御目にうつったままのこれらの罪を、あなたがたの前にお示しになったら、あなたがたは恥と驚きに満たされるにちがいない。

興奮を求め、愉快的娯楽を期待する欲望は、神の民、特に若い人たちにとって誘惑であり、わなである。サタンは、将来まちがいに起こる光景のために準備しようとする神聖な働きから、人々の心を奪い去ろうとする誘惑をいつも用意しているのである。彼は世俗の人間を使つて、軽率な人々をこの世の娯楽に引きずりこもうとして、絶えず刺激を与え続けているのである。

る。この世界を愛するように仕向けるための見せ物や講話や、数え切れないほどたくさんの娯楽がある。そしてこのような現世との結びつきによつて、信仰は弱められるのである。

神は快樂を追求する者を、ご自分に従う者とされない。克己をし、まじめでけんそんで、きよい生活をする人々だけが、真にイエスのあとに従う人である。そしてそのような人々は、世を愛する人々との軽々しい空虚な会話を楽しむことはできないのである。

（アドベンチスト・ホーム・六〇一、六〇二、六〇五ページ）

もしあなたがほんとうにキリストに属するならば、あなたは主のためにあかしをする機会をもつであらう。あなたは娯楽の場所へ出席するように招かれるであらう。そのとき主のためにあかしする機会をもつことは事実である。もしあなたがそのときに、キリストに対して真に忠誠であるならば、あなたは出席しない言いわけをしようとせず、はっきりと、そして慎み深く、自分は神の子であり、自分の主義がそのような場所に出席することを許さないのであり、主のご臨在をお願いできないような場所へは、好機であつても出席できないのであると明言するであらう。

（アドベンチスト・ホーム・五九八ページ）

キリストに従う者たちが、クリスチャン的なレクリエ-ションのために集まる会合と、楽しみや娯楽のために行なわれる世俗的な集会の間には、目だつた対照的なちがひがある。祈りと、

キリスト及び神聖な事からを話しあうことをしないで、世俗の人々の口からは、不謹慎な笑い声やくだらぬ会話が聞かれる。彼らの考えは、ありふれた上きげんの時間を持つということである。彼らの娯楽は愚行ではじまり、むなしさのうちに終わるのである。

（アドベンチスト・ホーム・五八九 五九〇ページ）

第十三章 見張らねばならない心の門

人はみなサタンに勝利させないように感覚を守らなければならない。なぜなら感覚は魂に通じる道だからである。

あなたはもし自分の心を制し、むなしく退廃的な思いで心をけがしたくないと思うなら、自分の目や耳やすべての感覚を守る忠実な門番とならなければならない。恵みの力だけがこの最も願わしい仕事を成しとげることができるのである。

サタンと彼の悪天使たちは、警告や注意や譴責が聞こえないように、またたとえ聞こえてもそれが心を動かして生活を作り変えることがないように、感覚をまひさせる状態にしておくのに忙しい。

サタンはわたしたちの承諾なしに

心にはいることはできない

神はわたしたちを耐え得ないような試練に会わせないように、またそればかりでなく、どんな試練にものがれる道を備えていてくださる。もしわたしたちが全的に神のために生きるなら、自己本位な考えをほしきままにすることはしない。

サタンは心にはいりこむすきさえあればそこに毒麦をまき、それが豊かな収穫を生じるまで生長させる。サタンは、わたしたちが自発的に戸を開いて彼を招き入れない限り、思いやことばや行動を支配することはできない。わたしたちが彼を許せば彼ははいつてきて、心にまかれたい種を取り去って真理を無効にする。

サタンのささやきに従うことによって得られる利益をいつまでも考えていることは安全ではない。罪は、それにふけるすべての者に不名誉と災いをもたらす。しかし、その性質は人の目をくらます欺瞞的なものであって、甘言をもって人を誘うのである。もしわたしたちがあえてサタンの領域に踏み込むならば、彼の力から守られるという保証はない。できるかぎりわたしたちは、誘惑者が自分に近づくすべての道を閉ざさなければならぬ。

クリスチャンはみな絶えず警戒して、サタンが接近しそうなあらゆる魂の道を守らなければならない。彼は神のみ助けを祈ると同時に、罪へのあらゆる傾向を断固として拒絶すべきである。彼は勇気と信仰としんぼう強い努力とによって勝利することができ。しかし勝利を獲得するにはキリストが彼の中に内住し、彼がキリストの中に内住しなければならないことを覚えなければならない。

自分と子供を世の中で行なわれている罪惡を見ないような所に置くためには、できるだけことをしなければならぬ。わたしたちはこれらの恐ろしいものが心にはいらぬように、目にするものや耳にするものを注意深く警戒すべきである。

あなたはがけのふちにどのくらい接近して安全に歩けるかなど試みてみる必要はない。危険に接近する第一歩を避けなさい。心の興味というものは、ばかにすることができない。あなたの資本はあなたの品性である。黄金の宝をたいせつにするように品性をたいせつにしなさい。道徳的廉潔と自尊心と強い抵抗力は、絶やすことなくしっかりとたいせつに持つていなければならない。ちよつとでも慎みを捨ててはならない。一つ無遠慮な行為をしても、また無分別な行為をしても、それは誘惑に対し戸を開くことによって心を危くするかもしれない。そして抵抗する力は弱くなる。

(アドベンチスト・ホーム・四五五 四五九ページ)

第十四章 読書の選択

教育とは、人生のあらゆる義務を最もよく果たすための知的、靈的、肉体的な能力の準備にすぎない。耐久力や頭脳の力と活動は、その使い方次第で減りもすれば増しもする。頭脳のすべての能力が均整のとれた発達をするように、これを訓練しなければならない。

多くの青年たちは、読書欲が盛んである。手に入るものならなんでも読もうとする。聞くことと同様に読むものにも注意しなければならない。いかがわしい読書によって毒される危険が多分にあるということを、私は示された。

サタンはさまざまな方法によって、青年たちの心をぐらつかせようとする。一刻も油断してはならない。敵の誘惑に陥らないように、自分の心を見張っていないなければならない。

不健全な読書の影響

心はその食物によって大いに影響されることを、サタンは知っている。彼は若い者にも成年の者にも、小説や物語やその他の文学作品を読ませようとする。このような文学作品を読む者は、目の前におかれている義務にふさわしくなくなる。彼らは非現実的な生活の中に住み、聖書を探って天来のマナを食物としようとする気持ちがなくなる。強められなければならない頭脳は弱くなり、キリストの使命と働きに関連した大真理を学ぶ能力を失ってしまう。この真理は頭脳を堅固にし、想像力を喚起し、キリストが勝利されたように勝利しようという強い熱心な願いを起こさせる。

現在出版されている莫大な分量の書籍が消滅したら、頭脳と情操に恐るべき働きをしている災害がやむ。恋愛小説や軽薄で刺激的な物語や、宗教小説と呼ばれているようなたぐいの書籍、すなわち著者がその物語の終わりに、道徳的な教訓を付加しているような本などでさえも、読者にとっては災いである。物語の本の中のいたるところに宗教的な感情を織りこむことはできるが、たいていの場合は、サタンが天使の衣をまっています。ますます効果的に人を欺き惑わすだけに

すぎない。自分は正しい原則を堅く守っているから、あるいは絶対に誘惑に負けないから、そんな小説を読んでも大丈夫だと言える人はだれもない。

小説を読む者は、靈性を滅ぼす悪にふけり、聖書の美をくもらせている。小説を読むことによつて、不健全な興奮が起こり、想像が熱せられ、そのために頭脳は有用なことに適しくなくなり、魂は祈りから離れ、靈的な勤めを行なう能力が失われる。

神はわが多くの青年たちに、すぐれた才能をさずけておられる。しかし、彼らは読書の選択を誤っているために、そのすぐれた能力を弱め、頭脳を混乱させて低下させ、その結果、長年のあいだ恩恵に成長せず、また信仰の根拠についての知識にも成長しない。主がまもなくおいでになることを待ち望み、「朽ちるものが朽ちないものを着」るその驚くべき変化を待ち望む者は、この恩恵の期間に、より高い行動の局面に立たねばならない（コリント第一・一五ノ五四）。

青年方よ、刺激的な読書の影響について、自分の経験に問うてごらんさい。あなた方は、そうした読み物を読んだ後で、聖書を開いて生命のことばを興味をもつて読むことができるだろうか。神の本はおもしろくないものだと思いはしないだろうか。あの恋愛小説のおもしろさが頭にあるために、健康な頭の調子がだめになり、永遠の幸福に関する重大で厳粛な真理に注

意を集中させることができなくなる。

くだらない読書はいつさい断固としてやめなさい。それは靈性を強めるどころか、かえって想像をまちがった方向へむけるような感情を心に持ち込み、そのために、心はイエスとその尊い教訓からますます遠ざかるようになる。心をまちがった方向へ引っぱって行くようなものから、いつさい離れなさい。知的な能力に何も与えないような、くだらない読み物に心をわずらわしてはならない。思想は、頭脳に与えた食物と同じ性格を持つ。

（青年への使命・二六九 二七一ページ）

魂を滅ぼす読書

出版社からたえまなく送り出される印刷物の大洪水のために、老人も若い者も、大いそぎでうわすべりな読書をする習慣がつき、一貫した健全な思考力が失われる。その上エジプトのかえるのように、全地にひろがりつつある書籍雑誌の大部分は、平凡で、人の心を怠惰に弱々しくするばかりでなく、また不潔で愚劣なものが多い。それは人の思考をまひさせて無力にするばかりでなく、また魂を墮落させ滅ぼす力をもっている。

（アドベンチスト・ホーム・四七二ページ）

子供と青年の教育におとぎ話や神話や作り話が現在は重大な地位を占めている。この種の本は学校でも用いられ、多くの家庭にも見られる。クリスチャンである両親は、どうしてこんなまちがいだらけの本を子供たちに用いさせてよいだろうか。子供たちが両親の教えと全く反対な物語の意味を問うときに、その物語は真実でないのだというのが答えである。しかしこの答えは、それを用いた悪い結果を取り消してはくれない。これらの本に示されている考え方は子供たちを誤った方向に導く。彼らは人生についての誤った見解を与えられ、架空のものに対する欲望をつかみ、それを助長してゆくのである。……

真理を曲解させるような内容をもつ本は、子供や青年の手中においてはならない。私たちの子供が教育をうける過程において、罪の種となることのわかつているような観念を取り入れさせてはならない。

（アドベンチスト・ホーム・四七〇ページ）

私たちが絶えず監視を続けねばならぬ危険のもう一つの源泉は、無信仰な著者の読み物である。そのような著作は真理の敵によって鼓吹されたものであり、これを読む人はだれでも自己の魂を危険にさらす。そのような著作の影響を受けた人々は、遂に回復できなくなるのは事実である。しかしそれらの邪悪な感化にふれる人は、すべてサタンの側に立っているものであって、

サタンを最も利することになる。彼らがサタンの誘惑を招くとき、彼らはその誘惑を見わけ、知恵もそれに抵抗する力も持っていない。不信と無信仰が、魅力的で魔力のような力で彼らの精神をとらえる。

（アドベンチスト・ホーム・四六九 四七〇ページ）

刺激的な読み物の危険

子供たちに何を読ませたらよいだろうか。これは重大な質問であり、厳格な解答を要する問題である。安息日を遵守する家庭の中に、子供や青年の心になんら善に対する好印象を残さないような連続物語を掲載している定期刊行雑誌や新聞が見られるのは、心を痛める問題である。私はこのようにして、作り話に対する趣味が育てられた人々を見てきた。彼らは真理に耳を傾け、私たちの信仰の道理を知る特権をもっていたのであるが、真の敬虔な心と実際に神を敬う心とを欠いたままでおとなになった。

くだらぬ刺激的な物語の読者は、実際の生活に対する義務に不向きな人間となる。彼らは架空の世界に生きているのである。私はそのような物語を読むことを常習にしてきた子供たちに注目してきた。彼らは家庭においても外でも、落ち着かず幻想にふけり、最も平凡な問題以外

には人と話し合うことができない。彼らの心には宗教的な思想や会話は全く相いれないものである。扇情的な物語を読みたいという欲望をやしなったことによつて、知的な嗜好（しこう）は貧困になり、精神はこのような有害な食物を食べなければ満足しない。私はこのような読書にふける人々に対して、知的大酒家という名を呈するのが最適であると考え。不節制な読書の習慣は、不節制な飲食の習慣が肉体に与えると同じ悪い効果を頭脳に与える。

（アドベンチスト・ホーム・四六八 四七一ページ）

現代の真理を受けいれる前に、ある人々は小説を読む習慣がついていた。教会に加わる場合には、彼らはこの習慣を克服する努力をした。この階層の人々の前に、彼らの捨てたものと同じ種類の読書をおくことは、大酒家に酒を与えるのと同様である。彼らは絶えず目の前にある誘惑に負け、間もなく固苦しい読み物に対する嗜好を失つてしまう。彼らは聖書の研究に関心をもたない。その道徳的な力は弱まってしまう。罪は次第にいとわしくなくなってくる。不誠実な気持ちが増し、人生の実際的な義務に対して嫌悪の気持ちが増大してくることは明白である。精神がよこしまになってくるにつれて、刺激的な性質をもった読み物を何でも手にとりやすくなる。こうしてサタンがその人の魂を完全に支配するような道が開けてくる。

（アドベンチスト・ホーム・四七一 四七二ページ）

書物の中の書物

人がひまな時間にどういう本をえらんで読むかによって、その人の信仰経験の性質があらわれる。青年たちが健康な精神状態と健全な信仰の原則を持つには、みことばを通して神との交際のうちに生活しなければならない。聖書は、キリストを通して救いに至る道をさし示しているので、私たちにとって、より高い、よりよい生活への指針である。聖書には、これまで書かれたものの中で最も興味のある、最も教訓的な歴史と伝記が含まれている。小説を読むことによって想像力のゆがめられていない人には、聖書が最も興味ぶかい本であることがわかる。

聖書は、書物の中の書物である。神のみことばを愛し、機会あるごとに聖書をさぐってその豊かな宝を自分のものとし、すべての良いわざに全き備えができるならば、それはイエスがあなたをご自身のもとに引きよせておられる証拠である。しかし、キリストの教訓を理解して、その要求に一致しようと努めないで、ただ気まぐれに聖書を読むだけでは、不十分である。神のみことばの中には、真理の鉱脈に深く立て坑を掘り進めることによってのみ、発見することができる宝がある。

肉の思いは真理をこばむ。しかし悔い改めた魂は、ふしぎな変化を経験する。聖書は罪びとの罪を立証する真理をあらわしているので、これまでおもしろくなかったのが、こんどは魂のかてとなり、人生のよろこびまた慰めとなる。義の太陽であられるキリストが、聖書のページを照らし、聖霊がそのページを通して、魂にお語りになる。

軽い読み物が好きだった人たちに、こんどは預言の確かなみことばに注意を向けさせなさい。聖書を手にとって、新鮮な興味をもって旧新約聖書の聖なる記録を研究しはじめなさい。熱心に幾度も、聖書を研究すればするほど、それはますます美しいものに思われ、軽い読み物に対する興味がだんだん減ってくる。このとうとい書物をあなた方の心にしっかり結びつけなさい。それはあなた方にとって友人となり、また案内者となる。

（青年への使命・二七一―二七二ページ）

第十五章 音 楽

（預言者の学校においては）聖なる音楽の素養が熱心に養われた。そこにおいては軽々しいワルツや、人を賞賛して、神から目をそらすような軽薄な歌曲ではなく、神のみ名を高揚し、そのすばらしいみわざをたたえる創造主に対する聖にして厳粛な賛美の詩篇が歌われた。このようにして、聖なる目的に奉仕し、われわれの思想をひき上げて純潔で、気高く、高道なものにし、神に対する献身と感謝の気持ちを目覚めさせるために音楽が作られた。

（F E・九七、九八ページ）

音楽は天の宮廷における、神の礼拝の一部となっている。であるから、われわれはできるかぎり、天の合唱隊と調和した声で、賛美の歌を歌うように努力しなければならない。声の正しい訓練は、教育の重要な一面であって怠ってはならないことである。歌は、祈りが礼拝の一行であるのと同様に、宗教的礼拝の一部である。歌を正しく表現しようとするには、歌の精神

をよく心に感じなければならない。

（人類のあけぼの下巻二五七ページ）

そこにおいて奏でられる完全な音楽に耳を傾けていたとき、天の秩序、完全な秩序を示される思いであつた。そしてわたしの心はうつとりとさせられた。幻からさめた時、地上の歌声は大そう荒々しく、しかも不調和なものに聞こえた。わたしは何組かの天使たちの群がそれぞれ黄金のハープを手にして中空の方形の広場に立っているのを見た。そのハープの端には調律するための、即ち音律を変えるための道具がついていた。天使たちの指は不注意に絃をかき鳴らすのではなく、異なつた音律を奏でるためには異なつた絃に触れて奏でていた。そこにはいつも指導的な役割を演じている一人の天使がいた。最初にハープの絃に触れて音を奏でるのは彼であつた。すると全員が参加し、そこに豊かで完全な天の音楽が奏でられるのであつた。それは筆舌の及ぶところではない。それは聖なる天のメロデーである。そしてその全容からイエスのみ姿が浮かび出て、言いあらわし得ない栄光に輝いた。

（１Ｔ・一四六ページ）

わたしは、青年たちはより高い立場に立ち、神のみ言葉を自分たちの勧告者、指導者とすべきであることを示された。青年たちには厳粛な責任が負わせられているのに、彼らはこれを軽視している。音楽を家庭に導入することによって、きよめと靈的資質が生まれなくて、かえつてその心を真理から離れさせる手段となつてしまった。軽薄な歌や今日流行の通俗な音楽が彼

らの趣味に合っているように思われる。楽器が、祈りに捧げられなければならない時間を奪ってしまったのである。音楽は濫用しなければ大きな祝福であるが間違った用い方をすれば恐ろしいのろいとなる。そのような音楽は興奮を起こすが、クリスチャンが恵みの御座に出て、自らの願いを謙遜に打ちあけ、大いなる叫びと涙とをもつてサタンの誘惑に対抗する力が与えられるように神に願い求める時にのみ見いだすことができる力と勇気を与えることはできない。サタンは青年たちをとりこにしようとしている。青年たちを導いて、サタンの思慮を失わせる力を打ち破るためにはどう言ったらよいだろうか。サタンは巧みに人を魅惑して、破滅に陥れようと働いている。

(1 T・四九六、四九七ページ)

第十六章 批評とその影響

クリスチャンはことばに注意深くなければならない。クリスチャンは決して、一人の友人についての不利な噂をもう一人の友人に告げるべきではない。特に、もし二人の友人の間に一致を欠いていることを知っている場合はなおさらである。その友人について多くのことを知っているかのように、またそのことについてはほかの人たちは無知であるかのようにほめかしたり、におわしたりすることは残酷なことである。そのようなほめかしは、話が大きく伝えられ、誇張しないで率直に事実を述べた場合より不利な印象を作り出すものである。このようなことによってクリストの教会は害をこうむらないことがあるうか。教会員のこのような矛盾した不注意な行為を通して教会は水のように形の定まらない弱々しいものになってしまった。教会の信用はそのような教会員によって裏切られてしまった。しかしあやまちを犯した人たちは悪意をもってそのようなことを企んだのではなかった。会話の主題を選ぶのに思慮を欠いたた

めに大きな害をおよぼしたのである。霊的で宗教的なことがらについて会話がなさるべきであるのにそれがなされていない状態である。もしもクリスチャンの友人との交際が主として知性や心情を高めるために用いられるなら、あとで後悔するようなこともなく、あとでふりかえってみても、気持ちのよい満足を経験することであろう。軽薄なことばや空しいおしゃべりに時間を費やし、また他人の生活や品性について批評をすることに貴重な時間を用いるならば、友だちとしてのつき合いは、悪の源となり、あなたの感化は死にいたる死のかおりとなってしまうであろう。

（2 T・一八六、一八七ページ）

すべての人をよく思いなさい

われわれは、われわれの兄弟に対する非難のことばを聞く時、その非難のことばをそのままとりあげる。「主よ、あなたの幕屋にやどるべき者はだれですか、あなたの聖なる山に住むべき者はだれですか」との質問に対して、詩篇記者は「直く歩み、義を行い、心から真実を語る者、その舌をもつてそしらず、その友に悪をなさず、隣り人に対するそしりを取りあげず」（詩篇一五ノ一・三）と答えている。

他人の欠点を自分に聞かせる人はやがて機会が与えられるなら自分の欠点をも勝手に公表するだろうということをすべての人が覚えるならゴシップをどれほど予防できることであろう。どうしても悪く思わなければならない事態がくるまでは、すべての人、特に同信の兄弟たちに對しては、彼らをよく思うように努めるべきである。われわれは性急に他人の悪口を信じてはならない。これらの悪口はしばしば、ねたみか誤解の結果である。また間違つた告げ口は誇張や事実の部分的打ち明け話から發展してくるものである。しつと疑いは一度ゆるされると、あざみの冠毛のようにたちまち広範圍にばらまかれてしまうのである。兄弟が道を踏みはずしたような時には、その時こそ彼に対してほんとうの関心を示すべきときである。親切に彼を訪れ、彼と共にまた彼のために祈りなさい。そしてキリストが彼の贖いのためにおはらいになつた無限の愛を思い出しなさい。このようにして一人の魂を死から救い出すことができ、また多くの罪をおおふことができるのである。

一瞥、一語、あるいは声のあげ下げですら虚偽と重大なかかわりあいをもっていて、毒矢のように心臓に突きささつて、いやすことができない傷をおわすことがある。このように、疑いや非難が、その人によつて神が達成しようとしておられる人に投げかけられ、その影響力を弱め、彼の有用さを無効にしてしまうのである。ある種類の動物の間では、その中の一匹が

負傷して倒れると彼は直ちに他の動物たちに攻撃され八つ裂きにされるということである。これと同じ残酷な精神が、クリスチャンという名を負っている人たちによって抱かれている。彼らは、自分たちよりも罪の軽い人を石をもって打ち殺そうとするパリサイ的な熱心さをあらわしている。自分たち自身の欠点や失敗から人々の注意をそらすために、または神と教会のために熱心だという信望を得ようとして他人の欠点や失敗を指摘するものたちがいる。

（5 T・五八、五九ページ）

キリストのしもべたちの動機や働きについて批評している時間を祈りに費やした方がはるかによい。もし他人のあらさがしをしている人たちが、その相手の人たちのほんとうのことを知ったら、その人たちのことについて全く異った意見をもつようになることがしばしばある。もしすべての者が他人を批評したり非難したりするかわりに、次のように言ったらどんなによくなることであろう。「わたしは自分自身の救いのために働かなければなりません。わたしの魂を救いたいと望んでおられるキリストと協力しているとすればわたしは精を出して自分自身を見守らなければなりません。わたしはわたしの生活からすべての悪をとり除かなければなりません。わたしはキリストに在って新しく創造されたものとならなければなりません。わたしはすべての欠点に勝利しなければなりません。そうすれば悪に対して戦っている人たちを

弱くすることなく、はげましの言葉によって彼らを強めることができます。」

(8 T・八三、八四ページ)

しつと深い人は他人のうちに善をみとめない

心配事や失望によつて心がむしばまれ、氣むずかしくまた短氣にならないように注意しなければならぬ。争いを起こしたり、人を悪く思つたり、悪口を言つたりして神に罪を犯さないようにしよう。兄弟がた、もしあなたが、ねたみと悪い推測に対して心を向けるなら、聖靈はあなたと共に住みたまわないであろう。キリストの中にある充實を求めなさい。キリストのみわざにはげみなさい。すべての思いと言葉と行為の中にキリストをあらわしなさい。あなたがたは、使徒たちの時代に信徒の群を一致させた愛によるバプテスマを日毎に受ける必要がある。この愛は、からだと心と魂に健康を与えるであろう。あなたがたを、靈的生活を強めてくれる雰囲気をもつてかこみなさい。信仰と希望と勇氣と愛を養いなさい。神の平和をもつてあなたがたの心を支配していただきなさい。

(8 T・一九一ページ)

ねたみは単に誤つた氣質であるばかりでなく一つの病氣であつて、身体のすべての機能を狂

わせてしまうものである。その根源はサタンにある。サタンは天において第一人者になることを望み、求めていた権力と栄光を手にすることができないのを知るところでは神の政府に対して反逆をこころみた。彼はわれわれの始祖アダムとエバをねたみ、彼らを誘惑して罪におとし入れ、このようにして彼らと全人類を滅亡におとし入れたのである。

人をうらやむ人は、他人のよい性質や高尚な行為に対して目を閉じる。このような人は、いつも、すぐれたものをけなし、これを誤解しようとする。人々はしばしば自分たちの過失を認め、またほかの欠点などを棄て去るものであるが、ねたむ人からは殆んど期待できない。人をねたむということは、自分がその人よりすぐれていることを自認することであるから、高慢な心は自分の欠点を認めようとはしないのである。ねたんでいる人の罪を認めさせようと説得がこころみられたとしても、相手に対するねたみの感情は高まるばかりで、しばしばそれは矯正されないまま持ち続けられる。

ねたむ人は行くところどんな所にもその毒をまきちらし、友情をこわし、神と人に対して憎悪と反逆の精神をかき立てる。彼は自分自身を卓越した目標に到達させるために英雄的で自己否定的な努力をもつてするのではなく、自分の方は今のままの立場にいながら、他人の努力によって得られたよいものをけなすことによって最善、最高の人物と思われることを求める

のである。

悪を喜ぶ舌、噂話をきかせてください、わたしも聞かせてあげましょうなどつつまらぬ話をしてあるく者は地獄の火で焼かれると使徒ヤコブは宣言している。このようにしてもえさしが四方に散らされる。罪のない人の信望を傷つけ、うわさをふれまわした本人は一体どんな後始末をつけるのだろうか。彼は重荷の下にすでに沈みかけている人たちの希望と勇気をくじいてはいるが、その悪い行為を抑制することはないだろう。彼はスキャンダルを愛する傾向にふけるだけである。クリスチャンと公言している人たちでさえ、純潔で、正直で、高尚で愛すべきすべてのことがらに目を閉じ、いかがわしい、そしてどうかと思われるような不愉快なことがらを大事にし、そしてそれを世の中にふれまわるのである。（5 T・五六、五七ページ）

ねたみとがめる精神

教会員の中に舌を制御できない人たちがいるということをはなげかわしいことである。悪い行ないを食物としている偽りの舌がある。悪賢い、ひそひそとうわさをまきちらす舌もある。また、うわさ話やあつかましいおせっかいや、抜目なく人からうわさを聞きただすという

手合がある。うわさ話を愛する人たちの中には、好奇心に動かされてそのような行為をする者や、ねたみに支配されてうわさを流す者がいるが、多くの者は、神が譴責するためにつかわれた人のことばに対する憎しみによってわるいうわさ話をふれまわるのである。すべてこれらの不調和な要素が働きを開始している。ある者たちは彼らの真の気持ちをかくしているが、他の者たちは他人の悪事について、知っている限り、あるいは疑っていることさえも全部ふれまわりたいと願っている。

真理を虚偽に、善を悪に、無罪を有罪に変える偽証罪の精神さえ今活発に働いているのをわたしは見た。サタンは神の民と自称している人たちの状態を見て大喜びをしている。多くの者が自分たちの魂をおろそかにしている間に、彼らは他人を批評したり非難しようとして機会をうかがっている。すべての人は品性の欠陥をもっている。だからねたみの精神をもってみれば不当な行為と判断されるような行為をさがすのは困難なことではない。これらの自称裁判官は言う。「さあ、われらは事実を握っている。われわれは彼らが事実無根と主張できないような非難を負わせてやろう」。彼らは適当な機会がくるのを待ち、一組のゴシップを作りあげ、とっておきのニュースとして発表するのである。

要点を伝えようとしているうちに、生来強い想像力をもっている人は、自分自身と他人をも

あざむく危険におちいる。彼らは、その言葉が急いで出されたものであること、だから話した人のほんとうの気持ちを反映していないかも知れないことを考えずに他人の不用意な表現を集めてしまう。しかし、しばしば注意にも値しないような小さな不用意のうちに出された発言もサタンの拡大鏡を通して見られ、くどくどと考えられ、繰返され、遂にモグラづかが山となってしまうのである。

すべての浮動するうわさを集め、他人の品性に疑いを投げかけるようなことをみな摘発し、その人を傷つけるためにそれを用いることに喜びを覚えることがキリスト者の愛であろうか。このようにしてキリストに従うものの信望が失われ、または傷つけられるときサタンは大喜びをする。サタンこそ兄弟を訴える者なのである。クリスチャンたる者がサタンの働きを援助してもよいのだろうか。

神のすべてを見られる目はあらゆる人の欠点や各々を支配している欲情をみられるが、それにもかかわらずわたしたちのあやまちを忍びわたしたちの弱点をあわれんでくださるのである。神はわたしたちがこのような優しさと寛容の精神を持つように命じておられる。真のクリスチャンは他人の欠点や弱点を摘発して喜びを感じずようなことはしないであろう。彼らは不道德と欠点から離れ、魅力あり愛すべきことに心を向けようとする。クリスチャンにとって、あら

さがしのすべての行為、酷評、非難のすべての言葉は苦痛である。

（5 T・九四 九六ページ）

教会や機関の指導者たちに対する批判の影響

うわさ話やむだ話の精神は、不一致や争いを播き、友人を離間し、わたしたち多くの者が持っている信仰を破壊するためのサタンの働きの一つである。兄弟姉妹たちはあまりにしばしば、他の兄弟たち、特に神から与えられた譴責や警告のメッセージを勇気をもって与えてきた人たちのうちにあると思われる欠点や、あやまちについてうわさ話をしようとしている。

これらの不平家の子供たちは聞き耳をたててこれらの話を聞き、不満という毒物を受け入れてしまう。このようにして両親たちは、子供たちの心に達する通路を盲目にもふさいでしまうのである。神の御名はこのようにして汚される。イエスは「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」（マタイ二五ノ四〇）と言われた。このようにして、神のしもべたちを中傷する者たちによってキリストは軽視され誤解されるのである。

神に選ばれたしもべたちの名は無礼な取りあつかいをされてきた。またある場合には、当然支持すべき立場にある人たちから決定的な侮辱さえ受けてきた。その子供たちは、神のしもべたちに対する両親の不遜な発言に耳を傾けないわけにはいかなかった。子供たちは、時にふれては彼の耳に入ってくる軽べつ的な冗談やけなすような話の意味を理解するようになり、その結果、彼らの心の中には、神聖で永遠的なことがらを世俗の普通のことがらのレベルで考えるようになってしまった。自分たちの子供を、幼い時にすでに不信の徒にしてしまうとは、一体この両親たちは何ということをしているのであるうか。このようにして、子供たちは、罪に対する天からの譴責に尊敬の念をもたず、これに反逆することが教えられるのである。

そのような罪がある限りそこに靈的衰退が起こらざるを得ない。敵によつて盲目にされたこれらの父親や母親たちは、どうして子供たちが不信仰に傾き、聖書の真理を疑うようになったのかと不審に思っている。道德的宗教的感化を子供たちに及ぼすことの困難さに当惑する。彼らがもしも靈的視力をもっていたら、このなげかわしい状態が、彼ら自身の家庭的感化の結果であり、ねたみと不信の所産であることに気付くであろう。このようにして多くの不信心者が自称クリスチャンの家庭において教育されるのである。

神の御事業の機関に関係して重い責任を負っている人たちの欠点について、それがほんとう

のことであろうと、想像上のことであろうとを問わず、語り合ったり、考えたりすることに特別な喜びを感じる人たちが多くいる。彼らは、聖事業に対する熱心な働きと確固たる献身の結果達成された成功や便益などを見過ごし、間違いと思われることに彼らの注意を向ける。仕事が進捗し、その結果があらわれた後に、もっといい方法でなされるならよい結果があらわれる筈であつたのにと考えるのである。しかしほんとうは、彼らに仕事任せられたら、落胆させられるような事態のもとでは全然仕事を引受けもしないし、また前の人が神の摂理によつて道が開かれたとき、それに従つて達成した仕事より手際よく処理することはできないであろう。

しかしこれらの始末におえないおしゃべり屋は、ちょうど地衣類が荒々しい岩石にしがみつくように、働きのよりみにくい面に目をつけるのである。これらの人は常に他人の失敗や欠点を考えているので靈的にこびとになっているのである。彼らは立派で高尚な行為、無私の働き、真の英雄的行為、自己犠牲などを識別する道德的能力をもっていない。彼らはクリスチャンの生活の特徴づける愛の精神を養っていないのである。彼らは偏見と間違つた物の見方のために日毎に退化し、狭い考え方になっている。彼らは小人であつて、彼らをかこむ雰囲気は平和と幸福に有害である。

（４丁・一九五、一九六ページ）

すべての機関は困難と戦わなければならないであろう。試練は神の民を試すためにゆるされ

ている。主の機関の一つが逆境におちいるとき、神とその聖業に対してわれわれがどれ位ほんとうの信仰をもっているかがあらわれるであろう。そのような時には、誰も最悪の面を見て、疑惑と不信のことばを出すことのないようにすべきである。責任の重圧のもとに事を運んでいる人を、批評したりしないようにしなさい。あなたがたの家庭の会話を主の働き人に対する批判をもつて毒さないようにしなさい。批評ばかりに耽っている親たちは、子供たちを賢明に育てて救いに至らせるために何も与えていないのである。彼らのことばは、子供たちばかりではなく、もっと年長の者たちの信仰と信頼をも乱し、不安定なものにしてしまうのである。

(7 T・一八三ページ)

われわれの学校の管理者は、彼らの保護のもとにある青年たちの秩序を保ち、賢明に訓練するという最も困難な働きに携わっているのである。教会員は彼らの手を支えるために多くのことができる。青年たちが、学校の訓練方針に喜んで従おうとしない時に、または目上の人の意見と違うことを自分勝手にしようと決意するとき、親たちは、自分の子供たちを盲目的に支持し、これに同情してはならない。

あなたの子供たちが、真理と同胞と神に対する忠誠さの根底に横たわっている原則を軽視するよう教えられるよりは、苦しみを受け、墓に横たわる方がはるかによいことである。

自分自身に対する批判だけは

実際の価値がある

クリスチャンを自認しているすべての人が、他人の間違いについて語る代わりに、自分自身のうちに矯正する必要がある悪を認めるために探索する力を発揮するならば、今日の教会はもっとはるかに健康な状態になるであろう。主が彼の宝石をお造りになるとき真実な者、率直な者、正直な者という宝石は喜びをもって眺められるであろう。天使たちはこのような宝石をもって王冠作りに携わるのである。そして神の御座から放射する光がこれらの星をちりばめた冠に反映して光り輝くであろう。主は今神の民を試みこれを立証しておられる。あなたがたは、自分の品性の欠陥に対しては、満足のゆくまで厳しく批判してもよい。しかし他人に対しては、親切で、憐み深く、思いやりのある態度を示しなさい。毎日自分は心の底まで健全であろうか、それとも偽りがあるだろうかと自問してみるとよい。この点においてすべての欺瞞から救われるように主に願い求めなさい。このことには永遠の重要性がかかり合っているのである。愛する兄弟たちよ、多くの者が名誉を熱望し、利益を追求している時、あなたがたは、神の愛の

保証を熱心に求め、また、自分の召命とえらびを確実にする方法を示して下さる方は誰かと叫んでいるだろうか。

サタンは人間の生来の罪を注意深く研究し、その後、彼らをそそのかし、陥れる働きをはじめる。われわれは誘惑のただ中におかれる。しかし、もし主の戦いに男らしくふるまうならば勝利はわれわれの側にある。われわれはみな危険のただ中におかれている。しかし、もし謙虚に祈り深く進んで行くなら、純粋な黄金より、オフルの黄金のくさびよりも貴い精錬過程から出されるであろう。もし不注意で祈ることを怠るなら、やかましい鐘や騒がしい鋸鉢のようになつてしまうであろう。

(5 T・九六 九八ページ)

第十七章 服装に関する勧告

服装についても、他のあらゆることと同様われわれの創造主をあがめることはわれわれの特権である。神はわれわれの服装がキチンとしていて健康的であるばかりでなく、適切で、似合うものであることを望んでおられる。

われわれはみなりの点でもできるだけキチンと整えるように努めるべきである。幕屋の奉仕において、神は主の前に仕える働き人の衣服について細部にわたって凡ての点に関する指示をお与えになった。このようにわれわれは、神が、神に奉仕する人の衣服については選択をしておられたことを教えられているのである。特にアロンの衣については特別な指示が与えられていた。何となれば彼の衣服は象徴的であつたからである。そのようにキリストに従う者たちの衣服も象徴的でなければならない。あらゆる点でわれわれはキリストの代表者とならなければならないのである。わたしたちの風采はすべての点で身ぎれいで、つつましく、そして清潔で

あるという特徴をもっていなければならない。

キリストは、百合の花やその他の草花などの自然界の事物によって、われわれの服装を主に喜ばれるものとするつつましさとか単純さとか清潔というような天によって価値づけられた美を説明しておられる。

（C G ・ 四一三ページ）

服装に関する指導原理

衣服とその着こなし方は、それを身につけている人物を示す索引のようなものであると一般に見られている。

われわれは人の品性を、着ている衣服のスタイルによって判断する。つつましい、敬けんな婦人はつつましい衣服を身につけるであろう。洗練された趣味、教養のある心はその人が選択する単純で似つかわしい服装によって示されるであろう。衣服や作法などが単純で見えをはらない婦人は、真の女性は道徳的な価値によって特徴づけられるということを理解していることをあらわすものである。服装が単純であるということは何と魅力的で、何とわたしたちの関心を引くものであろうか。その美しさは野の花に匹敵する。

わたしは同信の兄弟姉妹たちが神の前にあつて注意深く慎重な態度で歩まれるように御願ひしたい。健康の原則に合致する限り、一般的な服装の習慣に従いなさい。わたしたちの姉妹たちは、多くの人がしているように単純な服装を身につけるようにしなさい。そして質が良くて長もちがし、しかもこの時代に合うものがよい。また服装の問題で心が一ぱいにならないようにしなさい。わが同信の姉妹たちは単純な服装を身につけるべきである。彼らはまた落ちつきがあつて目立たないつつましい衣服を身につけるべきである。神の恵みという生きた内なる飾りの生きている実例を世に示しなさい。

もし一般世間に、つつましくて、便利で、健康的なドレスが出まわるようになった場合、そのような型のドレスをとり入れることは、神に対しても世の中に対してもわれわれの関係を變更することにはならないであろう。クリスチャンはキリストに従ひ、その衣服を神のみ言葉に一致させるようにするべきである。また極端を避けるべきである。彼らは賞賛や中傷を顧慮することなく、まっすぐな道を進み、その本来の価値のゆえに正しい習慣を守り続けるべきである。

衣服についてあらゆるつまらない流行に従おうと努力して時間をとられないようにしなさい。キチンと似合った服装を身につけなさい。しかし、服装を飾り過ぎたり、だらしない、不精

な服装によって注目の対象にならないように気をつけなさい。天の目があなたの上にそそがれていることを知っているかのように、またあなたは神の承認かあるいは不承認のもとに生きているということを知っているかのように行動しなさい。（C G・四一三 四一五ページ）

聖書の教え

キリストは人々が衣服のことに没頭するのに注目して、自分に従う者は衣服のことに心をわずらわせないように警告された。そして次のような命令のことばをお与えになった。「なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった」。衣服に対する誇りとぜいたくは特に女性がおちいり易い罪である。であるから以上の主の命令は直接には女性に関係がある。金や真珠や価高い衣服も、キリストの柔和、愛にくらべれば、殆んど価値がない。

わたしは天使によって次の聖句が示された。天使は「これらのみことばによって神の民を教えなさい」と言った。「また女はつつましい身なりをし、適度に慎み深く身を飾るべきであつ

て、髪を編んだり、金や真珠をつけたり、高価な着物を着たりしてはいけない。むしろ、よいわざをもって飾りとすることが、信仰を言いあらわしている女に似つかわしい」(テモテ第一、二ノ九、一〇)。

「あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである。むかし、神を仰ぎ望んでいた聖なる女たちも、このように身を飾って」(ペテロ第一・三ノ三 五)。

多くの者は以上の命令はあまりに旧式で留意する価値がないと考えている。しかし、これらを弟子たちにお与えになった主は、衣服に対する愛着から起こる危険性を理解されて警告のこゝとばとしてわれわれにお送りになったのである。われわれは警告をきいて賢明な者になるであろうか。

心からキリストに従おうと求めている者は、彼らが着ている衣服について、良心的なためらいを感じているであろう。そして主によって、非常に明瞭に与えられたこの命令(ペテロ第一、三ノ三 五)の要求に合致しようと努めることであろう。(CG・四一五、四一六ページ)衣服の問題についても、自制心をもつことはクリスチャンの義務の一つである。宝石類やい

ろいゝな種類の装身具を身につけて見せびらかすことをやめ単純な衣服を着ることはわれわれの信仰にふさわしいことである。

（3 T・三六六ページ）

多くの者は安息日の礼拝に集まるときの服装についての知識が必要である。一週間着古したふだん着のまま神の御前に出るべきではない。誰でもみな神の家に出席する場合の安息日用の特別なスーツを用意しておくべきである。われわれは世的な流行に従うべきではないが、それだからといって外見に無関心であつてはならない。装身具は身につけないけれども、キッチンとしたこぎれいな身なりをしていなければならない。神の子供たちは、うちも外も清潔でなければならない。

（6 T・三五五ページ）

とりわけ牧師の妻は衣服の点について聖書の明白な教えから離れないように注意していなければならない。多くの者は、衣服についての聖書の教えはあまりに旧式すぎて注意に値しないと考へている。しかし、これらを弟子たちにお与へになつた主は、衣服に対する愛から起こる危険性を理解されて警告のことばとしてわれわれにお送りになつたのである。われわれは警告を聞いて賢明な者になるであらうか。衣服に関するぜいたくが常に増大している。終わりは未だ来ていない。流行はたえず変化する。富は賦与者である神にお返しすべきであるのに、多額の金銭が服装に費やされている。

（4 T・六三〇、六三一ページ）

服装の流行の影響

衣服に対する愛着は品行に危険性を及ぼし、クリスチャン女性の特性であるつつましさともじめな精神とは反対の女性を作りあげるおそれがある。ぜいたくで派手な服装はしばしば着ている者の心に欲情を起こし、見る者の心に低級な欲情を目覚めさせる。服装に対する誇りと虚栄に耽溺することによってしばしば品性が破滅にいたることを神は知っておられる。神は、高価な衣服が善をなす意欲を窒息させてしまうことを御存知なのである。

(4 T・六四五ページ)

若い姉妹たちにとっては、単純で質素で見えをはらない服装が勧められるであろう。単純な服装と態度ほどほかの人たちにあなたの光を輝かすよい方法はない。あなたがたはこれによって、永遠の事物に比べて、この世の事物に対し、正しい価値判断をしていることをすべての人に示すことができるのである。

(3 T・三七六ページ)

多くの人たちは、未信者に感化を与えようとしているが、世の中と同じ服装をしている。しかし彼らはこの点で悲しむべき間違いをしている。もしも彼らが真に救霊の感化を及ぼしたい

のなら、彼らの信仰告白を生活の中に生かし、正しい働きによってその信仰をあらわし、クリスチャンと世の人々とのちがいを明らかにしなさい。そうするならば、聖なる感化が彼らの周囲のすべての人々にまで及び、未信者でさえも、彼らはイエスと共に生きているということを知ることになるであろう。彼らの感化が、真理のために働くようにしたければ、その信仰告白を生活の中で生かし、イエスの謙遜の模範に倣うものとなりなさい。

（4 T・六三三、六三四ページ）

姉妹たち、うわべを悪くよそおうことすら避けなさい。腐敗がみなぎっている享樂的な時代にあつては、用心深く立っていないければ安全ではない。貞節とかつつましさというような徳はまれにしか見られない状態である。あなたがたはキリストに従う者として、信仰告白を高くかけ、つつましさという美しい高価な宝石を心にいだくようにと訴えたい。このことによってあなたの貞節という徳は守られるであろう。

簡素で単純な服装は、つつましい態度と合わさつて、若い婦人の周囲に聖なる特別な保護の雰囲気を設け、無数の危険から彼女を守ることになるであろう。（C G・四一七ページ）

単純な服装は賢明な婦人を最も有利に引き立たせてくれるであろう。クリスチャンとしてふさわしい衣服を身につけなさい。信仰を告白している女性に似つかわ

しく、よいわざをもって、簡素な服装であな自身を飾りなさい。

多くの人たちは、ばかげた流行と歩調を合わせるために、自然な単純さに対する趣味を失い、人工的なことに魅せられている。彼らは、時間と金銭、知的な力、魂の真の向上心を犠牲にし、自分のすべてをささげて流行生活の要求に従っている。

青年たちよ、流行にしたがった服装をしたり目立たせるためにレースや金やその他の人工的な装飾品をつけたりする傾向をもっていたのでは、あなたがたが告白している宗教または真理を人々にすすめることにはならない。心ある人々は、うわべを美しく見せようとするあなたごたのくわだてを弱い精神と高慢な心を示す証拠であると見なすであろう。

(C G・四二一ページ)

どんな子供でも、青年でも、それを得ようと求めてもかまわない衣服がある。それは聖徒の義という衣である。もしも彼らが、この世の社会の標準に従って流行を追い求めた時と同じように心から喜んでこの義の衣を追い求めるならば、間もなくキリストの義が着せられ、その名は生命の書から消し去られることはないであろう。母親も、青年もこどもたちも、「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください」(シヘン五一ノ一〇)と祈る必要がある。この純潔な心と愛に満ちている心は、この世でも、また来る

べき永遠の世界においても、金よりもはるかに貴重なものである。心の清い者だけが神を見る
ことができるのである。

（C G ・ 四一七、四一八ページ）

第十八章 青年に対する訴え

親愛なる若い友人たちよ、あなたがたがいま播くものは、将来刈り取ることになるであろう。今こそあなたがたにとって種まきの時である。何を収穫するのであるうか。あなたがたは今何を播いているのだろうか。あなたがたが今口から出すすべての言葉、あなたがたがしているすべての行為は、良い実か悪い実かを結ぶ種子であり、その結果、播く者に喜びか悲しみかをもたらすものである。播かれた種子に従って収穫が得られるのである。神はあなたがたに大きな光と、多くの特権をお与えになった。この光が与えられ、危険が明らかにあなたがたに示された後は、責任はあなたがたのものである。神があなたがたにお与えになる光をどのようにとり扱うかによつて結果が幸福になるか禍になるかが決定されるであろう。あなたがたは自分の運命を自分で形成しているのである。

あなたがたはみな他人の心と品性に善か悪かの影響を及ぼしているのである。あなたがたの

及ぼすその影響は天の記録の書に記される。天使はあなたの側にいてあなたの行動や言葉を記録している。あなたがたは朝起きるとき、自分の無力さと神の力の必要を感じているだろうか。

そして謙遜に心からあなたがたの願いを天の父にお知らせしているであろうか。もしもそうなら天使たちはあなたがたの祈りに心をとめ、そしてその祈りが偽りのくちびるから出ているのでなければ、意識しないで間違いを犯し他人を悪に導くような悪い感化を及ぼしているような場合でも、守護天使はあなたのそばにいて、よりよい道をとるようにうながし、あなたのために言葉を選び、その行動に感化を与えるであろう。

もし危険を感じることなく、誘惑に抵抗するため助けと力を求めて祈りをささげることが怠るならば、迷いにおちいることは確かである。そしてあなたの義務に対する怠慢は天の記録の書に記され、審判の日に品性の足らないところが発見されるであろう。

あなたがたの周囲には宗教的に教育された者もあり、またわがままに育てられ、可愛がられ、へつらわれ、またほめられて、文字通り实际生活には役に立たなくなってしまう者たちがいる。これらはわたしが知っている人のことについて言っているのである。彼らの品性は、わがまま、へつらい、怠惰などによってゆがめられてしまったのでこの世の生活には役立たなくなってしまったのである。この世の生活に関して役に立たないならば、すべてが純潔で聖く、す

すべての者が調和のとれた品性をもっている来るべき生活にわれわれは何を期待することができるだろうか。わたしはこの人たちのために祈りをした。また個人的に彼らにお話しもした。わたしは彼らが他の人々の心に影響を与えて虚栄と衣服への愛着と永遠への関心について無頓着になるようにみちびくを見ることができた。このような人々の唯一ののぞみは、彼らがそのやり方に気をつけ、その高慢な空しい心を神のみまえに謙虚にし、罪を告白して悔い改めることである。

(3 T・三六三、三六四ページ)

霊的なことがらに対する感覚を養え

青年たちにとって唯一の安全策は不断の警戒と謙虚な祈りである。これらのことをしなくてもクリスチャンであることができるとうぬぼれてはならない。サタンは、荒野でキリストに近づいた時のように、誘惑とくわだてを光のよそおいをもつてかくす。サタンは天使の一人の姿をしてあらわれた。われわれの魂の敵は天来の客のようにわれわれに近づくであろう。使徒は唯一の安全策として謹厳と警戒をすすめている。無頓着、軽薄な態度で気ままに過ごす青年や、クリスチャンの義務を怠る青年は、キリストが誘惑に勝利されたように勝利するかわりに、敵

の誘惑の術中におちいつているわけである。

（3 T・三七四ページ）

多くの者は主の側にいると主張しているが、実際は主の側にいるのではない。すべての彼らの行動の重点はサタンの側におかれている。どのような方法によつて、どちらの側にいるかが決定されるであろうか。誰が心をつかんでいるのであろうか。われわれの思いは誰とともにあるのであろうか。誰のことについて語ることをわれわれは好むのであろうか。わたしたちの最も熱い愛情と最善の力を尽して尽そうとする相手は誰なのか。もしもわたしたちが主の側についているのなら、わたしたちの思いは彼と共にあり、主についての思いがわたしたちの最も楽しいものとなるのである。

真の教育は、有用な成果に到達するように、われわれの能力を用いる力である。この世のことであれば、頭脳と骨と筋肉のすべてを用いてこれにあたるのに、宗教のこととなるとわれわれの注意を払うことがなぜそんなに少ないのであろうか。それはわれわれの全力がその方向に傾いているからである。わたしたちはこの世の仕事には熱心さと精力を尽して事にあたるので、世の中の仕事には容易に気持ちが注がれるようになるのである。そのような理由で、クリスチャンにとって宗教生活が困難で、世俗生活がやさしくなるのである。能力がその方向に力を尽すように訓練を受けているからである。宗教生活において、神のみ言葉の真理に対して同意は

示すのであるが、それが實際生活に実証されないのである。

宗教的思想と信仰心を養うことが教育の一部となっていないのである。これらのものが全人格に影響を及ぼし、これを支配していなければならない。善をなす習慣が欠けている。有利な影響のもとでは一時的によい行動があらわれるのであるが、しかし信仰的なことがらを自然的にまた容易に考えることが心の支配的な原則となっていない。

純粋さを愛するように心が教育を受け訓練されなければならない。恵みと真理の知識に成長したければ、霊的なことがらを愛するように心がはげまされ、また促進されなければならない。

善と真の聖潔に対する願望をもつことは正しいが、その状態で止まっていたのでは、何の益もない。よい目的をもつことは正しいことであるが、断固として実行に移さなければ役に立たないことが証明されるであろう。多くの者はクリスチャンになりたいと希望しまた願いながら失われてしまうであろう。彼らは熱心な努力を払わなかったので、はかりで量られて目方が不足しているのを見出されるであろう。意志が正しい方向に用いられなければならない。わたしは心からのクリスチャンになろう、わたしは全き愛の長さ、広さ、高さ、深さを知ろう、と決心しなければならぬ。次にかかげるイエスの言葉に耳を傾けていただきたい。「義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう」(マタイ五ノ六)。

義に飢えかわいている魂に対して、キリストは十分な用意をしてくださるのである。

（2 T・二六二 二六六ページ）

より高い霊的状态に到達するために

手を伸ばしなさい

純粹な愛の要素は魂を発展させてより高い状態に到達させ、また霊的なことがらに関する知識を増しくわえ、充足した状態に欠けるようなことがなくなるであろう。自らクリスチャンと自認している大部分の人たちは、霊的なことがらについての知識を得るために、つまらない、滅びてしまうものを手に入れるために示す精力と熱心さと忍耐深さをもって求めるならば、自分のものにすることができる霊的な力を知っていないのである。クリスチャンであることを公言している多くの人たちは、霊的こびとの状態に満足しているのである。彼らには、まず神の国と神の義とを求めることを目的にするという考えがない。だから信心は彼らにとっては隠された神秘であって理解することができないのである。彼らは経験的知識としてキリストを知っていないのである。

霊的なことについて不具でこびとのような状態に満足している人たちが、突然天に移され、

しばらくの間、そこに永遠に続く高い聖なる完全の状態すなわちすべての魂は愛に満たされ、すべての顔には喜びが輝き、神と小羊に敬意をあらわすために心を魅するような調べが奏でられ、天の宝座に坐しておられる神の御顔とキリストから絶えず光の流れが聖徒たちに流れるという状態を目撃するとしたら、さらにまた、彼らが未だ経験したことのないより高い、より大きな喜びが存在していて、神から喜びを受ければ受けるほど、彼らの永遠の喜びを味わう能力はますます増し加えられ、このようにして、口には言いあらわし得ない栄光と祝福の止むことのない源から新しい豊かな供給を受け続けることができるということを認めるとしたら、そのような人たちは、天の衆群と交わり、彼らの賛美の歌に参加し、神と小羊とから出る純潔で、高貴で、心をわき立たせるような栄光に堪えることができるであろうか。いや、決してそれに堪えることはできないであろう。彼らが天のことばを学ぶことができるように、また「世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるため」(ペテロ第二・一ノ四)に恩恵の期間は、何年も延期されているのである。しかし彼らは自分自身の利己的な仕事に知力と全精力を用いている。世的な事業を先ず第一にし、自分の最善を尽さないではいられないのである。そして一時的で長続きのしない思いが神にささげられるにすぎないのである。そのような人が最後の決定の後に変えられるであろうか。「汚れた者はさらに汚れたことを行い、

「…聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」。このような時が今や迫りつつあるのである。

霊的なことに喜びを感じるように心を訓練している者たちは、天に移されても、天の純潔さとすべてにまさる栄光に圧倒されることがない。あなたは芸術について知識をもち、科学に通じ、音楽や書道にひいで、あなたの作法は友だちを喜ばせるかも知れない。しかしこれらのことは天に入る準備とはどんな関係があるであろうか。神の審判の前に立つ準備のためには何をしなければならぬであろうか。

（2 T・二六六、二六七ページ）

天にふさわしい品性は地上で

身につけていなければならない

欺かれてはならない。神はあなどられるお方ではない。聖潔以外に天に行かせる準備となるものはない。あなたに純潔で高貴な品性を与え、近づくことのできない光の中に住みたもう神の御臨在になる所にあなたを入らせるものは、誠実で経験的な敬けんさだけである。天にふさわしい品性はこの地上で習得しなければならない。もしそうでなければ決して身につけることはできない。であるから今直ちに始めなさい。今より容易に熱心に努力することが出来る時が

来るだろうなどと言ってうぬぼれてはいけない。一日毎に神との距離は離れていくものである。今まで経験したこともないほどの熱心さをもって永遠のために準備しなさい。聖書と祈祷会と瞑想の時間と、とりわけ、魂が神と交わる時間を愛しなさい。天の住居において、天の合唱隊に入って協力したければ、天にふさわしい心の持主となりなさい。

(2 T・二六七、二六八ページ)

あなたができる間に神の愛を受け入れよ

わたしは今忠実なアブラハムに思いをはせている。彼は、ベエルシバで夜の幻の中で神に示された命令に従って、イサクをつれて旅に出た。彼は、神が犠牲をささげる場所をアブラハムに示そうとお告げになった山を目の前に見た。

イサクは、神の御命令に従っている父のふるえる愛の手によって縛られた。イサクは父の誠実さを信じていたので犠牲に身をゆだねた。しかしすべてが整った時、また父の信仰と子の服従とが完全にテストされた時、神の御使いが、子を殺そうとしてふり上げたアブラハムの手とどめ、それで充分である旨を告げて言った。「あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたし

のために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」（創世記二二ノ一二）。

アブラハムの信仰の行為はわれわれの益のために記録されている。これは神の御要求がどんなに息づまるような、またどんなに苦痛をとまなうようなものであっても、信頼が重要であるという一大教訓をわれわれに教えてくれる。アブラハムの服従によつて、あまりに貴重すぎて神におさげ出来ないものは何もないということをお教えされるのである。

神は御子キリストに、恥辱、克己、貧困、苦勞、不名誉等の生涯と十字架による死をお与えになった。しかし、「わが愛する子よ、それで充分である。死ぬ必要はない」という喜びのおとずれを伝える天使はいなかった。多数の天使は、イサクの場合のように、最後の瞬間になつて、神がキリストの恥ずべき死を妨げて下さることを期待しながら悲しげに待っていた。しかし、天使たちには、神の愛する御子にそのようなおとずれを伝えることはゆるされなかった。裁判廷やカルバリに行く途中恥辱が加えられていった。軽べつを受け、あざけられ、つばきをかけられた。彼は、彼を憎んだ者たちの侮辱と嘲笑とのしりに耐え、遂に十字架においてその頭を垂れて死につかれた。

神は、御子にこのような苦難の場を通過することをおゆるしになつて、その愛の証拠をお与

えになったことより以上のことをなさることができたであろうか。このように、人間に対する神の賜物が無料で無限の賜物であるように、われわれの信頼心、服従心、われわれの真心、われわれの豊かな愛情に対する御要求も無限なものなのである。神は人間がささげ得るすべてを御要求になるのである。われわれの側における服従は神の賜物に比例したものでなければならぬ。それは完全であり、欠けたところがあつてはならない。われわれはみな神に負債を負っている。われわれ自身を完全に心からの犠牲としてささげるのでなければ到達できないほどのものを神は求めておられるのである。神は、われわれが即座に、心から喜んで服従するのを求めておられるのであつて、それに到達していない服従を受けいれられないのである。われわれには今、神の愛と恵みを受ける機会が与えられている。今年は、この文を読んでいるある人たちの生涯の最後の年となるかも知れない。このアツピールを読む青年たちの中に、キリストの御心を熱心に求め、喜んで実行しようとする者には平和が与えられるにもかかわらず世の快樂を選ぶ者がいるだろうか。

はかりで量られる

神はわれわれの品性、行動、動機などを聖所のはかりで量っておられる。われわれの心をもとに引き寄せるために十字架上で死なれたわれわれの贖い主によって、愛と服従が足りない
と宣告されることは恐ろしいことである。神はわれわれに高貴で価高き賜物をお与えになった。
神は、われわれが誤ちにおちいたり、暗黒の中を歩いたりする必要がないように御心に関する
光と知識とをお与えになった。清算と報いの最終の日に、目方がはかれて不足が発見され
るということは恐ろしいことであろう。そしてそのあやまちはやり直しがきかない重大な罪な
のである。青年たちよ、その時神の書の中にあなたがたの名前をさがしても無駄である。

神はあなたがたを、神のためになすべき働きに任命しておられる。あなたがたは神の共労者
とされるであろう。あなたがたの周囲には救わるべき魂がいる。あなたがたの熱心な働きによ
って勇氣と祝福とを与えることができる人たちがいるのである。あなたがたは魂を罪から義に
転向させることができるであろう。神に対して責任感をもっているなら、あなたがたは、サタ
ンの誘惑に対抗するために、忠実な祈りと熱心な警戒の必要性を感じるであろう。あなたがた
がほんとうのクリスチャンであるなら、軽薄な行動や衣服の誇りに耽ることなく、世の道徳的
暗黒を悲しむ気持ちになるであろう。あなたがたは、この地上にはびこっている忌わしい罪惡
をなげき、悲しむ人たちと共に悲しむようになるであろう。虚栄とみせびらかしのための衣服

の縁どりや装飾に耽らせようとするサタンの誘惑に抵抗を示すであろう。重要な責任を等閑に付して、これらの軽薄な欲求を満たすならば、その心は狭くなりその知力は萎縮する。

今日、青年たちは、もし決意するならキリストの共労者となることができるであろう。そして彼らの信仰は強化され、神に関する知識は増し加えられるであろう。すべての真の目的と正しい行為のひとつびとつは生命の書に記録されるであろう。わたしは、青年たちが欲望の満足のために生活し、安価で空虚なこの世の生活のために自らの知力を弱めることの罪深さを認めるよう、彼らをめざめさせたいと願うものである。もし彼らがこの世の軽々しい魅力に引かれることなく、神に栄光を帰することを彼らの目的とするならば、すべての思いに過ぐる神の平和が彼らのものとなるであろう。

(3 T. 三七〇、三七一ページ)

神は、若い人たちが熱心な人となり、神のとうとい働きに活動する準備をし、責任をになうのにふさわしい者となるように望んでおられます。けがれのない心を持ち、強くて勇敢で、神のみ栄えを表わし人類に祝福をもたらすために目の前の戦いを雄々しくたたかう決心をしている青年を、神は召しておられます。青年たちが聖書を学び、血気にはやる思いを静め、創造主であり贖罪主であられる神のみ声にききたがいさえすれば、彼らは、神との和らぎの中にあるばかりでなく、また自分自身が高潔になり向上したことに気がつきます。

どこに行くにも、光を伝達なさい。力強い目的を持っていることを、また悪友たちの誘惑にすぐ負けてしまうような意志の弱い人間ではないことを示しなさい。神をけがす人たちの言うことにすぐ同意するようなことをしないで、かえって、罪の中にある魂の悔い改めと矯正と救いにつとめなさい。

自分で自分に反抗している者を、祈りに訴え、柔和とけんその精神で説得しなさい。ひとりの魂が、過失から救われてキリストの旗の下につれてこられると、天にはよろこびが起こり、あなた方のよろこびの冠には、星がつけられます。救われた魂は、自分の敬虔な感化力を通して、また他の魂を救いの知識にみちびき、こうして働きは倍加していきます。そして、その働きがどれほど広くおよんだかは、ただ審判の日にのみ明らかにされるのです。

自分には大したことはできないと思って、神のために働くことをちゅうちょしてはなりません。たとえ大したことはできなくても、誠実に事をなすときに、神はあなた方の努力と一しよに働いてくださいます。

第十九章 正しい訓練と教育

青年たちの心を生来の傾向のおもむくままにしておくというのが一般的な流行となっている。

そして、幼い時に子供が大そう乱暴であつても、しばらくしたら直るであらう、十六才か十八才位にもなれば自分で理性的に考えることができるようになり、悪い習慣をやめ、しまいには役に立つ男女になるだろうと両親たちは言う。しかしこれは何という間違いであらう。彼らは長年心の畑に敵が種子を播くに任せておいた。間違つた原則が成長するままに放置しておいたのである。多くの場合、後から注がれる労力は結局無益に終わってしまうのである。

サタンは巧みで忍耐強い働き人、執念深い敵である。不用意な言葉が語られて、それによつて幼い者の心に害が与えられる場合には、たとえそれが子供をうぬぼれさせる場合であつてもあるいはある罪を軽く見なしてしまうように考えさせる時であつても、いずれにしても、サタンはそれを利用し、悪の種子に栄養を与え、根を張らせ遂には豊かな悪の実の収穫となつてし

まうのである。ある両親は子供が悪い習慣をつけるのを放置する。そしてその特質は一生涯つきまとうであろう。このような罪の責任は両親の側にあるのである。これらの子供たちはクリスチャンであると公言するであろうが、恵みと特別な働きがその心に働き、その生活に徹底的な改革が行われるのでなければ、彼らの過去の習慣はすべての経験にあらわれ、そして彼らの両親が彼らにゆるしたとちょうど同じ品性があらわれるであろう。

両親は、その子供たちを管理し、その欲情を矯正し、抑制しなければならない。さもないと神は、その恐るべき怒りの日に子供たちをほろぼし、また彼らの子供たちを支配しなかった両親も罪なしとはされないであろう。特別に、神の僕たちは、その家族を支配し、彼らを服従させなければならぬ。自分の家庭をよく管理できるのでなければ教会のことについて判断を下したり決定したりする資格ができていないということを知った。彼らはまず、自分の家庭の秩序を保たなければならぬ。その上で彼らの判断や影響は効果を奏するであろう。

男の子も女の子も夜外出する場合は責任を問われなければならない。両親は子供の友人がどんな人たちか、誰の家で夜間を過ごしているのかを知っていなければならない。

（4 T・六五一ページ）

人間の学問は、神が知っておられないことを発見したことはない。また子供を取り扱うのに、

私たちの主がお与えになった計画にまさるものを考案したことはない。だれが子供を創造されたお方以上に、彼らの必要をよく理解することができであろうか。だれがご自分の血で彼らを買いとられたお方以上に、彼らの幸福について深い関心を感じることができであろうか。神のことばを注意深く研究して忠実にそれに従うとき、悪い子供の不行跡を悲しむ人は少なくなるであろう。

子供たちは権利を持っている。両親はそれを認め、それを尊重しなければならない。子供たちは、彼らを有用な、尊敬に値する、愛すべき社会の一員にし、さらに、未来の純潔な、きよい社会にはいる道徳的な資格を与えてくれる教育と訓練を受ける権利がある。若い者たちの、現世及び未来の幸福は、彼らが子供時代や青年時代に形成する習慣に大部分かかっていることを教えなければならない。

（アドベンチスト・ホーム・三四二、三四三ページ）

人々は聖書を尊敬し、その教えに従っていると公言しながら、多くの点でその要求を果たしていない。子供の訓練において、彼らは示されている神のみこころに従わないで、自分自身の誤った性向に従っている。このような義務に対する怠慢の結果、何千という魂が失われているのである。聖書には、子供の正しい訓練についてのルールが示されている。もしもこれらの神の御要求が両親たちによって守られていたら、今日ちがった種類の青年たちが活動の舞台上

っていることであろう。しかし、彼らは聖書を読み、その教えに従っていると公言しながら、聖書の教えとは正反対の道を歩いているのである。われわれは、子供たちの品行のために嘆いている父親や母親の悲嘆と苦痛の叫びを聞いている。しかし、これらの悲しみや苦しみは自身を引き起こしたものであることを、また自分たちの誤った愛情によって子供たちを台なしにしてしまったのだということを認めている両親は少ないのである。彼らは、乳幼児の時から子供たちを正しく習慣づける責任は神から与えられたものであることを認めていない。

（４Ｔ・三一三ページ）

クリスチャンである子供たちは、他のどんな地上の祝福よりも、神を恐れる両親の愛と是認とを大切に思うであろう。彼らは両親を愛し、尊敬する。どうしたら両親を幸福にすることができるかということが彼らの生涯の主要な研究の一つとならなければならない。この反逆的な時代においては、正しい教育と訓練とを受けてこなかった子供たちは、両親に対する責任感などは殆んど持っていないのである。時々、両親が子供たちのために尽してやればやるほど、恩知らずになり、両親を尊敬しなくなるという事例も見られるのである。

子供たちの幸福の大部分は、両親の手の中に握られている。子供たちの品性の形成という重要な働きが両親に任せられているのである。子供の時に受けた教訓は一生涯の間つき従うであ

ろう。両親は種子を播き、その種子は芽生え、善か悪かの実を結ぶのである。両親はその子供たちを幸福か不幸かに育てあげることができるのである。

(1 T・三九二、三九三ページ)

両親は一致しなければならない

子供は感じ易く、愛情に感じる性質をもっている。彼らは容易に喜び、容易にみじめな気持ちになる。愛情深い言葉と行為をもつて優しくしつけることによつて、母親は、子供たちを自分の心に結びつけることができる。厳しい、過酷なとりあつかいは大きな誤りである。どの家庭でもしつけないは、変わらない確固さと、感情に左右されない支配が必要である。言おうとしていることをおだやかに話し、思慮のある行動をとり、言ったことは脱線しないで実行しなさい。

(3 T・五三二ページ)

両親たちは自分の幼い時代のことを忘れないようにすべきである。どんなに同情や愛情が欲しかったか、とがめられたり、腹立ちまぎれに叱られたりした時どんなに悲しく思ったかなどについて忘れないようにしなければならない。彼らは、もう一度子供の時代にかえつてものを

考え、子供の要求が理解できるように自分たちの気持ちを子供の水準まで下げなければならぬ。しかし同時に、愛をまじえた確固さをもって、子供たちから服従を要求しなければならぬ。両親の言葉は絶対的に服従されるべきである。

（１Ｔ・三八八ページ）

家庭の治め方が不安定で変わりやすければ大きな害を招く。事実、それは家庭を治めないのと同じように悪いことである。宗教的な親の子供は往々にして強情で、ごうまんて、反抗的なのはなぜであろうかという質問をよく耳にする。その理由は家庭教育の中に見いだすことができる。

どうしても一致できない場合、意見の一致に到達できるまで、親は子供の前にいるべきではない。

もし両親がしつけの点で一致しているならば、子供は何を要求されているかを知ることができ。しかし、もし父親のことばや表情で、母親のしつけ方に賛成しないことを示したり、母親がきびしすぎるから、甘やかしたり、かわいがったりすることによってそのきびしさをおぎなわなければならないと考えるならば、子供はそこなわれてしまう。子供のしたいと思う通りに物事をすることができるということをまもなく知る。子供に対してこういう罪を犯す親は、彼らの魂を滅ぼした責任を負わされている。

（アドベンチスト・ホーム・三四七 三五二ページ）

両親たちはまず自分自身を制御することを学ぶべきである。そうすればもつとうまく子供たちを治めることができる。自制心を失い、短気な言葉を出したり、行ったりする度毎に、彼らは神に対して罪を犯すことになる。まず子供たちと話し合い、間違っていることをはっきりと言いかせ、その罪を示し、その上で彼らが両親に対して罪を犯しているばかりでなく、神に対しても罪を犯しているということをお子たちの心に印象づけるべきである。子供たちの過ちを矯正する前に、過ちを犯している子供に対し、静かな心と同情と悲しみに満ちた気持ちをもって共に祈りなさい。そうすることによって、叱ることによって子供の心にあなたに対する憎しみを起こすようなことはなくなるであろう。彼らはあなたを愛するであろう。あなたが彼らを叱ったのは、彼らがあなたに迷惑をかけたからではなく、またあなたが彼らに怒りをぶちまけようとしてではなくて、彼らが罪のうちに育つままに放置されないように、彼らの幸福のために、責任感からしたことであることを悟るであろう。

（1 T・三九八ページ）

しつけがなされている間はよくしつけられているように見える子供たちのいる家庭が多くある。しかし子供たちは自分たちを規則に結びつけていた制度がこわされると、自分自身で考えることも、行動することも、決定することもできないように見える。

青年たちの厳しい訓練も、能力と性格がゆるす限り、自ら思考し行動する、すなわち、思考能力、自尊心、実行能力に対する確信等が成長するような正しい訓練がなされるのでなければ、知的、道徳的に弱いものを育てる結果となってしまうであろう。そしてこのような人たちが世に立つとき、彼らは動物としての訓練は受けたが、教育は受けてこなかったということが判明するのである。彼らの意志は、指導されるのではなくて両親や教師の厳しいしつけによって服従を強制されてきたのである。

自分たちの保護のもとにある子供たちの心と意志を完全に支配していることを誇っている両親や教師たちが、もし強制と恐怖とから服従させられている子供たちの将来の生涯を見通すことができるとしたら、誇ることを止めるであろう。殆んど彼らは人生の厳しい責任を負う用意が全くできていないのである。生徒たちの意志を完全に支配していることに満足しているこの種の教師たちは、当分の間、表面的には立派な働きをしているように見えるけれども、ほんとうは最も成功ある教師とは言えないのである。

彼らはしばしば、その態度があまりに堅苦し過ぎ、権威を保とうとして、冷たく、同情的でない。こんなふうでは子供や生徒の心をつかむことはできない。もし彼らが、子供たちを自分の近くに集まらせ、彼らを愛していることを身をもって示し、彼らのするすべてのことや、ス

ポーツにさえ関心を示し、時には子供のようになって彼らの中にとけこむならば、子供たちを大いに喜ばせることができるし、また子供たちの愛と信頼をかち得るであろう。子供たちは直ぐに、親や教師の権威を尊敬しまた愛するようになるであろう。

一方、子供たちは、親や教師とは独立して考えたり、行動したりするままに放置してはならない。子供たちは、経験のある人の判断を尊敬し、親や教師の指導に従うよう教えられるべきである。彼らは、その心が親や教師の心と一体となるように教育され、また親や教師の勧告に注意を払うことが正しいということを教えられる必要がある。そうすることによって、親や教師の指導の手を離れて独立するとき、彼らの品性が風にそよぐ葦のようにならなくてもすむであろう。

(3 T . 一三二 — 一三五ページ)

子供が無知のまままで育つのを

放置しておくことは罪である

ある両親たちは子供に宗教教育をほどこすことに失敗している。また学校教育を受けさせることを怠っている。どちらの教育も怠慢にしてはならない。子供たちの心は活動的であり、もし肉体労働にも従事せずあるいはまた学習もしないでいるならば、彼らは悪い感化にさらされ

るであろう。両親たちがその子供たちが無知のままに育つのを放置しておくことは罪である。親たちは子供たちに、有用で興味深い書籍を与え、働くことを教え、また肉体労働や学習や読書に時間をかけることを教えるべきである。親たちは子供たちの心を向上させ、その知的能力の改善につとめなければならない。心はそのまま放置され、養い育てられないでいると、低級で、肉欲的になり、墮落するのが常である。サタンは機会をうかがい、怠惰な心を教育する。

（1 T・三九八、三九九ページ）

母親の働きは幼児期にはじまる。母親は幼い子供の気ままやかんしゃくを静め、これを服従させ、従順になることを教えるべきである。子供が成長しても、手を休めてはならない。母親はだれでも、時間をかけて子供に言いきかせ、そのあやまちを矯正し、忍耐強く正しい方法を教える必要がある。クリスチャンの両親は、神の子供にふさわしくなるように、教え育てているのだということを知っていなければならない。子供のすべての宗教経験は、幼時に受けた教訓と、その時形成された品性によって影響を受けるものである。この時期に子供のわがママが抑制され、親の意志に従うように導かれなければ、後年になってこの教訓を身につけることは困難な仕事となるであろう。決して抑制されることのなかったわがままな心を、神の御要求に従わせることは、何とくびしい戦い、何とはげしい苦闘となることであろう。この重要な働き

をなおざりにしている両親は、彼らのあわれな子供と神に対して大きなあやまち、罪を犯しているのである。

(1 T・三九〇、三九一ページ)

神が、子供たちにさずけることをあなたがたの義務とされた教育を彼らに与えることに失敗するならば、あなたはその結果について神に返答しなければならない。これらの結果は単にあなたがたの子供たちだけに限られたものではないであろう。一本のあざみが畑に生えるのをゆるしておけば、あざみを刈り取ることになるように、あなたがたの怠慢による罪は、その影響のおよぶ範囲内のすべてのものを破滅におとし入れるであろう。(C G・一一五ページ)

神の呪いは必ずや不忠実な親たちの上に下るであろう。彼らはこの地上で傷つけるいばらを植えているばかりでなく、審判が開かれる時、自分の不忠実さと対決しなければならない。多くの子供たちは、審判の場所に立ち上がって、自分たちを抑制してくれなかった親たちを非難し、また自分たちの滅亡の責任は親たちにあると言って親たちを訴えるであろう。両親たちのあやまった同情と盲目的な愛は、子供たちのあやまちを弁解し、これを矯正することなく見過ごしにし、その結果子供たちは失われてしまうのである。このようにして、これらの魂の血は、不忠実な両親たちの上にとどまるであろう。

(1 T・二一九ページ)

怠惰の罪

わたしは、怠惰の結果多くの罪が引き起こされたことを示された。忙しく働いている手と心は敵が提案するあらゆる誘惑に心を向ける時間をもたないが、怠惰な手と頭脳はサタンの支配におちいる用意ができていたのである。心は、正しい考えが支配的でないと、不適當な思いにみたされるものである。怠惰は罪であることを親は子供たちに教える必要がある。

（１Ｔ・三九五ページ）

子供たちから重荷をとりあげて怠惰な、目的のない生活をさせたり、何もせずにおらせたり、自分の好きかってなことをさせることほど彼らを確実に悪に導くものはない。子供たちのあたまは活動的であるから、良い有益なことで占められていなければ必ず悪いほうにいく。彼らが娯楽を楽しむことは正しいことであり必要なことであるが、彼らに働くことを教え、肉体労働と読書と勉強のための定まった時間を持つことを教える必要がある。彼らに年令に応じた仕事と、有益で興味深い書物が与えられているかどうかを確かめなければならない。

（アドベンチスト・ホーム・三一八ページ）

子供たちはしばしば熱心に一つの仕事を始める。しかし面倒になり、あきがき、変化を求めて何か別な新しいことにとりかかろうとする。彼らは、いくつかのことに手をつけ、少し落胆して、あきらめる。このようにして一つのことから次へと働きをかえて何も完成しない。両親たちは、変化を愛する精神が子供たちを支配することをゆるしてはならない。親たちは発達しつつある子供の心を忍耐をもって訓練する時間がないのに、ほかのいろいろの事がらに従事すべきではない。二、三のはげましの言葉や、ちょうどいい時に与えられるわずかな助力によって、子供たちは困難や失望をのり越えて物事をやり遂げるようになるであろう。また仕事に手をつけてからそれを成し遂げたことによつて生まれる満足感によつて、さらに大きな仕事をやろうという刺激を受けるであろう。

(3 T . 一四七、一四八ページ)

溺愛され、世話をやかれて育てられた子供はいつもそれを期待する。そしてその期待通りにならないとがっかりし勇気を失う。この同じ傾向が一生涯続くのである。彼らは自分では何もできないので他人の助けによりかかり、他人が好意をよせ、従ってくれることを期待するようになるであろう。そしておとなになっても、反対にでも出あうと、虐待されているものと思ひ、このようにして自分自身の重みにも堪えかね、何事も自分の思い通りにならないので、しばしば不平をこぼし、いらだちながら一生涯なやみ続けるのである。

（１Ｔ・三九二、三九三ページ）

婦人は、自分の働きと家族のために働きをする時、すなわち、薪や水を運んだり、ある場合には斧を持って薪を割ることさえもしているのに、夫と子供たちは炉辺に坐って楽をしながら互いに交わっていることがあるが、これは彼女自身にとっても家族のためにも大きなまちがいである。妻や母親が家族の奴隷になることは決して神の御意図ではなかった。多くの母親が骨折仕事や気苦労で過労しているのに、子供たちは家事を分担するように教育されていない。その結果、母親は早く老けこみ、未経験な子供たちを指導するために母親が最も必要な時に、子供たちを残して若くしてこの世を去る。これは一体誰の責任だろうか。

（５Ｔ・一八〇、一八一ページ）

両親がた、あなたがたの子供を

キリストのみもとに導きなさい

子供たちは、正しいことをしたい、両親や保護者に対して従順で親切でありたいという目的を心の中にもつてあろう。しかし彼らには、両親や保護者の助けとはげましが必要である。彼らはよい決心をすることができであろう。しかしその決心が宗教によって強められ、その生

活が神のお与えになる心を生まれかわらせる恵みによって感化されるのでなければ目標に到達することはできないであろう。

両親たちは子供たちの救いのために倍の力をもって働くべきである。親たちは忠実に子供たちを教育する必要がある。自分たちで最善のことができると思って教育のことを放置しておいてはならない。将来善が優勢となり悪は消滅してしまうだろうという考えのもとに、善悪を無差別に学ぶことを彼らに任せておいてはならない。悪は善よりも急速に増加するであろう。

両親がた、あなたがたの子供たちがまだ幼いうちにクリスチャンに育てあげることがを目的に訓練を始める必要がある。あなたがたの全力を尽して彼らの救いのために働きなさい。子供たちは、神の国に輝く価高き宝石としてふさわしい者となれるようにあなたがたの保護に委ねられたものであるかのように行動しなさい。子供たちはまだ幼くて責任がとれるまでにはなっていない、罪を悔い改めたり、キリストを告白するまでにはなっていないというあやまった考えのもとに彼らを滅亡のおとし穴の上に眠らせないように用心しなさい。

八才から十才あるいは十二才位までの子供たちは、個人的宗教の問題を話してきかせれば充分理解できる年令になっているのであるから、よく受け入れることができるように、彼らの救いの計画について説明し単純に話して聞かせるべきである。悔い改めて真理を信じるのは将来

年令がすすんでからのこととして教えるはならない。もし正しく教えるならば、ごく幼い子供でも、自分が罪人であることとキリストを通して救いを受ける方法について正しい考え方をもちことができるであろう。牧師たちは一般的に言って、子供たちの救いに無関心であり、個人的関心を示すべきであるのにそれを怠っている。子供たちの心に印象を与えることができる絶好の機会がしばしば活用されないで見過ごしにされている。

（1 T・三九六 四〇〇ページ）

両親がた、あなたがたは負わせられている責任を認めておられるであろうか。不注意で退廃的習慣から子供たちを保護する責任を認めておられるであろうか。子供たちの品性に正しい感化を与えるような交際だけをゆるすようにしなさい。夜外出する時は、その所在と行動とを確認するのでなければ許可してはならない。道徳的純潔さの原則について彼らに教えなさい。教訓に教訓、規則に規則、ここにも少し、そこにも少しと子供たちに教えることを怠ってきたならば、あなたがたの義務を果たすことを今直ぐ始めなさい。あなたがたに負わされた責任を負い、この世界のための責任と永遠のための責任とを果たしなさい。あなたがたの子供たちに対する怠慢を悔い改めることなしに日を延ばしてはならない。神から命ぜられた働きを今果たすつもりであることを彼らに告げなさい。共に改革の働きにたずさわるようにたのみなさい。過

去を贖うために熱心に努力しなさい。ラオデキヤ教会の状態にこの上留っていてはならない。すべての家庭がその立場を鮮明にすることを、わたしは主の御名によって求める。あなたがたの家庭において教会を改革しなさい。

(7 T・六六、六七ページ)

心の要求をおろそかにしてはならない

神を恐れる両親が一方において子供たちを抑制すると同時に、子供たちの心の傾向や気質を研究し、心の要求に応じるように努めなければならないことをわたしは示された。ある親たちは、子供たちの当座の欲求に注意深く気を配り、子供たちが病気の時には、親切に、忠実に看護し、それで自分たちのつとめを果たしたと思っている。ここにあやまりがある。実は親たちの働きは始められたばかりなのである。子供たちの心の要求を世話してやらなければならない。傷つけられた心をいやすための適切な治療法には技術が必要とするのである。

子供たちは、おとなと同じような、堪えがたい苦しい試練をかかえている。親たちはいつも同じようには感じない。彼らの心は時々混乱する。彼らはあやまった考えや感情のもとに働く。サタンは彼らに打撃を加え、彼らはサタンの誘惑におちいる。親たちはいらだち、子供たちの

怒りを引き起こすような話し方をする。時々親たちの言葉は苛酷で気難しい。かわいそうな子供たちは同じ精神にみたされるが、親たちが問題の原因になっているのであるから、子供たちを助ける準備はできていない。このようにしてすべてが悪い方へと運んでいく。そこら中にいらした気分が一ぱいでみじめさと悲しみがみちている。紛争の原因は親たちの側にあるのに、親たちはそれを子供のせいにし、不従順で、わがままで世界中で一番いけない子供たちだなど考える。

ある親たちは、自制心が足りないために多くの騒ぎを起こす。親切な気持ちでいろいろなことを依頼するかわりに叱るような調子で命令し、同時に子供たちのせいではないのに、非難や叱責の言葉を口に出す。両親がた、あなたがたの子供たちに対するこのようなやり方は子供たちの快活さと活力を台なしにしてしまうことになる。彼らは愛の気持ちからあなたの命令に従うのではなくて、ほかに仕方がないからである。彼らの心はもうその行為の中にははいっていないのである。それは骨折仕事であつて、喜びがない。それであなたの指示に残らず従うことを忘れてしまって、ますますあなたのいらだちを増し、子供たちにとっては益々事態は悪くなる。あらさがしは繰返され、彼らのまちがった行為の数々が並べ立てられる。

あなたがたの子供たちが、曇った顔付きであなたが見るようなことのないようにしむけ

なさい。誘惑におちいても、あやまちを認め悔い改めた後は、あなたが天の父なる神にゆるされることを希望する時と同じように全く無償で彼らを許してあげなさい。親切に彼らをさとし、あなたがたの心に彼らを結びつけなさい。それは子供たちにとっては危機なのである。子供たちをあなたがた両親から引き離そうとする影響力が子供たちの周囲にはりめぐらされるであろう。あなたがたはこの影響力を打ち破らなければならない。あなたがたを彼らの親しい友とみるように教えてやりなさい。試練を受けている時も、喜んでいる時もあなたに親しく話しかけるようにさせなさい。このようにして子供たちを上げますことによつて、未経験な子供たちのために準備したサタンの多くのわなから彼らを救うことができるであろう。あなたは自分の子供時代のことを忘れ、また彼らがほんの子供であることも忘れて、子供たちを厳格さだけで取扱つてはならない。子供たちに完全を期待してはならないし、また直ちにおとなのような行動をとらせようと試みてもならない。そのようなことをすると、ほかの方法によつて可能であるかも知れない接近の手段を閉ざしてしまい、有害な影響に対するドアを開くことを彼らに強いことになる。何となればあなたがたが子供たちに危険をさとらせるより先にほかの人が若い人たちの心に有害な感化を与えてしまうからである。

怒っている時に子供たちの

あやまちを正そうとしてはならない

子供たちが不従順であれば、これを正しくすべきである。正しくする前に、まずあなた自身が主の御もとに行き、子供たちの心を和らげ、静めてくださるように祈り、また子供たちを取りあつかう知恵を与えてくださるように願い求めなさい。この方法が一度でも失敗したことをわたしは知らない。この場合、両親たちの心が激情に波立っていたのでは子供たちに霊的なことを理解させることはできない。

あなたがたは愛をもって子供たちを正しくすべきである。怒らなければならないようになるまで子供たちを勝手放題にさせておいて、それから罰を加えるというようなやり方をとるべきではない。そのような矯正のしかたは、改善するどころか、悪を助長させるだけである。

あやまちを犯した子供に対して激情をあらわすことは悪を増すばかりである。そのことによって子供の最悪の感情が引き起こされ、親は自分のことなど気にもとめてくれないと考えるようになる。彼は親が自分を愛していれば、あんな取り扱いはできないはずだと自分自身で考えるようになるのである。

あなたは、神が子供たちを正しくする方法を知っておられないとも考えておられるのだろうか。神は知っておられる。神は、矯正の働きが、反発をまねくのではなく、勝利に導く方法でなされるなら、その結果は何と祝福にみちたものになるだろうということを御存知になっている。

(C G・二四四、二四五ページ)

子供たちに対する厳密な誠実さの重要性

両親は正直の模範となる必要がある。これは子供の心に印象づけられる日毎の教訓であるからである。両親たちは、生活のすべての点にわたって、殊に子供の教育や訓練について、変わらない原則に支配されている必要がある。「子供でさえもその働きが純粹であるか、正しいかということとは彼の行為によって知られるものである」。

識別力に欠け、主の指導に従っていない母親はその子供たちを、人を欺く人間や偽善者として教育してしまうであろう。心に抱く品性の特質が長く持ち続けられるうちに、うそをつくことが呼吸することと同じように自然なことになるのである。見せかけが、誠実や真実として受けとられてしまうのである。

両親がた、教訓の中でも、実地に模範で示す場合でも決して口先でごまかしたり、うそを言ったりしてはならない。あなたがたの子供が正直であることを望むなら、あなたがた自身が正直になりなさい。まっすぐに曲ったところがあつてはならない。ちよつとのごまかしもゆるしではならない。母親が、いつも口先ばかりで不正直なら、その子供はその模範に従うようになる。母親の生活の細かい点にいたるまでも正直であることが大切なことである。また少女も少年も決して少しでも口先でごまかしたり、欺いたりすることのないように訓練することが大切である。

（C G ・ 一五一、一五二ページ）

品性発達の重要性

神は両親たちに、聖なる型に従つて子供たちの品性を形成するという働きをお与えになった。しかし意志力を導き激情を抑制するためには、忍耐力と苦痛を伴う努力、確固とした態度と決定力が必要とする。放置された畑にはいばらや野ばらだけが生いしげるようになる。有用な、あるいは美しい収獲物を得たければ、まず、土地を準備し、種子を播き、若い根の周囲を掘り起こし、雑草を除き、土をやわらげなければならない。その時はじめて大事な植物が繁茂し、

気苦労や労力が豊かに報われるのである。

品性の形成は、かつて人間に委託された最も重要な働きであり、またその熱心な研究が現代ほど重要であった時代はかつてなかった。これほど重要な問題に遭遇した時代は今までなかったし、また現時代の青年男女ほど大きな危機に直面した者もいまだかつてなかった。

(C G・一六九ページ)

品性の力は、二つの要素、即ち意志の力と自制力の強さとの二つから成り立っている。多くの青年たちは、自制心のない強い激情を品性の力と誤解しているが、ほんとうは激情に支配されている人は弱者である。人間の真の偉大さと高貴さは、彼が征服する感情の力によつてはかれるものであつて、彼を征服する感情の力にはよらない。最も強い人とは、悪口を聞いても自分の激情を抑制し、敵をも許す人のことである。このような人こそほんとうの英雄なのである。

多くの者は、神がお与えになった能力を利用改善しようと思えば、高貴な品性を発達させ、人々をキリストに導くような影響力を及ぼすことができるのに、どのような人間になり得るかということについて貧弱な考えしかもっていないので、いつまでも小さな、心の狭い状態に止まっている。知識は力である。しかし知的能力も、心に善をもっていなければ、それは悪のための力である。

神はわれわれに知的、道德的力をお与えになっている。しかしその働きの大部分は自己の品性の建設者である各人によってなされるのである。毎日に建設は進行する。神の言葉はわれわれに、いかに建てるかに注意を払い、またわれわれの建築は永遠の岩に基礎をすえていることに注目するよう警告を与えている。われわれの働きがちょうどそのままの姿で留まる時がまさに来らんとしている。今こそ、この世界と、来るべき世界のより高い生活に役立つ品性を形成するために、神から与えられた能力を育成すべき時である。

われわれの生活において、どんなとるに足りない小さな行為であつても、品性の形成に影響をもっている。立派な品性は世的な財産よりも貴いものであつて、その品性形成の働きは、人間が携わり得る働きのうち最も貴いものである。

偶然に出来上がった品性は変化し易く、不調和で矛盾のかたまりのようなものである。このような品性の持主は高い目標とか人生の目的をもっていない。彼らには他人の品性を高める感化力がない。目的もなければ力もないのである。

この世界において、われわれに割り当てられた人生の短い一時は、改善して賢明に用いなければならぬ。神は生きて、献身的で、働く教会をのぞんでおられる。しかしわが民は現在全体としてこの状態からは程遠い。神は、真の型なるキリストに従い、神と正義のために決定的

な感化をおよぼす強くて勇敢な魂、積極的で生きたクリスチャンを求めておられる。神は、われわれを聖なる委託者として最も重要な、厳粛な真理を委任された。われわれはその真理をわれわれの生活と品性に示さなければならない。

(4 T・六五六 六五七ページ)

子供の助言に関する個人的な経験

ある母親は子供の取り扱い方がいつもきまっておらず、ときには子供の害になることでも思うままにさせているかと思うと、ときには子供の心を非常に喜ばせる無邪気な楽しみでさえも許さない。これではキリストに似たやり方ではない。キリストは子供を愛し、その感情を理解し、子供が楽しい時も、悩んでいる時も子供に同情を示された。

(ミニストリー・オブ・ヒーリング・三六〇ページ)

子供たちがこの友だちのところへ行きたいとか、あの娯楽のパーティーに加わりたいたとか頼んだときには、次のように言ってやりなさい。「子供たちよ、私はあなたがたを行かせてあげられません。ここへちょっとすわりなさい。その理由を話してあげましょう。私は永遠と神のための働きをしているのです。神はあなたがたを私にお与えになり、私の監督下におくように

おゆだねになりました。子供たちよ、私はあなたがたに対して神の代理の役目をさせられているのです。したがって神の日に報告しなければならない者として、私はあなたがたを見張っていないければなりません。あなたがたは、自分の母親が子供たちに対する義務を果たすことに失敗した人間となり、敵を入りこませて、母親である私が占めるべき位置を敵に先取させるようなことを人間として、天の書に名前を記入されるようになることを望みますか。私はあなたがたにどれが正しい道であるか話してあげましょう。そしてもしあなたがたが母親に背を向けて悪の道にはいることを選ぶならば、あなたがたの母親は潔白ですが、あなたがたは自分の罪の報いを受けねばなりません。」

これが私の子供たちに対して取った道であった。そして私が自分の話を終わらないうちに、子供たちは泣いて、「私たちのために祈ってください」と言った。私は子供たちといっしょに祈ることをこぼんだことはなかった。私は彼らのそばにひざまずいていっしょに祈った。それから私は子供のそばを離れて、太陽が空に昇ってくるまで夜通し、神に、敵の魔力が打ち破られるようにとお願いし、勝利を得た。私は徹夜の苦労はしたが、子供たちが私の首にだきついて「お母さん、私たちは自分の行きたいところへお母さんが行かせてくださらなかったことをたいへん喜んでおります。今それはまちがいであったことがわかりました」と言ってくれた時

に、私の努力は豊かに報いられたことを感じた。

両親がたよ、これがあなたがたが本気で働かねばならない方法である。もしあなたがたの子供たちを神の王国へ救ってやりたいと期待するならば、このような働きをしなければならない。

（アドベンチスト・ホーム・六〇八、六〇九ページ）

この国では、または他の国においても、青年たちが都会から遠く離れているのでなければ、正しい教育を彼らにほどこすことはできない。都会で行われている慣習や行為は、青年たちの心に真理を受け入れさせるためには不適當である。

（F E・三一ニページ）

両親たちにとって神の導きが

ますます必要である

あなたがたが子供たちに対して正しいしつけを怠るなら、神から罰を受けなければならない。子供たちの品性の欠陥によってあなたがたの不忠実があらわされるであろう。

下品で粗野な言動、無作法と不従順、怠惰と怠慢の習慣等、あなたがたが矯正しないで見過ごしにした悪い行動はあなたがたの名誉を傷つけ、生活に苦しみをもたらすであろう。子供たちの運命の大部分はあなたがたの手中におかれている。もしもあなたがその義務を果たすこと

に失敗するならば、あなたは彼らを敵の陣営におき、人を滅ぼす働き人にすることになる。しかし、これに反し、忠実に子供たちを教え、實際生活においては敬けんな模範を示すならば、あなたは子供たちをキリストに導き、彼らはそのよい感化によって他の人々を導き、このようにして多くの人々があなたの働きを通して救いを受けるであろう。（7T・六六ページ）

神は、子供たちを誠実に取り扱うことを望んでおられる。われわれは子供たちがおとなが受けてきたように長い年月の訓練を受けてこなかったことを忘れがちである。子供たちがいろいろな点でわれわれの理想に一致したような行動がとれない時、時々叱る必要があると考えることがある。しかしこれでは問題の解決にはならない。彼らを救い主のみもとに連れて行き、そのことについて主にすべてをお話しなさい。そして主の祝福が子供たちの上に下ることを信じなさい。

（C G・二八七ページ）

子供たちは祈りの時間を重んじ尊敬することを教えられるべきである。働きのために家を出る時には、家族全員はいつしよに集まり、父親あるいは父親が留守の時は母親が、一日の御まもりを熱心に神に願い求めるべきである。

おだやかさにみちた心をもって、またあなたがた自身と子供たちの前に誘惑と危険があることを感じてけんそんに集まりなさい。信仰によって自分たちの心を祭壇に結びつけ、主のみま

もりを願ひ求めなさい。保護天使は、このように神にささげられた子供たちを守ってくださいであろう。朝な夕な、熱心な祈りと忍耐強い信仰をもつて子供たちの周囲にかきねを築いてやることは両親たちのつとめである。両親たちは彼らを忍耐をもつてさとし、神を喜ばせるように生活するにはどのようにしたらよいかを親切に倦むことなく教えるべきである。

(1 T・三九七、三九八ページ)

日毎に聖霊のバプテスマを受けることは特権であることを子供たちに教えなさい。キリストの御目的を果たすためのキリストの助手とならせていただきなさい。祈りによってあなたは子供たちに対する働きを完全な成功にみちびく経験を得ることができるであろう。

(C T・一三一ページ)

母親の祈りの力はいくら高く評価してもしすぎることはない。幼少時代の変動と、青年時代の危険を通して息子と娘のそばにひざまずく母親は、さばきの時まで、子供たちの生活に与えた彼女の祈りの影響を知ることにはないであろう。もし母親が信仰によって神のみ子とつながっているならば、彼女のやさしい手は息子を誘惑の力から守り、娘が罪におばれるのを押えることができる。欲情が支配しようとしているときに、母親の愛の力、抑制する、熱心な、断固とした母親の感化が魂を正しい側に落ち着かせることができる。

（アドベンチスト・ホーム・二九五、二九六ページ）

子供たちに対するあなたの義務を忠実に果たした後、彼らを神のみもとにつれて行き神に助けを願い求めなさい。自分の果たすべき分を果たしたことを神に告げ、信仰をもってあなたのなし得ない神の分を果たしてくださいに求めなさい。子供たちの気質を和らげ、聖霊によっておだやかで優しい性質にしてくださいに神にお願いしなさい。神はあなたの祈りを聞きとめてくださるであろう。神は喜んであなたがたの祈りに応えてくださるであろう。神は「子を懲らすことを、さし控えてはならない」と子供を正しくすることを命じておられる。われわれはこれらのことについての神の言葉に耳を傾けるべきである。

（C G・二五六、二五七ページ）

礼儀と尊敬を教えなさい

神はまた特に年老いた人々に対してやさしい尊敬を示すようにお命じになる。「しらがは栄えの冠である、正しく生きることによってそれが得られる」（箴言一六ノ三一）と神は仰せになされている。それは戦いをたたかい、勝利をかち得、重荷に耐え、誘惑に抵抗したことを物語っ

ている。それは休息に近づく疲れた足、まもなくあく座席を物語っている。このことを子供たちに考えさせるとき、彼らは礼儀と尊敬をもつて年老いた人々の道を和らげるであろう。「あなたは白髪の人の前では、起立しなければならぬ。また老人を敬い、あなたの神を恐れなければならぬ」(レビ記一九ノ三二)との命令を心に留めるとき、彼らの若い人生には恵みと美がもたらされるであろう。

(教育・二八九ページ)

礼儀もまた聖霊の美徳の一つであつて、すべての人はこれを養うべきである。礼儀は、それがなければごく粗野になる性質を和らげる力をもっている。キリストに従っていると云いながら同時に粗野で不親切で無作法な人はまだキリストを学んだとはいえない。そのような人たちの誠実さには疑いがないかも知れないし、またその正直さにも疑問の余地はないであろう。しかし、誠実さや正直は親切や礼儀の不足の穴埋めにはならないであろう。

(PK・二三七ページ)

第二十章 キリスト教教育

世界歴史の最後の危機は急速に近づいている。われわれの学校において提供されている教育的利点と、世の学校のそれとは異なるものであることを理解することは大切なことである。

(C.T. 五六ページ)

教育についてのわれわれの考え方は、あまりに範囲が狭く、またあまりに程度が低い。もっと広い識見ともっと高い目的がなければならない。真の教育は、ある勉学の課程を修めることよりももっと深い意味をもっている。それは、現世の生活のために準備すること以上のことを意味している。真の教育は、人間の知、徳、体に関係があり、また人間に可能な限りの生存期間の全体にわたって関係がある。それは知、徳、体の能力の円満な発達を意味している。真の教育は、この世における奉仕の喜びと、さらにまたきたるべき世界におけるいっそう広い奉仕の、より大いなる喜びのために、生徒を準備させることである。

(教育・二ページ)

教育の働きと救済の働きとは最高の意味においては一つである。なぜなら救済の場合と同じく、教育においても、「すでにすえられている土台以外のものをすすめることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである」（コリント第一・三ノ一）……とあるからである。

（教育・二二ページ）

人を神と調和した状態にもどすこと、即ち、人が創造主のみかたちを再び反映することができるほどその道徳性を高く貴いものとするのがすべての教育と人生における訓練の大目的なのである。この働きはそれほど重要なものであったから、救い主は天の宮廷を去り、人となってこの地上にこられ、より高い生活に入るにふさわしいものとなるにはいかしたらよいかを教えられたのである。

（CT・四九ページ）

われわれは世的な計画や方法や慣習に流され易い。また、われわれが住んでいる時代について、また達成されるべき大きな働きについては、ノアの時代の人々の考え方以上のものはもっていない状態である。わが教育者たちは、ユダヤ人が歩んだと同じ道を歩み、神がお与えになつていない慣習、慣例、伝統等に従うという危険性にたえずさらされている。ある人たちは古い習慣にすがりつき、重要でもない各種の研究に愛着を感じ、あたかもそこに救いがあるかのように固執している。このようにして彼らは神の特別な働きから離れ、不十分で誤っている教

育を生徒たちに与えている。

(6 T・一五〇、一五一ページ)

教会において働き、魂を導いてイエスを知るように育てる特別な分野で、若い人たちを訓練する人々が必要である。われわれによって建てられた学校はこの目的を常にかかげているべきである。決して他教団設立の学校や、世的な神学校や大学の体制に従ってはならない。それは高度な秩序に従ったものであつて、信仰を否定するような面が発生するのをゆるしてはならないし、また是認してもならない。生徒は実践的キリスト教を教えられなければならない。そして聖書を最高にして最も重要な教科書と認めなければならない。(F E・二三一ページ)

教会の責任

夜中に、わたしは一つの大きな集団の中にいた。そこでは教育の問題が検討されていて、出席者全員の心を動かしていた。長い教育経験をもっていた一人の人が人々に語りかけていた。彼は言った「教育はセブンスデー・アドベンチスト全員が関心を持つべき問題です」。

(6 T・一六二ページ)

教会は、子供たちが学校やその他の団体に出席して、墮落した習慣に感化されないように教

育し訓練する特別な働きをもっている。都市はソドムのようになり、子供たちは毎日その悪にさらされている。公立学校に通う子供たちは、彼らよりあまりかえりみられていない、教室以外の場所で巷の教育を受けるのにまかせられている子供たちと交わっている。年若い人の心は容易に感化を受け、その環境が正しいものでなければ、サタンはこのような顧みられていない子供たちを用いて、よりよい訓練を受けている子供たちに悪い感化をおよぼすであろう。このようにして、安息日を守る両親たちが自分の子供たちが何をしているかを知らないうちに、非行という学科が学習され、子供たちの魂は墮落して行くのである。

子供たちの教育のために、大きな学校が建てられている場所に移転する多くの家庭も、現在住んでいる場所にとどまっていた方が主のためによい奉仕ができるであろう。教会の区域内の子供たちが、調和のとれた実際のクリスチャン教育を受けることができるように、あなたの所属している教会に教会学校の設立促進を働きかけるべきである。教会員の助力を必要としている小さな教会に留まっているほうが、その助けを必要としない、それ故たえず霊的不活動におちいる誘惑のある大教会に行くよりは、子供たちにとっても、教会員自身にとってもまたは神のみ働きにとってもはるかによいことであろう。

数人の安息日遵守者がいる所ではどこでも、子供たちを教育することができる全日制の学校

を設立するよう両親たちは協力すべきである。彼らは、子供たちを神の働き人に導くような方法で教育する献身した伝道者としてのクリスチャン教師をやとうべきである。

(C T・一七三、一七四ページ)

われわれは、子供たちをこの世のためにではなく、神のために育成する。即ち子供たちの手を世の支配の中に入れないように、また神を恐れ、そのいましめを守るように教えるという厳粛で聖なる約束のもとにあるのである。われわれは子供たちに、彼らは創造主にかたどって創られたものであること、ならびにキリストは彼らの模範であって、その模範に従うべきであるという考えを印象づけなければならない。救いにいたる知識を与え、生命と品性とを聖なる姿に従わせる教育に対してわれわれは最も熱心な関心を払わなければならない。

(6 T・一二七ページ)

働き人の必要にこたえるために、教育の中心が各国にたてられ、そこで有望な生徒たちが知識の実際的な分野と聖書の真理を教えられることを神は望んでおられる。このような人物が働きに携わるとき、新しい伝道地における現代の真理の働きに特色が与えられるであろう。

われわれの古い年会から宣教師として派遣される人たちの教育のほか、世界各地の人たちが、自分の国の人々や彼らの隣人たちのために働く訓練を受ける必要がある。できるだけ、働

こうとする伝道地で教育を受けるほうが、はるかによいしまた安全である。伝道者にとっても、聖事業進展にとっても、教育を受けるために遠い国まで出かけるのはめったに最善の方策とはいえない。

（6 T・一三七ページ）

教会としても個人としても、明確な判断の上に立とうとするならば、若い人たちが、われわれの手にゆだねられた大事業の各方面の分野で、最もふさわしい働きができるように惜しみなき努力を払って訓練させなければならない。われわれは、熱心と誠実さをもつて働く熟練した働き人の不足のためにキリストの聖業が妨げられないように、優秀な才能をもつ人材を最高度に強化、訓練、洗練する賢明な計画を打ちたてなければならない。

（C T・四三ページ）

教育機関に対する道徳的支持

両親は教師と協力し、子供たちの改心のために熱心に働く必要がある。

両親たちは家庭にあつて、その霊的関心を常に新鮮にまた健全に保ち、子供たちを主の教えと勧告に従って育成するよう努めなさい。一日の一部を学ぶ時間として捧げ、子供たちと共

に学ぶものとなるように心がけなさい。このようにして両親たちはこの教育の時間を楽しい、益の多い時間とすることができ、また子供たちの救いを求めるこの方法に対する確信が強められるであろう。

(6 T・一九九ページ)

生徒のある者は不平不満をいだいて学校から帰宅する。両親や教会員たちは子供たちの誇張した一方的な言い分に耳を傾ける。話には二つの側面があることを考慮すればよいのであるが、そうしないで、これらの誤り伝えられた報告を受け入れて自分たちと学校との間に障壁を築く。そして学校がとった態度に対して懸念と疑問と疑惑の念を表明しはじめ。このような感化は大きなわざわざいを生む。不満の言葉は、伝染病のようにひろがり、人の心に与えられた印象はぬぐいがたいものとなる。うわさは繰りかえされる度に拡大し、調査の結果、先生たちあるいは教授たちには誤りが無いことが判明した時には、うわさはすでに巨大な姿にふくれ上がっているのである。先生たちは学校のきまりを実施するためにその義務を果たしていたに過ぎなかったものであつて、それは当然の処置であつたし、もしそのような態度をとらなかったら学校は墮落してしまふことであらう。

もし両親たちが先生の立場に自分たちをおき、あらゆる学年、あらゆるクラスに属している数百人という生徒を管理し訓練することがいかに困難なことであるかを知ったら、よく考えた

末、これまでの考えとは異なった見解をもつようになるであろう。彼らは今まで一度もしつけられたことのない子供たちがいることを考えなければならない。不幸にも不忠実な両親にかえりみられなかったこれらの子供たちのために何かがなされなければならない、彼らは決してイエスを受け入れることをしないであろう。またもし何か抑制力が加えられなければこの世においても無用なものになってしまうであろうし、きたるべき未来の世界でも関係のないものになってしまうであろう。

（４丁・四二八、四二九ページ）

多くの両親たちは、忠実な教師の努力に協力しないという点で過ちを犯している。若い人たちや子供たちは完成していない理解力と未発達の判断力によって、先生たちの計画や方法を全部理解できるとはかぎらない。それにもかかわらず、子供たちが学校で話されたことやなされたことを家にもち帰ったとき、両親たちはそれを取りあげて家庭の集まりで議論し、遠慮なしに先生のやり方を批評する。ここで子供たちは容易に忘れられない教訓を学んでしまうのである。不慣れな禁止にあつたり、一生けんめい勉強するように要求されたりすると、子供たちは思慮の足らない両親のところへ行つて同情と特権とを求めるようになる。このようにして不穏と不満の精神が奨励され、学校は全体として退廃的な影響をこうむり、教師の重責は一層重いものとなる。しかし最大の害をこうむる者は親の管理の不始末の犠牲になった子供たちである。

正しい訓練によれば矯正できたかも知れない品性の欠陥は年とともに増大し、そのような品性の欠陥をもつ子供たちの有用さは傷つけられ、恐らくは台なしにされるがままに放置されている。

(F E・六四、六五ページ)

神に従う教師たち

主はすべての献身した教師と共に働かれる。教師はこのことを認め自覚する必要がある。神の訓練のもとにある教師たちは、子供たちに伝えるために聖霊を通してめぐみと真理と光を受けける。彼らはこの世がいまだかつて知らなかった最も偉大な教師のもとにいるのである。不親切な精神、いらだちにみちた鋭いことばは彼らにとつては何と不似合なことであろう。

神は、御自身の聖霊によつて魂とお交わりになる。学ぶときは「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください」(詩篇一一九ノ一八)と祈りなさい。教師が祈りのうちに神により頼むならば、キリストの霊があなたの上にくだり、神は聖霊により、教師を通して生徒の心に働きかけてくださるであろう。聖霊は、希望と勇氣と聖書の表現をもつて心と精神をみたしてくださり、それが生徒に伝えられるのである。真理の言葉はその重要

性を増し、いまだ夢想もしなかったような広さと深さをもつようになるであろう。神のみ言葉の美しさとその価値は心と品性とを改変する力をもっている。天的な愛のひらめきが靈感として生徒の心にくだるであろう。このように彼らのために働くならば、われわれは数百数千という子供たちをキリストの御もとに導くことができるであろう。

（ＣＴ・一七一、一七二ページ）

真に賢明になるためには、神に対する信頼を実感として悟り、神の知恵にみたされなければならない。神は知的、靈的力の根源であられる。

科学の分野で最高の水準に到達したと世に認められている最高の学者といえども、愛の弟子ヨハネや使徒パウロに比較することはできない。人間が最高の水準に到達できるのは知的能力と靈的能力が結合する時である。これをなしとげることのできる者を、神は、心の訓練において神と共に働く者として受け入れてくださるであろう。

（ＣＴ・六六ページ）

われわれの教育機関におけるこの時代の最も重要な働きは、神に栄光を帰する模範を世に示すことである。聖なる天使たちは人間的な器を通してこの働きを進めこれを指導しているのである。

（ＣＴ・五七ページ）

教師の資格

あなたの学校の校長として立つ強力な人物、即ち訓練者として徹底的な働きをするに適した体力の持主、生徒たちに秩序、清潔、勤勉等の習慣を訓練するのにふさわしい人物を選びなさい。何に着手するにしても徹底的に働きなさい。もしあなたが平凡な分野で忠実に教えるならば、多くの生徒は文書伝道者としてまたは伝道者として直接に伝道の働きに出かけることができるであろう。働き人がみな高度な教育を受けなければならないと思う必要はない。

(C T・二一三、二一四ページ)

教師の選択にあたっては、この働きは牧師を選ぶ時と同じく厳粛なことがらであることを考え、細心の注意を払うべきである。

人物を識別する能力のある賢明な人が人選の働きに携わるべきである。何となれば若い人たちの心を教育しこれを形成し、教会学校の教師によってなされる必要のある各方面にわたる仕事を成功裡に遂行する能力のある、できるだけ非常にすぐれた才能の持主が要請されているからである。管理する能力をもっていない、若い未経験な教師を子供たちの指導にあたらせては

ならない。何となれば彼らの働きによつて、教育の働きを混乱させてしまう恐れがあるからである。
（C T・一七四、一七五ページ）

テストや試みによつて、神を愛し、神に罪を犯すことを恐れている証拠がなければ、その人を教師として採用してはならない。もしも教師になる人が神から教えられ、日毎にキリストの学校において教訓を学んでいるなら、キリストの働きに携わり得るであらう。彼らはキリストに近づき、キリストを救い主としているのである。幼い人や若い人は一人のこらず貴重な魂である。
（F E・二六〇ページ）

教師のもつ習慣と主義とは学問的資質よりも一層重要なものであると見なすべきである。正しい感化をおよぼすためには、彼は自分自身に対して完全に自制力をもっていなければならない。いし、また彼の心は生徒たちに対する愛情をもつてみたされ、そしてそれがその表情や言葉や、行為に見られなければならない。
（F E・一九ページ）

教師はいつもクリスチャン紳士として行動しなければならない。彼は生徒たちに対しては友人または相談者としての立場に立つべきである。もし、教師も牧師も一般信徒もすべてがクリスチャンとしての礼儀の精神を養っているならば彼らは容易に人々の心に近づくことができるであらうし、またその人たちは導かれて真理をしらべこれを受け入れるようになるであらう。

すべての教師が自己を忘れ、生徒の成功と幸福に深い関心をいただき、生徒たちは神の所有であることを認め、また生徒たちの心と品性に与えた感化に対する説明を求められていることを認めるとき、その時こそ、天使たちもそこにたたずんで愛を贈るような学校となることができるであろう。

(C T・九三、九四ページ)

わが教会学校は、高い道德的特質をもつ教師、信頼のおける教師、健全な信仰と機知と忍耐力をもつ教師、神と共に歩み、悪の見せかけを避ける教師を必要としている。

高慢で、愛情のない教師のもとに幼い子供たちをまかせることは有害である。このような性質の教師は、急速に性格が発達する子供たちにとって非常に大きな害を与える。もし教師が神に服従せず、受け持っている生徒たちを愛せず、あるいはまた気に入った生徒をひいきにし、魅力的でない子やそわそわして神経質な子には関心を示さないなら、そのような教師は、採用されるべきではない。何となれば、このような教師の働きによって魂がキリストから離されてしまうからである。

(C T・一七五、一七六ページ)

もし教師が祈りの必要を感じず、神のみ前に自分の心を低くしないならば、彼は教育の最も重要な部分を失っていることになる。

(C T・二三一ページ)

教師の身体的資格の重要性を評価しすぎることはほとんどない。何となれば健康が完全であ

ればあるほど仕事は完ぺきなものとなり得るからである。肉体的な力が虚弱、あるいは病気の影響を受けていれば考える頭脳の力も明せきを欠き、行動力も弱くならざるを得ない。心情は頭脳を通して印象を受ける。しかし、もし、肉体的無能力の故に、精神がその活力を失えば、高度な感情や動機はそれだけ妨げられる。このようにして教師は、善と悪との識別力においてもそれだけ弱くなるのである。不健康の影響を受けている時には、忍耐強く、快活であることも、あるいは廉直、公正に行動することも容易なことではない。（C.T. 一七七ページ）

キリスト教教育における聖書

知的な訓練の方法として、聖書は他のどんな本よりも、また他のすべての本を合わせたよりも効果がある。偉大なテーマ、単純ではあるが威厳のある語調、美しいたとえ。それは他の何ものにもまして思想をめざめさせそして高める。天来の啓示によるすばらしい真理を把握するための努力は他のどんな研究よりも、知的な能力を与えるのである。このようにわれわれの心が限らない神のみこころと接するとき、それは大きくそして強くならざるを得ないのである。

聖書の能力は靈性を發達させることにおいてはさらに偉大である。人は神と交わるためにつくられたので、人間の真の生活と發達は、神との交わりの中にのみ見いだされる。人間は、神の中に最高の歡喜を見いだすように造られているので、他のどんなものによっても、心の切なる願いを満たし、魂の飢えとかわきを満たすことはできない。心の底から教えをもとめる精神で聖書を学び、その真理を理解しようと努力する者は、その著者である神と接触するようになり、自分自身でやめてしまわないかぎり、その發達の可能性には限界がない。

（教育・一三三、一三四ページ）

安息日学校教課と関係しているさらに重要な聖句を、骨折仕事としてではなく、特権として暗記するようにしなさい。最初のうちは暗記は不完全であろうが、練習によって暗記力は増し加わり、真理の言葉を貯えることを喜ぶようになるであろう。そしてこの習慣は、靈的成長にとって最も価値ある助けとなることが証明されるであろう。

（CT・一三七、一三八ページ）

あまりに幼い時に子供を

入学させることの危険

エデンの父祖たちが自然の書物から学び、モーセがアラビヤの平原と山々に神の筆跡をみとめ、イエスがナザレの丘に少年時代をすごされたように、今日の子供たちも、神について学ぶことができる。目に見えないものは、目に見えるものによって明らかにされている。

できるだけ、子どもたちを、幼い時から、自然というこのすばらしい教科書が目の前に開かれているところに置かなければならない。

（教育・一〇五、一〇六ページ）

あなたの幼い子供たちをあまりに早くから学校に行かせないようにしなさい。母親は、他人の手に幼児の心の形成をまかせることについては注意深くなければならない。子どもが八才か一〇才に達するまでは両親がいちばんよい先生であるべきである。彼らの教室は花や小鳥にかこまれた戸外であり、自然の宝庫が教科書とならなければならぬ。子供たちが理解できるようにになったらすぐ両親は彼らの前に自然という神の偉大なる書物を開いてやる必要がある。そのような環境のもとに与えられた教訓を、彼らはすぐに忘れるようなことはないであろう。

（F E・一五六、一五七ページ）

あまりに幼い時に学校に入学することによって子供の身体的、知的健康が危険におちいるばかりでなく、道徳的な面においても失うものがある。子供たちは礼儀や習慣などでしつけのできていない子供たちと交わる機会をもつようになった。彼らはうそをついたり、みだりに神の

名を呼んだり、盗みを働いたり、欺いたり、自分より年下の者に悪知恵を教えることを喜ぶ粗野で無作法な者たちの社会に投げ出されているのである。幼い子供たちは、するままに放置しておけば、善より悪のほうを容易におぼえるのである。悪い習慣は生来の心と最もよく一致する。そして幼少時代に見たり聞いたりしたことは深く彼らの心にきざみこまれ、幼い心に播かれた種子は根をはり、鋭いとげとなって両親の心を傷つけるのである。

(C G . 三〇二ページ)

實際生活における義務の訓練の重要性

イスラエルの時代と同じく今日も、すべての青年たちは實際生活の義務を教えられる必要がある。各自は、もし必要ならそれで生活が支えられるようなある一つの労作の知識を修得しておくことが必要である。このことは、人生の浮き沈みの防壁としてばかりでなく、知、徳、体の發達に役立つものとして無くてはならないものである。

各種の実業がわれわれの学校で行われる必要がある。学校で行われる実業教育には、簿記、木工、農業に関するいろいろな作業等が含まれる。また鉄工、ペンキ、靴製造、調理、製パ

ン、洗濯、修理、タイプライター、印刷等の働きのために設備がととのえられる必要がある。学生たちが实际生活の義務のためによく準備教育を受けて働きに出ることができるよう、この訓練の働きにはあらゆる力が動員されねばならない。

女子学生のためには、広い实际教育を受けることができるように多くの仕事が準備されるべきである。彼女らは衣服の仕立てや園芸が教えられねばならない。花が栽培されいちごが植えられなければならない。このようにして有用な労作教育を受けている間に、有益な戸外運動が行われるであろう。

（CT・三〇七 三一―二ページ）

肉体が精神に及ぼす影響はもちろん、精神が肉体に及ぼす影響も強調されなければならない。知的な活動によつて促される頭脳の電力は、身体の全部に生氣をあたえ、病氣に対する抵抗を測り知れないほど助ける。

聖書の中には、「心の楽しみはよい薬である」という生理学的な真理があるが、これはわれわれの考えなくてはならない真理である。

（教育・二三四ページ）

青少年たちが、健康、快活、はつらつさ、よく発達した筋肉や頭脳をもつためには、戸外にいる時間を多くし、よく規制された仕事と楽しみをもつべきである。青少年たちが学校に閉じこめられ、本の勉強に限られていると健康的な体質を築くことができない。勉強のために頭脳

を使うだけで、それに相応した身体的運動が伴わないと血液は頭脳に集まり、体組織を通る血液循環のバランスが失われる。頭脳は血液過剰となり、四肢には不足の状態になる。青少年の勉強の時間を一定時間に制限し、一部分は肉体作業に使うというようなきまりがつくられなければならない。そしてもしも彼らの食事と衣服と睡眠の習慣が身体の法則に従ったものであるならば、心身の健康を犠牲にしないで教育を受けることができるのである。

(C T・八三ページ)

労働の尊さ

青少年たちに、労働の神聖さを認めさせなければならない。神はたえず働いておられることを彼らに教えなければならない。自然界の万物は、それぞれ割り当てられた働きをなしている。神の創造に成るすべてのものは活動している。われわれもまた与えられた任務を果たすために活動的でなければならない。

(教育・二五四ページ)

有用な働きのために知的作業と結合された肉体労働は實際生活における訓練である。そしてそれは人が各方面でなすように神が企図しておられる働きをよりよく果たすために心身を教育

し、これに資格を与えるものであつたことを思い出すことによってつねに好評を与えるものである。
（F E・二二九ページ）

どんなに小さくまたいやしく見えようと、誰も労働を恥じてはならない。労働は人を高めるものである。頭脳と手を用いて骨折る者はすべて労働者である。洗濯をしていてもあるいは皿洗いをしても、すべては集会に行くのと同じようにつとめを果たし、宗教を重要視していることにかわりはないのである。その手は最も平凡な労働に従事していても、その心は清純で聖なる思いで高貴なものにされるのである。
（4 T・五九〇ページ）

肉体労働が卑しまれる最大の理由は、それがいいかげんな、考えのないやり方でなされることが多いからである。自分から進んでするというのではなくて、必要に迫られてするのである。働く人は、それに気乗りがせず、自尊心もなければ、また他人からの尊敬もかち得られない。労作教育によつて、こうした弊害が矯正されなければならない。物事を正確に徹底的にやる習慣を養うべきである。生徒たちは熟練と秩序を学び、時間を節約することと動作にむだがないようにすることを学ばなければならない。彼らに最善の方法を教えるばかりでなく、たえず進歩しようとする向上心を吹きこまなければならない。その働きを人間の頭脳と手によつて、できる限り完全に近いものにするように心がけなければならない。

（教育・二六二、二六三ページ）

子供たちが怠惰なまま成長するのを許すことは罪である。疲労してもよいから、彼らに手足や筋肉を働かせなさい。彼らが働き過ぎていなければ、どうして疲労が大人よりも多くの害を彼らに与えることができよう。疲労と心身の消耗とは別なことである。子供たちはおとなよりもたびたび仕事を変えたり休息する必要があるが、ごく幼い時からでも働くことを学び始めることができる。彼らは役に立っているということを考えてうれしく感じるであろう。健康的な労働のあとの睡眠は彼らにとって快いものとなる。それは次の日の仕事のために彼らの元気を回復してくれる。

（アドベンチスト・ホーム・三二三ページ）

神は無神論者の著作を禁じられる

偽りの原理、間違っている推論、サタンの詭弁などが青少年たちの前におかれることが主の御目的であろうか。異教的な、信仰否定的な考えが、彼らの知識の蓄積に対する価値ある追加として提供されてよいものであるうか。最も知的な無神論者の著作は、敵に奉仕するために心を売った人によって書かれたものである。改革者であることを自認し、青少年を正しい道に導

こうとしている者が、主に贖われた者が歩む道程において神の御品性を誤表し、間違った光の中に神を示すようなものを研究のために提示することを神が許したもうと考えられるだろうか。
…神は決してそのようなことをさせられない。

（C T・二五、二六ページ）

キリスト教教育の結果

神殿の庭で子供たちが「ホサナ、主の御名によってきたる者に、祝福あれ」と歌ったようにこの最後の時代にあって、滅び行く世界に最後の警告の使命を伝えるために子供たちの声があげられるであらう。天の住民たちが、おとなには真理を伝えることがゆるされないことを知る時、神のみたまが子供たちの上にくだり、道がとざされたためにおとなの働き人ができなくなった真理宣布の働きをするであらう。

わが教会学校はこの偉大な働きにそなえて子供たちを教育するために神によつてたてられたものである。子供たちはこの場所でこの時のために特別な真理と実際の伝道の働きを教えられなければならない。彼らは病人や悩んでいる人を助ける働き人の一員となって協力するのである。子供たちは医事伝道の働きに参加することもできるし、また彼らの小さな働きによつて

その働きを前進させる助けをなすことができるのである。彼らの投資は小さいものであるかも知れないが、それらの小さなひとつひとつの助けと努力とによって多くの魂が真理に加えられるであろう。彼らの働きを通して神の使命と神の健康改革の使命が諸国に伝えられるであろう。教会は群れの小羊たちのために責任を果たさなければならない。子供たちを神に対する奉仕のために教育し訓練しなさい。子供たちは神の嗣業なのである。

教会学校は、正しく経営されるならば、その建てられている場所に真理の標準を高くかける手段となるであろう。キリスト教教育を受けている子供たちはキリストの証人となるからである。神殿でイエスが、祭司や指導者たちが理解できなかった神秘を説明されたように、この世の最終の時代にあたって、正しい教育を受けた子供たちは、現代の高等教育について論じる人たちにとっては驚きとなるような言葉を単純に語るようになるであろう。

(6 T・二〇二、二〇三ページ)

わが大学は魂を救う偉大なる働きを遂行するために神によって計画されたものであることをわたしは示された。人の能力は、神の霊のもとに完全に支配されるときにのみ最高度に有用なものにされるのである。宗教の教えと原則が知識獲得の第一段階であり、真の教育の基礎となるものである。知識と学問がその最高の目的を果たすためには神のみたまによって活力を受け

なければならぬ。キリスト者だけが知識を正しく利用することができるのである。科学が完全に理解されるためには宗教的立場に立って見なければならぬ。神の恵みによつて高貴なものにされた人は教育の真の価値を最もよく理解することができる。創造のみ業に見られる神の属性は、創造主についての知識をもつときにだけ理解できるのである。若い人たちを真理の泉、世の罪を除く神の小羊に導くためには、教師は真理についての学説に通じているだけでなく、聖潔の道についての経験的知識をもっていなければならない。知識は真の敬けんと結合する時に力となる。

（4 T・四二七ページ）

学校を支持する学生の責任

神を愛し真理に従うと告白している学生は、誘惑に遭遇しても動じず、学校においても、寮にいてもまたどこにいてもイエスにあつてかく立ち上がる力を与えてくれる自制心と宗教的原則とをもっていなければならない。宗教とは、神の家にいる時だけ着る外套のようなものではなく、生活全体を特徴づける原則でなければならない。

生命の泉から飲んでいる者は、世的な人のように変化と快楽に対する熱望的欲求をもつこと

はないであろう。彼らの態度と品性には、毎日イエスの足もとになやみと重荷をおろすことによつてイエスの中に見いだした落ち着きと平安と幸福が見られるであろう。彼らはまた服従と義務の歩みの中には満足と喜びがあることを示すであろう。このような感化はその友人たちにも及びそれがまた全校に伝えられるであろう。

このような忠実な青年たちは、あらゆる種類の不信仰、不一致、きまりや規則に対する怠慢などを阻止しようとする努力によつて先生たちや教授たちを元気づけ、また力となることであろう。彼らの感化力は人を救う力があり、その働きは神の大いなる日にも滅びることなく、未来の世界にまで続くであろう。この世における彼らの生活の感化はとどまることなく永遠に続くであろう。

学校における一人の熱心で良心的で忠実な青年は測り知れない宝である。天使たちも愛情をこめて彼を見る。彼の貴い救い主も彼を愛される。天の記録の書には、彼のすべての正しい行為、誘惑に抵抗したすべての事件、すべての悪事に勝利した記録などが記されている。このようにして彼はよい土台を築きあげ、永遠の生命をいただくことができるのである。

神がその働きの進展のために企画された教育機関が保存性と永続性を保っているかどうかと、いうことの責任は大部分クリスチャン青年にかかっている。この重大な責任は、今日行動の舞

台にあらわれてきた青年たちの上に負わされている。それほど重要な時機が一つの世代にかかっていることはいまだかつてなかった。神の器として神に用いられるために、この偉大なる働きにふさわしい資格をもつということは何と重要なことであろう。彼らの創造主である神は、他の人々よりすぐれている彼らに要求をおもちになっている。

生命とすべての身体的、知的能力をお与えになったのは神である。神は、永遠に続く働きがまかせられるように彼らに能力を与え、これを改善することを求めておられる。その大きな賜物の代償として神は、彼らに知的能力と道徳的能力を開発し、行使することを要求される。神はこれらの賜物を単に楽しみのためとか神の御意志と摂理に反して乱用するためにお与えになったのではなく、世に真理と聖潔の知識を広めるために用いさせようとされたのであった。神は、その常に与えられる慈愛と無限の恩恵に対する感謝と尊敬と愛とを求めておられる。神は、サタンの企てにおちいらないように青年たちを抑制しまた保護し、そして平和の道にみちびくために神の律法とその他の賢明に規定された規則に対して彼らが服従することを要求しておられるが、それは当然のことである。

もし青年たちがわが教育機関の規則や規定を守るといことは、彼らの社会における立場を改善し、品性を高め、心を高貴なものにし、幸福を増し加えるものに過ぎないということを知

るならば、正しい規則や正当な要求に反抗したり、学校を疑ったり偏見を抱いたりはしなくなるであろう。わが青年たちは活力的で誠実な精神をもつて要求に対決しなければならない。そしてこのことが成功の保証となるであろう。世界中にひろがる無謀で狂気じみたこのような現代の若ものたちの性質は心を痛めるものがある。このような責任の多くは家庭における両親にある。神を恐れることがなければ誰もほんとうに幸福になることはできない。

(4 T・四三二― 四三五ページ)

第四編
生
活

第一章 節制を守る生活への招き

健康は計り知れないほど大きな祝福であつて、多くの人が考えている以上に密接に良心や宗教と関係している。健康は奉仕をするための人間の能力に大いに関係するものであるから、品性と同じようにきよく守らなければならない。なぜならば、健康がより完全であればあるだけ、神のみ事業の進展と人類の祝福のためのわれわれの努力も完全になるからである。

(C T・二八四ページ)

一八七一年十二月十日に、わたしは、衛生改革が、主の来臨に人々を備えさせる大きな働きの一部門であることを再び示された。それは手が身体と密接につながっているように、第三天使の使命と密接に結びついたものである。十戒は人間によつて軽視されて来たが、主は前もつて警告の使信をおくらないままで、律法の違犯者たちを罰するために来られるようなことはない。第三天使がその使信を宣べつたえるのである。もし人々が十戒に常に従順であつて、それ

らの戒めの原則を生活の中で実行していたならば、今日世界にあふれている病気ののろいは存在しなかったであろう。

男女共に、墮落した食欲やみだらな情欲を満足させることによって自然の法則を犯しながら、神の律法を犯さないということはあり得ないのである。であるから、神は衛生改革の光がわれわれの上に輝くようにされたのである。それは、われわれの肉体の内に神が制定された法則を犯していることをわれわれに知らせるためである。われわれの喜びも苦しみもすべて、自然の法則に従ったか、あるいはそむいたかに、その原因を見出すことができる。恵み深い天の父は、ご自身が制定された法則を、ある者は知りつつ、多くの者は知らずに犯しながら生活しているという、嘆かわしい人々の状態をご覧になり、人類に対する愛とあわれみによって、衛生改革の上に光を照らしておられるのである。神はご自分の法則と、これを犯す結果生じる罰を明らかにしておられるが、それはすべての人が自然の法則を学んで、注意深くこれと調和した生活をするようになるためである。神はご自身の法則を非常にはつきりと打ち出し、山の上にある町のように目につきやすくしておられるのである。だれでも理性を持った人間はそれを理解しようと思えば理解できる。精神薄弱者は責任を問われない。自然の法則を明白に示し、これに従するように説きすすめることが、人々を主の来臨に備えさせる第三天使の使命に伴

う働きである。

(3 T・一六一ページ)

「あなたがたは、もはや自分自身のものではない」

われわれはキリストが間もなく来られることを少しの疑いもなく信じている。それとわれわれにとって作り話ではなく現実なのである。キリストが来られるその時に、われわれを罪から清め、品性の欠陥を除き、あるいはわれわれの気質や性癖の弱点を直してくださいではないもしそうということがわれわれのためになされるとすれば、その時が来る前にすべて完成しているのである。

主が来られる時には、聖なる者はさらに聖なることを行うままになるのである。罪を清められ、肉体と霊を聖にして貴い状態に保って来た人々が、その時、不死の体に仕上げられる。しかし不義な者、清められていない者、汚れた者は永久にその状態にとどまる。その時には、彼らの欠陥を除いて清い品性を与えるためのどんな働きもはやなされない。これはすべて今日の恵みの期間中に行われなければならない。今こそこの働きがわれわれのために完成されなければならない。

われわれは、正しく、純潔な品性や、恵みにおける成長に反する世界に生存している。どこを見ても墮落や汚れ、欠陥や罪を見るのであるが、不死の状態に変えられる直前に、この地上でわれわれがしなければならない仕事は何であろうか。それは、今日の終末時代にわれわれの周囲に充満している墮落の中で汚されずに立つことができるよう、肉体を清く、精神を純潔に保つことである。

「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であつて、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもつて、神の栄光をあらわしなさい。」（コリント第一・六ノ一九、二〇）。

われわれは自分自身のものではない。われわれは高価な代価、すなわち神のみ子の苦難と死によつて買いとられたのである。もしも、これを十分に理解できたなら、われわれは神に対して完全な奉仕をすることができるよう、自分を最高の健康状態に保つ大きな責任を負わされていることを感じるであろう。われわれが、自分の生命力を消耗し、体力を低下させ、あるいは知能を鈍らせるどんな行動をとつても神に対して罪を犯すのである。こういう行動をとっている時、われわれは神の所有であるわれわれの肉体と霊をもつて神の栄光を表わすことをせず、

神のみ前に大きな誤りを犯しているのである。

(2 T・三五四 三五六ページ)

服従は個人的な義務の問題である

人類の創造主はわれわれの肉体の生きた組織を整えられた。すべての機能がおどろくほどすばらしく、賢明につくられている。そして神は、もし人間が神の法則に従い、神と協力するならば、この人間の体を健康な活動状態に維持してくださることをかたく約束しておられる。人体を支配している法則はすべて神のみ言葉と同様に、その源も性格も、また重要性においても真に神聖なものと見るべきである。人体内に神が明記された法則を無視して行う不注意なすべての行動や主のおどろくべき機械の働きを濫用することは、すべて神の律法を犯すことである。われわれは自然界に神のみわざを見て感心するかも知れないが人間のからだこそ最もすばらしいものである。

(C D・一七ページ)

自然の法則は神の法則であるから、これらの法則を注意深く学ぶことは明らかにわれわれの義務である。自分自身のからだについてそれらの法則が要求していることを学んで、それらに従うべきであって、こういうことに関する無知は罪である。

男性も女性も本当に改心した時、神が彼らの体内に制定された生命の法則を尊重し、それによって肉体と知能と道徳的な力の弱さを防ごうと努力するであろう。これらの法則に服従することは個人的な義務と考えなければならない。われわれ自身が、犯した法則の悪影響に苦しまなければならないのである。われわれは自分の習慣や通常の行為について神に申し開きをしなければならぬ。だから、われわれにとっての問題は「社会が何と言うか」ではなく、クリスチャンであると公言している自分が「神から与えられたからだをどのように取り扱うか」ということである。わたしは、自分のからだを聖霊の内住する宮として守ることにより、この世のこのためにも霊的なことのためにも自分の最高の結果を得るために努力するだろうか、あるいは世的な考えや習慣のために自分自身を犠牲にするだろうか。

（6 T・三六九、三七〇ページ）

魂の中の神の生命が人間の唯一の希望である

聖書の宗教は肉体の健康にとっても、精神の健康にとっても障害となるものではない。神のみ霊の働きかけは病気のための最も良い薬である。天国は健康に満ちあふれているのであって、

天国の影響を深く実感すればするほど信じる病人の回復も確実である。キリスト教の真の主義原則は、計り知れない幸福の源をすべての人の前に開いている。宗教は尽きることはない泉であつて、クリスチャンはそこから思うままに飲むことができ、しかも決してその泉をくみ尽くすことはない。

精神状態は肉体の健康に影響を及ぼす。正しい行いをしているという意識と、他の人々を幸福にしているとの満足感によつて、精神が自由で幸福であれば、それは全身に及ぶ快活さを生じ、血液の循環をよくし、からだ全体の調子を活発にする。神の祝福はいやす力であつて、他の人々を益することの多い人は心にも生活にも不思議なほどの祝福を受けるのである。

間違つた習慣や罪に汚れた行為をほしいままにしていた人たちが、神から与えられた真理の力に服従する時、真理が心に働きかけ、麻痺していたかに見えた道徳的な力を生き返らせる。真理を受け入れる者が、永遠の岩であるキリストに思いを集中させる時、真理に対する理解力を強め、より明白に理解するようになる。また、肉体の健康さえも自分がキリストの内にあつて安全であることを認識することによつて増進する。

(CH・二八ページ)

人は、ただキリストの恵みを受けることによつて、服従の全き祝福を得られるのだということとを学ばなければならない。神の律法に従う力を人に与えるのは神の恵みである。これが人間

に悪習慣の束縛から脱する力を与える。人間を正しい道に導き、たえずその道をすすませることのできる唯一の力がこれなのである。

福音がその純潔さと力をもったまま受け入れられるときに、それは罪によって生じた病気をいやす。義の太陽は「その翼には、いやす力をそなえて」のぼる（マラキ四ノ二）。この世の与えるものは、失望した心をいやし、精神の平和を与え、憂いを除き、あるいは病気を払いのけることができるとはかぎらない。名声、天才、才能などといったものは、悲しみに満ちた心を慰めたり、衰えた生命を回復するためには無力である。魂の内にある神の生命が人間の唯一の望みなのである。

全身に及ぶキリストの御愛が人を活気づける力となるのである。それはすべての重要な部分すなわち脳や心臓や神経にいやす力をもつて触れる。それによって人間の最高の活力が呼びさまされ、活動するようになる。これは生命力を破壊するような罪と悲しみ、心配や気苦労から人間を解放する。そして平静さと落ち着きを与える。またそれはこの世の何ものも破壊することのできない喜び、すなわち聖霊による喜び、健康を与え、また生命を与える喜びを心の中に植えつける。

「わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」との救い主のお言葉は、肉体

と精神と霊の病気をいやす処方である。人間が自分のまちがった行為によって苦痛を自ら招いたにしても、キリストはあわれみをもって彼らをごらんになる。彼らはキリストに助けていただくことができる。ご自身に頼る者のためにキリストは大いなることをしてくださるのである。

(ミニストリー・オブ・ヒーリング八四、八五ページ)

衛生改革を提示せよ

われわれの働きの中で禁酒禁煙運動にもっと注意を払うべきである。改革を求める働きはすべて悔改めと信仰と服従を意味する。それは魂を新しい、より高潔な生涯に向上させることである。従って真の改革はみな第三天使の使命の働きの中に役割を持っているのである。特に禁酒禁煙運動はわれわれの注意と支持を必要としている。キャンプミーティング(毎年集会)の時に、人々の注意をこの事業に引き、活発に働きをすすめるべきである。真の節制の原則を人々に示し禁酒禁煙の誓約に署名するように求めなければならない。悪習慣にとらわれている人々に注意深く心を配り、彼らをキリストの十字架へ導かなければならない。

世の終りに近づくにつれて、われわれは衛生改革とクリスチャンの節制問題でますます向上

し、もっと自信のある断固とした態度でこれを示さなければならない。われわれは、言葉だけでなく行いによって人々を教育するよう努力し続けなければならない。教えに実行が伴うと効果的な影響を及ぼす。

（ 6 T . — — — — — ページ ）

第二章 清潔の重要性

血液は生命の流れであるから、健康を保つには良い血液が必要である。それは消耗した組織を回復し、身体に栄養を与える。血液が正しい栄養素を供給され、新鮮な空気によって浄化されて活力が与えられると、それは身体の各部分に生命と活力をもたらす。血液の循環が完全であれば、それだけその働きはよくあらわれるのである。

(ミニストーリー・オブ・ヒーリングニ四七ページ)

外部的に水を使用することは、血液循環を調節する最も容易でかつ効果的な一方法である。

冷水浴はすぐれた強壮療法であり、温浴は毛穴を開いて不純物の排泄を助ける。また温浴も微温湯浴も神経を緩和し、血液の循環を平均にする。

運動は血液の循環を促進し、平均にするが、休止はそれを妨げ、生命や健康に重要な血液中の変化を抑制し、皮膚の働きをも鈍くする。活発な運動によって血液循環が盛んになり、皮膚

が健康で肺には清い新鮮な空気が十分に供給されているときには不純物が排泄されなくなる。
（ミニストリー・オブ・ヒーリング二一四、二一五ページ）

肺はできるだけ最大の運動ができるようにしておかなければならない。肺活量は肺の自由な運動によって増大し、肺が圧縮されたり、圧迫されると減少する。したがって前にかがんで働く仕事、特に座業においては悪い結果を生ずることが非常に多い。前にかがんだ姿勢では深呼吸ができない。浅く呼吸することがしだいに習慣となり、肺が拡張する力を失う。

こうして十分な酸素の供給が受けられなくなり、血液の循環は鈍り、肺から排泄されるはずの有害な老廃物が内部に残存し、血液は不純になる。肺ばかりか、胃、肝臓、脳髄も影響を受け、皮膚の色が悪くなり、消化がおくれ、心臓は不活発になり、頭脳の働きが鈍り、思考は乱れ、精神が憂うつとなる。そして全身の組織に活気がなくなり、不活発となり、特に病気にかかりやすくなる。

肺はたえず不純物を排泄しているので、つねに新鮮な空気を供給しなければならない。不純な空気は必要量の酸素を供給しないから血液が活力を与えられないまま脳その他の器官に流れていく。だから換気は十分にする必要がある。しめ切った換気の悪い部屋に住み、空気が腐敗、汚濁した部屋に居ると、からだ全体を弱めることになる。身体は不思議にかぜをひきやすく、

少し風にあてても病気になる。いつも家の中に閉じこもっているために、青ざめた虚弱な婦人が多い。同じ空気を繰り返し吸っているうちに、肺や皮膚から排泄される有毒な物質で空気が汚染し、不純物は再び血液中にはいるのである。

（ミニストーリー・オブ・ヒーリング二四八、二四九ページ）

多くの人が、夜、室内に新鮮な空気を入れないために病気にかかっている。よく循環する新鮮な天来の空気は、われわれが楽しむことができる最も貴重な祝福の一つである。

（2T・五二八ページ）

肉体の健康にとっても精神の健康にとっても厳しい清潔さが絶対必要である。皮膚を通してからだからは絶えず不純物が排泄されており、しばしば身体を洗って清潔にしておかなければ、たちまち幾万の毛穴がふさがり、このため皮膚から排泄されるべき不純物は他の排泄器官にとって余分の負担になる。

たいていの人には毎日、朝か晩に冷水浴か微温湯浴がからだのためになる。入浴は適当な方法とするならば、かぜをひきやすくするどころか、血液循環をよくし、かぜに対して抵抗力を強める。血液は体表面に導かれ、ずっと楽に、規則正しく循環するようになる。そして心身ともに元気になり、筋肉は動かしやすく頭脳は明せきになる。入浴は神経をしずめ、胃腸や肝臓

の働きを助け、それに健康と力を与え、また消化力を増進する。

衣服を清潔にしておくことも重要である。身につけている衣服は毛穴から出る老廃物を吸収するので、それをたびたび洗濯して着替えないとその不純物はまた元に吸収されてしまう。

どんな種類の不潔であっても、不潔は病気を招く。死を引きおこすような病原菌は、暗いところの行きとどかない隅、腐敗した廃棄物の中、湿気やかびの中に充満している。野菜の残りや落葉の山が家のそばに放置され、腐敗して空気を汚毒するままにしておいてはならない。また不潔物や腐敗物は何一つ家の中に置いてはならない。

完全な清潔、十分な日光、および家庭生活の細部にわたって注意することが病気にかからないために重要であり、家族が快活で元気であるための必要条件である。

（ミニストーリー・オブ・ヒーリング二五一、二五二ページ）

幼い子供たちに、彼らが不潔なからだをしていたりだらしのない服装や、やぶれた衣服を着ていると神は喜びにならないことを教えなさい。きちんとした清潔な衣服を着ていることは思いを純潔に美しく保つ一つの手段となる。特に皮膚に接触する物はすべて清潔にしておかなければならない。

真理は決して不潔で不純な道にその繊細な足を踏み入れない。イスラエルの民に清潔の習慣

を大切に守らせることにあれほどこきちようめんであられた神は、今日ご自分の民の家庭内にあらどんな不潔もお許しにならない。神はどんな種類の不潔もおきらいになる。

家の中のすみずみが掃除されずに不潔であると心のすみずみもおろそかにして不純になりやすいのである。

天国は純潔で神聖であつて、神の都の門を通過する者たちは、この地上で内外共に純潔さを身につけなければならない。

(ML・一二九ページ)

第三章 われわれの食べる食物

（われわれ）の身体は食べる食物によつてきずきあげられる。身体組織はたえず損じ、あらゆる器官の活動は消耗を招くが、食物によつてその消耗が補われる。身体各器官はそれぞれ栄養を必要とする。脳髄には必要量の栄養が供給されなければならない。骨格、筋肉、神経もそれぞれ必要量を要求する。食物を血液に変じ、さらにこの血液をもつて身体各部を構成することは驚くべき働きである。しかも、この機能はたえず行われ、神経、筋肉、組織それぞれに生命と力を供給している。

身体を構成するのに必要な要素を最もよく供給する食物を選択しなければならない。この選択においては食欲が安全な標準ではない。間違つた食習慣によつて食欲は（ゆがめられ）、健康を害し、身体を強くしないで弱くする食物を欲することがしばしばある。また社会の習慣に左右されるのも安全ではない。至るところにある病気と苦痛の原因はたいてい食事に関する一般

の誤りによるものである。……

しかし、健康的な食物はどれでも、どんな場合にでも自分の必要に適するとはかぎらない。食物の選択には注意を要する。食物は時節に適し、住んでいる土地の気候に合い、その人の職業に応じたものでなければならない。時節や気候の違った地方で用いられている食物はそのほかの場所では適しない。また職業の異なった人にはそれぞれ最も適切な食物がある。強度の肉体労働に携わっている人が食べるのによいものは、座業や、ひどく頭脳を使う人には不適當である。神は健康的な食物を種々与えておられるから、各自はその体験と正しい判断に基づいて自分の必要に最も適するものを選ぶべきである。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二七三、二七四ページ）

人間の食事に対する神の最初のご計画

最善の食物が何であるかを知るためには、人間の食事に対する神の最初のご計画を研究しなければならぬ。人間を創造し、その必要を理解しておられる神がアダムの食物を定めて「わたしは……たねをもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたに与える。

これはあなたがたの食物となるであろう」と言われた（創世記一ノ二九）。罪ののろいを受け、土地を耕して生活するためエデンを去るとき、人間は「野の草」をも食する許可をうけた（創世記三ノ一八）。

穀類、果実、堅果類、野菜がわたしたちのために創造主のお選びになった食物である。こうした食物をできるだけ単純に自然のまま調理したものが最も健康的で栄養がある。それはさらに複雑な、刺激的な食物によつては得られない力と耐久力と知能の力を与える。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二七三、二七四ページ）

健康を保つためには栄養のある、よい食物を十分に必要とする。

もし利口にくふうするなら、ほとんどどんな土地においても健康的な食物を手に入れることができる。米、麦、とうもろこし、からす麦、およびいんげん豆、えんどう、れんず豆等各種の食品が海外の至るところに送り出されている。こうしたものとその土地のもの、あるいは輸入された果実、またはその地方でできる種々な野菜を用いて、肉類を除外した完全な食事を選ぶ便が与えられている。……

ほしぶどう、プルーン（ほしすもも）、りんご、なし、もも、あんず等の乾燥果実が適当な値段で得られるところでは今までよりもっと多く主食品として食べることができ、それによ

って各種階級の労働者の健康と元気が増大する。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二七五、二七六ページ）

料理学

料理はつまらぬ学問ではない。それは實際生活における一番重要な事柄に属するものである。これはまた、すべての女性が学ばなければならない学問であり、貧しい階級に益となるように教えられなければならない。食欲をそそるように調理され、同時に単純で栄養に富んだものを作るには技術がいる。しかもそれは可能である。料理人は単純で健康的な方法をもって食物を料理することを知り、食物が健康的であると共に単純だからうまいというようにしなければならぬ。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二七九ページ）

われわれは食事を単純にすることにおいて賢く前進していこう。神の摂理によって、どの国でもからだを作るのに必要な栄養を含む数々の食品が生産されている。それを使って、健康的で食欲をそそるような料理を作ることができる。

（C D・九四ページ）

多くの人は、それが義務だとは考えないので、食物を正しく調理しようという努力をしない。

正しい料理は、ラードやバターや肉類を使用しないで単純に健康的に、また、たやすくできるのである。技術を単純さと結び付けなければならない。そうするために婦人は本を読んで、読んだことを忍耐強く実行にうつさなければならない。

(1T・六八ページ)

果実や穀類また野菜をどんな種類の香料も動物性脂肪も用いないで、単純にミルクかクリームで調理したものが最も健康的な食事である。

(CH・一一五ページ)

穀類と果実を動物性脂肪を用いずに、できるかぎり自然のままの状態で調理されたものが、天国に移されるために準備していると公言するすべての者の食卓にのる食物でなければならぬ。

(2T・三五二ページ)

一般に食品中に用いられている砂糖の量はあまりに多すぎる。ケーキ、甘いブディング、メリケン粉で作った菓子、ゼリー、ジャムなどは消化不良の有力な原因となる。ことに有害なのはミルクと卵と砂糖がおもな材料としてはいっているカスタードやブディングである。ミルクと砂糖を多量に同時に使用することは避けるべきである。

(ミニストリー・オブ・ヒーリング二七八ページ)

食物の調理に用いる砂糖を少なくすればするほど気候の暑さのために感じる困難は少なくなる。

(CD・九五ページ)

ミルクを用いる時は十分に殺菌すべきで、それに注意さえすれば病気に感染する危険は少ない。
（ミニストリー・オブ・ヒーリング二七八ページ）

牛乳を用いることが安全でなくなる時が来るかもしれないが、もしも、乳牛が健康であり、その牛乳がよく煮てあれば、なやみの時をそれに先だって作り出す必要はない。

（CD・三五七ページ）

香料や薬味を多く入れた食物

一般の人々に非常によく使用される薬味類は、消化作用に対して破壊的である。

（CD・三三九ページ）

このスピード時代には、食物は刺激の少ないものほどよい。薬味は有害な性質を持っている。からし、こしょう、香料、ピクルス、その他これと同様な食物は胃の炎症を起こし、血液を熱くし、不純にする。アルコール性飲料の影響を示すために、飲酒家の胃の炎症状態がよく引用されるが、刺激性の薬味によってもこれと同様な炎症状態が引き起こされる。まもなく、普通の食物では食欲が満足しなくなり、身体はもの足りなさを感じ、さらに強い刺激物を求める

ようになる。

(ミニストリー・オブ・ヒーリング二九八ページ)

ある人たちは、あまりに嗜好をほしいままにしたために、自分が求めるとおりの食物が得られなければ食事に楽しみを感じなくなっている。薬味や香料のはいった食物が出されると、この火のようなむちをあてて胃を働かせるのである。なぜならば、刺激のない食物には反応しないように胃が取り扱われてきたからである。

(CD・三四〇ページ)

香料ははじめ、胃のやわらかい粘膜を刺激するが、ついにはこの傷つきやすい膜の持つ生来の敏感さを破壊する。血液は熱し、動物的な性癖がよびさまされ、同時に道徳や知能の力は弱くなって低級な情欲の奴隷となる。母親は自分の家族に単純でしかも栄養のある食事を供えるよう研究すべきである。

(CH・一一四ページ)

規則正しい食事

定期の食事をとった後は胃に五時間の休息を与えなければならぬ。次の食事まで一かけらの食物も入れてはならないのである。その間、胃は自分の働きをするのであるが、そうして初めて更に食物を受け入れる状態になるのである。

(CD・一七九ページ)

食事を規則的にすることを注意深く守るべきである。食間には菓子、堅果類、果実、その他どんな食物もとってはならない。食事の不規則は消化器の健全な調子を狂わせ、健康と快活な精神には有害である。そして子供が食卓につくとき、衛生的な食物を喜ばず、有害なものを望むようになる。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング三五四ページ）

わたしたちが休むために横になるときは、胃が働きをすっかり終え、他の器官と同じように休息を楽しむ状態でなければならない。あまり運動をしない人は、夕食がおそくなるのは特に有害である。

多くの場合、食物を欲する脱力感は消化器が一日中過度に使用されたために感じられるものである。一回の食事を処理した後には消化器官は休息を必要とする。少なくとも五、六時間は食事の間におかなければならない。また試みた人はたいてい三食よりも一日二食の方がよいことがわかるであろう。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二八〇・二八二ページ）

一日二食の習慣は一般的にみて健康によいが、事情によつては三回目の食事を必要とすることもある。しかしそれは食べるにしても非常に軽い、最も消化しやすいものでなければならぬ。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二九五ページ）

「学校などで」学生が肉体と精神の労働を兼ねている場合は、三回目の食事に反対する理由

の大部分は除かれる。学生たちには野菜を用いずに、果実とパンのような単純で衛生的な食物で用意した三回目の食事をとらせなさい。

(C D・一七八ページ)

非常に熱かったり、冷たかったりするものを食べてはならない。食物が冷たいと消化が始まる前にそれを温めようとして胃の力が奪われる。同じ理由から冷たい飲み物も有害であるが、熱い飲み物を多量にとることも身体を弱らせる。事実、食事に(水分)が多ければ多いほど消化は困難になる。消化作用が始まる前にその(水分)が吸収されなければならないからである。塩を過度にとらぬようにし、ピクルスや香料のはいった食物を避け、果実を多量に食するならば、食事に際して大量の飲み物を要求する刺激はほとんどなくなるであろう。食物はゆっくり食べ、ていねいにかまなければならない。これは食物が唾液とよくまざり、消化液がよく働くために必要なのである。

(ミニストーリー・オブ・ヒーリング二八ページ)

衛生改革の原則の適用

食事の改革には真の常識というものがあって、この問題は広く深く研究しなければならない。他人のすることが自分のやり方と調和しないからといって他人を非難すべきではない。すべて

の人の習慣を調節しようとして、不変的法則を定めることは不可能であつて、だれひとりとして自分が全般の標準であると思つてはならない。すべての人が同じ物を食するわけにはいかなからである。ある人には美味で健康的であつても、別の人にはまずくて有害であることさえある。ある人は牛乳が飲めないが、他の人は牛乳でよく育つ。また豆類を消化できない人もおり、豆を食べて健康のためになるという人もいる。粗製の穀類がよい人もいれば、それが食べられない人もいる。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二九四ページ）

誤つた食習慣が行われているところでは猶予せず改革に着手すべきである。胃を濫用して消化障害をきたしたときは、身体に無理な負担はすべて除去し、残っている活力を注意深く保存することに努力しなければならない。長期間胃を濫用した場合、再び完全に回復しないかもしれないが、正しい食事法によつてそれ以上の衰弱を防ぎ、多くの人がほぼ完全に回復する。

活発な肉体労働をする強健な人は静かにすわっている習慣の人ほど食物の量や質に注意しなくてもよいが、それでも飲食に自制力を働かせるならば、さらに健康になれる。

ある人は自分の食事の正確な規定を決めてほしいと言う。しかしひとりの人が他の人のために正確な規則を作ることとはできない。各自が理性と自制力を働かせて原則に基づいて行動すべきである。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二八四、二八五ページ）

食事の改革は進歩すべきものであつて、動物の病気が増すにつれ、牛乳や卵の使用がしだいに危険になる。そこで健康的で、安価な他のものをその代用とするように努力しなければならぬ。できるだけ牛乳と卵を用いずに、しかも衛生的でおいしく料理する方法を至る所で人々に教えなければならぬ。……

身体をおろそかにし、これを濫用し、そのために神のみ事業に不適當な者となることは神の栄光とはならない。おいしい、体力をつける食物を準備し、身体に注意を払うことは家長の主要な義務の一つである。食物を節約するよりも、衣服や家具の方で高価でないものを用いる方がずっとよいのである。

ある主婦はお客に高価なごちそうをするために家族の食物を節約するが、これは愚かなことである。お客をもてなす時はもっと単純なものを出し、家族の必要をまず満たすべきである。

接待の必要が生じ、またそれが祝福となるような場合にも、経済がへたなために、あるいは不自然な習慣のためにそれができないことがよくある。日常の食卓にのせる食物は、主婦がわざわざ余分の準備をしなくても、不意の客を歓迎できるような程度のものでなくてはならない。

……

自分の食事について注意して考えてみなさい。原因から結果を学び、自制心を養い、理性で

食欲を支配し、過食によって胃を濫用することなく、健康に必要な衛生的でおいしい食物をとるようになさい。……

健康の法則を理解し、原則によって支配されている者は放縱と節制の両極端を避けるである。単に食欲を満たすだけでなく、身体を養うために食物が選択される。そして神と人とに最高の奉仕ができるように全能力を最も良い状態におこうと努力する。食欲を理性と良心の支配下におくとき、心身の健康が報いられる。彼らは自分の考えを無理に他人に強制しないが、その模範は正しい原則に有益なあかしとなる。こういう人は広く、良い感化を及ぼすものである。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二九四 二九六ページ）

安息日のためには他の日より多量の食物を種類多く準備してはならない。かえって、靈的な事物を理解するよう頭脳がはつきりして活発であるために、食物はいつもより単純で量も少なくすべきである。……

安息日に調理をすることは避けなければならない。しかしそのために冷たい食物をとる必要はない。寒い気候の間は、前日に料理したものを温めるべきである。そして、どんなに単純な食事でもおいしく、また目に美しく作らなければならない。特に子供のある家庭では、安息日にごちそうと思われるようなもの、すなわち、日常食卓に出さないようなものを準備すること

は良い。

(ミニストリー・オブ・ヒーリング二八三ページ)

食欲と情欲の制御

人間が当面しなければならぬ最も強い誘惑の二つは食欲である。精神と肉体の間には不思議な関係があつて相互に反応し合う。生きた機械の各部が調和して活動するように、身体を健康に保ち、体力を養うことがわれわれの人生における第一の学びでなければならない。肉体をおろそかにすることは精神をおろそかにすることである。神を信じる者たちが病弱なからだや發育不全な精神を持っていたのは神の栄光を表すことができない。健康を犠牲にして味覚を満足させることは感覚の不正な濫用である。飲食に関するどんな不節制でもする人は、体力を浪費し道徳的な力を弱め、肉体の法則を犯したための報いを感じるものである。

(3T・四八五、四八六ページ)

多くの人が、過食と、肉欲的な情欲を満足させることによつて、精神的にも肉体的にも働く能力を失う。動物的な傾向は強くなり、道徳的あるいは靈的な性質は弱くなる。われわれが大きな白いみ座の回りに立つとき、その場にいる多くの人々の生涯がどんな記録を示すことだ

う。その時彼らは、もし神から与えられた能力を低下させていなかったらどんなことができたかを悟るのである。そして神から委託された体力と知力のすべてを神にささげていたならば、どんなにすぐれた知能の高さにまで到達できたかをその時知り、悔恨の念に苦悶しつつ自分の生涯をやり直したいと切望する。

（5 T・一三五ページ）

真のクリスチャンは皆、自分の食欲と情欲を統御する。食欲にとらわれた奴隷の身から解放されていなければキリストの真に従順なしもべにはなれない。真理が心に少しも効果を及ぼさないのは食欲や情欲をほしのままにするからである。人が食欲と情欲に支配されているとき、真理の霊と力がその人、すなわち彼の心とからだと霊とを清めることはできない。

（3 T・五六九、五七〇ページ）

キリストが荒野で長期間の断食に耐えられた大きな目的は、克己と節制の必要をわれわれに教えることであつた。この働きはわれわれの食卓に始まり、生活に関するすべての事柄の中で厳格に実行されなければならない。この世の賦い主は、人間の弱い所を助けるために天から来られたが、それはイエスの力によって人間が強くなり、食欲や情欲に打ち勝ち、すべての点で勝者となるためである。

（3 T・四八八ページ）

第四章 肉 食

神は人類が食するように計画された食物を、われわれの最初の先祖にお与えになった。どんな生物の生命をも断つことは、神のご計画に反していたのである。エデンにおいて死があつてはならなかつた。楽園の木々の実が人間の必要とする食物であつた。神は洪水の後まで人間に肉食を許可なさらなかつた。人間が生きてゆくために食べることができるものがすべて破壊されたので、ノアが自分と一緒に箱舟に連れてはいった清い動物を食する許可を、主はその必要に応じてノアにお与えになったのである。しかし、動物性の食物は人間にとって最も健康的な食物ではなかつた。

洪水後、人々は大いに肉食をした。神は人間の生活が墮落しているのをごらんになり、また人間が創造主に逆らつて高慢に自己を高め、自分の好むままに生きてゆく傾向をごらんになった。そこで長命であつた人類に、彼らの罪深い生涯を短くするため、肉食をお許しになったの

である。洪水後間もなく、人類は身体の大きさにおいても、寿命の長さにおいても、急速に減退しはじめたのであった。

（C D・三七三ページ）

エデンにおいて神が人間の食物を選ばれた際、最善のものが何かをお示しになった。イスラエル人のために食物をお選びになった時にも同じ教訓を与えられている。彼らを通して神は世界の人々を祝福し、教えようとお望みになった。そしてこの目的のために最も適した食物を備えられたのであるが、それは肉ではなく、マナ、すなわち「天のパン」であった。動物の肉がイスラエル人に与えられたのは、彼らが不満をいだきエジプトの肉鍋を求めてつばやいたためで、それはほんの短い期間であった。しかもその肉を食べたため多くの人が病気になるって死んだのである。肉を禁ずる食事はそれでもなお心から受け入れられず、いつも陰に陽に不満とつばやきの原因となり、永久的食事となるに至らなかった。

イスラエル民族がカナンに落ち着くと肉食が許されたが、その悪い結果を少なくするため、細心の制度が設けられた。ぶたをはじめ、その他汚れたものといわれていた動物、鳥、魚の肉を食することは禁止された。また許可された肉であっても、その脂肪と血液を食することはきびしく禁じられていた。

健康な動物だけが食用になるのであって、傷があるもの、ひとりでに死んだもの、血液を注

意深く（注ぎ出していない）ものは、いずれも食用にはできなかった。

人間の食物として神が指定された計画から離反したため、イスラエル人は非常な損失をこうむった。肉食を望んだため、その結果を刈り取り、（神の理想とされる品性に達することも、神の御目的を果たすこともできなかった）。「主は彼らにその求めるものを与えられたが、彼らのうちに病気を送って、やせ衰えさせられた」（詩編一〇六ノ一五）。彼らは霊的な事物よりもこの世的な事物を尊び、神が彼らのために立てられた目標である、清く、たかい標準に到達しなかった。

肉食をする人は穀類や野菜の古物を食していることになる。動物は成長するためにその栄養を穀物や野菜からとるからである。穀物や野菜の中の生命はこれを食べたものの中にはいる。（われわれ）は動物の肉を食べてその生命を受けるわけである。だから神が（われわれ）のために備えられている食物をとって、直接その生命を受けた方がどれだけよいだろう。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二八七 二八八ページ）

病気の多い原因

肉は決して最良の食物ではなかった。しかし動物の病気が急激に増加している今日、肉の使用反対の根拠は倍加している。肉食している人は、その動物が生きていた時の状態を見、自分が食べている肉の品質を知ることができたら、いやになってやめてしまうことが多いだろう。人々は結核やがんの病原菌がいっぱいついた肉をいつも食べている。こうして結核、がん、その他の致命的な疾患が伝染するのである。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二八八 二八九ページ）

病気にかかる傾向は肉食によって十倍も増加する。

（2T・六四ページ）

動物は病気にかかっているのです、われわれはその肉を食べることによって、自分の身体組織と血液中に病気の種をまくのである。その結果有毒な空気の中で、何かの変化にあったとき、より敏感にそれを感じてしまい、また、流行している病気や伝染病にさらされた場合には、病気に抵抗できなくなってしまう。

神がわたしに与えてくださった光によると、がんや腫瘍の流行は主として、死んだ動物の肉を多く食べて生きているためである。

（CD・三八六 三八八ページ）

多くの場所で魚類もその食する汚物のために汚染し、病気の原因となっている。魚類が都会の下水に近接する場合、特にそうであって、下水の含有物を食する魚が遠海に遊泳し、水が

きれいな場所で捕獲されることもある。こうして食用に供せられる場合、危険を予想しない人に病氣と死をもたらすに至る。

肉食の影響はただちに認められないかもしれないが、だからと言って、そのことが無害である証拠にはならない。血液を毒し、苦痛を招くものは、（彼らが）食した肉であると教えても信じる人はほとんどいない。肉食だけで病氣になり、死ぬ人が多数ある。しかも、本人も他の人々も真の原因に気がついていない。（ミニストリー・オブ・ヒーリング二九〇ページ）

「豚はあなたがたには汚れたものである」

豚の肉組織には寄生虫が充満している。豚については「これは……汚れたものである。その肉を食べてはならない。またその死体に触れてはならない」（申命記一四ノ八）と神は仰せになった。この命令は豚肉が食用に適さないために与えられたものである。豚は腐肉を食する動物で、ただこの役割のために生存するのであるから、どんな時にも、その肉を決して人間が食してはならなかった。どんな動物でも、不潔物の中に住み、かつ嫌悪すべきものを食しているかぎり、その肉が衛生的であることは不可能である。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二八九ページ）

豚肉は最も一般的な食品の一つであるが、非常に有害なものの一つである。神は、ただご自分の権威を示すために豚肉を食べることをヘブル人に禁止されたのではなく、それが人間のために適当な食物でなかったからであつた。それは組織を*いれ*きで満たし、特に熱い地方においてはいらい病や、またいろいろな種類の病気を引き起こす。そういう地方で身体組織に及ぼす影響は、もっと寒冷な地方におけるよりもはるかに有害である。∴豚肉は他のすべての肉類以上に血液の状態を悪くする。ポークをたくさん食べる人たちは病気になるを得ないのである。

（C D・三九二、三九三ページ）

特に、繊細で、敏感な脳の神経が、弱くなり鈍くなるために、神聖な事柄は認識されなくなり、一般のことと同じ低い水準におかれるようになる。

（2 T・九六ページ）

屋外運動を多くする人々は、たいてい、屋内で生活をし、すわりがちな習慣の人や精神労働をしている人たちほど、ポークを食べることの悪影響を感じない。（C D・三九三ページ）

頭脳と心に及ぼす影響

肉食から来る精神的な害は、身体の病気に比較して決して劣らず顕著に現われるものである。肉食は健康に有害であり、肉体を侵すものはまた同様に頭脳と心に害を及ぼす。

(ミニストリー・オブ・ヒーリング二九〇ページ)

肉食は性格を変化させ、動物的な性質を強める。われわれは食するものによって構成されるのであって、肉食を多くすることは知性の活動を減退させる。学生が肉を味わったことがなければ、勉学において、はるかに多くのことを成就するのである。人間の中の動物的な面が肉食によって強められると、これに比例して知的能力は減退する。

(CD・三八九ページ)

食事が最も単純な種類のものでなければならぬときがあるとすれば、それは今である。肉はわれわれの子供たちの前に出してはならない。その影響は低級な情欲を刺激し、強め、道德的な力を麻痺させる傾向を持っている。

(2T・三五二ページ)

間もなくおいでになるキリストを待っていると証する人々のあいだで、より大きな改革が見られるべきである。われわれの信徒たちのうちにまだなされていない衛生改革の働きがなされなければならぬ。彼らの中には今も肉食をしていて、肉体と知的また霊的な健康を危険にしている人々がある。その人たちは肉食の危険に目ざめなければならない。今日肉食の問題で中途半ばな改心をしている多くの人々は神の民から去って行き、もはや彼らと共に歩まなくなる。

真理を信じると公言する人々は、自分の言葉や行動によって、神とその御事業がいかなる点においてもはずかしめられることがないように、心身の能力を注意深く守らなければならない。習慣や日常の行動は、神の意志に服従させられなければならない。われわれは食事に綿密な注意を払わなければならない。神の民は肉食に反対して、確固とした立場をとらなければならない、ということわたしは明らかに示された。きれいな血液と明せきな頭脳を持ちたいと思うならば、肉食をやめなければならないというメッセージに彼らが従うことを、神がお望みにになったのでなければ、三十年間もこのメッセージをその民にお与えになるだろうか。肉食によって動物的な性質は強められ、霊的な性質は弱められるのである。（C D・三八三ページ）

食事の変更に関する教え

筋肉の力は肉食によると考えるのは誤りである。肉食をしない方が身体組織の必要は十分に満たされ、より活気に満ちた健康を楽しむことができる。穀類、果実、堅果類、野菜などが良い血液をつくるのに必要な栄養を全部含んでおり、肉食によってはこうした栄養素はそれほど

うまく、また完全に供給できない。もし肉食が健康や体力に欠かされぬ重要なものであったならば、最初から人間に定められた食物の中に含まれていたはずである。

肉食をやめると、衰弱感や、元気がなくなったように感じるものがよくある。これが肉食を欠くことのできない証拠であると主張する人が多い。しかしやめたときにもの足りなく感じるのは、この種の食物が刺激性を持っていて血液を熱し、神経を興奮させるためである。ある人にとっては、飲酒家が酒をやめると同様、肉食をやめることは困難であるが、それでも変更した方がよいのである。

肉食をやめたならば、栄養があり、食欲をそそる各種の穀類、堅果類、野菜、果実などで補わなければならない。衰弱した人、または絶えず労働をしてからだをひどく使っている人々の場合は、特にそれが必要である。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング二九一ページ）

肉が主要な食品として用いられない所では特にじょうずな料理法が大切な必要条件である。肉の代わりになるものを何か用意しなければならなかったのであって、それらの肉の代用品は、肉を欲しいと思わなくなるほどよくできていなければならない。

（CG・三八四ページ）

わたしは、肉食から貧弱な食事に変えた家族をよく知っている。その人々の食物は、調理があまりにもへたなために胃がこれをうけつけないのである。そういう人たちが、衛生改革は自

分には合わない、自分の体力は衰えて来ているとわたしに言ったのである。食物は単純に調理されなければならないが、しかし食欲をそそるように細かい配慮がなされなければならない。

（2 T・六三ページ）

神が残りの教会に、肉類、茶、コーヒーおよびその他の有害な食物の使用を廃止するように勧告なさるのは、彼ら自身の益のためである。他のもので、われわれが食して生きてゆくことができる衛生的なよい食物が十分にある。

主の来臨を待っている人々の間で、肉食は最後には廃止される。肉類が彼らの食事の一部を占めることもなくなるのである。われわれは常に、この目的をおぼえて、これに向かって着実に努力するようつとめなければならない。

（C D・三八、三八一ページ）

知能、道徳、また肉体の力は肉食の習慣によつて低下する。肉食は身体組織を狂わせ、頭脳を曇らせ、道徳的な感覚を鈍らせる。愛する兄弟姉妹よ、あなたにとって最も安全な道は肉に手をつけないことであると申し上げる。

（2 T・六四ページ）

第五章 衛生改革に忠実であること

（衛生改革の主要な点を再吟味しているこの使信は、ホワイト夫人が出席されたこの種の会合では最後のものとなった。これは一九〇九年の世界総会で語られたものである。編集者）

多くの人々が、衛生改革の原則に対する以前の忠実さから退歩しているので、わたしは信徒すべてに衛生改革の問題に関する使信を伝えるよう命令を受けている。

神がご自分のこどもたちについていだいておられる目的は、彼らがキリストにあつてりつばな男女に成長することである。そうするためには、彼らは頭と心とからだのすべての力を正しく用いなければならない。精神あるいは肉体の力を少しでも浪費する余裕はないのである。

健康をどのようにして守るかという問題は、最も重要なことの一つである。われわれが神をおそれる気持ちでこの問題を研究するとき、食事を単純にして行くことがわれわれの肉体と霊

の向上のために最善であることを学ぶ。この問題を忍耐よく研究しよう。われわれはこのことで賢明に行動するために、知識と判断力が必要なのである。自然の法則は、抵抗すべきものではなく服従すべきものである。

肉類、茶、コーヒー、また濃厚で不健康な食物を食することの害について教えられ、犠牲をもって神と契約を結ぶ決心をした者は、不健康だとわかつている食物に対する食欲を満たしつづけることはしない。神は、食欲が清められ、よくないものを自制するように要求しておられるのであつて、この働きは神を信ずる人々が完全な民として神の前に立つことができるようになる前になさなければならない。

神の残りの民は改心した人々でなければならない。このメッセージを伝えることによって、魂は改心し清められるべきである。われわれは、この運動の中に神の霊の力を感じなければならない。これは明確な、おどろくべきメッセージであつて、受ける者にとっては何物にも替え難く、貴いものであるから、大いなる叫びをもって宣べ伝えなければならない。われわれは、このメッセージがますます重要性を増して、最後の時まで前進して行くという、変わらない真実な信仰を持たなければならない。

信者であると公言する人々の間には、あかレの中のある部分は神のメッセージとして受け入

れるが、自分の好みにしたがつて欲望を満たす行為をとがめる部分は拒絶する者がいる。そういう人々は自分自身の幸福のためにも教会の繁栄のためにも反対して行動しているのである。光のあるうちに光の中を歩むことは重要である。衛生改革を信じると主張しながら、日常の生活習慣の中でその原則に反して行動する者は、自分自身の魂を傷つけ、信者や未信者の心に間違った印象を与えている。

服従によって得る力

真理を知っている人々には、彼らの行うことがすべてその信仰に一致し、生活は洗練されて清くなり、使命の終結する今日の時代に急速になさねなければならない働きのために準備をする、厳粛な責任が負わされている。食欲をほしきままにするために浪費する時間も体力もない。だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、¹（使徒行伝三ノ一九）とのみ言葉に動かされて、われわれは今、真剣にならなければならない。われわれの中には霊的に欠けていて、完全に改心しなければ確実に失われる人々が多い。あなたはそんな危険をおかす余裕があるだろうか。

神はご自分の民が絶えず前進するように求めておられる。われわれは、食欲をほしのままにすることが、知能の向上のためにも魂の清めのためにも最大の妨げとなることを学ばなければならない。衛生改革を叫びながら、われわれの中の多くの者が間違った食事をしている。食欲をほしのままに満たすことは、肉体と知能を弱らせる最大の原因であって、虚弱さや早死の要因となつている。純潔な精神を得ようとする者は、キリストの中に食欲を制する力があることをおぼえなさい。

肉食に対する欲求を満足させることによつて益を受けることができるものならば、わたしはこういう訴えをしようとは思わないが、わたしはそうでないことを知っている。肉食は身体健康にとって有害であるから、われわれは肉を用いないで生活することを学ばなければならない。菜食のできる立場にありながら、自分の好き勝手に飲食する人々は、現代の真理の他の面に関して主がお与えになつてゐる教えに対して次第に不注意になり、真理が何であるかの知覚を失つて、必ず自分のまいた種を刈り取ることになる。

われわれの学校の学生たちには肉類また不健康とわかつてゐる食物を供してはならないことをわたしは示された。刺激物に対する欲求を強めるようなものは何一つ食卓にのせてはならない。わたしは、年を取つた人にも青年にも、また壮年の人にも心からお願いする。あなたを害

しているものに対する食欲を制し、犠牲によって主に仕えなさい。

肉食をしないでは生きて行けないと感じる人々がたくさんあるが、もしこれらの人たちが自分を主の側におき、主の導きに従って歩もうと断固として決心するならば、ダニエルとその同僚たちのように力と知恵が与えられる。彼らは、主が正しい判断力を与えて下さることを悟るであろう。多くの者が、自分を制する行為によって、神のみ事業のためにどれだけ金銭の節約ができるかを発見しておどろくであろう。犠牲的な行為によってたくわえられたわずかの金額が、克己を必要としなかった多額の金銭よりも多くのことを神のみ事業の建設のために果たすのである。

堅く立つようにとの訴え

セブンスデー・アドベンチストは重大な真理を扱っているのである。四〇年以上も前（一八六三年）に主は、衛生改革について特別な光をわれわれにお与えになったが、われわれはその光の中でどのように歩んでいるだろうか。どれだけの人が神の勧告に一致して生活することを拒否したことだろうか。われわれは神の民として受けた光に応じた進歩をとげなければならな

い。衛生改革の原則を理解し尊重することは、われわれの義務である。われわれは禁酒禁煙問題について他の人々よりも進歩していなければならないのに、われわれの中には、十分に教えられていながら、この問題について神がお与えになった光を尊重する気持ちのほとんど無い教員や牧師たちさえいる。彼らは好きなように食し、好きなように働く。

われわれの働きの中で教師や指導者である人々は、衛生改革に関して聖書の立場に堅く立ち、この世界の歴史の最後の時代に生存していることを信じている人たちに対し率直なあかしをしない。神に仕える者と自分自身に仕える者との差異を示す一線が画されなければならない。

この使命が伝えられた初期にわれわれに与えられた原則は、今日もその時と同様に重要であって、良心的に注意を払わなければならないということをわたしは示された。今はあかりを耕の下から出して、明るく光を輝かすべき時である。

健康的な生活の原則は個人的にもまた教会としても、われわれにとって非常に重要な意味を持っているのである。衛生改革のメッセージが初めてわたしに与えられた当時、わたしは身体が虚弱で、しばしば失神の発作におそわれた。わたしは神に助けを求めて熱心に祈っていた。すると神は衛生改革の大問題をわたしの前に示して下さったのである。神は、ご自分の戒めを守っている人々が、神ご自身との神聖な関係に導かれなければならないこと、そして飲食に節

制を守ることによって、心身を奉仕のために最も良い状態に保たなければならぬことをわたしにお教えになった。この光はわたしにとつて大きな祝福であつた。主がわたしを強くして下さることを知つて、わたしは衛生改革者としての立ち場をとつたのである。わたしは今、この年令にもかかわらず若い頃よりも健康である。

わたしは自分が書いて唱道して来たように衛生改革の原則に従つてはいなかったと、ある人によつて伝えられているが、わたしは自分が忠実な衛生改革者であつたと言うことができる。わたしの家族のメンバーであつた人々は、これがほんとうであることを知っている。

「すべて神の栄光のためにすべきである」

われわれは食事で守らなければならない厳密な線を定めることはしないが、果実や穀類や堅果類が豊富にある国では、肉類は神の民にとって正しい食物ではないというのである。肉食は性質を動物化し、すべての人に対して感じなければならぬ愛や同情心を奪い、低い情欲に、人間のより高い能力を支配させる傾向のあることをわたしは教えられた。たとえば肉食が健康的な時があつたとしても、今日は安全ではないのである。がん、腫瘍、肺の病気などが肉食によ

って多く起こっている。

われわれは肉食を交友の試金石にしてはならないが、肉食をする、自称信者が他に及ぼす影響を考えなければならない。神の使命者として、われわれは人々に、「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」（コリント第一・一〇ノ三一）と言おうではないか。誤った食欲をほしいままに満たすことに反対して、断固としたあかしをしようではないか。人類に与えられたうちで最も厳粛な真理を宣べ伝えている福音の牧者のうちに、エジプトの肉なべに戻る模範を示すような者があるだろうか。神の倉から出る十分の一献金によつて生活を支えられている人々が、自己の欲を満たすことによつて、自分の血管を流れる生命の流れを毒するようなことをするだろうか。神が彼らにお与えになった光と警告を無視するだろうか。肉体の健康は、恵みのうちに成長することと、バランスのとれた気質を身につけるために欠くことのできないものと考えるべきである。胃が正しく取り扱われなければ、正しい道徳的な品性の形成は妨げられる。脳髓と神経は胃に感応する。まちがった飲食は、まちがった思考や行動を起こさせる。

すべての人が、今日試されている。われわれはバプテスマによつてキリストと一つに結ばれたのであるが、もし自分を引きおろして、あるべきでない状態にするいっさいの事物から離れ

ることによつて義務を果たすならば、われわれの生きた頭であるキリストに達するまでに成長する力が与えられ、神の救いを見るであろう。

健康的な生活の原則についてよく理解したときはじめて、完全に目がさめて、われわれは不正な食事によつて生じる災いに気付くようになる。自分の誤りを悟つてその習慣を変える勇氣のある者は、改革の過程が苦闘と多くの忍耐を要することを発見する。しかし、ひとたび正しい味覚が形成されるならば、彼らは以前無害であると考えていた食物の摂取が、徐々にではあるが確実に消化不良やその他いろいろな病氣の原因を作つていたことを悟るのである。

父母たちよ、目をさまして祈りなさい。あらゆる形の不節制に対して嚴重に警戒しなさい。

あなたの子供たちに眞の衛生改革の原則を教えなさい。健康を維持するために何を避けるべきかを教えなさい。神の怒りは、すでに不従順の子らに下り始めている。何という犯罪、何という罪惡、何という不正行為が至る所に見られることであろう。われわれは一つの民として、自分たちの子女を墮落した友たちから守るように非常な注意を払うべきである。

人々を教えよ

衛生改革の原則を人々に教えるためにもつと努力をすべきである。料理学校を開き、また健康的な食物の料理法を戸別に教えなければならない。年をとった者も若い者も、もつと単純に料理する方法を学ぶべきである。真理が伝えられる所ではどこであつても、食物を単純に、しかもおいしく調理する方法を人々に教えなければならない。肉類を使わないで栄養になる食事を用意することができ、それを彼らに示すべきである。

病気をなおす方法よりも健康を維持する方法を知った方がよいことを人々に教えなさい。われわれの教団の医者は賢明な教育家となつて、すべての人の放縦に対して警告し、神が禁じておられるものを断つことが、心身の破壊を防ぐ唯一の道であることを示すべきである。

衛生改革者にならうとして学んでいる人々が、以前にとつていた食事の代わりになる、栄養のある食物を用意するためには、多くの気転と思慮分別がなければならない。神に対する信仰と、熱心な決意と、互いに助け合う気持ちが必要である。ほどよい栄養素に欠けた食事は衛生改革の事業に非難を招く。われわれは人間であるから、肉体に適当な栄養を与える食物を供給しなければならぬのである。

極端は衛生改革の害となる

われわれの中のある人々は、不適当な食物を良心的に避けながらも、肉体を維持するために必要な要素をとることを怠っている。衛生改革について極端な見解をとる人たちは、味けない、満足を与えない程まずい料理を作ってしまう危険がある。食物は栄養になると同時に食欲をそるよう調理されなければならない。また、身体組織が必要としているものを食物から奪ってはならない。わたしは多少の塩を用いている。なぜならば塩は有害であるかわりに、実際は血液のために欠くことのできないものだからである。野菜は少量の牛乳かクリーム、あるいはそれに相当する何かを使っておいしく料理するとよい。

バターによって起こる病気の危険や、幼少な子供たちが多く卵を食べることの害について警告が与えられているが、世話が行きとどき、餌料が適宜に与えられている鶏の卵を用いることは、原則を犯すことだと考える必要はない。卵は、ある特定の毒素を消して治療的に働く特性を持っている。

ある人たちは、牛乳、卵、バターをとらないで、身体に正しい栄養を与えない結果、弱くな

り働けなくなってしまった。こうして衛生改革が悪評をかうのである。われわれがすっかり築こうと努力して来た働きも、神の御心にそぐわない奇妙な事柄で混乱し、教会の力が損われる。しかし神は、このように行き過ぎた考え方の結果を防ぐために手を下されるであろう。福音は罪深い人類に調和をもたらずはすであって、富める者も貧しい者も共にイエスの足もとに導かなければならないのである。

われわれが、牛乳やクリームや卵のような今日用いている食品のうちのあるものを廃さなければならぬ時が来るが、しかし、早まって、また極端な制限をして自分自身に困惑を招く必要はない。情況がそれを要求するようになり、そして主がそのために手段をそなえてくださるまで待ちなさい。

衛生改革の原則を宣伝する働きに成功したいと思う人々は、神のみ言葉を案内者とし助言者としなければならない。衛生改革の原則を教える教師たちがそうする時にのみ有利な立場に立つことができる。廃止した有害な食品の代わりに健康的で味のよい食物をとることをしないで、衛生改革に不利なあかしを立てるようなことは決してしないようにしよう。いかなる方法によっても刺激物に対する食欲を促してはならない。手のこんでいない、単純で健康的な食物だけ食して衛生改革の原則を常に神に感謝しなさい。すべてのことに真実で正しくありなさい。そ

うすればあなたは貴重な勝利を得るであろう。

地方の状態を考慮しなければならない

大食や不節制に反対してわれわれは運動しているとはいえ、人類家族を支配する事情を考慮しなければならない。神は世界各国に生存する人々のために備えをされたのである。神の協力者になりたいと望む者は、どんな食物を食し、どの食物を食してはならないかを規定する前に注意深く考えなければならない。われわれは多数の人々と接触しなければならないのである。衛生改革をとり入れることができないような事情にある人たちに、最も極端な形でこれを教えたなら、益になるところか害を及ぼす。貧しい人々に福音を説くときは、最も栄養になる食物をとるよう彼らに言いなさいとわたしは命じられている。「卵を食べてはいけなとか、牛乳やクリームを用いてはいけな。調理にバターを使用してはいけな」などと彼らに言うことはできないのである。福音は貧しい人々に宣べ伝えられなければならないが、最も厳格な食事を指示する時はまだ来ていない。

その時神は祝福することがおできになる

食欲をほしいままに満たすことは自由だと思っ
ている牧師たちは標準からはるかに遠く、こ
れに及ばない。神は彼らが衛生改革者である
ように望んでおられる。彼らがこの問題につ
いて与えられている光に従って行動するよう求
めておられるのである。われわれの伝える健
康の原則に対して熱心であるべき人々が、今だ
に正しい生活へと改変していないのを見て、わ
たしは悲しく思う。彼らが大きな損失をして
いることを、主が彼らの心に印象づけてくだ
さるようわたしは祈る。もしわれわれの教会
のそれぞれの家族があるべき状態であるなら
ば、われわれは主のために二倍の働きをでき
るかも知れない。

清められ、純潔さを保つために、セブンス
デー・アドベントは心と家庭の中に聖霊を宿
さなければならぬ。今日のイスラエル人が神
の前にへり下り、すべての汚れから魂の宮を
清めるならば、神は病人のための彼らの祈
りを聞いて下さる。そして、病気に対する神
の治療法を用いる時に祝福して下さるとい
う光を、わたしは主から与えられた。神が備
えて下さった単純な治療法を用い、病気と
戦うために信仰をもって、人間ができる限りの
ことをする時、努力が

神に祝福される。

もし神の民がこれ程多くの光を与えられても、間違った習慣を大切に守り、自分の欲望を満たし、改革することを拒むならば、違反の結果に確実に苦しまなければならない。もしも彼らが、どんな犠牲を払ってでも誤った食欲を満たそうとするならば、神はその放縱の結果から奇跡的に彼らを救うことはなさらない。彼らは「苦しみのうちに伏し倒れる」(イザヤ五〇ノ一)のである。

神が備えておられる健康と靈的な賜物の豊かな祝福をどんなに多くの人々が失うことだろう。何か偉大なことをするために特別な勝利と特別な祝福を求めて苦闘をしている魂がたくさんある。こういう目的のためには、祈りと涙とをもって苦しい戦いをしなければならないと彼らはいつも思う。これらの人々が、表わされた神のみ心を知るために祈りをもって聖書をしらべ、そして無条件に、またわがままを捨てて心から神のみ心を行うときに平安を見出すのである。どんなに苦悶し、涙を流して戦ってもその苦しみは彼らが切望する祝福をもたらさしめない。自己を完全に委ねなければならない。彼らは、信仰をもって求めるすべての人に約束されている、神の豊かな恵みを自分のものにして、当面する働きをしなければならない。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わ

たしに従ってきなさい」（ルカ九ノ二三）とイエスは言われた。単純さと自制心をもって生活をされた救い主に従って行こう。言葉と清い生活によってカルバリーの主をかがげよう。救い主は自分自身を神にささげる者のそば近くいて下さる。われわれの心と生活に神のみ霊の働きを必要とする時があるとするならば、それは今である。自己を神に従わせた清い人生を生きるためにこの神の力をつかもう。

（9 T・一五三—一六六ページ）

第六章 神が人と連絡をされる 通路を開けておく

全身の組織に通じている脳神経は、それを通じて神が人間と交わり、その最も深い所にある生命に影響を及ぼすことのできる唯一の媒体である。神経組織中の電流の流れを妨げるものはどんなものでも生命力を減じ、その結果頭脳の感覚能力を鈍らせる。

(2 T・三四七ページ)

不節制はどんな種類であつても、知覚器官を麻痺させ、永遠の事物の価値を正しく評価させず、普通一般の事柄の水準におくほど脳神経の力を弱める。高尚な目的のために備えられた頭脳の高等な能力は、低級な情欲の奴隷にされる。もし、われわれの肉体の習慣が正しくなければ、知的にも道德的にも強くはなれない。それは肉体と道德心との間に大きな交感作用が存在するからである。

(3 T・五〇、五一ページ)

サタンは人類が苦難と悲惨な状態の中に、ますます深く自分を沈めて行くのを見て非常に喜

んでいる。まちがった習慣を持ち、からだが健全でない人は、健全な場合のように熱心に根強く、純粹に神に仕えることができないことをサタンは知っている。病気になったからだは脳に影響を及ぼす。われわれは精神を用いて神に仕えるのである。頭脳は身体的首都である。サタンは、人類が自分を滅ぼし、互いに滅ぼし合う習慣にふけるように導いて破滅させ勝ち誇るのである。そしてそれは、当然神がお受けになるはずの奉仕を神から奪っているからである。サタンは人類を完全に自分の支配下に引き入れようとして絶えず気を配っている。彼が人間をとらえる最も強力な手段は食欲を通してであるから、できる限りの方法で食欲を刺激しようと努力する。

（T e . 一三、一四ページ）

最も破壊的なサタンの策略

サタンは、人類に最も効果的な災いを及ぼす何らかの方法を考案するために墮落した天使たちを集めた。提案がつぎつぎに出されたが、ついにサタン自身が一つの計画を考えた。それは、ぶどうの実や麦や、その他食物として神から与えられた物をとって、人間の体力、知力、道徳力を破壊する毒に変え、サタンが人間を完全に支配できるように感覚を麻痺させようというの

である。人はアルコールの影響を受けてあらゆる種類の犯罪をおかすようにおとし入れられる。誤った食欲によって世界は腐敗状態に陥るのである。サタンは、アルコールを飲むように人間を導くことによって、ますます低く墮落させようとはかる。

サタンは、アルコールやタバコ、お茶やコーヒーの飲用によって世界をとりこにしている。神から与えられた、いつもはつきりさせておかなければならない頭脳が、麻薬の使用によって異常な状態にされ、正しく事を識別する力を失っている。敵に支配されてしまっているのである。人間は自分を氣違いにするもののために理性を売ってしまったので正しいことに対する感覚がない。

(E V・五二九ページ)

創造主は恩恵を惜しみなく人間に与えておられるが、神の摂理によって与えられるこれらすべての賜物が賢明に、節度をもって用いられるならば、貧困や病気や苦しみは地上からほとんど追放されるであろう。しかし悲しいかな、至る所で神の祝福が人間の不正によってのろいに変えられているのを見るのである。

地の産物を、人を酔わせるアルコール性飲料の製造に用いる者は、どんな種類の人びとよりも神の尊い賜物を悪用し、乱用する罪を犯している。栄養になる穀類や健康的でおいしい果実が、感覚を異常にし脳を狂わせる飲み物に変えられている。これらの毒を飲用する結果として、

多くの家庭が生活の楽しみもまた必要品さえも奪われ、暴力行為や犯罪は増し、病氣と死が無数の犠牲者を大酒飲みの墓に急がせる。

（GW・三八五、三八六ページ）

人を酔わせる酒

聖書はどこにも人を酔わせる酒を飲むことを許してはいない。カナにおける婚宴の席上、キリストが水からつくられたのは純粋なぶどうの液であった。これは聖書に「それを破るな、その中に祝福があるから」とある「ぶどうの中にあるしる」である（イザヤ六五ノ八）。

「酒は人をあざける者とし、濃い酒は人をあばれ者とする、これに迷わされる者は無知である。」

「災ある者はだれか、憂いある者はだれか、

争いをする者はだれか、煩いある者はだれか、

ゆえなく傷をうける者はだれか、

赤い目をしている者はだれか。

酒に夜をふかす者、

行つて、混ぜ合わせた酒を味わう者である。

酒はあかく、杯の中にあわだち、なめらかにくだる、

あなたはこれを見てはならない。

これはついに、へびのようにかみ、まむしのように刺す。」

箴言二〇ノ一、二三ノ二九 三二

酒によつて墮落し、奴隷のようになることを、これほどはつきりと人間の手で書いたものはない。酒の奴隷となり、墮落し、自分の悲惨な状態に気がついて、もはや、そのわなからのがれる力がなく、「また酒を求めよう」とする（箴言二三ノ三五）。

ぶどう酒、ビール、サイダーを飲むと強度のアルコール性飲料による場合と同様に酔う。こうした飲み物をとるとさらに強い飲料に対する嗜好を起し、それが飲酒の習慣になつていく。控え目に飲んでいるうちに人間は一生、酒飲みになる教育を受けているのである。しかもこうした軽度の刺激物の作用は実に油断がならないので、その犠牲者が危険と感じた時には、もう飲酒家の大道へと足を踏み入れている。

飲酒家がこうむっている酒の害を示すには何ら議論を要しない。もうろう、泥酔、破滅の状態にある人間が至る所にいる。しかし、キリストはこうした魂のために死なれたのであり、天

使たちは彼らのために嘆くのである。彼らは、われわれが誇る文明の汚点であって、各国にとつては恥辱であり、のろいであり、また危険である。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング三〇二 三〇五ページ）

アルコール性飲料は人間を奴隷にする

アルコール性飲料に対する欲求を満たす時、人は神のかたちに創造された自分を、獣の水準以下に低下させる飲みものを自分から進んで口に入れるのである。理性は麻痺し、知能は鈍り、動物的な情欲が刺激される。そして最も墮落した種類の犯罪をひき起こすようになる。

（3 T・五六一ページ）

人びとは、気違い水を口にしなければなら身ぶるいしてしり込みをするようなことを、酒の勢いで行うようになる。この毒の影響を受けている時はサタンに支配されているのであって、サタンが彼らを治め、彼らはサタンと協力するのである。

（Te・二四ページ）

お酒のために魂を売るよう、彼（サタン）が人間を誘惑する時はこのように働く。彼が肉体も精神も魂も占領してしまっていて、行動するのはも早、人間ではなくサタンなのである。だ

から、生命のある限り愛しいつくしむと約束した妻を打ちのめすために、大酒飲みが手を上げるときはサタンの残虐さが表われるのである。飲んだくれの行動はサタンの狂暴さの表われである。

(MM・一一四ページ)

お酒を飲む人びとは自分自身をサタンの奴隷にする。サタンは、心を酔わせるような遊びを求めて出て行く群衆をのせた船や汽車の責任を託されている人びとを、誘惑して誤った食欲をほしいままにさせ、それによつて神も神の律法も忘れるようにさせる。

彼らは自分が何をしているのかわからず、信号を間違つて出し、列車は衝突し、身ぶるいするような惨事が起こつて人びとは手足を切断されたり死亡したりする。そしてこういう状態がますます著しくなるのである。大酒飲みの道徳的に腐敗した傾向は子孫に伝わり、彼らを通して後世の時代にまで及ぶ。

(Te・三四、三八ページ)

たばこは緩慢に作用する毒である

たばこは緩慢で、潜行的ではあるが、最も有害な毒であつて、どんな形で、これを用いても必ず身体を害する。その影響がおそいだけに、危険も大きく、最初はほとんど気がつかない。

それは神経を刺激し、つぎに麻痺させる。それは脳髄を弱め、鈍らせ、アルコール性飲料以上に強く神経を害することがある。その力は気がつかぬほど微妙で、身体の組織からその影響を除去することはむずかしい。喫煙は酒類に対する欲望を起こさせ、多くの場合、飲酒の基礎を築きあげる。

喫煙は不便で費用がかかり、不潔でからだを汚し、他人に対してはいやな感じを与える。青少年の間に、喫煙は測り知れぬ害を及ぼしている。男の子は非常に早くから喫煙を始める。このたばこの害に対して、肉体や精神の感受性が特に鋭い時代に形成された習慣は、知らない間に体力をそこない、成長を妨げ、知能を麻痺させ、道德的墮落に陥らせる。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング三〇〇 三〇一ページ）

遺伝されなければ、生来たばこに対する自然の欲求はない。

お茶やコーヒーを飲むことによって、たばこに対する欲求が形成されるのである。

薬味や香料を入れて料理された食物は、胃を充血させ血液を不純にし、更に強い刺激物を求めるように導く。

（Te・五六、五七ページ）

香料で濃厚に味付けた肉を食し、お茶やコーヒーを飲むように子供たちにすすめる母親があるが、それはたばこのような一層強い刺激物をほしがるように準備をすることになる。そして

喫煙はお酒に対する欲求を助長させる。

(3 T・四八八、四八九ページ)

喫煙は婦人や子供たちに有害である

婦人や子供たちは、パイプや葉巻きの煙、あるいは喫煙者の不潔な息でよごされた空気を呼吸しなければならぬために害を受ける。こういう空気の中で生活をする人びとはいつもからだの具合が悪い。

(5 T・四四〇ページ)

肺や皮膚の毛穴から排出されるたばこの有毒な臭気を吸うことによつて、乳幼児のからだは毒で満たされる。それはある乳幼児に対しては緩慢に働く毒として作用し、脳、心臓、肝臓、肺臓を冒し、だんだん衰弱していつて死を来すが、他の子供たちにはもっと直接に影響し、けいれんを起こさせたり、ひきつけや麻痺を生じさせて突然の死を招くこともある。たばこの奴隷になっている人は肺から息を吐き出すたびに周囲の空気を毒している。

(Te・五八、五九ページ)

代々の不健康な習慣は今日の青少年に影響を及ぼしている。知能の欠陥、肉体の虚弱、狂った神経、不自然な欲望が両親から子供へ遺産として受け継がれる。同じ習慣がさらに子孫に継

続されて、その悪い結果は増大し、永続するに至る。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング三〇〇ページ）

茶とコーヒーは身体のためにはならない

茶は刺激物として作用し、ある程度、中毒を起こす。コーヒー、その他一般飲料の多くがこれと同じ影響を及ぼす。その第一は気分を浮き立たせ、胃の神経を興奮させ、脳を刺激する。こうして脳より今度は心臓の運動量を増大させ、全身の組織に一時的な活力をおこす。すると疲労が消え、力がついたように感ずる。知能はよみがえり、想像力は非常に活発になる。

こうした結果から、多くの人が茶やコーヒーは身体のために非常によいと思っている。しかしこれはまちがいであって、茶やコーヒーは身体組織の栄養とはならない。その影響は消化が始まらないうちに生じ、力が出たように感ずるのは単なる神経の興奮にすぎない。刺激物の影響が消えると、この不自然な力もなくなり、その結果、興奮の度に応じた倦怠と衰弱が生じる。

こうした神経への刺激物を常用すると頭痛、不眠、心悸亢進、消化不良、手のふるえ、その他多くの障害をきたす。このような刺激は生命力を消耗させるからである。疲れた神経は刺激

や過労ではなく、休息と安静を必要としている。

(ミニストリー・オブ・ヒーリング二九九ページ)

ある人びとは背いてお茶やコーヒーを飲んでいる。健康の法則を犯す者は精神的なめくらになつて、神の律法を犯すようになる。

(Te・八 ページ)

薬品の使用

有毒な薬品をむやみに使うことは多くの病気のもととなり、もつと悪いことの原因となる。病気になつても、その原因を調べるのに骨をおることは少ない。病人はただ苦痛と不便を取り除くことにとめる。

有毒な薬品を使用するため多くの人が終生の病を招き、自然の療法を使えば助かったのに多くの生命が失われていく。いわゆる治療薬と呼ばれている大多数の薬品に含まれている毒は、心身の破滅をきたすような習慣や食欲を作る。特許薬と呼ばれている有名な売薬中の多くのものや、医師が処方したある種の薬でさえ飲酒や阿片、モルヒネの習慣の基礎を築く助けとなるが、これは社会にとって非常に恐ろしい災いである。

（ミニストリー・オブ・ヒーリング九六、九七ページ）

一般に行われているような薬剤を投与することは災いである。薬から遠ざかるように教育しなさい。薬の使用を少しずつ減らしていった、もっと衛生的なものに頼りなさい。すると身体力が、神の癒し手である新鮮な空気や水、適当な運動や公明正大な良心に反応するのである。茶、コーヒーの飲用を続け、肉食に固執する者は薬の必要を感じるが、健康の法則に従いさえすれば、多くの人が一粒の薬も使わずに回復するかも知れないのである。薬はめったに使う必要がない。

（C H・二六一ページ）

セブンスデー・アドベンチスト

社会に対する模範

われわれは一つの民として改革者であり、世界に光をもたらす者であり、神のための忠実な歩哨であって、食欲を誤らせるためにサタンが誘惑をもってはいつて来るすべての道を警戒しているのであると証している。われわれの模範や感化は、改革する面で力とならなければならぬ。良心を鈍らせたり、誘惑を奨励するようなどんな行動も避けなければならない。ただ一

人の人の心にでもサタンが侵入する門戸を開いてはならないのである。

(5 T・三六〇ページ)

唯一の安全な行きかたは、茶、コーヒー、ワイン、たばこ、阿片、アルコール飲料などに触れないこと、口にしないこと、取り扱わないことである。現代の人びとがサタンの誘惑に負けないで、誤った食欲を満たすことに抵抗するため、神の恵みによって強められた意志の力を用いる必要は、数世代前に比較して倍加している。しかもその時代に生存していた人びとよりも現代人の自制力は弱い。これらの刺激物に対する食欲をほしいままにした人びとは、誤った食欲と情欲を子供たちに伝えたのであって、あらゆる形の不節制に抵抗するために一そう強い道徳力が必要なのである。とるべき唯一の安全な行動は、節制の側に固く立って危険な道にはいかないことである。

クリスチャンの道徳的な感覚が、節制の問題で覚醒されるならば、彼らは、自制力の弱い、食欲に抵抗する力のほとんど無い人たちを、最初は食事の時を利用して指導を始め、自分の模範によって助けることができる。われわれがこの人生において形成する習慣が、自分の永遠の利害に影響を及ぼし、永遠の運命が厳格な節制の習慣に依存することを知ったならば、努力して飲食の節制を厳格なまでに守るであろう。行いによって示し、また個人的な努力によって、

われわれは多くの魂を不節制による墮落と犯罪と死から救う助けが出来るのである。姉妹たちは、自分の食卓に健康的で栄養になる食物だけを並べることによって、他の人びとを救う偉大な働きを大いに助けることができる。彼らは、自分の子供たちの味覚と食欲を教育し、すべてのことで節制の習慣を形成し、克己と人びとの幸福のための慈善を奨励するためにその貴重な時間を用いることができるのである。

（3 T・四八八、四八九ページ）

第七章 心と生活の純潔

神はご自身の働きと栄光のために心を配り最高の状態に保つよう、あなたに住居を与えておられる。あなたのからだはあなた自身のものではない。「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、…聖霊の宮である」。あなたがたは神の宮であつて、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」

(2 T・三五二、三五三ページ)

われわれの敵である悪魔が、ほえたけるししのようになり、食いつくすべきものを求めて歩き回っているこの墮落した時代に、わたしは「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていないさい。」(マルコ一四ノ三八)と声をあげて警告しなければならぬことを知るのである。すばらしい才能を持っていて、サタンの働きにそれらを悪用する者がたくさんいる。世俗を脱し、そ

の暗黒の業を捨てたことを公言する人びとに、わたしは何と警告することができだろうか。彼らは神がご自分の律法の保管者とされたのに、外観を装ったいちじくの木のように、いかにもりっぱに繁った枝を全能者の目もはばからず誇示しながらも、神の栄光になるような実を結ばない人びとなのである。彼らの多くは不純な思いや汚れた想像にふけり、不浄な欲望や低級な情欲を心にいだいている。神はそのような木になる実を憎まれる。サタンは得意になって喜ぶが、清く聖なる天使たちは、そういう人びとすることを嫌悪の念をもって眺めるのである。男子も女子も神の律法を犯すことによつて何の得があるのか考えてほしいと思う。どんな事情にあつても、あらゆる場合を通じて律法を破ることは神のみ名を汚し、人間にとつて災いとなる。どんなにその外観が美しく見えても、またどんな人が犯しても、われわれはそうのように考えなければならぬ。

（5 T・一四六ページ）

心の清い者は神を見る。すべての不純な思いは魂をけがし、道德觀念をそこない、聖霊の印象をかき消してしまふ。それは霊的な眼をくもらせるので、人々は神を見ることができない。主は、悔い改める罪人をおゆるしになるだろうし、また実際おゆるしになるが、しかしゆるされても、その魂はそこなわれている。霊的な真理をはつきりみわけたいと思う者は、ことばや思いにおける不純さを避けねばならない。

（各時代の希望第二巻・八ページ）

ある人びとは罪に汚れた放縱な行いの非を認識するが、自分の情欲に勝利できないと言って弁解する。これはキリストのみ名を呼ぶどんな人にとつてもおそるべき告白である。「主の名を呼ぶ者は、すべて不義から離れよ」。(テモテ第二・二ノ一九)この弱さの原因は何であろうか。それは動物的な性癖が行為によつて強められて、ついにより高い能力を支配するようになったからである。男女共に主義原則に欠けている。彼らは自制力がなくなつてしまつたかのように見えるほど長いあいだ、好きなように食欲を満たして来たために、靈的に死にかけている。彼らの人間性の中の低い情欲がすべてを統御し、支配力を持つべきものが腐敗した情欲のしもべになつている。魂は最低の束縛状態におさえられていて、肉欲的であることが神聖なことに對する欲求を消滅させ、靈的に衰えさせたのである。

(2 T・三四八ページ)

神の宮を汚してはならない

青年たちの精神をとらえて考えを腐敗させ、情欲を燃やさせることが、今日の終末時代におけるサタンの特別な働きである。それはサタンが、そうすることによつて汚れた行動を起こすように導くことができ、こうして精神のすべての能力は低下し、自分の意のままに彼らを支配

できることを知っているからである。

（C G・四四〇ページ）

この墮落した時代に品性を形成している青年たちのためにわたしの心は痛む。わたしはまた青年たちの両親のことを考えて身ぶるいするのである。なぜならば、一般に彼らは子をその行くべき道に従って教える自分たちの義務を理解していないことをわたしは示されたからである。風習や流行に心を引かれ、間もなく子供たちはこれらによって支配されるようになり墮落してしまう。そしてその間、彼らの寛大な両親は自分自身が無感覚になって、子供たちの危険に對して眠っているのである。汚れた習慣に染まっていない青年は非常に少ない。彼らは過労を心配して肉体労働を相当免除されている。子供たちが負うべき重荷を親が自分で負っているのである。

過労は悪いが、怠惰の結果はもっと恐れなければならない。何もしないでいると汚れた習慣にふけるようになってしまう。勤労は自慰の悪習慣に比較して、その五分の一も疲労や過労を与えない。両親たちよ、もしも単純な良く統制された労働で、あなたの子供たちが疲れ果てるならば、労働以外に何かが彼らの身体の力を奪い、いつも疲労感を起こさせていることは確実である。神経と筋肉を働かせなければならぬ肉体労働を子供たちにさせなさい。そういう労働に伴う疲労は悪習慣にふけろうとする彼らの心を制御する。

(2 T・三四八、三四九ページ)

不純な思いを暗示するものを読んだり見たりすることを避けなさい。道德力と知能力を育てなさい。

(2 T・四一〇ページ)

神はあなたの思考だけでなく情欲や愛情も制御するように要求しておられる。あなたの救いは、これらのことにおいてあなたが自分自身を統御するか否かにかかっている。情欲や愛情は強力である。注ぐ相手を誤ったり、間違った動機でこれを働かせたりすると、それは非常な力をもってあなたに破滅を来たし、神もなく希望もないあわれな敗残者にしてしまう。

くだらない想像にふけり、汚れたことを考えつづけるならば、あなたはある程度あなたの思いを行動にうつしたのと同様、神のみに罪を犯したことになる。行動を防いでいるのは、ただ機会がないことだけなのである。昼夜夢を見て、空想をえがいていることは悪いことで非常に危険な習慣である。一度形成されると、そういう習慣を破って純潔で清い崇高なテーマに思いを向けることは不可能に近い。もしもあなたが、自分の精神を統御し、空虚な汚れた思いで魂の汚れることを防ぎたいと望むならば、あなたは自分の目や耳やすべての感覚を守る、忠実な歩しうにならなければならない。恵みの力だけが、この最も望ましい働きを果たすことができる。

(2 T・五六一ページ)

過度の勉強によつて、血が頭にばかり集まつてしまうと、病的な興奮状態を生じて、自制力が低下し、一時的な感情や気まぐれに支配されることが非常に多くなる。こうして、不純に對してとびらが開かれる。肉体の能力を全然用いないか、あるいは誤ったことに用いることが、世界中にひろがつている墮落の風潮の大きな原因である。「高ぶり、食物に飽き、安泰（原文、怠惰）に暮していたが」ということは、ソドムに滅亡をもたらした時と同様に、今日の時代においても人類の進歩にとつて恐るべき敵である。

（教育・二四八ページ）

低級な情欲にふけることによつて、非常に多くの者が光に對して目を閉じるようになる。それは彼らが捨てる意志のない罪を見ることを恐れるからである。だれでも見ようとすれば見ることが出来る。だから、もしも彼らが光よりも暗黒を選ぶならばやはり罪を犯したことに違ひはないのである。

（2 T・三五二ページ）

神の律法をけがしたり、これを犯すよりは死を選ぶということがすべてのクリスチャンのモットーでなければならぬ。改革者であることを公言し、人を清める、最も厳肅な真理を持つ民として、われわれは標準を現在よりもはるかに高く掲げなければならぬ。他の人びとが悪に染まらないために、教会内の罪と罪人は即時処理しなければならぬ。真実で純潔であるために、われわれはもっと徹底的な努力をして天幕からアカンを除かなければならぬ。責任の

立場にある者は、兄弟が罪を犯しているのを黙認しないでその人に自分の罪を止めるか、さもなければ教会から離れなければならないことを示しなさい。 (5 T・一四七ページ)

青年は、サタンの最も強力な誘惑を受けてもその忠誠を捨てることがないほど固く主義原則を身につけることができる。サムエルは小さい時非常に人を墮落させる影響に取り囲まれていて、心を悲しませるようなことを見たり聞いたりした。聖職についていたエリのむすこたちはサタンによって支配されていて、周囲全体の雰囲気汚していた。男も女も毎日罪と悪に魅惑されていたが、サムエルは汚れを受けずに生活した。彼の品性の衣にはしみがなかった。恐ろしいうわさで全イスラエルを満たしていた罪と彼は交わらず、またそれを楽しむ気持ちも全くなかった。サムエルは神を愛したのである。サムエルは自分の魂と天との関係を非常に密接に保っていたので、イスラエルを墮落させていたエリのむすこたちの罪についてサムエルに告げるために、一人の天使が遣わされたのであった。 (3 T・四七二―四七四ページ)

道徳的な汚れの結果

りっぱな信仰の告白をする人びとの中に自慰の罪とその確かな結果について理解をしていな

い者がいる。長期にわたって定着した習慣は彼らの理解の目をくもらせてしまう。彼らは身体
の力を奪い、脳神経の力を破壊するこの墮落させる罪の非常な罪深さを認識していない。道徳
的な主義原則は、定着した習慣と衝突する時非常に力が弱いのである。天からの厳粛なメッセ
ージも、この墮落させる悪癖に対して防備されていない心に強い印象を与えることはできない。
肉欲にふけろうとする不自然な欲望を満足させる、病的な興奮によって、敏感な脳神経は健康
的な調子を失っているのである。

（2 T・三四七ページ）

道徳的な退廃は他のどんな害悪よりも人類を墮落させるために働いた。それは驚くほど浸透
していて、ほとんどすべての種類の病気を招くのである。

両親は一般に子供たちがこの汚れた習慣について何でも知っていることに気付かない。非常
に多くの場合、親が事実上の罪人なのである。彼らは結婚した者の特権を乱用し、悪習慣にふ
けることによって動物的な情欲を強めた。情欲が強くなったのに対して、道徳的にも知能的に
も力が弱くなり、肉欲的な性質によって霊的な性質は圧倒されてしまったのである。子供たち
は十分に発育した動物的な性質をもって生まれ、両親の性格の特徴を受けついでいる。これら
の親から生まれた子供たちは、ほとんどきまってこの嫌悪すべき、かくれたきかない習慣に自
然にはいるようになる。親が自分自身の肉欲的な性格の特質を子供たちに与えたために、親の

罪の報いが子供たちに及ぶのである。

靈肉を破壊するこの汚れた習慣が完全に身に着いた者は、自分のかくれた罪惡の重荷をその交わる人びとに伝えなければ落着かない。好奇心は直ちに刺激され、汚れた習慣の知識は青年から青年へ、子供から子供へと伝わり、ついにこの人を墮落させる罪の行為について知らない者はほとんど一人もいなくなる。

（2丁、三九一、三九二ページ）

このかくれた習慣は必ず身体の生命力を破壊する。すべて不必要な活力を使った後には、それに相応した機能の低下が起こる。青少年の間では、重要な資本である脳髓が幼い頃にひどく負担をかけられたために、欠陥や非常な消耗を来たし、それによつて身体は種々な病気の危険にさらされる。

もしもこの習慣が十五才以後も継続するならば、自然は受けて来た酷使や受け続ける酷使に対して抗議し、自然の法則を犯したことに對して彼らに罰金を支払わせる。特に三十から四十五才の年令では、身体に多くの疼痛や、肝臓病や肺の病気、神経痛、リュウマチ、脊椎の疾患、腎臓病、癌性の腫瘍などのような種々な病氣によつて支払わせられるのである。自然の優秀な機械のうちのあるものは破壊し、残った機械に更に重い負担をかけるのであるが、これは病氣の時の自然のりっぱな配剤なのである。しかし突然に身体組織の衰弱をきたして死を招くこと

が多い。

神のみ前においては、人の生命を徐々に、確実に破壊することは、一瞬にしてそれを奪うことと同じ罪である。間違った行動によって自分自身に確かな衰弱をもたらす者は、この世でも罰を受け、完全に悔い改めなければ、生命を一瞬にして破壊する者と同様に天国には受け入れられないのである。神のみ心によって因果関係は制定されているのである。

虚弱な青年をすべて悪習慣にとらわれた者と見ているわけではない。純潔な精神を持ち、良心的な人びとであって、不可抗力によるさまざまな原因で苦しんでいる人たちはいる。

汚れた秘密の習慣は、善良で宗教的な品性を形成しようとする、崇高な決意や努力や意志の力を破壊するものである。クリスチャンであることの意味について少しでも正しい認識のある者はみな、クリストの信徒はクリストの弟子として自分の情欲も体力も知能もすべてクリストの意志に完全に服従させておかなければならないことを承知している。自分の情欲に支配される者はクリストの信徒ではあり得ない。彼らはその汚れた習慣をやめ、クリストに仕えることを選ぶにはあまりにも自分たちの主人、すなわちあらゆる罪惡の創始者に仕えるのに熱心なのである。

（C G・四四四、四四六ページ）

年若い人たちが、精神のまだ未熟なうちに汚れた習慣をとり入れると、肉体も知能も道德的

な品性も完全に正しく發育する力を全く失ってしまう。

(2 T・三五一ページ)

この地上における健康と来世の救いに少しでも価値を認めるならば、汚れた習慣を實行している人びとにとって唯一の希望は、永久にその習慣を捨てることである。これらの習慣に相当長い期間にわたってふけて来た場合は、誘惑に抵抗して、腐敗した欲望を満たすことを拒絶する断固とした努力が必要である。

(C G・四六四ページ)

すべての悪習慣に対する子供たちのための唯一で確かな安全策は、キリストのおりの中に入られて、忠実なまことの羊飼いの監視と保護のもとに置いていただくように求めることである。もしも彼らがキリストのみ声に心を留めるならば、キリストはすべての罪惡から彼らを救い、あらゆる危険から守ってくださる。キリストは「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。……彼らはわたしについて来る。」と言われる。彼らはキリストの中に安らぎを見出し、力と希望を得、気晴らしや心を満足させるために何かを求める、不安な切望感でなやまされることはない。彼らは高価な真珠を捜しあてたのであって、心は平和に満たされているのである。彼らの楽しみは、純潔で平和で高尚な、天国の性質を持ったものであって、心の痛む反省や悔恨を残さない。そのような楽しみは、健康を害したり精神を消耗することがなく健全である。

(C G・四六七ページ)

第八章 病人のための祈り

聖書は「失望せずに、つねに祈るべきこと」を教えている（ルカ一八ノ一）。人がほんとうに祈る必要を感じるときというのは力が尽き、自分の手から生命がすべり落ちていくように感ずるときである。健康な者は、年々歳々絶えることなく与えられている神の驚くべき恵みをよく忘れて、その恵みに対し、神を賛美することをしない。しかし一度病気になる神を思いだす。すなわち、人力が尽きると、人間は神の助けの必要を感じるものである。あわれみ深い神は、真心から神に助けを求める者に顔をそむけたまわない。神は健康なときも、病気のときも等しく避けてどこである。

キリストは地上で伝道されていたときと同じように、今もなおあわれみ深い医者である。キリストの中に、すべての病をいやす乳香があり、あらゆる病弱から回復する力がある。今日、キリストの弟子たちは、昔の弟子たちが祈ったように病人のために祈るべきで、そこに回復が

もたらされるのは、「信仰による祈りは、病んでいる人を救うからである（ヤコブ五ノ一五）。聖霊の力と、ゆるがぬ信仰の確信を通して神の約束を自分のものとすることができるのである。「病人に手をおけば、いやされる」（マルコ一六ノ一八）。この主の約束は、今日もなお使徒の時代と同様信頼できるものであって、神の子の特権を示しており、わたしたちの信仰は、その中に含まれているいつさいのものを、完全に把握していなければならない。キリストのしもべは神の働きの仲介者であり、キリストは彼らを通していやしの力を働かせようと望んでおられる。病人や、苦しむ者を信仰の腕の中にいただき、神のもとに連れて行くことがわたしたちの仕事である。わたしたちは、大治療者を信じるように病人に教えなければならない。わたしたちが、病んでいる人、希望を失った人、悩んでいる人などを神の力にすぎるようにと励ますことを救い主はお望みになっている。

祈りがきかれる条件

神のみ言葉に従って生活するとき初めてわたしたちはその約束の成就を主張できる。詩篇記者は「もしわたしが心に不義をいだいていたならば、主はおききにならないであろう」と言っ

ている（詩篇六六ノ一八）。もし部分的な、心からでない服従であるならば神の約束は果たされない。

神のみ言葉の中には、病人の回復のための特別な祈りに関して訓戒が与えられているが、こうした祈りは最も厳肅なものであつて、慎重な考慮なしに行つてはならない。病人のいやしのための祈りは、信仰の祈りといわれるくらいであるが、単なるみせかけ以上にでない場合が多い。

多くの人は放縦な生活によつて、みずから病を招いている。自然の法則に従わず、完全に純潔な生活を送つてはいない。ある者は飲食、衣服、労働において健康の法則を無視している。また何らかの形で罪惡が、その人の精神または肉体を虚弱にする原因となつてゐることがしばしばある。もしも、こういう人々が健康に恵まれても、その中の多くの者は、神が祈りに答えていやされたのなら、自分は不衛生な習慣を続け、自制もせず誤つた食欲をほしいままにしてもよいと考えて、神の自然の法則も、靈的な律法も平気で犯す生活を相変わらず続けるであらう。もし神が奇跡を行つてこうした人の健康を回復されるとしたら、神は罪を奨励されることになる。病氣をいやす方として神を見あげるように教えても、不健康な習慣を捨てることを教えなければその働きはむだである。祈りが答えられ、神の祝福を受けるためには惡をやめ、善を行う

ようにならなければならない。周囲を清潔にし、生活の習慣を改めなければならない。自然的、靈的両方面の神の律法に調和して生活をしなければならない。

健康回復のため祈りを求める人には、自然の法則であれ、靈的な律法であれ、神の律法を犯すことは罪であり、神の祝福を受けるためには、罪を告白し、罪を捨てなければならないことをはつきりと教えなければならない。

聖書は「互に罪を告白しあい、また、いやされるようにお互のために祈りなさい」と命じている（ヤコブ五ノ一六）。祈りを求めている人には次のように告げなさい。「わたしたちは、心の中を読むことはできません。あなたの心の秘密も知ることはできません。それはただ、あなた自身と神様だけが知っていることです。もしあなたが罪を悔い改めるなら、その罪を告白することがあなたの義務です」と。個人的性質の罪は、神と人間の間の唯一の仲保者であるキリストに告白すべきである。「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」のであるから、いつさいの罪は神にむかって犯されたものであり、キリストを通して神に告白すべきものである（ヨハネ第一・二ノ一）。公になされた罪は、すべて公然と告白しなければならないし、同僚に対してなした罪はその相手につぐないをすべきである。もし健康を求めている者が他人の悪口を言い、家庭や

隣人の間に、または教会内に不和を生ぜしめ、分裂をきたし、軋轢を生ぜしめ、あるいは何か不正な行動によつて他人を罪に導いたりしたことがあつたならば、その人は神に対し、またその相手の人に対し、そのことを告白しなければならない。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめてくださる」(ヨハネ第一・一ノ九)。

過失が改められたとき、わたしたちは聖霊のお示しのままに、冷静な信仰をもつてその病人の要求を神に訴えることができる。神は各人の名を知つておられ、この地上に神がみ子をおあたえになつたのは、ほかならぬその人のためであるかのように各自を心にとめておられる。神の愛は非常に大きく、非常に確実であるから、病人は神に信頼し、喜びを持つように励まされなければならない。身体のことを心配するのはかえつて身体を弱らせ病気を招く。病人が陰鬱に打ち勝つならば、回復の見込みが増大する。「主の目は主を恐れる者の上にあり、そのいつくしみを望む者の上にある」からである(詩篇三三ノ一八)。

病人のため祈るときは「わたしたちはどう祈つたらよいかわからない」ことを覚えなければならぬ(ローマ八ノ二六)。わたしたちが望む祝福が最上のものか否かはわからない。したがって、わたしたちの祈りには次のような気持がなければならない。「主よ、あなたは魂のすべ

ての秘密を知り、これらの人々をよく知っておられます。この人々の仲保者であるイエスは彼らのためにその生命をおささげになりました。彼らに対するイエスの愛はわたしたちが彼らを愛するよりもずっと大きいものです。もし主の栄えとなり、病人の益となるならば、健康が回復するよう、イエスのみ名によってお願い申しあげます。もし回復することがあなたのみ旨でなければ、苦しいときにあなたの恵みが彼らを慰め、そば近くにあなたがおられまして、彼らをささえてくださるようお願い申しあげます」。

神は始めから終りまですべてを知り、あらゆる人の心を熟知しておられる。神は魂の中にあるいつさいの秘密を読み、祈ってもらっている人が生き長らえるとき、その上にきたる試練に耐えられるか否かをご存じである。またその人の生涯は彼ら自身にとっても、社会にとっても祝福となるか、それともものろいとなるかを知っておられる。わたしたちが熱心に祈りをささげるとき「しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と言わなければならない理由の一つがここにある（ルカ二二ノ四二）。神の知恵と、み旨にすべてをゆだねるというこの言葉を、イエスはゲッセマネの園で「わが父よ、もしできることでしたら、どうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください」と懇願されたとき申されたのであった（マタイ二六ノ三九）。神の子、イエスにこの言葉がふさわしいものであったとすれば、有限であり、ま

がいを犯す人間の口にはなおさらのことである。

堅実な方法は、全知なる天の父に自己の願いを任せ、全き信頼をもってすべてをゆだねることである。神のみこころに従って求めるならば、神はおききあげになるということをやわしたちは知っている。それなのに、神にゆだねる気持ちがなく、あまりくどく求めるのはよくない。わたしたちの祈りは命令の形ではなく、懇願の形でなければならない。

健康の回復のために神がその力をもって明らかに働きになる場合もあるが、全部の病人がいやされるとはかぎらない。イエスを信じて眠りにつく者も多い。パトモス島でヨハネは、『今から後、主にあつて死ぬ死人はさいわいである。』¹ またまも言う、『しかし、彼らはその労苦を解かれて休み、そのわざは彼らについていく』と書くように命じられた（黙示録一四ノ一三）。このことからわたしたちは、病気が回復しなかったとしても、その人は信仰がなかったと判断してはならないことがわかる。

だれでも自分の祈りが即座に、また直接にこたえられることを望み、そのこたえが遅れたり、期待に反した形であたえられると失望するが、神は賢明、かつ最善なお方で、わたしたちが望むときに、望むように、いつでもこたえるということはないのである。しかしわたしたちの希望が全部かなえられるよりもっとよい方法をとってくださるのである。わたした

ちは神の知恵と愛を信頼できるようになるため、わたしたちの願いを認めたまえ、と祈るのではなく、神のみ心を知り、それを果たすように務めなければならない。自分の要求や興味を、神のみこころを考える気持で忘れてしまわなければならない。信仰をためすこうした体験は我を益し、それによって自分の信仰が真実であり、神のみ言葉の上に堅くたった信仰であるか、それとも事情が変われば動揺し、不安定で変わりやすいものかが判然するものである。信仰は働かすことによって強くなる。エホバに仕える者のために、聖書の中には尊い約束があることを覚え、忍耐を十分に働かせなければならない。

すべての人がこうした原則を理解できるわけではない。神のいやしの恵みを求める人の多くは、直ちに祈りがこたえられないと自分の信仰に欠陥があるように思う。したがって病気のために弱った人には賢明な助言をもって、彼らがよく分別して行動できるように勧めなければならない。病人よりも長く生きのびられる、その友人たちに対する義務を無視したり、健康回復のために自然の療法を利用するのを怠ってはならない。

ここにまたよく陥る危険がある。ある者は祈りがこたえられていやされることを信じ、信仰の不足を示すようなことをしてはならないと思つて、何もしない。しかし、死ぬと思われたならば、その前にきちんとしておきたいと思ういろいろなことを怠ってはならない。臨終に際し、

愛する者に語りたいと思っていた励ましの言葉を与えるのを恐れてはならない。

祈りによっていやされようと求めている者は、与えられている治療法を用いるのを怠ってはならない。苦痛を和らげ、健康を回復する自然の働きを助けるために神が備えられた治療法を用いること、神と協力して回復に最も適する状態にすることは信仰の否定にはならない。神は生命の法則に関する知識を、人間の力で得られるようになさった。この知識は、わたしたちが利用するために手の届くところにおかれている。健康回復のためにはあらゆる手段、できるかぎりの好機を利用して、自然の法則に調和するように働かなければならない。病人がいやされるようにと祈るとき、神と協力する特権を感謝し、神が備えられた手段が祝福されるように願いつつ、さらに力を入れて働くことができる。

治療法を用いることについては神のみ言葉がこれを認めている。イスラエルの王、ヒゼキヤが病気にかったとき、神の預言者は死ななければならぬという伝言を王にもたらした。このとき、王は神に呼び求め、神はこのしもべの祈りをきき、その命を十五年のばすという言葉を送られた。この場合、神の一言によってヒゼキヤは直ったはずであったが、「干いちじくのひとかたまりを持ってこさせ、それを腫物につけなさい。そうすればなおるでしょう」という特別な命令が下った（イザヤ書三八ノ二一）。

病人がいやされるように祈ったら、その結果のいかんを問わず、神に対する信仰を失わないようにしよう。もし死別しなければならぬときがきたら、神の手がその苦しい杯をわたしたちのくちびるに与えておられることを覚えて、それを受けよう。しかしもし健康が回復されたならば、いやしの恵みを受けた者は、創造主に対して新たな義務を負わされたことを忘れてはならない。十人のらい病人がきよめられた時、ただひとりだけがイエスを見いだし、栄えを帰すために帰ってきた。わたしたちは神のあわれみを感じなかった考えのない九人のようであってはならない。「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない」（ヤコブ一七）。

第九章 医療事業

医事伝道の働きは福音の開拓事業であつて、現代の真理が多くの家庭にはいるための門戸である。神の民は心と肉体の両方の必要に応じるために、奉仕することを学ばなければならないのであるから、真の医事伝道者でなければならない。実地の働きによつて得た知識と体験をもつて病人を治療するために出て行くとき、われわれの働き人は真に純粹な無我の精神を表わさなければならない。彼らが各家庭を戸別に訪問するとき、多くの人の心に接近する機会を発見する。他の方法では決して福音のメッセージを聞くことがなかった多くの人たちに手がとどくのである。衛生改革の原則を実地に示すことは、われわれの福音事業に対する偏見を除く大きな助けとなる。医事伝道事業の創設者である偉大な医師、キリストは、このように現代の真理を伝えようと努力するすべての者を祝福される。

肉体の癒しは福音の働きと一つに結ばれている。キリストがご自分の弟子たちを最初の伝道

旅行におくり出されたとき「行って『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」（マタイ一〇ノ七、八）と彼らにお命じになった。

神の任命には改革の必要がなく、真理を与えるキリストの方法には改善の余地がない。救い主は弟子たちに実地訓練をされ、真理を信じることによって、人びとが喜びを得るような伝道の仕方を教えられた。救い主は疲れた者、重荷を負っている者、しいたげられている者に同情され、飢えた人に食物を与え、病人をお癒しになった。キリストは巡り歩いて善いことをされたのである。その果たされた善行、やさしい言葉や親切な行いによって、救い主は人びとに福音の意味を解かれた。

人間のためのキリストの働きは終わってはいない。今日も続いている。キリストの大使たちは同じような方法で福音を宣べ伝え、失われた者や滅びに向かっている者にキリストのあわれみ深い愛を表わさなければならない。助けを必要としている人びとに対して、私心のない関心を持つことにより、福音の真理を実際に示すべきである。この働きには、単に説教をすることよりもはるかに多くのことが含まれている。世界に福音を宣べ伝えることが、キリストのみ名によって出て行く者たちに神がお与えになった働きである。彼らはキリストと共同の伝道者であ

って、滅びようとしている人びとにキリストのやさしい、あわれみ深い愛を表わす者でなければならぬ。神は、現代の真理をすでに知っている人びとに説教することではなく、最後のあわれみのメッセージを一度も聞いたことのない者に警告を与えて神のために働く、多数の人びとを求めておられる。魂に対する切なる思いに満ちあふれた心で働きなさい。医事伝道の働きをしなさい。そうすることによって、あなたがたは人びとの心に近づくことができ、真理をもつとはつきりと宣べ伝える道が開かれるのである。(C H・四九七 四九九ページ)

機関を設立すべきである

福音のための医事伝道事業を必要としている場所はたくさんあるが、そういう所に小さい施設を建てるべきである。われわれのサニタリウムは階級の上下、貧富の差なくすべての人に手を差しのべる手段となるように神は計画しておられるのであって、その働きは、神が世界に送られたメッセージに人びとの注意を引くように行われなければならない。

(C H・五〇一ページ)

肉体と霊とに対する助けの働きを調和させて、病人が天来の医師の力に信頼するよう導かな

ければならない。適当な治療を施すと同時に、キリストの癒しの恩恵を求めて祈る者は、患者の心に信仰を起こさせる。彼らの行動は、その病気が絶望的であると思っていた人たちを元気づける。

これがわれわれのサニタリウムが設立された理由である。すなわち、信仰の祈りを、適当な治療と肉体および霊的な正しい生活指導と共に行うことによって、望みのない者に勇気を与えるためである。このような奉仕によって多くの人びとが回心するのである。われわれのサニタリウムで働く医師は、魂を癒す明瞭な福音のメッセージを与えなければならない。

（MM・二四八ページ）

福音の開拓事業

われわれがつかわれるどんな国においても、道德の標準を向上させたいと思うならば、人びとの肉体的な習慣を正しく直すことから始めなければならない。（CH・五〇五ページ）

医事伝道事業は苦しみから解放する福音を人類にもたらす。それは福音の開拓事業である。それはキリストのあわれみが示される実際的な福音であって、この働きの必要は非常に大きく、

世界はそのために関われている。神よ願わくば、医事伝道事業の重要性が理解され、早速、新しい伝道地に働きが開始されますように。そうするならば伝道の働きは主の方法に従ったものとなり、病人は癒され、苦しんでいる不幸な人びとは祝福されるであろう。

(MM・二三九ページ)

あなたがたは多くの偏見に出会い、間違った熱心さや誤って敬神と呼ばれているものを非常に多く見るがしかし、国の内外いずれの伝道地においても、真理の種が蒔かれるために神が備えて来られた人びとを予想以上に多く見出すであろう。彼らは神のメッセージが提供される時、喜んで迎えるのである。(CH・五〇二ページ)

医事伝道が全体の働きに対して持っている関係は、腕が身体に対して持っている関係と同様であること以外にわたしは示されていない。福音宣教は、真理を宣伝し、病人と健康人すべての人のための働きを前進させて行く組織的な働きである。これがからだであって、医事伝道事業は腕であり、キリストが全体のかしらである。このようにわたしは示された。

あなたの手近にあって利用できるものを使って医事伝道を始めなさい。そこから聖書研究をする道が開かれることを発見するであろう。天の父は、病人を取り扱う方法を知らなければならぬ人たちと、あなたが接触するようにお導きになる。病気の治療についてあなたの知って

いることを実行にうつしなさい。そうすることによって苦しみは緩和され、あなたは飢えた魂に生命のパンを分け与える機会を得るであろう。

（M M・二三七、二三九ページ）

全員が一致協力すべき働き

真理に対して社会に存在する偏見を打ち破るための働きとして、常にわたしに示されて来た医事伝道の働きに、福音の牧者は一致協力しなければならない。

福音の牧者が病気の治療法を知っていれば、彼の働きは二倍は成功するであろう。人びとの地位や条件がどうであっても、そのままの状態で受け入れて、できる限りすべての面で彼らを助けることがすなわち福音伝道である。牧師は病人の家庭に行つて「わたしはあなたをお助けしようとしているのです。わたしは最善を尽します。わたしは医者ではなく牧師ですが御病人や苦しんでいるかたたちに奉仕をすることが好きなのです」と言わなければならぬかも知れない。肉体が病気の人びとは、ほとんど心も病んでおり、心が病気の時肉体も病気になるのである。

福音と医療の働きの間には分裂があつてはならない。医師は牧師と平等に働き、肉体の回復の

ために尽くすのと同じ、熱心さと周到さをもって魂の救いのために努力すべきである。心からだの医師になるように青年を教育する利点を認めない人たちは、病人の治療に時間を費す医事伝道者を支えるために十分の一献金を用いるべきではないと言う。そのような言葉に対してわたしは、心が事態の真相をとらえることができないほど偏狭になってはならないと告げるように命じられた。福音の牧者であつて、また医事伝道者でもあり、肉体の病気をなおすことができる者は、そういうことができない者よりもはるかに有能な働き人であつて、福音の牧者としての彼の働きは、ずっと、より完璧である。

特別に教育を受けた医師は、他の人びとが働くことができない都市での働きを始めることができる。と主は言明された。衛生改革のメッセージを教えなさい。人びとはその権威を認めるものである。

そう明な医師によつて聖書の原理が教えられると、それは多くの人びとに非常な力を及ぼすのである。医師と福音の牧者の働きの両者の影響を兼ねることが出来る者は有能な力を持つ。その働きが人びとの良識に訴えて良い印象を与えるのである。

われわれの医師はこのようなに働かなければならない。彼らが福音の宣教師として働き、主イエスによつて心がどのように癒されるかについて教える時、主のみわざを行っているのである。

すべての医師が適当な治療の施しかたを知っていると、病人のために信仰をもってどのように祈るかを知っていなければならない。同時にまた神の牧者の一人として、悔い改めと回心を教え、魂と肉体の救いについて教えるために努力しなければならない。このように働きを組み合わせることによって体験を広め、影響力を大いに増すのである。

（MM・二三七 二四七ページ）

医療の働きは真理に対して門戸を開く

伝道者としての看護婦が進めて行かなければならない多くの方面の働きがある。よく訓練された看護婦には、人びとの家庭に行つて真理に対する興味を起こさせるように努力する道が開かれている。ほとんどすべての地域に、どんな宗教的な礼拝にも出席しない多数の人びとがいる。福音をもつて彼らに手を届かせるためには彼らの家庭に持つて行かなければならない。肉体的な困難から救うことが、彼らの心に接近できる唯一の道であることが多い。看護婦が伝道者として病人の世話をし、貧しい人びとの苦しみを除く時、彼らと共に祈り神のみ言葉を讀んで聞かせ、救い主について話をする機会を多く見出す。彼女たちは、情欲によって墮落した食

欲を自制する意志の力のない、無力な人びとと共に、彼らのために祈ることができる。また失敗をし、失望している人びとの生涯に希望の光をもたらすことができる。私心のない親切な行為によつて表わされた彼らの無我の愛は、これらの苦しんでいる人たちにキリストの愛を信じやすくさせる。

医事伝道の働きは、かつてはりっぱな頭脳を持ち、非常に豊かな資格を備えた人で、適切な努力によつてはその破滅状態から救い出される人びとを墮落のどん底に発見することをわたしは示された。同情をもつて看護し肉体の必要を満たした後、その人に示さなければならぬのはイエスのうちにある真理である。聖霊はそのような魂のために努力をしている人と共に働き協力しておられるのであつて、ある人びとはその信仰を岩の上に築くことの価値を認める。

右手はからだのはいる門戸を開くために用いられるのであつて、これが医事伝道の果たさなければならぬ役割である。それは主として現代の真理が受け入れられるように、道を準備するためである。からだは手がなくては役に立たない。からだを尊ぶならば、それなしではからだは何もできないほど重要な助け手もまた尊ばなければならない。であるから、右手を冷淡に取り扱い、その助けを拒絶するからだは何一つ成し遂げることはできない。

福音を実行しその原則を持ち続けること、これが命から命に至らせるかおりである。単に福音

を説教する者に閉ざされていた門戸も賢明な医事伝道者に対しては開放される。神は肉体の苦痛を取り除くことによつて人の心を動かされるのである。真理の種は心のうちにまかれ、神によつて水がそそがれる。この種が生きている徴候を示すまでには、多くの忍耐が要求されるかも知れないが、ついには芽を出して永遠の生命に至る実を結ぶのである。

第十章 自分と信仰の違う 人びととの関係

われわれはどんなことであれ、世と結合してはならないのだろうか、と質問をされるかも知れない。そうしたとき主のみ言葉がわれわれの導き手となるべきである。われわれが無神論者や信仰のない者と同一視されるようなつながりは、すべてみ言葉によって禁じられている。われわれは彼らの間から出て行き、彼らと分離していなければならないのである。どんな場合も、われわれは彼らの働きの計画の中で彼らと合併してはならない。と言ってもわれわれは隠とん生活をすべきではなく、世間の人びとにできる限りの善事を尽くさなければならぬのである。

キリストはこの点で模範を示しておられる。キリストは取税人や罪人と食事を共にするよう招かれたとき、それを拒まれなかった。それは彼らと交わることに以外に、この階級に手を伸ばすことができなかったからである。しかしあらゆる機会にキリストは、永遠に重要なテーマ

を彼らに与えさせるような話題を提供なさった。そしてキリストは「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」（マタイ五ノ一六）と命じておられる。

（GW・三九四ページ）

もし、われわれが彼らを神に導く目的で未信者と交わり、彼らの感化に負けないほど霊的に強ければ未信者との交際はわれわれに害を与えない。

キリストはこの世界を救い、罪に陥った人間を無限なる神に結び合わせるためにこの世に來られたのである。キリストの信徒は光の通路とならなければならない。神との交わりを保って、天から受けるすばらしい祝福を、暗黒と誤びゅうの中にいる人びとに与えなければならない。エノクは彼の時代にはびこっていた罪惡によつて汚されはしなかった。われわれも今日汚される必要はない。かえってわれわれの主のように、苦しんでいる人に同情し、不幸な者をあわれみ、貧しい人や悩んでいる人、望みを失っている者の気持や必要に對して寛大な思いやりを示すことができるのである。

（5T・一一三ページ）

第三天使の使命がわれわれにとって重要な意味があり、眞の安息日を守ることは、神に仕える者と仕えない者を区別するしるしとなるということを、兄弟たちが認識するようにとわたし

は祈る。眠くなり関心を失った者を覚醒させなさい。

われわれは清くなるように召されたのであるから、われわれの信仰の特色を維持するか否かはささいな問題であるという印象を与えないように注意しなければならない。われわれが真理と正義のために過去においてとって来た態度よりももっと断固とした態度をとらなければならない厳粛な義務がわれわれに負わされている。神の戒めを守る者と守らない者との間の境界線は、誤解の余地がないほど明白に表示されなければならない。われわれは心から神をあがめ、神との契約関係を維持するためのあらゆる手段を勤勉に用いるべきである。それはわれわれが神の祝福、すなわち非常にきびしい試練に会わなければならない民にとってほんとうに欠くことのできない祝福を受けるためである。

われわれの信仰、われわれの宗教が、自分たちの生活の中で支配力を持っていないという印象を与えることは、大いに神をはずかしめることである。そうするときわれわれは自分の生命である神の戒めから離れ、そのお方がわれわれの神であって、われわれはそのお方の民であるということを否定するのである。

(7 T・一〇八ページ)

他教派の牧師や集団に語る

他の教会で話をする機会があるかもしれない。そのような機会を利用するとき、「へびのうに賢く、はどのように素直であれ」との救い主のみ言葉をおぼえなさい。非難するような演説をして反対者のうらみを買ってはならない。そうすることによって真理がはいる戸を閉ざしてしまうのである。はつきりとしたメッセージを伝えなければならぬが、敵対心を起こさせないように用心しなさい。多くの魂が救われなければならないのである。あらあらしい表現はすべて押えなさい。言葉と行いによつて救いに至る知恵を示し、接するすべての人にキリストを表わしなさい。あなたの足は、平和の福音の備えと、人びとに対する善意をはいていることをすべての人に見せなさい。キリストの霊で満たされて働きを始めるならば、すばらしい結果を見るであろう。正義とあわれみと愛をもつて働きを進めて行くならば、必要に応じて助けが与えられる。真理は成功し勝利を獲得する。

（E V・五六三ページ）

われわれには他の教会の牧師たちのためにしなければならぬ仕事がある。神は彼らが救われるように望んでおられる。彼らもわれわれと同様に信仰と服従によつてのみ、永遠の生命が

得られるのである。彼らがそれを得るために、われわれは熱心に彼らのために努力をしなければならぬ。神は、彼らが今日の神の特別な働きに参加するよう望んでおられる。神はご自分の僕たちのために時に応じて食物をそなえておられるが、他の教会の牧師たちにもその輪に加わるようにと求めておられるのである。彼らがこの働きに携わってはいけない理由があるだろうか。われわれの牧師は他の教派の牧師に近づくよう努力すべきである。キリストがとりなしをしておられるこれらの人びとのために、またこれらの人びとと共に祈りなさい。彼らの責任は厳粛である。キリストの使者としてわれわれは、これら羊の群れの牧者たちに深く熱心な関心を表わすべきである。

(6 T・七七、七八ページ)

われわれの牧師は、他の牧師たちのために伝道することを自分の特別な仕事とすべきである。彼らと論争をするのではなく、聖書を手に持って、み言葉を研究するように促すのである。もしこのことが行われるならば、今日誤ったことを説いている多くの牧師が、現代の真理の説教をするようになるであろう。

(E V・五六二ページ)

第十一章 一般社会の統治者と法律に

対するわれわれの関係

一般社会の権威に対して信徒がとるべき態度の概要を使徒は明瞭に述べている。「あなたがたは、すべての人の立てた制度に、主のゆえに従いなさい。主権者としての王であろうと、あるいは、悪を行う者を罰し善を行う者を賞するために、王からつかわされた長官であろうと、これに従いなさい。善を行うことによって、愚かな人々の無知な発言を封じるのは、神の御旨なのである。自由人にふさわしく行動しなさい。ただし、自由をば悪を行う口実として用いず、神の僕にふさわしく行動しなさい。すべての人をうやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ、王を尊びなさい。」（ペテロ第一・二ノ一三 一七）。

（A A・五二二ページ）

われわれの上には支配者として任命された人びとがあり、また国民を統制する法律がある。これらの法律がなかったならば社会状態は今日よりもっとひどかったであろう。これらの法

律の中には善いものも悪いものもある。悪いものが数を増して来ているから、われわれはそのうちに困難な立場に立たせられる時が来る。しかし神は、ご自分の民が確固としてみ言葉の原則に従って行動するように支持してくださるのである。

（1 T・二〇一ページ）

国家の法律は、神がシナイからはっきり聞えるみ声をもって語り、後に御自身の指で石の上に刻まれた、より高い律法に反しない限り、どんな場合でも服従することがわれわれの義務であることをわたしは示された。「わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神になり、彼らはわたしの民となるであらう。」心に神の律法が書いてある者は人間よりもむしろ神に従う。そして、わずかでも神の律法からそれるよりはむしろすべての人間の命令にそむくことを選ぶ。真理を靈感によって教えられ、神のすべてのみ言葉によって生きるよう良心に導かれている神の民は、その心に書かれた神の律法を、自分たちが認めることができまた従うことができる唯一の権威として信じる。神の律法の知恵と権威に並ぶものはない。

（1 T・三六一ページ）

イエスの在世当時の政治は墮落していて、圧制的であつた。棄てておけない悪弊、搾取、偏狭、暴虐な残酷さがいたるところにみられた。それでも救い主は、社会改革を試みられなかった。主は国民の悪弊を攻撃したり、国民の敵を非難したりされなかった。主は、権力者たち

の権威や行政に干渉されなかった。われわれの模範であられたおかたは、現世の政治から遠ざかっておられた。

（各時代の希望第二巻・三一五ページ）

キリストは何回となく法律に関する問題や政治的な問題を決定するように求められたが、世的な事ごとに口出しすることは拒絶された。キリストは、ご自分が建設するために来られた偉大な霊的王国、すなわち義の王国のかしらとしてわれわれの世界に立たれたのである。キリストの教えは、この王国を支配し、人間を高潔にし清める、主義原則を明らかにした。キリストは正義とあわれみと愛が、エホバの王国を支配する力であることをお示しになった。

（9 T・二一八ページ）

スパイたちがイエスのもとにやってきて、あたかも自分たちの義務を知りたいと望んでいるかのように、誠実さをよそおいながら、「先生、わたしたちはあなたが真実なかで、だれをも、はばかられないことを知っています。あなたは人に分け隔てをなさらないで、真理に基いて神の道を教えてくださいます。ところで、カイザルに税金を納めてよいでしょうか、いいのでしょうか」と言った（マルコー二ノ一四）。

キリストの答は言いのがれではなく、質問に対する率直な答であった。カイザルの名前と肖像がぎざまれているローマの貨幣を手を持ちながら、イエスは、彼らがローマの権力下に生活

しているのだから、神に対する義務と矛盾しない限り、ローマの求める支持を与えるべきであると宣言された。

パリサイ人たちはキリストの答を聞いたとき、「驚嘆し、イエスを残して立ち去った」（マタイ二二ノ二二）。イエスは彼らの偽善と独断を責められたが、そうすることによって、彼は、一つの大原則、すなわち一国の政府に対する人の義務の限界と神に対する人の義務とをはっきり定めている一つの原則を述べられたのであった。

（各時代の希望第三巻・四七 五一ページ）

誓いを立てること

わたしは神を信じている人びとの中に、誓約について間違いを犯した者たちのあるのを見た。サタンはこれを利用して彼らをなやまし、主の財産を彼らから奪った。わたしは「いつさい誓ってはならない」という主のみ言葉は法的な誓約について言っているのではないことを教えられた。「あなたがたの言葉は、ただ、しかり、しかり、否、否、であるべきだ。それ以上に出ることは、悪から来るのである。」（マタイ五ノ三四、三七）。これは一般の会話を指して言うて

いるのである。ある人びとは大げさに物を言う。自分の生命をかけて誓う者もあり、自分の頭にかけて誓う者もある。自分が生きているように確実だ、自分に頭がついているように確実であると言う。ある人はある事がらがその通りだということを証言するために天と地を証人とする。ある者はもし自分の言っていることがほんとうでなかったら、神が打ち殺してくださいとうに望むのである。イエスが弟子たちに警告されたのはこのようなたぐいの誓いに対してである。

わたしは主が今もお国家の法律について何かをしておられることを見せられた。イエスが聖所におられる間、抑制する神の霊の働きを統治者も国民も感じる。しかしサタンは世界の大部分の人びとを支配するので、国の法律がなかったら、われわれはもっと多くの苦難を経験するはずである。実際に必要な時が来て、神を信ずる者たちが合法的に証言することを求められる場合、自分の言うことが真実であってそれ以外の何ものでもないということをして神に厳粛に誓うことは、神のみ言葉に違反しないことをわたしは示された。

わたしは、この世界に矛盾することなく誓いをもって証言することができる人間がいるとすれば、それはクリスチャンであることを知った。クリスチャンは神のみ顔の光の中で生き、そのみ力によって強く成長して行くのであるから、法律によって重要な問題が決定されなければなら

ないとき、クリスチャンのように神に訴えることができる者は他にはいない。わたしは神が御自身を指して誓われるということに注目するよう天使によって命じられた。

（1 T・二〇一 二〇三ページ）

政治的な扇動

われわれの教会や学校で聖書を教えている人びとは、政治家や政策について、賛成か反対かどちらにしても、一緒になって自分たちの考えを公けにすることは許されていない。なぜならば、そうすることによって他の人びとの気持を扇動し、各人が勝手に持論を展開するようになるからである。現代の真理を信じると公言している人びとの中で、このように扇動されて自分の意見や政治的なえり好みを表現する者があつては教会に分裂が起こる。

主はご自分の民が政治的な問題を忘れるように望んでおられる。これらの話題については沈黙が雄弁である。キリストはご自分の信徒が、神のみ言葉の中に明示されている純粋な福音の原則に一致団結するように求めておられるのである。政党に対して投票することは安全ではない。なぜならば、われわれが投票するものが誰であるかがわからないからである。どんな政治

的な計画にでも参加することは安全ではない。

真にクリスチャンである者は、まことのぶどうの木の花の枝であって、そのぶどうの木と同じ実を結ぶ。彼らはクリスチャンの交わりにおいて調和して行動する。彼らは政党の記章ではなくキリストの記章をつける。

それならば、われわれはどうすべきだろうか。政治的な問題はそのままにしておきなさい。大きなぶどう園が耕されなければならないのである。確かにクリスチャンは未信者の間で働かなければならないが、世間の人びとと同じように見えてはならない。政治を語ったり行ったりするために時間を費すべきではない。そうすることによって、敵に侵入する機会を与え、不和やあつれきを起こさせるからである。

神の子らは政治から離れているべきである。政治的な争いに参加してはならない。世俗から離れなさい、そして教会や学校内に、争いや混乱を起こすような考えを持ち込むことは慎みなさい。不和は利己的な人びとによって組織内に持ち込まれる精神的な毒である。

(G W ・ 三九一 三九五ページ)

不注意な発言の危険

神の戒めに反しないかぎり、すべてのことにおいて自分の国の法律に従うように人びとに教えなさい。

（9 T・二三八ページ）

ある兄弟たちが色々なことを言ったり、書いたりしたが、それらは政府や法律に対する敵意を表わすものと解釈されている。このようにして自分自身に誤解を招くことは誤りである。政府の統治者たちのすることについて絶えずあら探しをすることは賢明でない。個人あるいは機関を攻撃することは、われわれの仕事ではないのである。一般市民を治める当局者たちに対して反対の立場をとっているとられることのないように細心の注意を払わなければならない。われわれの戦いが積極的であることは事実であるが、われわれの武器は、率直な「主は、こう言われる」でなければならない。われわれの働きは、神の大いなる日に立つために民を備えさせることである。争いを起こさせたり、同じ信仰を持っていない人びとに敵対心をいだかせたりする方向に道をそらされてはならない。

われわれの兄弟たちが不注意に言ったり書いたりした、非難的でうかつな表現が、われわれ

を罪に定めるために用いられる時が来る。それらは単に言葉を出した人びとをとがめるために用いられるだけでなく、アドベンチスト全体が罪を負わせられる。告発する者たちは、われわれの責任者の一人が、かくかくしかじかの日に、この政府の法律を施行することに反対してどのように言ったというであろう。われわれの敵が論証する際に彼らにとって有利なことがどんなに多く忘れられずに記憶されていたかを見て多くの者が驚くであろう。大ぜいの人が自分の言葉を曲解されているのを聞いてびつくりさせられるのである。であるから、われわれの働き人たちは、いつでも、どんな場合も慎重に語るように注意深くなければならない。人間がおそろしい苦しみに会わなければならない大きな危機の来る前に、無分別な表現によつてなやみの時を招かないよう、みな用心すべきである。

世はわれわれを外見で判断するということをおぼえなければならない。キリストを代表しようとする者は、品性の矛盾した姿を表わさないように注意しなさい。われわれは本格的に伝道の働きに立つ前に、必ず天来の聖霊を受けよう。そうすれば、われわれは断固としたメッセージを伝えることができ、しかも、それはある人たちのメッセージに比べて、責められるところがより少ないものとなるであろう。そして信者はみな反対者たちの救いに対してもつと熱心になるであろう。罪を責める権限や支配する権威は、全く神御自身のみ手に委せなさい。われわ

れは忠実な番兵として、イエスのうちにある真理の原則を、けんそんに、そして愛をもって守るようにしよう。

（6 T・三九四 三九七ページ）

日曜休業令

天と同盟していることを公言し、小羊の性質を持っていると主張する宗教的権力は、その行動によって彼らが龍の心を持ち、サタンにそそのかされ、支配されていることを表わす。神の民が第七日を清く守るために迫害を受ける時が近づいている。サタンは神のご計画をくつがえそうとする彼の目的を実行するために安息日を変更した。彼はこの世界で、神の戒めを人間の法律よりも力の弱いものにしようと努めている。時と律法を変えようと望み、いつも神の民を苦しめて来たサタンは、法律を作らせて、週の第一日を守るように強要する。しかし神の民は神の側に堅く立たなければならぬ。そうするならば主は彼らのために働いてご自身が神々にまさる神であることを明白にお示しになる。

週の第一日を遵守させる律法は、背教したキリスト教世界の産物である。日曜日は、キリスト教界によって神聖な神の安息日以上に高められた、法王教の子である。神の民はどんな場合

でもこれに忠誠を誓ってはならない。しかし、神がそれを避けるように望んでおられる時には、日曜日遵守に勇敢に反対することは神のみ心ではないということを、神の民が理解するように願う。そのようにすると、真理を宣べ伝えることが不可能なほど強い偏見を起こさせるのである。日曜日に、法律に挑戦するようなことをしてはならない。もしある場所でそのようなことをしてはばかりめられると、他の場所でも同じことが行われる。われわれは日曜日を、キリストの側に有利な働きを進めて行く日として用いることができる。最善を尽し、できる限りの柔和さと謙遜さをもって働かなければならない。

日曜日を伝道の働きのために用いるならば、セブンスデー・アドベンチストをはずかしめて喜ぶ専横な熱狂者たちの手からむちを除くことになる。われわれが日曜日に人びとを訪問し、聖書のみ言葉を紹介するために働くのを見ると、日曜休業令を出してわれわれの働きを妨げようとしても役に立たないことを彼らは知るであろう。

日曜日は主のために多くの事を成就する、いろいろな方面の働きをすすめるために用いることができる。屋外の集会や小屋を使つての集会を持つこともできるし、戸別訪問の働きもできる。ものを書く人は記事を書くためにこの日を用いることができる。都合のゆるす限り、宗教的な集まりを日曜日に開き、これらの集会を非常に興味深いものにしなさい。心からのリバイ

バル讚美歌を歌って、力と救い主の愛に対する確信をもって語りなさい。節制について、また実際の宗教体験について話しなさい。そうすることによってあなたは伝道の方法を多く学び、多くの魂を救うことができるのである。

われわれの学校の教師は日曜日を伝道の働きに用いなさい。そうすることによって反対者の目的をくつがえすことができるということをわたしは教えられた。教師は学生と一緒につれて行って、真理を知らない人びとのために集会を開きなさい。他のどんな方法によるよりも、こうすることによってはるかに多くの成果をあげることができる。

人びとに率直で明確な真理を伝えなければならない。しかしその真理がキリストの精神によって示されなければならないのである。われわれは、おおかみの中の羊のようであらなければならない。キリストから与えられた警告を、キリストのために守ることをせず、忍耐と自制力を働かせない者は主のために働く尊い機会を失う。主は、ご自分の律法を犯している人びとに対して長々と攻撃演説をする仕事を、御自分の民に与えてはおられない。絶対に、われわれは他の教会を攻撃してはならない。

われわれの働きに対し、また聖書の安息日に対して多くの人の内にある偏見を除くために、われわれはできる限りのことをすべきである。

第十二章 サタンの欺瞞的な働き

わたしは悪天使たちが魂を奪うために争い、神の天使たちが彼らに抵抗しているのを見た。戦いは激しかった。悪天使たちはその有害な影響力で雰囲気汚し、これらの魂の感覚を鈍らせるために、その回りに群がっていた。聖天使たちはサタンの軍勢を追い返そうと心配そうに待ちかまえていた。しかし、人びとの意志に反してまでその精神を支配することは善良な天使たちの働きではないのである。もしも彼らが敵に降服してしまつて抵抗するための努力をしなければ、神の天使たちは、危険のうちにある人たちにさらに光が与えられて、彼らを覚醒させ、天の助けを求めるようになるまで、滅ぼさないようサタンの軍勢を抑制しておくこと以外に何もできないのである。イエスは、自分で何の努力もしない者たちを救出するよう聖天使たちに命じられることはない。

サタンは一人の魂を失う危険のあることを見ると、その魂を捕えておくために最大の努力を

する。その人が危険に気付き、悩み、熱心にイエスに力を求めると、サタンは捕虜を失うことを恐れ、哀れな魂の周囲をとりかこんで天来の光が届かないように暗黒の壁を作るために、悪天使たちの増援を要求する。しかし、危険のうちにある人が忍耐し、キリストの血の功績に自分自身をゆだねるならば、われわれの救い主は熱心な祈りを聞いて、彼を救うために力にすぐれた天使の増援部隊をおくられる。

サタンは彼の強力な競争相手に人が哀願することには耐えられない。それは彼がその方の力と威厳に会うと恐怖でふるえるからである。熱心な祈りの声を聞くとサタンの全軍は身ぶるいする。彼は自分の目的を果たすために多数の悪天使たちを動員するが、サタンにつきまとわれ、弱った魂を、天の武器をつけた有力な天使たちが助けに来ると、サタンとその軍勢は自分たちが戦いに敗北したことを知って退却する。喜んで従っているサタンの家来たちは、忠実に活動的であって、一つの目的で一致結合している。彼らは互いに憎み合い争い合っているが、自分たち共通の利益のためにはあらゆる機会を利用する。しかし天と地の偉大な司令官はサタンの力を制限されたのである。

天の保護からはなれることの危険

神の天使たちは、神の民が義務の道を歩いている間、彼らを保護するが、故意に危険を冒してサタンの陣地にはいつて行く者には、そのような保護の確証はない。大欺瞞者の手先は自分の目的とするものを獲得するためには手段を選ばない。自分自身を降神術者と呼ぼうが、「エレクトリック・フィジシャン」(電気医者)又は「マグネティック・ヒーラー」(磁気治療師)と呼ぼうがそれは問題ではない。もっともらしい口実で、彼は油断している者の信用を勝ち取る。助けを求めて来る人びとの過去を判断して、すべての困難や悩みを理解するかのように見せかける。その心は暗闇のようであるのに、光の天使に偽装して、助言を求める女性たちに非常な関心を示す。そして彼女たちの災難はすべて不幸な結婚によるのであると言う。それは事実であるかも知れないが、そのようなカウンセラーは彼らの状態を改善はしない。彼は、彼女たちが愛と同情を必要としているのだと言う。彼は、彼女たちの幸福に非常な関心を持っているかのように見せかけ、信用している被害者を魅了し、蛇が震えている小鳥に魔力をかけるように彼女たちをとらえてしまう。間もなく彼女たちは完全に彼の自由にされ、罪と恥辱と破滅

がそのおそろしい結果となるのである。

このような不義を行う者たちは少なくない。彼らの道は捨てられた家庭と損われた名声と、悲しみに打ち砕かれた心で印されている。しかし、この事について社会はほとんど知っておらず、今もなお彼らは新しい犠牲者を作り続けていて、サタンは自分が生じさせた破滅を見て大喜びをしている。

（5 T・一九八ページ）

「アハジャはサマリヤにある高殿のらんかんから落ちて病気になつたので、使者をつかわし、行ってエクロンの神バアル・ゼブブに、この病気がなおるかどうかを尋ねよ」と命じた。時に、主の使はテシベびとエリヤに言った。「立って、上って行き、サマリヤの王の使者に会って言いなさい、「あなたがたがエクロンの神バアル・ゼブブに尋ねようとして行くのは、イスラエルに神がないためか」。それゆえ主はこう仰せられる、「あなたは、登った寝台から降りることなく、必ず死ぬであろう」。」（列王紀下一ノ二四）。

アハジャ王の罪とその処罰には現代に対する警告と教訓があつて、これを無視する者はだれも罰をのがれることができない。われわれは異教の神々に敬意を表わすことはしないが、それでも多くの人びとがイスラエルの王と全く同じようにサタンの宮で礼拝をしている。科学と教育の影響を受けて、それはもつと精練された魅力的な形をとってはいるが、異教の偶像礼拝の

精神そのものが今日流行している。預言の確実な言葉に対する信仰は急速に衰え、その代わりに迷信とサタンの魔法が人心を奪いつつあるという悲しい証拠が、日毎に増している。熱心に聖書をしらべて、すべての欲望と人生の目的を、誤ることのないその基準に服従させることをしない者、神のみ心を知るために神に祈り求めることをしない者は、必ず正しい道から迷い出てサタンの欺瞞によって倒される。

ヘブル人は真実な神を知る知識に恵まれた唯一の国民であつた。それなのに、イスラエルの王が異教徒の社会に使者をやつて尋ねたとき、彼は天地の創造主である、自分の民の神よりも異教徒たちの偶像にもつと信頼していることを彼らに公表する結果になつた。同様に、神のみ言葉を知っていると公言する者たちが力と知恵の源に背を向けて、暗黒の権力から助けや助言を求めるとき、神を辱かしめることになる。偶像を崇拜した一人の王のそうした行動によつて神が怒られたとすれば、彼のしもべであると公言している人びとがとっている同じような行動に対して、神がどうして好感をお持ちになれるだろうか。

(5 T・一九一、一九二、一九六ページ)

だれも二人の主人に兼ね仕える事はできない

キリストは、神とこの世という二人の主人をわれわれに示して、両者に仕えることは全く不可能であることを明白に述べられた。もしこの世に対する興味や愛が優勢であれば、他のすべてのものをこえてわれわれが注目すべき価値のある事柄をわれわれは正当に評価しなくなる。この世を愛する愛は神を愛する愛を排除し、最も重要な課題を、この世の雑事の下に置くようにさせる。こうしてわれわれはこの世の事柄にとらわれ、神に対する愛情や献身をあらわせないになってしまう。

サタンは荒野の試みにおいてキリストに対したときよりもさらに用心して人間を取り扱う。それは自分がそこで敗北したことを知っているからである。彼は征服された敵である。サタンは直接人間の所に来て、礼拝の形で彼に敬意を表わすようには要求しない。ただこの世の良い物に愛着を憶えさせるように人間に求めるだけである。もしもサタンが、人々の考えや愛情を引きつけることに成功すれば、天来の魅力的な事柄はおおい隠される。サタンが人間に望むことは、ただ人間が彼の誘惑の欺瞞的な力に負けて、この世を愛し、身分や地位を愛し、金銭を

愛し、世的な宝に愛情を注ぐことである。もしサタンがこれに成功すれば、キリストに求めたすべてを彼は獲得することになるのである。

(3 T・四七八、四八 ページ)

第十三章 偽りの科学 現代に

おけるサタンの光の衣

偽りの科学は、サタンが天で用いた働きの一つで、今日も利用されている。彼が天使たちに語った偽りの主張、彼の巧妙な科学的理論は彼らの多くを欺いて神に対する忠誠を捨てさせた。天での自分の立場を失ったサタンは、われわれの最初の祖先に誘惑のほこ先を向けた。アダムとエバは敵に負け、彼らの不従順によって人類は神から遠ざけられ、この世は天から切り離されたのである。

もしアダムとエバが禁じられた木に決して触れなかったら、主は彼らに真の知識、すなわち罪ののろいについていない知識、永遠の喜びを彼らにもたらしたはずの知識をお与えになったのである。彼らの不従順によって得たものは、ただ罪とその結果を知ることであつた。

サタンはわれわれの最初の先祖をいざなつたと同じ場に今日人びとをいざなっているのであ

る。サタンはこの世界を人に喜ばれる作り話で溢れさせている。彼はあらゆる手段を使って、救いである神の知識を人間が得ないように努めている。（８Ｔ・二九〇ページ）

誤りが光に見えるとき

われわれは大きな光の時代に生きているが、光と呼ばれている多くのものがサタンの知恵と技術のために利用されている。真実であるかのように見える数々の事柄が提示されるが、それらは熱心な祈りをもって注意深く取り扱われなければならない。なぜならば、それは敵のもっともらしい道具であるかも知れないからである。誤びゅうの道は、しばしば真理の道のすぐそばを通っていて、神聖さや天に導く道とほとんど見分けがつかない。しかし聖霊によって照らされた頭脳は、それが正しい道からそれていることを認めるのである。しばらくすると二本の道は大きく離れていることがわかる。

神は全自然界に充滿している実体であるという理論はサタンの最も巧妙なたくらみである。それは神を偽って伝え、神の偉大さと尊厳をはずかしめるものである。

神のみ言葉は汎神論を支持していない。神の真理の光は、これらの理論が魂を滅ぼす手段で

あることを示している。その本質は暗黒であって肉欲にふけることを本領とするものである。それは生来の心を満足させ、気の向くままに行動することをゆるす。これを信ずる結果、人は神から離れてしまう。

罪によってわれわれの状態は異常になっているために、われわれを回復する力は超自然的でなければならない。さもなければ効果はないのである。人間の心をとらえている悪の手を断ち切ることが出来る力はただ一つであって、それはイエス・キリストのうちにある神の力である。十字架におかかりになったイエスの血によってのみ罪から清められるのであり、キリストの恵みだけが、墮落した性質の傾向に抵抗してこれを制する力をわれわれに与え得るのである。神についての降神術的な理論による力には何の効果もない。もし神が全自然界に充滿している実体であるなら、神はすべての人間の中に住んでおられることになり、人間が聖なる状態に到達するためにはただ自分の中にある力を發育させれば良いことになる。

これらの理論を、その論理的な結論にまでたどっていくとキリスト教の全体系は一掃されてしまう。それは贖罪の必要を除き、人を自分自身の救い主にする。神に関するこれらの理論はみ言葉の力を弱め、これを信じる者はついには聖書全体を作り話と見るようになる大きな危険がある。彼らは徳を悪よりも良いと考えるかもしれないが、神を主権者の地位から除いて、無

価値な人間の力にたよっているのである。神の助けを受けない人間の意志には悪に抵抗して勝つ真の力はない。魂の防壁はくずされ、人間は罪に対するとりでを失ってしまう。神のみ言葉と聖霊の抑制を一たび拒絶すると、われわれはどれほどの深みにまで落ち込むかわからない。これらの降神術的な理論を信じ続ける人びとは、必ず自分のクリスチャン経験を台なしにし、神とのつながりを断ち、永遠の生命を失う。

（8 T・二九〇・二九二ページ）

選民をもまどわそうとする試み

この世界を懐疑論で氾濫させている神と自然界に関する詭弁は、墮落した敵が着想したものである。彼は人びとがどうしても受けなければならない真理を知っていて、この世界に起こるうとしていることに対して人びとを準備させるために与えられた偉大な真理から、人の思いを他にそらせることを研究している聖書学者である。

一八四四年の時が過ぎた後、われわれは、あらゆる種類の狂信に出会った。降神術を信じているある人たちに伝えるために、けん責のあかしがわたしに与えられた。不敬虔な教えの後には罪に汚れた行動が続く。それは偽りの父の魅惑的なわなであって、こ

れに惑わされると道徳的に汚れていながら、悔悟の念のない自己満足に陥る。

過去の経験は繰り返される。将来、サタンの迷信がまた新しい形式をとるであろう。誤びゅうが人を喜ばせ、へつらうようなやりかたで提供される。光の衣を着た偽りの理論が神の民に提供される。こうしてサタンは、もしできれば選民をもまどわそうとするのである。非常に魅惑的な感化力に人びとは魅了される。

ノアの洪水前の人びとの間に存在したような、あらゆる種類の墮落がもたらされて人びとの心をとらえる。自然を神として高めること、人間の意志を抑制しないで気ままな行動を許すこと、不敬虔な者の助言、これらをサタンは自分がめざす結果をもたらす手段として用いる。彼は自分の計画を遂行するために、精神が精神を支配する力を利用する。最も悲しむべきことは、サタンの欺瞞的な感化によつて、人は神と実際のつながりなしに信心深い形を持つということである。善悪を知る木から実をとって食べたアダムとエバのように、今日も多くの者が欺瞞的な誤びゅうのごちそうを口にしている。

エデンの園でサタンはへびを通じて語ることによつてわれわれの父祖に自分の正体を隠したように、サタンの代理者たちも偽りの理論を魅力的な衣服で被っている。これらの代理者は事実、致命的な誤りを人間の精神に注入している。サタンの魅惑的な感化は、神の明白なみ言葉

から耳を喜ばせる作り話に心を転じた人びとに及ぶのである。

サタンがわなにかけようと最も熱心に努力をする相手は、一ばん多く光を与えられている人びとである。もしサタンがその人びとを欺くことができれば、彼らはその支配を受けて、罪に義の衣を着せて多くの人びとを迷わせることをサタンは知っている。

わたしは、すべての人にお伝えする。警戒しなさい。サタンは、クリスチャンの働き人たちが集まるすべての会合の中を、光の天使のように歩いている。そして自分の側に教会員を勝ちえようと、どの教会においても力を尽しているからである。わたしは神の民に「まちがってはいけない。神は侮られるようなかたではない」（ガラテヤ六ノ七）との警告を与えるように命じられている。

（８Ｔ・二九二 二九四ページ）

自然界の神を作ろうとするサタンの計画

多くの人は、物質の法則や自然の法則にとらわれることによって、神が絶えず直接に働いておられることを、否定しないにしても、見失ってしまう。彼らは、自然界が神に関係なく活動していて、それ自体の内にみずから（自然）を制限したり、また、みずから活動する固有の力

を持っているという考えを人に教える。彼らの考えでは、自然の事柄と超自然的な事柄との間には、はっきりとした区別があつて、自然の事柄は神の力とは無関係な通常の原因によるものであるとしている。彼らは物質に生命力があると信じ、自然を神にしている。物質は一定の關係に置かれていて、定まつた法則に従つて活動するままにほうつておかれ、神御自身、干渉することがおできにならないと考えられている。また自然には特種な属性が与えられていて、（自然の）法則に従うように配置され、後は自分でこれらの法則に従つて、最初命令された機能を果たすままに放置されるものと思われている。

これは偽りの科学であつて、神のみ言葉の中には、これを支持するものは何一つない。神は御自身の法則を無効になさることはなく、かえつてそれらを通して絶えず働き、御自分の道具として用いておられるのである。それら（神の自然の法則）は勝手に働いているのではない。神が自然の中で絶え間なく働いておられるのである。自然はみ心のままに支配される神のしもべである。自然は、すべてのみわざの中で、み心のままに行動しておられる御方の知的な存在と活動的な力を、その働きによつて証明している。地球が年々豊かな収穫をもたらし、太陽の回りを運行し続けるのは、自然界に初めから備わつた固有の力によるものではない。無限な力のみ手が絶えず働いて、この天体を導いておられるのである。地球が回転しながらその位置を

保つようにさせているのは、時々刻々働いている神の力である。

人体の仕組は完全には理解できない。それは最もそう明な人間をも当惑させるほど神秘的である。脈を打ち、呼吸が続けられることを、一度運動を開始させられた機械が働き続けることと同じように考えることはできない。われわれは神のうちに生き、動き、存在しているのである。一回ごとの呼吸、心臓の鼓動の一つ一つが、常に存在される神の力の絶えざる証拠である。

非常に知性のすぐれた人間も自然界に表わされたエホバの神秘を理解することはできない。神の靈感は、最も学識の豊かな学者も答えることができない多くの質問を投げかけている。これらの質問は、われわれが答えるために出されたのではなく、神の深遠な奥義にわれわれの注意を引き、われわれの知恵には限りのあることを教え、日常の多くのことが有限な頭脳では理解できないこと、そして神のさばきや御意向は測りがたいことを教えているのである。神のえい知はきわめがたい。

（８Ｔ・二五九・二六一ページ）

この地上で始まる教育はこの人生で完成するものではなく、永遠を通じて進められ、絶えず進歩して決して完了しない。神の驚くべきみわざ、宇宙を創造し、支持しておられる神の奇跡的な力の証拠が、日々新たな美しさをもつて心に示される。み座から輝く光に照らされて、不可思議であつたことは消え、心は、それまで決して理解できなかった事柄の単純さに驚きで満

たされるのである。

(8 T ・ 三二八ページ)

扇情的な宗教に対する警告

現在われわれは神のみ事業に、霊的な考え方をする人びと、原則に固く、真理をはっきり理解している人びとを必要としている。

人びとに必要なものは新しい、空想的な教理ではないことをわたしは教えられている。人間的な仮説は必要としない。真理を知っていて実行する人びと、テモテに与えられた命令を理解して従う人びとの証言を必要としている。「御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにかかせて教師たちを寄せ集め、そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれでいく時が来るであろう。しかし、あなたは、何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務を全うしなさい。」(テモテ第二・四ノ二 五)。

平和の福音の備えを足にはいて断固とした態度で、しっかり歩きなさい。清く汚れない信

心が、扇情的な宗教でないことは確実である。神は、思弁的な教理や理論に対する興味を助長するようには求めておられない。兄弟がたよ、こういうことは教えてはなりません。また自分の経験の中に、そういうことがはいつてこないようにしなさい。あなたの一生がそれによつてそこなわれないようにしなさい。

（8 T・二九四、二九五ページ）

霊的生命のリバイバルの必要

われわれの教会の人たちにこう告げるように、わたしは命じられている。われわれはキリストに従って行こう。万事においてキリストがわれわれの模範であるべきことを忘れてはならない。キリストの教えの中に見ることのできない考えは捨ててしまつて間違ひはないのである。わたしは、牧師が永遠の真理の土台の上に自分がしっかり立っていることを確認するようにお願いする。自分の衝動を聖霊と呼んで、これに従うようなことのないように気をつけなさい。ある人たちはこのような危険がある。わたしは、彼らが信仰において健全であつて、自分たちのうちにある望みについて説明を求める人には、だれにでも弁明のできる用意をしているようにおたのみする。

敵は、一つの民がこの最終時代に立つことができるように備えさせる働きから、兄弟姉妹たちの心を他に転じさせようと求めている。サタンの詭弁は、現代の危険や義務から人びとの心をそらせようとするものである。それは、天からキリストが来られて、ご自分の民に伝えるように、ヨハネにお与えになった光を無意味なものと評価する。そして、目前の光景が、特に注目しなければならぬほど重要なものではないと教える。またそれは天来の真理を無効にし、神の民から過去の信仰経験を奪い、その代わりに偽りの科学を与えるのである。

「主はこう言われる、『あなたがたはわかれ道に立つて、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、』」（エレミヤ六ノ一六）。

主は幾年も前に立てていた率直なあかしを復活させるように求めておられる。霊的生命の一新を求めておられるのである。神の民の霊的なエネルギーは長い間眠っていたが、死んだような状態から復活しなければならない。

祈りと罪の告白によって、われわれは王の大路を、まっすぐにしなければならない。こうするときに聖霊の力が与えられるのである。われわれにはペンテコステのエネルギーが必要なのであって、それは与えられるのである。なぜならば主が、すべてに勝利する力として聖霊をおくることを約束されたからである。

危険な時が近づいている。真理を知っている者は皆目をさまして、からだも心も霊も神の訓練の下におくべきである。敵はわれわれの行手にいるのであるから、われわれは、はつきり目をさまして警戒していなければならない。われわれは神のすべての武器をつけなければならない。預言のみたまを通して与えられた指示に従わなければならない。現代のための真理を大事にして、これに従わなければならない。そうすることによって、強力な惑わしを受けることから救われるのである。神はみ言葉を通してお語りになった。また、われわれの現在の義務や、占めなければならない立場を明らかに知る助けとなった教会へのあかしや、その他の書物を通して語っておられるのである。着々と教訓に教訓を加えて与えられて来た警告に注意すべきである。もし、それらを無視するならばどんな言い訳ができるであろう。

わたしは、神のために骨を折って働いている人びとに、にせものを本ものの代わりに信じないう、お願いする。人を清める神の真理のあるべき所に人間の判断を用いてはならない。キリストはご自分の民の心に信仰と愛を燃え立たせようと待っておられる。永遠の真理の土台に堅く立っているはずの人びとが、誤った理論に賛成するようなことがあってはならない。神は、疑う余地のない権威に基づいた根本的な原則を、しっかり守るようにわれわれに呼びかけておられる。

み言葉に対する愛と知識 われわれの保証

真理を長い間信じて来た多くの人びとの心の中に、きびしい、裁きの精神が侵入している。彼らは鋭く、批判的で、あら探しをする人たちである。彼らは、裁きの座に上り、自分たちの見解に一致しない者に判決を下す。神は、彼らに降りて来て悔い改めて神の前にひれ伏し、罪を告白するように呼びかけておられる。神は「あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。そこで、あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい。もし、そうしないで悔い改めなければ、わたしはあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう。」（黙示録二ノ四、五）と彼らに言われる。彼らは最高の地位を求めて競い、言葉と行いによって多くの人の心を傷つける。

キリストはみ言葉を信じて実行するように、ご自分の民に訴えておられる。この言葉を受けて自分のものとし、すべての行動と品性のすべての特質の中に折り込む者は、神の力によって強く成長し、彼らの信仰が天来のものであることを表わす。彼らは変な道に迷い込むことなく、その心は感情的で扇情的な宗教にはたよらない。天使たちと人びとの前に、彼らはしっ

かりした矛盾のないクリスチャン品性の持ち主として立つのである。

キリストの教えの中に示された黄金の真理の香炉の中には、人の心に罪を悟らせ、改心させるものがある。キリストが宣べ伝えるために来られた真理を、キリストの単純さをもって告げるとき、あなたのメッセージは力を持つのである。キリストが言われたこともない、また聖書に根拠のない理論や基準を与えてはならない。われわれには人々に示すべき非常に偉大で厳粛な真理がある。「と書いてある」というのがすべての人々の心に徹しなければならぬ基準である。

われわれは神のみ言葉に導きを求めよう。「主が言われる」ことを尋ね求めよう。人間的な手段はもう十分である。この世の学問だけで教育された頭脳には神に関することはわからない。しかし、同じ頭脳が造り変えられて清められると、み言葉の中に神の力を見るのである。聖霊の清めによつて洗われた頭脳と心だけが天の事物を見分けることができる。

（ 8 T・二九八 三〇一ページ）

全的降服の必要

兄弟がたよ、自分の義務を自覚するように、わたしは主の名によつてあなたがたに願います

る。あなたの心を聖霊の力に従わせなさい。そうすればみ言葉の教えに対する感受性が心と与えられる。そうして後、あなたは神についての深いところを認識できるようになるのである。

最も厳粛な証言であるキリストの証言を世界に提供しなければならぬ。黙示録には全体を通じて非常に貴重な、人を高める約束があり、また、最も恐ろしく厳粛な警告がなされている。真理を知っていると公言する人びとが、キリストによってヨハネに与えられた証言を読まないということがあろうか。そこには憶測によるものも、科学的な欺瞞もない。そこにあるものは、われわれの現在と未来の幸福に関する真理である。麦にくらべてもみがらに何の価値があるだろうか。

主は間もなく来られる。シオンの城壁の上に立つ見張人は神から与えられた責任に目ざめるように訴えられている。神は、聖霊の力によって世界に警告の使命を与える見張人、闇の到来を告げる見張人を求めておられる。神は、人々が死への眠りにつくことのないように彼らを感じない状態から覚醒させる見張人を求めておられるのである。

(8 T・三〇一、三〇二、三〇四ページ)

第十四章 サタンの偽りの不思議

わたしは特に現代の降神術に該当するものとして、次の聖句（コロサイ二ノ八）を示された。

「あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。」

多くの人びとが骨相学や動物磁気催眠術によって台なしにされ、背信に追い込まれたのをわたしは見せられた。もし精神が、こういう道をたどり始めると、ほとんど確実にバランスを失ってサタンに支配されるようになる。「むなしいだましごと」があわれな人間の精神を満たす。

彼らは、自分自身の中に偉大な働きを遂行するだけの力があると思っっているので、上からの力の必要を認めない。彼らの主義や信仰は「キリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。」

イエスはこのような哲学を彼らにお教えになったのではない。その教えの中には全然そんな

ものは見出せないのである。イエスは、無力な人間の思いを人間自身に、そして人の持つていく能力に向けることはなさらなかった。力と知恵の源として、宇宙の創造主である神に、人々の心をいつも向けておられた。一八節に特別な警告が与えられている。「あなたがたは、わざとらしい謙そんと天使礼拝とおぼれている人々から、いろいろと悪評されてはならない。彼らは幻を見たことを重んじ、肉の思いによつていたずらに誇るだけで」とある。

降神術を教える人びとは、あなたを欺くために快い魅惑的な態度で接し、あなたが彼らの作り話に耳をかすと、あなたは正義の敵によつて迷わされ、必ずあなたの受けるべき報いを失う。大欺瞞者の魅惑的な感化力が、ひとたびあなたを捕えると、あなたはその毒に冒され、その致命的な影響は、キリストを神の子と信じるあなたの信仰を不純にし、ついには失わせてしまう。そうするとあなたはキリストの血の功績に頼らなくなるのである。こういう哲学に欺かれる人びとは、サタンの惑わしによつて自分たちの受けるべき報いをだまし取られる。彼らは自分自身の功績にたより、わざとらしい謙そんさを装い、喜んで犠牲さえも払う。そして自分自身を低下させて、最高にばかげたことを信じ、死んだはずの友人を通して最も不合理な観念をうえつけられる。サタンが彼らをめくらにし、判断を誤らせているので災いに気がつかない。そして今は天において天使になっている自分の友人からの命令だと信じてその指示に従う。

(1 T・二九七、二九八ページ)

われわれは四方八方警戒をし、サタンの暗示や策略に辛抱強く抵抗しなければならないことをわたしは示された。サタンは光の天使に擬装して多くの人を惑わし、とりこにして率いている。人間の考える科学をサタンが利用することは恐るべきほどである。骨相学やある種の心理学や催眠術は、サタンが現代の人びとにより直接的に接近して、有力に働く道であって、その力は恩恵期間の終わり頃のサタンの努力を特徴づける。

(1 T・二九〇ページ)

精神を他の人の支配にゆだねること

どんな人も、他の人に精神を支配させることは、相手に不当な利益を得させるものと考え、そのようなことは、させてはならない。精神療法は、どんな人に対してでもなされ得る非常に危険な惑わしの一つである。一時的には良くなったように感じるかも知れないが、このようにして支配された者の精神は、決して以前ほど強くはなく信頼できなくなる。われわれはキリストの衣のふさにさわった婦人のように弱いかも知れないが、神から与えられる機会を用いて信仰をもってみもとに行くならば、神はあの信仰による接触に対してなさったように速やかに応

じてくださる。

どんな人間でも他の人間に自分の精神を明け渡すことは神のみ旨ではない。今、父なる神の右に座しておられる、復活されたキリストは、力強い癒し手であられる。癒しの力をキリストに求めなさい。罪人はキリストを通してのみ、ありのままの状態で神のみもとに行くことができるのであって、どんな人間の精神を通してでも決して神に行くことはできないのである。人は決して天来の助け手と苦しんでいる人の間に入りこんではならない。

だれでもみな人びとの心を神に向けることによって神と協力する態度を取るべきである。世界最高の医師であるキリストの恵みと力について人々に知らせなさい。

あなたが、自分自身をどんな人間の支配に任せることも、われわれは願わない。精神療法は、かつてない、最も恐ろしい科学である。悪人はだれでも自分の陰謀を果たすためにこれを用いることができる。われわれはそのような科学とは関係がない。われわれはそれを恐れるべきである。決してそのかけらをもわれわれの機関内に持ち込んではいならない。

（MM・一一五、一一六ページ）

祈りを怠ることは、人間を自力にたよるようにさせ、誘惑に対する門戸を開く。多くの場合、科学的研究で想像力はとりこにされ、人は自分の力を意識してうぬぼれる。人間の精神を扱う

科学は非常にもてはやされている。それは適切な場所では良いが、しかしサタンの有力な道具として魂を惑わし滅ぼすために彼に利用されるのである。サタンの術策は天来のもののよう信じられ、彼は崇拜される。それはサタンにとって好都合なのである。骨相学や催眠術によって非常な利益をこうむるはずの世界が、それどころかかつてない程腐敗している。これらの科学を通して徳は破壊され、降神術の基礎が築かれるのである。

(S T 誌一八八四年、十一月六日)

魔術と迷信

エペソの回心者たちは、持っていた魔術の本を焼き捨てることによって、自分たちが以前喜んでいたことを今は憎悪するようになったことを表わした。彼らが特に神を怒らせ、自分たちの魂を危険にさらしたのは魔術によつてであり、これを通してであつた。そこで彼らは魔術に対してそのような義憤を表わしたのである。こうして彼らは真の回心を立証した。

異教の迷信は二十世紀の文明の前に消滅したと、浅はかにも考えられているが、神のみ言葉と、確かな事実は、魔術が昔の魔法使いの時代と全く同様に現代も行われていることを証言し

ている。古代にあった魔法の組織は事実、現代降神術として知られているものと同じである。サタンは死んだ友人の姿をして現れることによって多くの人びとの心に近づいている。聖書は「死者は何事も知らない」（伝道の書九ノ五）と宣べている。彼らの思いも愛も憎しみも消えうせてしまっているのである。死人は生きている人間と交わりを持つことはない。しかしサタンは、人びとの心を支配するために、当初の彼のこうかつさを發揮してこの方策を用いる。

降神術を通して病人や、遺族や、好奇心にかられた人間の多くが悪霊と交わっている。あえてこういうことをする者は皆、危険にさらされているのである。真理の言葉は、神がそれらをどのようにご覧になるかを宣べている。古代、神は、異教の神託に助言を求めた一人の王にきびしい判決を宣告された。「『あなたがたがエタロンの神バアル・ゼブブに尋ねようとして行くのは、イスラエルに神がないためか』。それゆえ主はこう仰せられる、『あなたは、登った寝台から降りることなく、必ず死ぬであろう』」（列王紀下一ノ三、四）。

異教の時代の魔術師たちの片割れが今日の降神術の霊媒や透視術師や易者である。エンドルにおいて、またエペソで語った不可思議な声は、今もなおその偽りの言葉で人びとを迷わせている。もしも、われわれの目の前にある幕が開かれることができたら、われわれは悪天使たちがあらん限りの術を用いて欺き滅ぼしているさまを見るであろう。人びとに神を忘れさせるよう

な感化の及んでいる所ではどこでも、サタンがその魅惑する力を働かせている。人が彼の感化に従うと、彼らが気づかないうちに精神は困惑し、魂は汚される。エペソの教会に対する使徒の訓戒に、今日の神の民は聞き従うべきである。「実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい」(エペソ五ノ一)。(A A・二八八 二九〇ページ)

信仰の祈り

われわれの目が開かれて、自分は安全だと思っている人びとを支配しようと、墮落した天使たちが働いているのを見ることができたら、そんなにのんびりしていられないであろう。悪天使たちは絶えずわれわれの行手に待ちかまえている。われわれは、悪い人びとがサタンの暗示通りに行動することは予測するが、目に見えないサタンの使たちに対して油断をしていると、彼らはわれわれの目に不思議なことや奇跡を行う。われわれは勝利するための唯一の武器である神のみ言葉によって、彼らに抵抗する用意ができているだろうか。

ある人びとは、それらの不思議を神からのものと認めるように惑わされる。われわれの目前で病人はいやされ、奇跡が行われる。サタンの偽りの不思議がもつとさかんになった時に、わ

れわれを待ちうけている試練に対して、われわれは準備ができていだろうか。多くの魂がわなにかかって捕えられるのではないだろうか。明白な教えと神の律法から離れ、作り話に耳を傾けることによつて、多くの人の心はこれら偽りの不思議を受け入れる準備をしているのである。われわれはみな、間もなく戦わなければならない戦いのために、今日武装しなければならない。神のみ言葉を信じ、祈りながらこれを学び、実際に応用することが、サタンの力からわれわれを保護する武器となり、キリストの血によつてわれわれをりっぱに勝利させるのである。

第十五章 到来する危機

神の律法に対する不敬の念がもつとはつきり表現されるようになると、律法を守る者と世間との境界線が一層明確になる。神の教えに対する軽べつの念が一方の人たちに増して行くにつれて他方の人びとのそれらに対する愛は増して行く。

危機は急速に近づいている。増大する諸事件は、神のおとずれの日のほとんど来ていることを示している。罰することを嫌悪しながらもなお神は罰を下されるのであって、しかもそれを速やかに行われる。

神の刑罰の日はわれわれの上に迫っている。神の印は地上で行われている憎むべきことに対して嘆き悲しむ人びとの額にだけおされる。世と共鳴して結ばれている者は、酒飲み仲間と一緒にに食べたり飲んだりしているのであって、必ず悪を行う者たちと共に滅ぼされる。「主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈りにかたむく。しかし主の御顔は、悪を行う者に対して

向かう」（ペテロ第一・三ノ一二）。

われわれ自身の行動が、われわれが生ける神の印を受けるか、あるいは滅ぼす武器によって切り倒されるかを決定する。すでに神の怒りの雨は数滴地に降ったが、七つの最後の災害が神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られると、その時はすでに悔い改めて避け所を見出すには永久におそ過ぎるのである。も早、贖罪の血は罪の汚れを洗い去ることはしない。

安息日を守ると公言する者がみな印を受けるのではない。真理を他の人びとに教えている者たちの中にさえ、その額に神の印を受けない者が多い。彼らは真理の光を与えられ、主の心を知り、われわれの信仰のすべての点を理解したが、それにふさわしい行為がなかったのである。預言と神の知恵の宝についてよく知っていた者は彼らの信仰を行動に表わすべきであった。彼らは、人間の心に及ぼす真理の影響を、家族によって世に証することができるよう、自分の家庭を導くべきであった。

彼らが献身と敬虔の念に欠け、高い信仰の標準に達しないために、それを見る他の人びとは自分たちの状態に満足してしまう。神のみ言葉を何度も悟らせてくれたはずのこれらの人びとのまねをすると、必ず自分の魂を危険にさらすということをし、判断力に限りのある人間は悟ることができない。イエスだけが真実な模範である。もし主が自分に何を求めておられるかを知

りたいと願うならば、だれでもみな神の前にひざまずき、子供のように謙そんな、すなおな心で自分自身のために今、聖書を探索しなければならない。どれほど大きな神の御恩寵を受けている牧師であっても、神から与えられた光に最後まで従い通すことをせず、幼子のように教えられることを拒むならば、暗黒とサタンの惑わしに陥り、他の人びとを同じ道に導く。

品性に一つでもしみや汚れがある間は、われわれのうちだれ一人も神の印を受けることはない。品性の欠陥を直し、すべての汚れから心の宮を清めることは、われわれに託されているのである。それがなされたとき、前の雨がペンテコステの日に弟子たちの上に降ったように、後の雨はわれわれの上に降るのである。

だれも自分の場合は絶望的で、自分はクリスチャンの人生をおくることができないと言う必要はない。キリストの死によつて、すべての魂のために十分な備えがなされている。イエスは常に存在されるわれわれの時機を得た助け手である。ただ信じてイエスを呼び求めなさい。そうすれば、あなたの祈りを聞いて答えてくださると約束しておられるのである。

ああ、生きた活動的な信仰がほしいものである。われわれにはそれが必要である。われわれはそれを得なければならない。さもなければわれわれは試練の日に勇気を失って倒れてしまうだろう。その時われわれの道をおおう暗黒にわれわれは失望したり、落胆してはならない。それ

は、神がゆたかな祝福を与えるために来られるときの神の栄光をおおうペールなのである。われわれは過去の自分の経験によつてこれを知るべきである。神がご自分の民と争われる日のその経験が慰めと希望のもとになる。

われわれ自身とわれわれの子供たちを世の汚れに染まらせないように守らなければならないのは、今である。われわれは今、品性の衣を洗い、小羊の血によつて白くしていただかなければならない。自負心や情欲や靈的怠惰に勝利しなければならぬのは今である。今われわれは目を覚まして、均整のとれた品性を築くために、決定的な努力をしなければならぬのである。

「きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、……あなたがたの心を、かたくなにしていけない。」（ヘブル三ノ七、八、一五）。

準備する時は今である。神の印は、決して純潔でない男女の額には押されない。それは野心的な、世俗を愛する男女の額には決して押されないものである。また偽りを言ったり、欺瞞的な心を持つ男女の額にも決しておされることはない。印を受ける者はすべて神のみ前にしみのない者 天国のための候補者でなければならない。兄弟姉妹がたよ、前進しなさい。このたびはこれらの点について、ただ簡単にしか書くことができない。単にあなたの注意を備えの必要に向けるだけである。自分で聖書をしらべなさい。それはあなたが現在の時の非常な厳粛さを理

解するためである。

(5 T・二〇九、二一二 二一六ページ)

争点となる安息日

安息日問題は、全世界が参加する最後の大会争点となる。人間は、サタンの主義原則を、天で支配している主義原則以上に尊んだ。彼らは、サタンが自分の権威のしるしとして高めたにせの安息日を受け入れたのである。しかし神は王としてのご自分の御要求の上に印を押された。守られる安息日の一つ一つに、その創始者の名が記されており、その権威を示す、消すことのできないしるしがついている。これを理解するように人びとを導くことがわれわれの働きである。われわれは反逆している国のしるしを人びとに見せるべきである。なぜならば彼らがつけている王国のしるしによって、自分たちがその王国の臣民であることを彼ら自身が認めるからである。神は踏みじられたご自分の安息日の旗を高く上げるようにわれわれに呼びかけておられる。

(6 T・三五二ページ)

ずっと昔、忠実な信徒たちに対して陰謀をたくらんだ同じ専横な頭脳は、神を恐れて神の律法を守る人びとをこの世から葬り去ろうと、今もなおねらっている。サタンは、一般的な風習

や慣習を受け入れることを、良心的に拒むつつましい少数の人びとに対して憤りの念をかき立てる。地位のある有名な人びとが、不法な者や墮落した人たちと組んで、神の民に反対する協議を行う。富と才能と教育が結合して彼らを卑しめはずかしめる。迫害する統治者や牧師や教員は共謀して神の民に反対する。彼らは声とペンで、いばったりおびやかしたり、あざけつたりして神の民の信仰をくつがえそうとする。偽りの表現や怒りを含んだ訴えによって、彼らは人びとの激怒をかき立てる。聖書の安息日を唱える者に対して「聖書はこう言っている」という根拠を持たないので、彼らは、その不足を補うために法令の圧力を借りる。法律制定者は人気と支援を確保するために日曜休業令施行の要求に従う。神を恐れる人びとは十誡を犯す制度を受け入れることはできない。この戦場に、真理と誤り、最後の大きな争闘が起こるのである。しかし戦いの成り行きははっきりしている。モルデカイの時代のように、今日主は真理とご自分の民を擁護される。

（5 T・四五〇、四五一ページ）

嵐に備える

神は、ご自分の民が反対と怒りの嵐に耐える準備ができるように、最終時代に起こることを

示された。将来の事件について警告されて来た人びとは、主が悩みの日に忠実な者たちを保護してくださるのだからと自分自身を慰めて、何もせずに近づく嵐をのん気に待っていてはならない。われわれは、何もしないで待ちぼうけているのではなく、主人を待っている人びとのように確固とした信仰をもって熱心に働いていなければならない。今は、つまらない事गरに心を奪われている時ではない。人びとが眠っている間に、サタンは盛んに手配をして、主の民がなさはおるか正当な扱いも受けられないようにしている。日曜休業令の運動は現在、暗やみの中で進んでいる。その指導者たちは事の真相を隠しているので、運動に参加している多くの者が、底流はどちらへ向かっているのかわからないのである。口先は温和で、見かけはクリスチャンらしいが、日曜休業令がものを言うと、龍の精神を表わす。

「まことに人の怒りはあなたをほめたたえる。怒りの余りをあなたは帯とされる。」（詩篇七六ノ一〇）と詩篇記者は言っている。神は、真理が明るみに出され、たとえ恥辱が加えられてもその真理が検討や論議の話題にのぼるように計画しておられるのである。人びとの心をゆり動かさなければならぬ。すべての論争、すべての非難、すべての中傷が、疑問をよびおこし、そうでもしなければ眠ってしまう人びとを覚醒させる神の手段となる。

われわれは、一つの民として神から託された働きを果たしていない。日曜休業令の施行に対して準備ができていない。近づいて来る危険の前兆を見る時、目をさまして行動することがわれわれの義務である。預言がそのことを予告しているから、この事業は続いて行かなければならないし、主はご自分の民を保護してくださいにちがいないといってみずからを慰め、何もしないで災いを落ち着いて待つてはならない。良心の自由を守るために何もせずに静かにじっとしているならば、それは神のみ心を行っていることにはならない。長い間おろそかにされて来た働きをわれわれが完成できるまで、この災いが延期されるよう、熱烈で効果的な祈りがささげられるべきである。最も熱心な祈りをささげ、それから自分の祈りに一致した働きをしよう。サタンが勝利し、真理は虚偽と誤りゆうに圧倒されるかのように見えるかも知れない。しかし神は、過去において神の民をその敵から救うためになされた、ご自分の行動を思い起こすように望んでおられる。神はご自分の力を表わすのに、いつも、神の民がサタンの働きから救われる見込みがないように見える窮地に陥った時をお選びになった。人間の困窮は神の好機なのである。

兄弟がたよ、他の人びとの運命と同様に、あなた自身の救いが、われわれの前にある試練に対して今あなたが行う準備によって定まることを認識なさるだろうか。あなたが反対勢力に出

会うとき、それに耐えさせる強い熱意と敬神と献身の念をお持ちだろうか。もし神がわたしによつてお語りになった通りだとすれば、あなたは議会の前につれ出されて、あなたが持っている真理のあらゆる点を激しく非難される時が来る。非常に多くの者がむだにしている時間を、近づいている危機に備えるという、神から与えられた責任を果たすために当てるべきである。

(5 T・七一三、七一七ページ)

神の審判

われわれは終末に近づいている。神の刑罰はすでに地上に下っていることをわたしは示された。主は起ころうとしている事件について、われわれに警告を与えておられる。光はみ言葉から輝いている。それなのに暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおっている。「人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、……突如として滅びが彼らをおそつて来る。そして、それからのがれることは決してできない。」(5 T・九九ページ)

主は地を抑える手をだんだんゆるめておられるので、間もなく死と破壊が生じ、犯罪は増し、貧しい者をさげすんでいた金持ちに対する残虐で、悪質な攻撃が起こる。神に保護されない者

たちは、どんな場所や地位にあっても安全は得られない。傷つけたり殺したりする最も強力な機械を操作するために人間が教育され、その発明力を用いている。（８Ｔ・五〇ページ）

神の刑罰は地上に下っている。戦争と戦争のうわさ、火事や洪水による破壊は、終わりに向かっていきおいを増してゆくなやみの時が非常に近いことを明らかに告げている。

間もなくひどい悩み、すなわちイエスの来られるまで止むことのない悩みが国ぐいの間で起こる。今までになく、われわれは些致協力して前進し、天に座し、すべてを支配されるイエスに仕えなければならない。神はご自分の民を見捨ててはおられないが、われわれは神をすてない場合にのみ、内に力を持つことができる。

第十六章 ふるいの時

使徒は兄弟たちに勧めて、「最後に言う。主にあつて、その偉大な力によつて、強くなりなさい。……立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。……悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、」と言っている。

ああ、何という日がわれわれの前にあることだろう。神の子供であると主張している人びとの間で何というふるいが行われることだろう。不義なる者が義なる者の中に見出される。大いなる光を与えられながら、その中を歩まなかった者は、彼らが軽んじた光に相応した暗黒に閉ざされる。パウロの言葉に含まれている教訓に聞き従う必要がある。「すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。」敵は背信の列にだれを加えることができるか見ようとして勤勉に働いている。しかし主はもうすぐ来られ、すべての人間の立場が永遠に決定される。恵み

深く与えられた光にふさわしい行いをして来た者は主の側に数えられる。

（T M・一六三ページ）

教会の清められる日は急速に近づいている。神は純潔で誠実な民をご自分のものとされるようになる。間もなく起ころうとしている大きなふるいによって、われわれはイスラエルの力によりよく評価することができであろう。箕を手にとって、打ち場の麦をふるい分けることを主が明らかにされる時の近いことを、その前兆が示している。

（5 T・八 ページ）

救いを求める人びとの勝利

わたしは神の民が非常に激しくふるわれているのを見た。ある人びとは強い信仰と苦悩の叫びをもって神に嘆願していた。

しかし、ある者はこれに加わっていないことをわたしは見た。彼らは無関心で不注意なように見えた。彼らは周囲の暗やみに抵抗しなかったもので、それが厚い雲のように彼らを閉じ込めた。神の天使たちは、これらの人びとを置き去りにした。そしてわたしは、神の天使たちが悪天使らに抵抗するために全力で苦闘し、辛抱強く神に助けを求めている者たちを援助するため

に急いでいるのを見た。しかし天使たちは自分自身を助けるために何の努力もしなかった人びとを後に残して行ってしまい、わたしも彼らを見失った。祈っている人たちがその熱心な嘆願を続けているとき、イエスから来る光が時折彼らを照らし、彼らの心を励まし、顔を輝かせるのであった。

わたしは、わたしが見せられたふるいの意味を尋ねた。そしてわたしはラオデキヤに対するまことの証人の勧告によってよび起こされた率直なあかしがふるいを起こすことを示された。このあかしは受ける者の心に影響を及ぼし、標準を高めさせ、率直な真理をどんどん語らせる。ある人びとは、この率直なあかしに耐えられず、これに反抗する。これが神の民の間でふるいの原因となるのである。

まことの証人のあかしは半分も心に留められてはいなかった。教会の運命がかかっている厳粛なあかしが、完全に無視されたのではないにしても軽く評価されていた。このあかしが深い悔い改めを起こさせなければならぬ。真実にこれを受け入れる者はこれに従って清められる。

「聞きなさい」と天使は言った。間もなく、わたしは、多くの楽器が美しく調和してかなでるすばらしい調べのような声を聞いた。それは、わたしがこれまでに聞いたどんな音楽よりもすぐれていて、恵みとあわれみに満ち、高尚で聖なる喜びにあふれていた。それは、わたしの

全身を感動で震わせた。天使は「ごらんなさい」と言った。その時、わたしは、以前激しくふるわれているのを見たその団体にわたしの注意を向けられた。わたしは、前に涙を流して苦悶しながら祈っていた人びとを示された。彼らの回りにいた天使の数は二倍に増やされ、その人びとは頭から足まで武具をまとうていた。彼らは、一団の兵卒のように規律正しく、しっかりと態度で行動していた。彼らの顔は、彼らが耐えて来た激しい争闘と、経て来た苦悶の葛藤を表わしていた。しかし、彼らの容貌は、内的な激しい苦悶のあとを残しながらも、今は、天の光と栄光で輝いていた。彼らは勝利を獲得したのであった。そのために彼らは心の底から感謝し、聖なる喜びに満たされていたのである。

この団体の人数は少なくなっていた。ある者はふるい落とされて、途中に残された（黙示録三ノ一五 一七参照）。勝利と救いを忍耐強く嘆願し、そのために苦悶するほど勝利と救いを尊んだ人びとの群れに、加わらなかつた不注意で無関心な者たちはそれを得ずに、暗黒のうちに取り残された。しかし、彼らの抜けたあとは、真理を信じて列に加わる他の人びとで直ちに補充された。悪天使たちは、なお勝利と救いをめざす人びとの回りにつめ寄ったが、彼らに打ち勝つ力はなかつた（エペソ六ノ一二 一八参照）。

わたしは、武具をつけた人びとが力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であつた。わ

たしは縛られている人びとを見た。夫に縛られている妻もあれば、親に縛られている子供たちもあつた。真理を聞くことを止められたり妨げられたりしていた正しい人びとは、その時、熱心に真理をつかんだ。もはや親族を恐れる気持は全くなかった。真理だけが彼らにとって高貴に見えた。それは生命よりも愛すべく尊いものであつた。彼らは真理に飢え渴いていた。わたしは何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。一人の天使が答えて言つた。

「それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである」。

これらの選ばれた人びとには大きな力が与えられた。天使は「見なさい」と言つた。わたしの注意は、悪人たち、すなわち信じない者たちに向けられた。彼らはみな騒ぎ立っていた。神の民の熱心と力は、彼らを刺激し怒らせた。どちらを向いても混乱していた。わたしは、神の力と光を持ったこの団体に対して処置がとられるのを見た。暗黒は彼らの回りで濃くなったが、彼らは神を認め、神を信頼して動かなかつた。わたしは彼らが困惑しているのを見た。次に、わたしは、彼らが熱心に神に叫び求めるのを聞いた。昼夜を通じて彼らの叫びは止まなかつた（ルカー八ノ七、八、黙示録一四ノ一四、一五参照）。

わたしは次の言葉を聞いた。「ああ、神よ、あなたのみ心が行われますように。もしあなたのみ名の栄光のためになるならば、あなたの民のために逃れの道を開いてください。われわれ

の回りにいる異教徒たちから、われわれを救ってください。彼らは、われわれを殺すことを定めましたが、あなたのみ腕は救いをもたらすことがおできになります。」わたしが思い出すことができる言葉は、これだけである。すべての者が、自分の無価値さを深く感じていたようで、神のみ心に対する全的服従を表明していた。しかもヤコブのように、すべての者が、例外なく救いを求めて熱心に嘆願し、格闘していた。

彼らが熱心な叫びをあげ始めて間もなく、天使たちは同情して彼らを救いに行きたいと思っただが、背の高い指揮官の天使が、天使たちの行くことを許さなかった。「神のみ心は未だ成就していない。彼らは杯を飲まなければならない。彼らはバプテスマを受けなければならない」とその天使は言った。

間もなくわたしは、神のみ声を聞いた。それは天地をゆり動かした（ヨエル三ノ一六、ヘブル二ノ二六、黙示録一六ノ一七参照）。大きな地震が起こり、建物は揺れ動いて至る所で崩れ落ちた。その時わたしは、大きな、音楽のような、はつきりした勝利の叫びを聞いた。わたしは、ついさきほどまで非常な苦悩と束縛の中にあつたこの群れを眺めた。彼らは捕われの身から解放された。輝かしい光が彼らを照らしていた。その時、彼らはなんと美しく見えたことだろう。疲労や苦勞のあとはすべて消えて、みんなの顔が健康で美しく見えた。彼らの回りの敵

や異教徒は死人のように倒れた。彼らは、救われた聖なる人びとを照らした光に耐えられなかったのである。

イエスが天の雲にのって来られる時まで、試みを経た忠実な一群の人びとが、またたく間に一瞬にして、栄光から栄光へと変えられるまで、この光と栄光は彼らの上にとどまった。墓が開け、聖徒たちは不死を着て、「死と墓に対する勝利！」と叫びながら出て来た。そして、生きている聖徒たちと共に引き上げられて、空中で彼らの主にお会いした。その間、栄光と勝利の朗々とした歓呼の声が、滅びることのないすべての口から上がった。

(1 T・一七九 一八四ページ)

二つの軍隊

わたしは二つの軍隊が激しく戦っているのを幻で見た。一つの軍隊は、この世のしるしをつけた旗に導かれ、他の方は、インマヌエルの君の血に染まった旗によって導かれていた。主の軍隊から相次いで人びとが出て敵軍に加わり、敵の列からも次つぎに群れが離れて、戒めを守る神の民に連なって行ったときに、旗が次つぎと地面を引きずられていた。中空を飛んでいる

一人の天使がインマヌエルの旗を多くの手に渡した。そのとき力強い司令官が大声で叫んだ。
「戦列に加わりなさい。神の戒めとキリストのあかしに忠誠な者は、今各自の地位につきなさい。汚れたものの間から出て行き、彼らと分離せよ、彼らに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。主を助けようとする者はすべて、来て主のために勇士を攻めなさい。」

今教会は戦闘中なのである。われわれは、全くと言ってよいほど偶像礼拝に没頭し、真つ暗やみの中にいる世界と対決している。しかし、戦闘が終わって、勝利をおさめる日が近づいている。神のみ心は、天に行われるとおり、地にも行われなければならないのである。そうなたとき、各国は天の律法以外のどんな法律も持たなくなるであろう。すべての者が幸福な、一致和合した家族になって、讃美と感謝の着物 キリストの義の衣を着ている。自然界はすべて、比類のない美しさをもつて、絶えず神を讃美し崇める。世界は天の光におおわれる。年月は喜びのうちに流れ、月の光は日の光のようになり、日の光は今の七倍も強くなる。その光景を眺めて、明けの星は相共に歌い、神の子たちは喜びの声を上げるのである。そのとき神とキリストが声を合わせて「もはや罪もなく、死もない」と宣言される。

これが、わたしに示された光景である。しかし、教会は、見える敵、見えない敵と戦わなければならない。人間の姿をしたサタンの使たちは待ち構えている。人びとは、万軍の主に反抗するために同盟を結んだ。これらの同盟は、キリストが恵みの御座の前でしておられる仲保の働きを離れ、刑罰の衣をまとわれるまで続く。サタンの使たちは、各都市にいて、神の律法に反対している人びとを党派に組織立てるために忙しく働いている。偽りの聖徒たちや不信仰を表明する者たちは、これらの党派と立場を共にする。今は神の民が弱虫になっている時ではない。われわれは一瞬たりとも警戒をゆるめる余裕はない。

(8 T・四一、四二ページ)

第十七章 終わりの日のための備え

救い主の弟子たちに対する教えは、各時代に生きる信者たちのために与えられたものである。主が、「あなたがたは自分で気をつけていなさい」と言われたとき、終末時代に生きている者たちのことを心に留めておられた。聖霊の貴い恵みを心の中に大切に育てるということは、自分自身のためにしなければならないわれわれの働きである。

(5 T. 一〇二ページ)

一大危機が目前に迫っている。その試練と誘惑に対抗し、義務を果たすためには忍耐強い信仰が必要である。しかし、われわれはりっぱに勝利することができる。目をさまして祈り、信じている魂は、だれ一人として敵のわなに掛けられることはない。

神のみ言葉の真理を悟らされた兄弟がたよ、この世界歴史の終結する舞台で、あなたはどんな役割を演ずるだろうか。あなたは、これらの厳粛な事実に気づいているだろうか。天と地で進められている準備の大事業を認識しておられるだろうか。光を受け入れたすべての者、預言

を読み、また聞く機会があつた者は、その中に書かれている事柄に注意を払いなさい。「時が近づいているからである。」われわれの世界における、あらゆる不幸の原因である罪に、だれも干渉してはならない。これ以上無気力で、鈍く無関心な状態でいてはならない。あなたの魂の運命を不確実な状態に放つておいてはならない。自分が完全に主の側にいることを確認しなさい。真実な心と、おそれおののくくちびるをもって、「だが、その前に立つことができようか」と尋ねなさい。あなたは、この大切な恵みの期間の最後の時に、品性建設のための最善の努力をしてきただろうか。あなたの魂を、あらゆる汚れから清めてきただろうか。あなたは与えられた光に従つただろうか。あなたの信仰の告白に相当した行いをあなたはしているだろうか。

中途半端で、形式的な信者は、足りないことが発見され、永遠の生命を失う危険性がある。聖書の命令の中で、あるものは実行してクリスチャンとして認められながら、クリスチャン品性に重要な資格に欠けているために滅びてしまう可能性がある。神から与えられた警告をおろそかにしたり、あるいはそれに対して無関心であつたり、また罪を大事にしたり、大目に見たりするならば、そうすることによってあなたは自分の魂の運命を決定しているのである。あなたは、はかりではかられて、その量の足りないことがあらわれるであろう。恵みと平安とゆる

しは、永久に取り去られ、イエスは通り過ぎてしまわれて、あなたの祈りや嘆願はもはやイエスに届くことはないであろう。いつくしみが残されている間、救い主がとりなしをしていくださる間に、われわれは永遠のための周到な努力をしよう。

(6 T・四〇四、四〇五ページ)

サタンは眠ってはいない。彼は確実な預言の言葉の効果をなくすために油断なく見張っている。彼は、神のみ言葉の中で明白に示されている神のみ心を、くつがえそうと、じょうずに惑わしの力を使って働いている。サタンは、真理の代わりになるように彼が考案した巧みな詭弁によって、長年のあいだ人間の精神を支配していた。正しい行いをする人びとは、「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です。」(詩篇一一九ノ一二六)というダビデの言葉を、神を恐れる思いをもって復誦し、この危険な時代に神のみ名の栄光をたたえるのである。

(9 T・九二ページ)

われわれはひとつの民として、地上の他のすべての人びとよりも前進した真理を信じていると告白している。だから、われわれの生活や品性は、そのような信仰と調和していなければならない。義人は貴い穀物のように、天の倉におさめられるために束にされ、悪人は毒麦のように、最後の大きいなる日に焼かれるために集められる日が、われわれの目前に迫っている。しか

し麦と毒麦は「収穫まで、両方とも育つ」のである。

義人は、生活上の務めを果たすことで、最後まで不信仰な人びとと接触をさせられる。その相違がすべての人によくわかるように、光の子らは暗やみの子らの間に散らされている。こうして神の子らは、「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、…語り伝え」なければならないのである。神の子らの心の中に燃えている神の愛、生活に表わされたキリストのような調和は、世の人びとにそのすばらしさがわかるように、彼らが一目見ること許されている天国の光景のようなものである。

（５Ｔ・一〇〇ページ）

だれでも神に仕えるとき、必ず悪人と悪天使らは結束して彼に立ち向かうのである。キリストの列に加わろうとするすべての魂の行手に悪霊が置かれる。サタンが、自分の手から奪われた獲物を取り戻そうと望んでいるからである。悪人たちは、滅びるために、ひたすら惑わしの力を信じる。これらの人びとは、真実を装い、もしできるならば選民をも惑わす。

（４Ｔ・五九五ページ）

終わりは近い

キリストがわれわれの世界におもどりになることは、あまりおそくはならない。これを、す

べてのメッセージの基調にきなさい。

抑制する神の御霊は、今すでに、この世界から取り去られつつあるのである。旋風、あらし、大暴風雨、火事、洪水、海陸の災害は、相次いで矢継ぎばやに起こる。科学は、これらすべてを説明しようと努める。われわれの周囲に頻繁に起こっている、神の御子の来臨が近いことを告げるしるしは、真の原因以外のあらゆるもののせいにされている。人間は、神のしもべたちが印されるまで、四方の風が吹かないように、見張りの天使たちが抑えているのを見ることができない。しかし、神がみ使たちに風を解き放つよう命令されるとき、筆舌につくしがたい紛争の場面が起こるのである。

もしも幕が開かれ、あなたが神の御目的と、罪の宣告を受けた世界に降ろうとしている刑罰を知ることができたら、また、それらに対するあなた自身の態度を悟ることができたら、あなたは、自分自身の魂と他の人びとの魂のために恐れおののくであろう。苦悩に心を裂く熱心な祈りは天に届く。あなたは、（神殿の）廊と祭壇との間で泣いて、自分の霊的な盲目さと背信を告白するであろう。

（ 6 T・四〇六、四〇八ページ ）

キリストの帰りがおそいと考える危険

「自分の主人は帰りがおそい」（マタイ二四ノ四八）と心の中で言った悪い僕は、一方ではキリストを待っていると公言していたのである。彼は、外見的には神の働きに献身しながら、心はサタンに従っていた「僕」であつた。

彼は、あざける者のように、明らさまには真理を否定しないが、主の帰りはおそいという心中の思いを生活に表わす。勝手な推測をすることによつて、彼は永遠の問題に不注意になる。彼は社会の処世術を受け入れ、その風俗習慣に従う。自己中心、世俗的な誇りや野心が主権を握る。自分の同僚が、自分よりも高い地位につくことを恐れて、彼は彼らの努力をけなし、その動機を非難し始める。このようにして彼は、自分の僕仲間を攻撃する。

彼は、神の民から遠ざかるにつれて、不敬虔な人びとと益々結びついて行く。彼は「酒飲み仲間と一緒に」食べたり飲んだりしていることが発見される。そうすることによつて世俗の人間と仲間になって彼らの精神にあずかるのである。このようにして彼は、世的な安心感になだめられ、忘却、無関心、怠惰に負けてしまう。

（5 T・一〇一、一〇二ページ）

いわゆる新しい光が多くの者を惑わす

サタンは、世界に近づいている全体的な破滅に、神の残りの民を巻き込もうと望んでいる。キリストの再臨が近づくにつれて、彼らを敗北させようとするサタンの努力は、更に強力に、決定的になる。古い目標に対する信仰をぐらつかせる傾向をもった、何か新しい光、新しい啓示を持っていると公言する男性や女性が現われる。彼らの教義は神のみ言葉のテストには耐えられないが、それでも人びとは欺かれるのである。

偽りの報告が伝えられると、ある人びとは、このわなに掛かる。彼らは、これらのうわさを信じ、次には彼らが代わって、それを他の人に伝える。このようにして、彼らを、欺く者のかしらと結びつける鎖の輪ができる。このような精神は、神からのメッセージに対する、あからさまな反抗によって表わされるとは限らないが、根深い不信仰がいろいろな形で表現される。語られるすべての偽りが、この不信仰を養い、強める。そしてこの方法によって多くの魂が間違った方向に進むようにあやつられるのである。

サタンはたえず真理から人びとを引き離そうと努めているから、あらゆる形の誤りに対して

用心しすぎるということはない。

（５Ｔ・二九五、二九六ページ）

今日密室の祈りと聖書を読むことを怠るならば、明日は、それらをなおざりにすることになれば、良心の責めを感じないだろう。心の土に、ただ一粒の種がまかれただけで、長い間その怠慢はつづく。しかし、反対に、大事に守られたすべての光は、光の収穫をもたらすのである。誘惑に一度抵抗すると、二度目には、もつと強く立つ力が与えられる。自己に対する新しい勝利を獲得するたびに、より高く、すばらしい勝利へと進む道をなめらかにする。すべての勝利は、永遠の生命のためにまかれる種である。

（５Ｔ・一二〇ページ）

個人的な祈りの重要性

真実な心で神のみもとに行き、自分の正直な願いを信仰をもって祈る者の祈りは答えられる。あなたの祈りが直ちに答えられたことを見たり感じたりできなくても、信仰によって神の約束を手離してはならない。神に信頼することを恐れてはならない。確実な神の御約束「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。」（ヨハネ一六ノ二四）に頼りなさい。

神は非常に賢明なお方なので間違いをなさることはないし、また非常に恵みに富んでおられ

るので、直く歩む聖徒たちに良い物を拒まれることはない。人間は間違いを犯すものであって、正直な心で祈っても、必ずしも自分のためになるものや、神の御栄光になるものを求めるとは限らない。ある場合には、われわれの賢明で親切な父なる神は、われわれの祈りを聞いて、直ちに答えてくださる。しかし、神はわれわれのために最も益になり、また神御自身の栄光になるものを、与えてくださるのである。神はわれわれに祝福をお与えになる。もし、われわれが神の御計画を調べることができたならば、神はわれわれのために何が最善であるかを知っておられて、われわれの祈りに答えておられるということを、われわれははつきりと知るであろう。有害なものは何も与えられないが、われわれの求めた、食物とはならない有害なものの代わりに、われわれに必要な祝福が与えられる。

われわれが自分の祈りに対して、即座に応答を感じない場合に、信仰をかたく保つべきであって、疑いの念を起こしてはならないことを、わたしは示された。なぜなら、そうすることは神からわれわれを離れさせるからである。もしも、われわれの信仰がぐらつくならば、われわれは神から何も受けることはできない。神に対する信頼は強くなければならない。そうすれば、われわれの必要な時に、祝福は降る雨のように注がれる。

クリスチャンは天の事物について考え、

また語ることを好む

天において、神は、最も重要なかたである。そこでは、神聖さがすべてを支配し、神との完全な調和を傷つけるものは何一つない。もしも、われわれが、ほんとうにその天を目指して旅をしているなら、この地上で、天の精神がわれわれの心に宿るであろう。しかし、もしわれわれが今、天の事柄について考えることに喜びを感じず、神について知ろうとする関心がなく、キリストの品性を眺めることを喜ばず、神聖なことに魅力を感じなければ、天国についてのわれわれの希望がむなしいことは確かである。

神のみ心に完全に従うことが、クリスチャンの前に絶えずなければならない高い目標である。彼は、神について、イエスについて、またキリストがご自分を愛する者たちのために備えてくださった幸福な清い家郷について話をすることを好む。祝福に満ちた神の確証を心から喜び、楽しむ時、これらのテーマについて静かに思うことを、使徒は、「きたるべき世の力」を味わうことであると言っている。

われわれの目前には、サタンが「あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを」もって、神の御性格を誤って伝えるために働き、「できれば、選民をも惑わそう」とする大争闘の終結となる激しい戦いがひかえている。この危険な時代にあつて、世の人びとの前に、神の清い律法の管理者となり、神の御品性を弁護するために、神によつて集められた人びとは、どの時代にもまして天からの光を受けなければならない。神聖な責任をゆだねられた人びとは、彼らが信じると告白する真理によつて、霊的になり、向上し、活気に溢れなければならない。

(5 T・七四五、七四六ページ)

疑惑や恐怖を無視して

神の民は前に押し進む

主は今日、現代の真理を信ずるご自分の民と無関係ではおられない。神は、重大な結果をもたらす計画を立て、この目的に向かって御摂理のうちに働いておられるが、同時にご自分の民にむかつて「前進せよ」と仰せられる。確かに道はまだ開かれていないが、彼らが信仰の力と勇気をもつて前進するならば、神は彼らの前に道を明らかにしてくださるであらう。古代のイ

スラエル人と同じように、つぶやく人びとはいつでもいて、神のみ働きを進展させる特別な目的のために神がお立てになった人びとに、自分たちの困難な境遇の責任を負わせようとする。彼らは、神がその民を御手によらなければ救われない困難な所に導くことによつて、彼らを試みておられるということを悟らない。

クリスチャンの生活が危険に取り囲まれているように見え、義務を果たすのが困難に思える時がある。前からは破滅が迫り、後には束縛や死があるように思う。しかし、神のみ声は、あらゆる支障を越えて、明らかに「前進せよ」と言われる。たとえ、われわれの目は暗黒を見透すことができず、冷たい波が足を洗うように感じて、われわれは、結果を成り行きにまかせてこの命令に従うべきである。

（4 T・二六ページ）

ふた心で、なまはんかな人生には疑惑と暗黒が生じる。信仰による慰めも、この世が与える平安も味わうことができない。何もせずにサタンの安楽いすに坐っていないで、立ち上がって高い標準をめざしなさい。そこに到達することはあなたの特権である。キリストのためにすべてを棄てることは祝福された特権である。他の人びとの生活を眺めてまねをし、それ以上に向上しないというようなことがあってはならない。間違ふことのない真の模範は一人だけである。安全なことはイエスにだけ従うことである。他の人びとが霊的に怠惰な原則に従って行動して

いたら、あなたは彼らを離れ、クリスチャンの高い品性に向かって前進するよう決心しなさい。
天国にふさわしい品性を形成しなさい。あなたの持ち場で眠っていてはならない。自分自身の
魂を忠実に、真実に取り扱いなさい。

(1 T ・ 二 四 一 ページ)

第十八章 われわれの大祭司、

キリスト

天の聖所における奉仕を正しく理解することは、われわれの信仰の基礎である。

(E V・二二二 ペジ)

地上の聖所は山で示された型に従ってモーセが建てたものである。それは、「今の時代に対する比喩」であって、「供え物やいけにえ」がささげられた。そのふたつの聖なる部屋は、「天にあるもののひな型」であり、われらの大祭司キリストが、「人間によらず主によつて設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる」(ヘブル九ノ九、二三、八ノ二)。使徒ヨハネが幻のうち、天にある神の宮を示されたとき、彼は、「七つのともし火が、御座の前で燃えていた」のを見た。

預言者は、天の聖所の第一の部屋を見ることが許された。そして、彼はそこに、地上の聖所

では金の燭台と香の祭壇であらわされていた「七つのとし火」と「金の祭壇」を見た。再び「天にある神の聖所が開けて」、彼は奥のとばりの内部、すなわち、至聖所を見た。ここに彼は、モーセの作った、神の律法をいれた清い箱によって示されていた「契約の箱」を見た（黙示録一一ノ一九）。

ヨハネも天に聖所を見たと言っている。イエスが、われわれのために奉仕しておられるその聖所が本来のものであつて、モーセの建てた聖所はその写しであつた。

天の宮は王の王である神の住居である。そこでは、千の幾千倍の者がこれに仕え、万の幾万倍の者がその前にはべり、輝かしい守護のセラピムが顔をおおつて崇敬をささげる永遠のみ座の栄光で満ちている。地上のいかなる建造物も、その広大さと輝かしさをあらわすことができない。だが、天の聖所と、人間のあがないのためにそこで行われる大いなるみわざとに関する重要な真理が、地上の聖所とそのつとめによつて教えられた。

われわれの救い主は、昇天のち大祭司としてのつとめを始められた。「キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造つた聖所にはいらないうで、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さつた」とパウロは言っている（ヘブル九ノ二四）。キリストの務めが大きく二つに分けられ、そのおのがある期間を占め、天の聖所において明確な場

所を占めるように、象徴的な務めも日ごとの奉仕と、年ごとの奉仕の二区分から成り、それぞれに幕屋の部屋が一つずつあてられていた。

キリストが昇天に際して神の御前に現われ、悔い改めた罪人のために、ご自分の血による嘆願をなさったように、祭司は、日ごとの務めにおいて、罪人のために聖所でいけにえの血を注いだ。

キリストの血は、悔い改めた罪人を律法の宣告から解放したが、しかし、それは罪を消し去るものではなかった。罪は最終的な贖罪の時まで聖所の記録に残るのである。そのように象徴においても、罪祭の血は悔い改めた者から罪を取り除いたが、罪は贖罪の日まで聖所に残った。

大いなる最後の報いの日に、死者は、「そのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれ」る（黙示録二〇ノ一二）。このとき、真に悔い改めたすべての者の罪は、キリストの血の贖罪によって、天の書物から消される。こうして、聖所から罪の記録が除かれ、きよめられるのである。象徴においては、この大いなる贖罪のみわざ、つまり、罪を消し去ることとは、贖罪の日のつとめによってあらわされた。すなわち、地上の聖所を汚していた罪を除いてきよめることは、罪祭の血によってなしとげられた。

サタンは、数えきれないほど多くの策略を考え出してわれわれの心を捕え、われわれが最もよく知っていないなければならない働きそのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである。

イエスは、彼の傷ついた手と砕かれた体をもって、彼らのために嘆願される。そして、彼に従ってくるすべての者に「わたしの恵みはあなたに対して十分である」と宣言されるのである（コリント第二・一二ノ九）。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」（マタイ一ノ二九、三〇）。それだから、だれでも、自分たちの欠陥は不治のものであると思つてはならない。神は、それに打ち勝つ信仰と恵みをお与えになるのである。

われわれは、今、大いなる贖罪の日に生存している。型としての儀式においては、大祭司がイスラエルのために贖罪をなしている間、すべての者は、主の前に罪を悔い改め、心を低くすることによつて、身を悩まさなければならなかった。もしそうしなければ、彼らは、民の中から絶たれるのであった。それと同様に、自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願う

ものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさなければならぬ。われわれは、心を深く忠実に探らなければならない。多くの自称キリスト者がいだいている軽薄な精神は、捨て去らねばならない。われわれを打ち負かそうとする悪癖に勝利しようとする者は、みな、はげしく戦わなければならない。準備は、一人一人がしなければならぬ。われわれは、団体として救われるのではない。一人の者の純潔と献身は、これらの資格を欠く他の人の埋め合わせにはならない。すべての国民が神の前で審判を受けるのであるが、しかし神は、あたかもこの地上にその人一人しかいないかのように、厳密に一人一人を審査されるのである。すべての者が調べられねばならない。そして、しみもしもそのたぐいのものがいつさいあつてはならないのである。

贖罪の働きが終結しようとするときの光景は、実に厳肅である。そこには、実に重大な意義が含まれている。審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく、その時がいつかはだれも知らないが、生きている人々の番になる。神のおそるべき御前で、われわれの生涯が調査されねばならない。今は、他のどんな時にもまさって、すべての者が救い主の勧告に心をとめるべき時である。「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」(マルコ一三

ノ三三）。「もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない」（黙示録三ノ三）。

調査審判の働きが終わるとき、すべての人の運命は、生か死かに決定されてしまっている。恩恵期間は、主が天の雲に乗って来られる少し前に終了する。キリストは、その時を予見して、黙示録の中で次のように宣言しておられる。「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ。見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」（黙示録二二ノ一、一二）。

その時が来ても、義人と悪人は、その死ぬべき肉体のままで、地上で生活をしている。天の聖所では、最終的で取り消すことのできない決定が宣告されたことも知らずに、人々は、植えたり、建てたり、飲んだり、食べたりしている。洪水の前に、ノアが箱舟に入ったあとで、神は彼を舟の中に閉じ込め、神を恐れない人々を外に閉め出されたのである。しかし、人々は、七日の間、彼らの運命が決定されたことも知らずに、不注意な放縱の生活を続け、差し迫った審判の警告をあざけたのであった。「人の子の現れるのも、そのようであろう」と救い主は言われる（マタイ二四ノ三九）。真夜中の盗人のように静かに、人に気づかれずに、すべての人の

運命が定まる決定的な時、罪人に対する恵みの招きが最終的に取り去られる時がやって来る。

「だから、目をさましていなさい。……あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかもしれない」（マルコ一三ノ三五、三六）。目をさまして待つことにうみ疲れ、世俗の魅力に心を向ける人々の状態は、実に危険である。実業家が利益の追求に心を奪われ、快楽の愛好家が楽しみにふけり、流行を追う女性が身を飾っているそのときに、全地の審判者が、「あなたがはかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた」という宣言をなさるかもしれないのである（ダニエル書五ノ二七）。

（各時代の争闘・下巻二二一 二二一六ページ）

第十九章 ヨシュアと天使

もし目に見える世界と見えない世界の間に幕が上げられて神の民が、人間のあがないのためのキリストと聖天使対サタンとその軍勢の大争闘を見ることができたとしたら、またもしも彼らが、罪の束縛から魂を救う神のおどろべき働きと、悪しき者の敵意から彼らを保護するために絶えず働いておられる神のみ力を理解することができたら、彼らは、サタンの策略に抵抗するために、もつとよい備えをするであろう。神の民は、あがないの計画の範囲の広大さと重要性、また、キリストの共労者として、自分の前にある事業の偉大さを思うときに、厳粛な気持になるであろう。全天が彼らの救いに関心をいだいていることを知って、彼らは、そんな気持になるが、同時に勇気づけられるであろう。

サタンの働きとキリストの働き、またご自分の民を訴える者を、征服されるわれわれの仲保者の力が、ゼカリヤの預言の中で最も力強く、印象的に示されている。預言者は聖なる幻の中

で、大祭司ヨシユアが「汚れた衣を着て」主のみ使の前に立って、深刻な悩みの中にいる自分の民のために、神のあわれみを嘆願しているのを見るのである。サタンはヨシユアの右に立って彼を妨害している。大祭司は、サタンの非難に対して自分自身を、また自分の民を弁護することができない。彼は、イスラエルに罪がないとは主張しない。彼は、民の代表者として、自分が負っている民の罪を象徴する汚れた衣を着て、み使の前に立ち、その罪を告白する。しかし、それだけではなく、大祭司は民の悔い改めと、へりくだりを指摘して、罪をゆるされるあがない主のあわれみによりすがり、信仰をもって神のみ約束の成就を願い求めるのである。

すると、キリスト御自身であり、罪人の救い主であられる、そのみ使は、「サタンよ、主はあなたを責めるのだ。すなわちエルサレムを選んだ主はあなたを責めるのだ。これは火の中から取り出した燃えさしではないか」（ゼカリヤ三ノ二）と宣言して、御自分の民を訴える者を沈黙させられるのである。

ヨシユアの取りなしが受け入れられると、「彼の汚れた衣を脱がせなさい」との命令が下され、ヨシユアに向かって、天使は「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」と言われる。「そこで清い帽子を頭にかぶらせ、衣を彼に着せた。」（ゼカリヤ三ノ四、五）ヨシユア自身の罪とその民の罪はゆるされた。イスラエルは、「祭服」を着せられた。

すなわちキリストの義が彼らに帰せられたのである。

サタンがヨシュアとその民を告発したように、彼はすべての時代に、神のあわれみと御恩ちようを求めている人びとを告発する。黙示録の中に、サタンは「夜昼われらの神のみまえて彼らを訴える」「われらの兄弟らを訴える者」(黙示録一二ノ一〇)であると記されている。争いは、悪の力から救出されて、その名を小羊の生命の書に記されるすべての魂をめぐつて繰り返される。ただ一人でも、サタンの家族から神の家族の方に人が入れられる時には、サタンは徹底的な抵抗を試みる。主を求める者たちに対するサタンの告発は、その人たちの罪に対する怒りからなされるのではない。むしろサタンは彼らの品性に欠陥のあることを非常に喜ぶ。ただ彼らが神の律法を犯すことによってのみ、サタンは、彼らを支配できるのである。サタンの告発は、ただ、キリストに対する彼の敵意から起こる。イエスは、救いの計画によって人類家族を捕えているサタンの支配力を打ちこわして、人びとを彼の力から救い出しておられる。大反逆者が、キリストにすべての主権があるという証拠を見ると、その憎しみと悪意をかき立て、キリストの救いを受け入れた残りの子らを、キリストから奪い取ろうとして、いかにも悪魔らしい力と巧妙さをもって働く。

サタンは人間を疑い深くさせ、神に対する信頼を失わせ、神の愛から離れさせる。サタンは、

神の律法を破るように人びとを誘惑しておいて、彼らを自分の捕虜だと主張し、彼らを救い出そうとするキリストと争う。サタンは、ゆるしと恵みを熱心に神に求める人びとは、必ずそれを得ることを知っているので、彼らの勇気を失わせるために彼らの罪を彼らの前に示す。サタンは、神に従おうとつとめている人びとに反対する機会を絶えずねらっている。サタンはその人たちの最も満足のゆくような、最上の働きをも、汚れたものに見せようと努める。また彼は、非常にずるくて、残虐な数え切れない策略を用いて、彼らに確実に罪の宣告を受けさせようと努力するのである。

人間は自分の力でこれらの告発に対抗することはできない。自分の罪で汚れた衣を着て、罪を犯したことを告白しながら神の前に立つのである。しかし、われわれの助け主、イエスは、悔い改めと信仰によって、自分の魂を彼にゆだねたすべての者のために効果的な申し立てをしてくださる。イエスは、彼らの訴えを弁護し、カルバリーの強力な論拠によって、告発する者に勝利される。十字架の死に至るまで神の律法に完全に服従されたことが、天と地にあるすべての力をキリストに得させたのである。そしてキリストは、罪を犯した人間のために、あわれみと和解を御父に求められるのである。ご自分の民を訴える者に対してキリストは、「サタンよ、主はあなたを責めるのだ。『この人たちはわたしの血で買ったものであり』、火の中から取

り出した燃えさし」であると言明される。信仰をもってキリストによりたのむ人びとは、「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」という慰めにみちた言葉を受ける。

すべてキリストの義の衣を着た者は、選ばれた、忠実で、真実な者としてキリストのみ前に立つのである。サタンには、キリストの手から彼らを奪い取る力はない。罪を悔いて、信仰をもってキリストの保護を求める魂が、一人でも、敵の支配下にわたることをキリストはおゆるしにならない。キリストのみ言葉は次のように保証している。「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」(イザヤ二七ノ五)。ヨシュアに与えられた約束は、すべての者に与えられたのである。「あなたがもし、……わたしの務を守るならば、……わたしは……ここに立っている者どもの中に行き来することを得させる」(ゼカリヤ三ノ七)。神のみ使たちは、この世においてもキリストの務めを守る人びとの両側を歩いているのであるが、最後には、彼らは神の御座を取り囲む天使たちの中に立つのである。

神の民として認められている者が、汚れた衣を着て主の前に立っている姿を思つて、神の御名をかかげる者は、けんそんに、深く心をさぐるべきである。真理に従うことによって、本当に自分の魂を清めている者は、自分自身について、最もけんそんな考えを持っている。きずの

ないキリストの品性を近くに眺めれば眺めるほど、キリストのみ姿のようになりたいという欲望が強くなり、自分自身の中に純潔さや清らかさを見ることは少なくなる。確かに、われわれは、自分の罪深き状態を認識すべきではあるが、同時にわれわれの義であり、清めとあがないであられるキリストによりたのまなければならない。われわれは、自分に対するサタンの告発に答えることができない。キリストだけが、われわれのために適切な弁明をなし得るのである。キリストは、われわれの功績でなく、御自身の功績に基づいた論証によって、告発者を沈黙させることができる。

残りの教会

ヨシユアと天使に関するゼカリヤの幻は、大いなるあがないの日が終わろうとする時に生存する神の民にとって、特別な意味を持っている。残りの教会は、大きな試練と苦難を経験させられる。神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける人びとは、龍とその軍勢の怒りをその身に感じるであろう。サタンは世界を自分の臣民とし、背信した教会を自由に支配している。しかし、ここに、彼の支配権に抵抗している小さな団体がいる。もし地上から彼らを消し

去ることができたら、サタンの勝利は完全なものになるであろう。イスラエルを滅ぼすために異教の国々を動かしたように、サタンは近い将来、神の民を滅ぼすために、世の悪の権力を扇動するであろう。すべての者が、神の律法を犯して人間の命令に従うように要求される。神と義務に忠誠な者は脅迫され、非難され、追放される。彼らは、「両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られるであろう。」

彼らの唯一の望みは神のあわれみであり、彼らのただ一つの防壁は祈りなのである。ヨシユアが天使の前で嘆願していたように、残りの教会も砕かれた心と熱心な信仰をもって、彼らの助け主、イエスを通して、ゆるしと救いを嘆願するのである。彼らは自分たちの生涯が罪に汚れていることを十分に自覚し、自分の弱点や無価値さを見、自分自身を眺めるとき、絶望がちである。誘惑者は、ヨシユアに敵対して、そばに立っていたように、神の民を告発するため、そばに立つのである。サタンは彼らの汚れた衣服、彼らの欠陥のある品性を指摘する。彼らの弱点や愚かさ、忘恩の罪、そしてあがない主の名誉を汚す、彼らのキリストに似ない姿をサタンは指摘する。サタンは彼らに、自分たちはもはや絶望的で、汚を洗い清めることは不可能だと思いこませて、魂をおどそうとつとめる。サタンは、彼らの信仰をすっかり無くしてしまい、そうすることで彼らが、自分の誘惑に負け、神に対する忠誠を棄て、獣の印を受けるよう

に望む。

サタンは、神の前でしきりに神の民を告発し、彼らは罪によってもはや神の保護を受けられなくなったのだと言い張り、罪を犯した者として彼らを滅ぼす権利を主張する。サタンは、当然彼らが自分と同じように、神の恩恵から除外されるべきであると主張する。「これが、わたしや、わたしに協力した天使たちの代わりに天国に住む人たちですか。彼らは神の律法に従うと公言するけれども、その戒めを守りましたか。彼らは神よりも自分を愛する者ではなかったでしょう。神の働きよりも自分の利益を大切にしなかったでしょう。彼らは、この世の事物を愛しませんでしたか。彼らの生涯に刻まれた多くの罪を見てください。彼らの自己中心、彼らの間の悪意、憎しみをごらんさい」と彼は言う。

神の民は、多くの面で非常に不完全であった。サタンは、自分が犯すようにしむけた罪を正確に知っていて、それらを非常に大げさに示し、「神は、わたしとわたしの天使たちを自分の前から追放しておきながら、同じ罪を犯した者たちには報酬を与えるだろうか。主よ、あなたは公正でありながら、そのようなことはできない。それではあなたのみ座を正義と公平をもって維持することはできない。公正であるならば、彼らに処刑の宣告をすべきである。」と、主張する。

しかし、キリストの信徒たちは罪を犯しはしたが、悪の支配に自分自身を任せてはいなかったのである。彼らは、自分の罪を除き、けんそんさと悔恨の念をもって主を求めたので、天来の助け主が彼らの弁護をしておられるのである。彼らの忘恩によって最もひどく虐待された助け主、彼らの罪を知り、また彼らの悔い改めも知っておられる助け主が「サタンよ、主はあなたを責めるのだ。」わたしは、これらの魂のためにわたしの生命を与えたのであって、彼らは、わたしのたなごころに刻んである。」と仰せになる。

キリストの義の衣をもって被われる

神の民が、神のみ前で身を悩まし、心が清められるように願い求めるとき、彼らから「汚れた衣を脱がせなさい」との命令が下され、「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」という励ましの言葉が語られる。試練に会い、誘惑されながらも忠誠を守った神の子供たちに、しみのないキリストの義の衣が着せられる。さげすまれた残りの民は、光り輝く衣を着て、二度と再び、この世の墮落によって汚されることがないのである。彼らの名は、小羊の命の書に記され、各時代の忠実な人びとの中に加えられる。彼らは欺く者の策略

に対抗し、龍の怒号によっても彼らの忠誠は変えられなかった。今や、彼らは、惑わす者の策略から永遠に守られるのである。彼らの罪は、罪の創始者に転嫁される。

そこで残りの民は罪をゆるされ、受け入れられるだけではなく、栄誉が与えられ、「清い帽子」が彼らの頭にかぶせられる。彼らは、神につかえる王や祭司となるのである。サタンがしきりに訴えて、この団体を滅ぼそうとしていた間に、目に見えない聖天使たちは行きめぐって、生ける神の印を彼らに押していた。父なる神のみ名が額に記されて、小羊と共にシオンの山に立つのは、これらの人たちなのである。彼らは、御座の前で、新しい歌を歌う。この歌は、地からあがなわれた十四万四千人のほかは、だれも学ぶことができない。「彼らは、…小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった」（黙示録一四ノ四、五）。

第二十章 「見よ、わたしは、

すぐに来る」

最近、ある夜、わたしは、主がわれわれの信じているように早く来られるためには、過去何年間にわたってわれわれがして来たよりも、もっと活発に真理を人びとに伝えなければならぬという思いを、聖霊によって印象づけられた。

このことに関連してわたしは一八四三年と一八四四年の再臨信徒の活動を思い起こした。當時は、戸別訪問が多く行われ、神のみ言葉の中に表わされている事柄について人びとに警告を与えるために、たゆまない努力が払われた。われわれは、あのように忠実に第一天使の使命を宣伝した人びとが、払った以上に大きな努力を払うべきである。われわれは、この世の歴史の終末に急速に近づいているのである。イエスがほんとうに間もなく来られることを認めるとき、われわれは目をさまして、いまだかつてないほど働くであろう。われわれは人びとに警報を吹

きならずように命じられている。そして、自分自身の生活の中で真理と正義の力をあかししなければならぬ。世界は間もなく、律法の偉大な制定者と、自分たちが犯してしまったその方の律法のことと対面しなければならぬ。律法を犯すことを止めて、服従する者たちだけが、ゆるしと平安を得る希望を持つことができるのである。

いのちの言葉である真理を持つている者がすべて、これを持たない人びとに光を与えようと努力するならば、どんなに良いことが成しとげられるだろう。サマリヤの婦人に呼ばれてサマリヤ人たちがキリストの所に来たとき、キリストはご自分の弟子たちに、彼らのことを収穫を待つ穀類の畑のようであると言われた。「あなたがたは、刈入れ時が来るまでには、まだ四か月あると、言っているではないか。…目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている」(ヨハネ四ノ三五)とキリストは言われた。サマリヤ人は真理を聞くことに飢えていたので、キリストは二日間彼らの所に滞在された。そして、その二日間はどんなに忙しかったことであろう。その伝道の結果として、「なお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。」これが彼らのあかしであった。「(われわれは)自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることがわかった」(四一、四二節)。

「あなたがたの救いが近づいている」

わたしは毎週起こっているおそろしい災難について聞くと、これらのことは何を意味しているのかと自問する。最もひどい災害が続けざまに起こっている。多くの生命と財産を奪う地震やたつまき、火事や洪水による破壊について、われわれはどんなにしばしば耳にすることだろう。外見的には、これらの災いは、無秩序な力によって気まぐれに発生しているように思われるが、しかし、それらの中に神の御目的を読みとることができる。これらの災いは、神が人びとに、危険を知らせようとしてとっておられる手段の一つである。

キリストの再臨は、われわれが初めに信じた時よりもっと近い。大争闘は終わりに近づいている。神の裁きによる災いは地に起こっている。それらは「あなたがたも用意していなさい。思いがけない時に人の子が来るからである」(マタイ二四ノ四四)と、厳粛に警告しているのである。

しかし、われわれの教会の中には、現代の真理のほんとうの意味を、ほとんど知らない人びとが非常に多い。わたしはその人たちに、終わりが近いと、これほど明らかに告げている、時

のしるしの成就を無視しないようにお願いする。どんなに多くの人びとが、自分の魂の救いを求めなかったために、もうすぐ「刈入れの時は過ぎ、夏もはや終った。しかしわれわれはまだ救われない」と悲痛な叫びをあげることだろう。

われわれは、この地上歴史の終結する場面に生活しているのである。預言は急速に成就しつつあり、恵みの期間は、すみやかに経過している。われわれには時間がない。一刻の猶予もないのである。見張りに立って眠っているところを見つけれないようにしよう。だれも「私の主人は帰りがおそい」と心の中で思ったり、行動にあらわしてはならない。キリストが間もなくお帰りになるという使命を、熱心な警告の言葉で宣べ伝えなさい。あらゆる所で、男の人も女の人も悔い改めて、近づいて来る怒りから逃れるように説得しよう。われわれには、これから何が起こるかまるでわからないのであるから、直ちに準備するように彼らをたち上げさせよう。牧師も信徒も、実りつつある畑に出て行って、無関心で無とん着な人びとに、主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねるよう説きなさい。働き人は、忘れられている聖書の真理を宣べ伝える所では、どこでも収穫を得るであろう。彼らは、真理を受け入れて、魂をキリストの方に勝ち取るために、生涯をささげる人びとを見出すであろう。

主は間もなく来られるのであるから、われわれは、平安の内に主をお迎えする用意ができて

いなければならない。周囲の人びとに光を分け与えるために、力の限りを尽す決心をしよう。われわれは悲しんでいるのではなく、喜びに満たされて、常に主イエスから目を離さないようにしなければならない。主はもう直ぐ来られるのであるから、われわれは彼の出現に備えて用意をし、待っていないなければならないのである。主にお会いして、贖われた、主の者として歓迎されることは、なんとすばらしいことであろう。われわれは長い間待ったが、われわれの希望をあいまいにしてはならない。うるわしく飾った王を見ることができさえすれば、われわれは永久に祝福される。「故郷へ帰るのだ」とわたしは大声で叫ばなければならないような気がする。キリストが、あがなわれた者たちを彼らの永遠の故郷につれてゆくために、力と大いなる栄光とをもって来られる時が近づいている。

伝道完結のみ業において、われわれはどう処理してよいか困惑するようなことに直面するであろう。しかし、天の偉大な三つの力が働いておられること、神のみ手がハンドルを握っておられること、そして神が御自分の約束を実現させてくださることを忘れないようにしよう。神は、正義をもってご自分に仕える民を、世界中からお集めになる。

勝利の約束

わたしは、今日われわれが行っている働きそのものが、心と知性と魂に深い感銘を与えるようにと、熱心に祈る。当惑させられるような状況は増して行くが、神を信じる者として互いに励まし合ってゆこう。標準を下げるのではなく、常に高くかかげ、信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見よう。わたしが夜、眠れないとき、祈りのうちにわたしの心は神を仰ぎ望む。すると神は、わたしを力づけ、神が国内の伝道地においても、また遠い国ぐににおいても、ご自分に仕えている僕たちと共におられるという確信を与えて下さるのである。イスラエルの神が今もお、ご自分の民を導いておられて、最後まで共にいて下さることを知るとき、わたしは励まされ、祝福される。

主は、第三天使の使命を宣べ伝える働きが、力を増しつつ前進して行くのを見たいと望んでおられる。神はご自分の民に勝利を与えるため、どの時代にも働かれたように、現代も、ご自分の教会に対するご自身の目的を、りっぱに成就させようと切望しておられるのである。神は、神を信じる聖徒たちに、一致団結して前進し、力に力を加え、信仰には、神のみ働きの真理と

正義に対する強い確信と信頼を加えてゆくように命じておられる。

われわれは、神が共におられて、初めて出会う一つ一つの経験に対処する力を与えてくださることをおぼえて、神のみ言葉の原則に岩のごとく堅く立たなければならない。われわれは、正義の原則を、生活の中に常に保ち続けるようにしよう。それは、われわれが主の名によって力から力へと前進するためである。われわれは、最も初期の経験から現在に至るまで、神のみたまの指導と承認によって強められて来た信仰を、真に神聖なものとして持つていなければならない。主がご自分の戒めを守る人びとを用いて推進して来られた働き、そして主の恵みの力によって、時と共に、堅固さと力を増してゆく働きを、われわれは、非常に貴重なものとして大事にしなければならない。敵は、神の民の識別力を鈍らせ、その力を弱めようと努力している。しかし、彼らが神のみたまの指示に従って働くならば、神は、久しく荒れすたれた所を興す働きのために、機会を備えて下さるであらう。主が力と大いなる栄光とをもって天から下り、忠実な者たちに、最後の勝利を示す主の印を押されるまで、彼らは、絶え間ない成長を経験するのである。

われわれの前にある働きは、人間のすべての力を出来る限り引き出すものである。それは、強い信仰を働かせることと絶え間ない警戒を必要とする。困難に遭遇する時、われわれは落胆

してしまうこともあるであろう。仕事のあまりの大きさに、われわれは驚き恐れる。しかし、それにもかかわらず、神の助けによって、神のしもべたちは最後に勝利するのである。「だから、兄弟がたよ、あなたの前にある苦しい経験のゆえに「落胆しないでいてもらいたい」（エペソ三ノ一三）。イエスは、あなたと共にいてくださる。イエスは、聖霊によって、あなたの前を進み、道を備えてくださる。そして、まさかの時には、あなたの助け手となってくくださるのである。

「どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくあるように、アメン」（エペソ三ノ二〇 一一）。

（3 T T・四三九 四四一ページ）

わたしは、最近ある夜見せられた光景によって深い印象を受けた。多くの場所で大きな活動リバイバルの働き が起こっているように見えた。信徒たちは、神の招きに答えて戦列に加わりつつあった。兄弟がたよ、主は、われわれに語っておられる。そのみ声に耳をかたむけようではないか。あかりを整えて、主の来られるのを待つ人びとのように行動しようではないか。今こそ、光をかかげて、活動しなければならぬ時である。

「さて、……わたしは、あなたがたに勧める」、兄弟たちよ、「あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい」（エペソ四ノ一 三）。

（3 T T・四四一、四四二ページ）

忠実な者たちへの報酬

兄弟、姉妹がたよ、天の雲に乗って来られるキリストの再臨に備えるよう、わたしは、熱心におすすめる。毎日、あなたの心から世俗を愛する気持を捨てなさい。キリストとの交わりを持つということが、どんなことであるかを体験によつて知りなさい。裁きに備えなさい。それは、キリストが来られて、すべて信じる者たちの間で驚嘆されるとき、平和な気持で主にお会いする人びとのうちに、あなたもいるためである。その日、あがなわれた者たちは、父とみ子の栄光に照らされて輝くのである。天使たちは、黄金の立琴をかなでて、王と、その勝利のしるしである、小羊の血で洗い、白くされた人びとを歓迎する。勝利の歌は全天にこだまする。キリストは勝利されたのである。キリストは、御自分の苦しみと犠牲のお働きが、むだではな

かったことの証人である、あがなわれた者たちを伴って、天の宮にはいられる。

われわれの主の復活と昇天は、神の聖徒たちが死と墓に勝利する確実な証拠であり、品性の衣を小羊の血によって洗い、白くする者たちに対して天が開かれているという保証でもある。

イエスは人類の代表として父のみもとに昇られたが、神は、ご自分のみ姿を反映する人びとを導いて、ご自身の栄光を拝させ、共にその栄光にあずかせてくださるのである。

天にはこの世の旅人のために住家があり、義人のために衣があり、栄光の冠と勝利をしめすしゆろの葉がある。神の摂理の内に、われわれを困惑させたすべてのことが、来るべき世界で明らかにされる。それまでは理解できなかったことも、その時には意味を悟ることができ、恵みの奥義が、われわれの前にはっきりと示されるのである。われわれの限りある頭脳が、ただ混乱と、破られた期待だけしか見いだせなかったところに、最も完全に美しい調和を見らるう。無限の愛が、その時には最もつらいと思われた経験を、備えられたのだということを知らるであらう。万事を、われわれの益となるようにして下さる神のやさしい御配慮を悟るとき、われわれは、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれるであらう。

痛みは天国には存在し得ない。あがなわれた者の住居には、涙もなく、葬儀の列も喪章もない。「そこに住む者のうちには、『わたしは病氣だ』と言う者はなく、そこに住む民はその罪が

ゆるされる」(イザヤ三三ノ二四)。われわれの豊かな幸福の潮は、永遠の時の流れと共に満ちてゆくのである。

永遠の生命に関するわれわれの希望の中心であるキリストを仰ぐのは、もうすぐである。そして主の目前に立つとき、この人生の試練も苦難もすべてがとるに足らないもののように思えるのである。「だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。『もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない』」(ヘブル一〇ノ三五 三七)。見上げなさい。あなたの信仰を絶えず増し加えなさい。そしてこの信仰に導かれて、神の都の門を通って、あがなわれた者のためにある、大いなるかなた、はてしなく広大な栄光の未来に通じる細い道を進んで行きなさい。「だから、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え忍びなさい。見よ、農夫は、地の尊い実りを、前の雨と後の雨とがあるまで、耐え忍んで待っている。あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい」(ヤコブ五ノ七、八)。

(9 T・二八五 二八八ページ)

「しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、

自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである」（ヨハネ第一・三ノ二）。

そのときキリストはご自分のみわざの成果の中に、その報いをごらんになるであろう。ご自分の血をもってあがない、ご自身の一生を通じて教えられたキリストは、「その栄光のまえに傷なき者として、喜びのうちに立たせ」られた数えきれないほどの大いなる群れの中に、「自分の魂の苦しみ……を見て」満足されるであろう。

（教育・三六ページ）

奨励と信頼の別れの言葉

わたしは長く生きることを予期してはいない。わたしの働きは、ほとんど終わった。……同胞のために、これ以上「あかし」を書くことは考えていない。われわれの教会の堅実な考えを持った人びとは、みわざの向上と建設のために何が益になるかを知っている。しかし、心の内に神への愛を抱いて、ますます深く神のことについて学ばなければならない。

（3 T T・四四三ページ）

x

x

x

われわれが現在の段階にまで到達した進歩の各過程を思いおこしてみると、わたしは、「神をほめたたえよ」と言うことができる。主が、どんなことをして下さったかを見ると、わたしは驚きと、指導者としてのキリストに対する信頼で満たされるのである。われわれは、主がわれわれをいかに導かれたかということと、過去に受けた主の教えを忘れさえなければ、未来に対して少しも恐れる必要はないのである。

(L S ・ 一 九 六 ペ ー ジ)

略 語 表

AA	Acts of the Apostles
AH	アドベンチスト・ホーム (Adventist Home, The)
CD	Counsels on Diet and Foods
CG	Child Guidance
CH	Counsels on Health
CM	文書伝道 (Colporteur Ministry)
CS	Counsels on Stewardship
CT	Counsels to Parents, Teachers, and Students
DA	各時代の希望 (Disire of Ages, The)
Ed	教育 (Education)
Ev	Evangelism
EW	初代文集 (Early Writings of Ellen G. White)
FE	Fundamentals of Christian Education
GC	各時代の大争闘 (Great Controversy, The)
GW	福音宣伝者 (Gospel Workers)
LS	Life Sketches of Ellen G. White
ML	My Life Today
MH	ミニストリー・オブ・ヒーリング (Ministry of Healing, The)
MM	Medical Ministry
MYP	青年への使命 (Messages to Young People)
PK	Prophets and Kings
PP	人類のあけぼの (Patriarchs and Prophets)
RH	Adventist Review and Sabbath Herald, The (Review and Herald)
SC	キリストへの道 (Steps to Christ)
SL	Sanctified Life
ST	Signs of the Times
Te	Temperance
IT	Testimonies for the Church, Vol. 1 (教会への証として訳されているもの)
ITT	Testimony Treasures, Vol. 1
WM	Welfare Ministry

教会への勧告

下 卷

第三編 家 庭
第四編 生 活

N D C 194 / 468 P / 22 c m

1977年2月20日 初版発行

著 者	エレン・ジ - ・ホワイト
発 行 者	広 田 実
印刷・製本	福 音 社

〒 2 4 1 横浜市旭区上川井町 1 9 6 6

発 行 所 福 音 社

振替 横浜 599番

転載複製を禁ず 製本所・関山製本所

PRINTED IN JAPAN